

2014

2014 Syllabus

Syllabus

数理情報学科

理工学部

Faculty of Science and Technology

龍谷大学理工学部 数理情報学科

学部・学科英文名

龍 谷 大 学	Ryukoku University
理 工 学 部	Faculty of Science and Technology
数理情報学科	Department of Applied Mathematics and Informatics
電子情報学科	Department of Electronics and Informatics
機械システム工学科	Department of Mechanical and Systems Engineering
物 質 化 学 科	Department of Materials Chemistry
情報メディア学科	Department of Media Informatics
環境ソリューション工学科	Department of Environmental Solution Technology

シラバス

教養教育科目
(共同開講科目)(共通科目)
(基礎科目)

教養教育科目
(共同開講科目)(共通科目)
(総合科目)

学部内共通科目

学科固有科目
<数理情報学科>

教職課程科目

本願寺派教師資格課程科目

教養教育科目
(共同開講)(共通)
基礎科目

教養教育科目
(共同開講)(共通)
総合科目

学部内共通

学科固有

教職課程

教本
師願
課寺
程派

最新の情報や、詳細情報は Web シラバスをご確認ください。

教養教育科目(共同開講科目)

(基礎科目)

カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ
エ	英語ⅠA	クラス・開講曜講時による		5
	英語ⅠB	クラス・開講曜講時による		5
	英語ⅡA	クラス・開講曜講時による		6
	英語ⅡB	クラス・開講曜講時による		6
	英語Ⅲ	クラス・開講曜講時による		7
	英語Ⅳ	クラス・開講曜講時による		7
	英語(再)	熊懷 祐樹	前期 水2	8
	英語(再)	熊懷 祐樹	後期 水2	8
	英語(再)	熊懷 祐樹	前期 水3	9
	英語(再)	熊懷 祐樹	後期 水3	9
	英語(再)	里井 久輝	前期 火4	10
	英語(再)	里井 久輝	後期 火4	10
	英語(再)	芝原 直美	前期 水2	11
	英語(再)	芝原 直美	後期 水2	12
	英語(再)	芝原 直美	前期 水3	13
	英語(再)	芝原 直美	後期 水3	14
	英語(再)	蘭田 千寿子	前期 金4	15
	英語(再)	蘭田 千寿子	後期 金4	15
	英語(再)	西川 隆	前期 金4	16
	英語(再)	西川 隆	後期 金4	16
セ	英語(再)	西川 由美子	前期 水2	17
	英語(再)	西川 由美子	後期 水2	17
	英語(再)	西川 由美子	前期 水3	18
	英語(再)	西川 由美子	後期 水3	18
	英語(再)	宮尾 元子	前期 火4	19
	英語(再)	宮尾 元子	後期 火4	19
	英語セミナーA1	宇野 誠一	前期 月1	20
	英語セミナーA1	宇野 誠一	前期 月2	20
	英語セミナーA1	ワード ジョン	前期 水3	21
	英語セミナーA1	ワード ジョン	前期 金5	21
	英語セミナーA2	宇野 誠一	後期 月1	22
	英語セミナーA2	宇野 誠一	後期 月2	22
	英語セミナーA2	ワード ジョン	後期 水3	23
	英語セミナーA2	ワード ジョン	後期 金5	23
	英語セミナーB1	前川 貴史	前期 金2	24
	英語セミナーB2	前川 貴史	後期 金2	24
	英語セミナーC1	音羽 レベッカ	前期 水2	25
	英語セミナーC1	ワード ジョン	前期 水2	25
	英語セミナーC1	音羽 レベッカ	前期 水3	26
テ	英語セミナーC1	イエニク・S・C	前期 金2	26
	英語セミナーC2	音羽 レベッカ	後期 水2	27
	英語セミナーC2	ワード ジョン	後期 水2	27
	英語セミナーC2	音羽 レベッカ	後期 水3	28
	英語セミナーC2	イエニク・S・C	後期 水3	28
	英語セミナーD1	大槻 志郎	前期 水2	29
	英語セミナーD2	大槻 志郎	後期 水2	30
	英語セミナーE1	里井 久輝	前期 水3	31
	英語セミナーE2	里井 久輝	後期 水3	31
キ	教育原論A	藤井 奈津子	前期 月1	32
	教育原論A	広川 義哲	前期 月2	32
	教育原論A	広川 義哲	前期 月3	33
	教育原論B	藤井 奈津子	後期 月1	33
	教育原論B	広川 義哲	後期 月2	34
ケ	教育原論B	広川 義哲	後期 月3	34
	経済学入門	藤田 和孝	前期 水3	35
	経済学入門	長谷 祐	前期 金5	35
	経済学入門	李 复屏	後期 月1	36
	経済学入門	李 复屏	後期 月3	36
コ	言語学入門	泉 文明	前期 月2	37
	言語学入門	磯江 源	前期 木3	37
	コリア語ⅠA	孫 才喜	前期 水3	38
	コリア語ⅠB	孫 才喜	後期 水3	38
	コリア語ⅠC	朴 炫国	前期 木3	39
ク	コリア語ⅠD	朴 炫国	後期 木3	39
	コリア語セミナーA	柳 綏美	前期 水3	40
	コリア語セミナーB	柳 綏美	後期 水3	40
シ	社会学入門	山本 哲司	前期 木3	41
	社会学入門	山本 哲司	後期 木3	41
	社会思想史入門	森 元斎	前期 水2	42
	社会思想史入門	村澤 真保呂	後期 水2	42
	心理学入門	松島 恵介	前期 月1	43
ス	心理学入門	松島 恵介	後期 月1	43
	心理学入門	破田野 智美	前期 月1	44
	スポーツ技術学A	種目・開講曜講時による	学科により異なる	44
	スポーツ技術学B	種目・開講曜講時による	学科により異なる	45

カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ
セ	生活の中の化学	中沖 隆彦	後期 木3	45
	生活の中の数学	國府 宏枝/山岸 義和	前期 月1	46
	生活の中の生物学	横田 岳人	前期 木3	46
	生活の中の統計技術	飯田 晋司	後期 水3	47
	生活の中の統計技術	香川 文庸	前期 木3	47
	生活の中の物理	石崎 俊雄	後期 月2	48
	政治学入門	水垣 源太郎	前期 木3	49
	政治学入門	水垣 源太郎	後期 木3	49
	生命と科学	宮武 智弘	前期 金1	50
	中国語ⅠA	張 健同	前期 月3	50
チ	中国語ⅠA	韓 正愛	前期 水3	51
	中国語ⅠB	張 健同	後期 月3	51
	中国語ⅠB	韓 正愛	後期 水3	52
	中国語ⅠC	張 健同	前期 水3	52
	中国語ⅠC	韓 正愛	前期 水4	53
	中国語ⅠC	張 健同	前期 水4	53
	中国語ⅠD	張 健同	後期 水3	54
	中国語ⅠD	韓 正愛	後期 水4	54
	中国語ⅠD	張 健同	後期 水4	55
	中国語セミナーA	李 愛華	前期 水3	55
テ	中国語セミナーB	李 愛華	後期 水3	56
	哲学入門	渡邊 華月	前期 月3	57
	哲学入門	渡邊 華月	後期 月3	58
	哲学入門	渡邊 華月	前期 水3	59
	哲学入門	渡邊 華月	後期 水3	60
ト	ドイツ語ⅠA	青山 豊	前期 月2	61
	ドイツ語ⅠA	呉 春吉	前期 月3	61
	ドイツ語ⅠB	青山 豊	後期 月2	62
	ドイツ語ⅠB	呉 春吉	後期 月3	62
	ドイツ語ⅠC	青山 豊	前期 月3	63
	ドイツ語ⅠC	永井 達夫	前期 水3	63
	ドイツ語ⅠD	青山 豊	後期 月3	64
	ドイツ語ⅠD	永井 達夫	後期 水3	64
	ドイツ語セミナーA	青山 豊	前期 月4	65
	ドイツ語セミナーB	青山 豊	後期 月4	65
ニ	統計入門	李 复屏	前期 月1	66
	統計入門	長谷 祐	後期 金5	66
	日本国憲法	時本 義昭	前期 月3	67
	日本国憲法	時本 義昭	前期 木3	67
	日本国憲法	時本 義昭	後期 月3	68
	日本国憲法	時本 義昭	後期 木3	68
ハ	発達と教育A	松島 恵介	前期 水1	69
	発達と教育A	松島 恵介	前期 水2	69
	発達と教育B	松島 恵介	後期 水1	70
	発達と教育B	松島 恵介	後期 水2	70
	仏教の思想A	井上 博文	前期 水2	74
	仏教の思想A	道元 徹心	前期 水2	74
	仏教の思想A(再)	溪 英俊	後期 火5	75
	仏教の思想B	井上 博文	後期 水2	77
	仏教の思想B	道元 徹心	後期 水2	77
	仏教の思想B(再)	溪 英俊	前期 火5	78
フ	フランス語ⅠA	瓜生 濃世	前期 水3	78
	フランス語ⅠB	瓜生 濃世	後期 水3	79
	フランス語ⅠC	森部 卓	前期 月2	79
	フランス語ⅠC	嶋崎 陽一	前期 月3	80
	フランス語ⅠC	森部 卓	前期 木3	80
	フランス語ⅠD	森部 卓	後期 月2	81
	フランス語ⅠD	嶋崎 陽一	後期 月3	81
	フランス語ⅠD	森部 卓	後期 木3	82
	フランス語セミナーA	嶋崎 陽一	前期 木4	82
	フランス語セミナーB	嶋崎 陽一	後期 木4	83
ホ	文学入門	大槻 志郎	前期 水3	84
	文学入門	嶋崎 陽一	前期 木3	85
	文学入門	坂本 輝世	後期 火5	85
	文学入門	嶋崎 陽一	後期 木3	86
	法学入門	時本 義昭	前期 月1	86
	法学入門	時本 義昭	後期 月1	87
リ	倫理学入門	菊地 建至	前期 水3	88
	倫理学入門	菊地 建至	前期 水4	89
	倫理学入門	菊地 建至	後期 水5	90
レ	歴史入門	西村 昌洋	前期 水2	91
	歴史入門	佐野 東生	後期 金2	92
ロ	論理学入門	中谷 隆雄	前期 月3	92
	論理学入門	中谷 隆雄	後期 月3	93

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合向上を図る。4技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

【担当】 クラス・開講曜講時による

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。4技能の基礎を見直し、これを補強することに重点を置く。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リスト参照のこと。

参考文献

『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎をもとに4技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト

担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配
付予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

【担当】 クラス・開講曜講時による

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる英語の運用能力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる4技能の総合的向上を図る。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎をもとに4技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。また、自ら英語を含む外国語を学習する習慣を身につける。

■講義方法

主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式を取り、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。専門的な文献を読むことや世界の動静を知るのに必要な「読解力」の養成を重視する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示。

■成績評価の方法

定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。
学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み
入れる。

■テキスト

担当教員別に、教科書リスト参照のこと。

参考文献

『基本学習事項－文法・単語・構文・熟語』（初回授業にて配付予定）

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

講義時に指示。

■サブタイトル

TOEIC Testへの橋渡し

■講義概要

資格試験のTOEIC Bridge対策用テキストを使って、聴解力・読解力を鍛え、語彙力や文法力も伸ばす。また、ネット上の無料学習サイトを紹介するので、必要な情報や学習の機会を得る。基礎を大切にしつつ、各自で英語力を伸ばすために必要な英語学習がしっかりできるように授業進度をペースメーカーとしたい。

■到達目標

テキストにあるような英語の基本単語・基本文法用法・語彙表現を復習し、確実に身につけることを目標とする。

■講義方法

まず、予習で本日の基本文法を見直し、テキストの問題を解いておく。

次に全体授業で、文法のポイントを学習するとともに、関連のある簡単な語彙や表現を学習する。

全体説明の後、テキストの要点を各自確認する。

さらに、テキストに登場する指定話題についてネット上で調べ、学習シートを完成する。

基本的に一日に1課進む予定であり、次週までに課題レポートとしてが完成した学習シートをクラスフォルダーに提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示

学内の自習室でもクラスフォルダーを利用することができ、課題レポート提出ができる。

■成績評価の方法

平常点（15%）授業10回以上の参加を条件に概ね以下の通りとする。出席はPC起動を機械処理する。遅刻・早退・中座は1／3欠席。各1点満点・15回授業に遅れず出席をし、積極的に課題に取り組むこと。

小テスト（10%）5点満点・10分の小テストを三回実施し、その内高い得点二回分を加算する。

レポート（30%）各2点満点のファイルを遅れずに15個提出する。

定期試験（45%）一般教室で聞き取りを含む筆記試験を実施する。

〔欠席した場合・試験結果が心配な場合〕英語ニュースを読んでミニレポートを提出しよう。

よくできていると1点加点される。上限+5点まで。

1) 読みやすく簡単な短い英語ニュースを見つけ、目を通す。
クラスフォルダー参照：「英字新聞を読もう」

2) 英語ニュースの要旨と感想を日本語または英語でまとめる。

クラスフォルダー参照：「英語ニュース」

3) 学籍番号、氏名、欠席日、欠席理由を記し、ニュースの写し、要旨・感想をまとめてニュースファイルとし、できるだけ早く提出フォルダー内のニュースフォルダーに提出しよう。

■テキスト

Terry O'Brien、三原 京、秀野 作次郎、木村 博是 著
『TOEIC Bridge Lounge』 南雲堂 1,800円

定価は本体価格である。4月からの消費税を含めた金額が購入には必要である。

テキストの付属CDは前期授業が始まる前に全体を通して聴き、健全に初めから最後まで音声がかどうかを点検しておこう。授業中教室内の各自PCでも視聴可能であるが、終了前には必ず取り出し毎回持ち帰ること。置きっぱなしには出来ない。

■参考文献

T B A：授業中に適宜紹介する予定。

■履修上の注意・担当者からの一言

翻訳ソフトの利用を禁止する。辞書を持参し、授業中に適宜活用しよう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1. 授業中に直接連絡する。
2. Gメールをクラス、学籍番号、氏名を明記し、sibahara@mail.ryukoku.ac.jpに送る。
3. 課題ファイル末尾に記し、口頭で伝えた上で提出する。

■講義計画

- ①Orientation
Lesson 1 The Weather
- ②Lesson 2 Meetings & Messages
- ③Lesson 3 Health
- ④Lesson 4 Advertising & Sales
- ⑤Lesson 5 Investment & Office Supplies
- ⑥Lesson 6 Telephone Messages
- ⑦Lesson 7 Jobs & Promotions
- ⑧Lesson 8 Flights & Traveling
- ⑨Lesson 9 Housing
- ⑩Lesson 10 New products & Electrical Appliances
- ⑪Lesson 11 Media
- ⑫Lesson 12 Ordering & Shipping
- ⑬Lesson 13 Customer Services
- ⑭Lesson 14 The Environment
- ⑮Lesson 15 Mini Test
- ⑯The Final Examination

■サブタイトル

TOEIC Testへの橋渡し

■講義概要

資格試験のTOEIC Bridge対策用テキストを使って、聴解力・読解力を鍛え、語彙力や文法力も伸ばす。また、ネット上の無料学習サイトを紹介するので、必要な情報や学習の機会を得る。基礎を大切にしつつ、各自で英語力を伸ばすために必要な英語学習がしっかりできるように授業進度をペースメーカーとしたい。

■到達目標

テキストにあるような英語の基本単語・基本文法用法・語彙表現を復習し、確実に身につけることを目標とする。

■講義方法

まず、予習で本日の基本文法を見直し、テキストの問題を解いておく。

次に全体授業で、文法のポイントを学習するとともに、関連のある簡単な語彙や表現を学習する。

全体説明の後、テキストの要点を各自確認する。

さらに、テキストに登場する指定話題についてネット上で調べ、学習シートを完成する。

基本的に一日に1課進む予定であり、次週までに課題レポートとしてが完成した学習シートをクラスフォルダーに提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示

学内の自習室でもクラスフォルダーを利用することができ、課題レポート提出ができる。

■成績評価の方法

平常点（15%）授業10回以上の参加を条件に概ね以下の通りとする。出席はPC起動を機械処理する。遅刻・早退・中座は1／3欠席。各1点満点・15回授業に遅れず出席をし、積極的に課題に取り組むこと。

小テスト（10%）5点満点・10分の小テストを三回実施し、その内高い得点二回分を加算する。

レポート（30%）各2点満点のファイルを遅れずに15個提出する。

定期試験（45%）一般教室で聞き取りを含む筆記試験を実施する。

〔欠席した場合・試験結果が心配な場合〕英語ニュースを読んでミニレポートを提出しよう。

よくできていると1点加点される。上限+5点まで。

1) 読みやすく簡単な短い英語ニュースを見つけ、目を通す。
クラスフォルダー参照：「英字新聞を読もう」

2) 英語ニュースの要旨と感想を日本語または英語でまとめる。

クラスフォルダー参照：「英語ニュース」

3) 学籍番号、氏名、欠席日、欠席理由を記し、ニュースの写し、要旨・感想をまとめてニュースファイルとし、できるだけ早く提出フォルダー内のニュースフォルダーに提出しよう。

■テキスト

Terry O'Brien、三原 京、秀野 作次郎、木村 博是 著
『TOEIC Bridge Lounge』 南雲堂 1,800円

定価は本体価格である。4月からの消費税を含めた金額が購入には必要である。

テキストの付属CDは前期授業が始まる前に全体を通して聴き、健全に初めから最後まで音声がかどうかを点検しておこう。授業中教室内の各自PCでも視聴可能であるが、終了前には必ず取り出し毎回持ち帰ること。置きっぱなしには出来ない。

■参考文献

T B A：授業中に適宜紹介する予定。

■履修上の注意・担当者からの一言

翻訳ソフトの利用を禁止する。辞書を持参し、授業中に適宜活用しよう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1. 授業中に直接連絡する。
2. Gメールをクラス、学籍番号、氏名を明記し、sibahara@mail.ryukoku.ac.jpに送る。
3. 課題ファイル末尾に記し、口頭で伝えた上で提出する。

■講義計画

- ①Orientation
Lesson 1 The Weather
- ②Lesson 2 Meetings & Messages
- ③Lesson 3 Health
- ④Lesson 4 Advertising & Sales
- ⑤Lesson 5 Investment & Office Supplies
- ⑥Lesson 6 Telephone Messages
- ⑦Lesson 7 Jobs & Promotions
- ⑧Lesson 8 Flights & Traveling
- ⑨Lesson 9 Housing
- ⑩Lesson 10 New products & Electrical Appliances
- ⑪Lesson 11 Media
- ⑫Lesson 12 Ordering & Shipping
- ⑬Lesson 13 Customer Services
- ⑭Lesson 14 The Environment
- ⑮Lesson 15 Mini Test
- ⑯The Final Examination

英語 (再)

【担当】 藺田 千寿子

【開講】前期 金4

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読を通じてすべての基礎となる「読解力」の養成を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の最後に、毎回小テストを行います。当該部分を事前に読み、単語の意味や文章の内容を調べておくこと。

■成績評価の方法

平 常 点 (20%)	平素の学習活動状況などを総合的に評価する。
小テスト (60%)	授業の理解度を確認します。
そ の 他 (20%)	毎授業終了時に次回授業のリーディングアサインメントを指示します。

■テキスト

Kip A. Cates, Noriko Kurihara 『Off to the World』 金星堂
1,890円

※担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

- ① Hitchhiking Around the World
- ② Olympic Spirit!
- ③ The Power of Greetings
- ④ Where's My Hotel?
- ⑤ Our Global Connections
- ⑥ Welcome Home!
- ⑦ The Secret of Life
- ⑧ Is This Seat Taken?
- ⑨ Exploring World Religions
- ⑩ Let's Study Abroad!
- ⑪ What's the Most Difficult Language?
- ⑫ A Crowded Planet!
- ⑬ Vocabulary Roadblocks
- ⑭ Beware of Landmines!
- ⑮ World Citizenship

英語 (再)

【担当】 藺田 千寿子

【開講】後期 金4

■講義概要

これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標

異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。

■講義方法

主として教科書の講読を通じてすべての基礎となる「読解力」の養成を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の最後に毎回小テストを行います。
当該部分を事前に読み、単語の意味や文章の内容を調べておくこと。

■成績評価の方法

平 常 点 (20%)	平素の学習活動状況などを総合的に評価する。
小テスト (60%)	授業の理解度を確認します。
そ の 他 (20%)	毎回授業終了時に次回授業のリーディング アサインメントを指示します。

■テキスト

David Dale 『The 10 Things about Australia 1』 アポロン社 1,080円

参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

第1回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画

- ① About Australia
- ② 1 .Where We Live
- ③ 2 .The Newer Arrivals
- ④ 3 .Size
- ⑤ Review 1
- ⑥ 4 .The Republic
- ⑦ 5 .The Weather
- ⑧ 6 .Ned Kelly
- ⑨ Review 2
- ⑩ 7 .The Way of Death
- ⑪ 8 .Family Life
- ⑫ Review 2
- ⑬ 9 .Uluru
- ⑭ 10 .Beer
- ⑮ Review 3

英語（再）

【担当】宮尾 元子

【開講】前期 火4

■講義概要

英語の基礎力の定着とさらなる向上のために、TOEIC対策テキストを用いて学習する。

■到達目標

テキストの問題を解いて行くことで、実用的な英語表現の習得を目指す。

■講義方法

リスニングとリーディングとに分けて、2回の授業で一章を仕上げる。リスニングでは解答するだけでなく、音読やペアワーク等の練習も活発に行いたい。各章の学習終了後に小テストを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業毎に語彙に関する予習を課す。また、小テストに備えての復習は手を抜かずにするように。

■成績評価の方法

平常点（30%）出席ではなく、発表等の授業に対する取り組み方への評価

小テスト（20%）

レポート（20%）提出課題

定期試験（30%）まとめのテスト

■テキスト

横川 綾子、他 『Level-Up Trainer for the TOEIC Test』
Cengage Learning 2,000円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

欠席5回で受講資格を失うものとする。また、遅刻3回、テキスト忘れ3回で、それぞれ欠席1回とみなす。辞書は必ず持参すること。

■講義計画

①オリエンテーション

②Unit 1 TOEICを知る

③Unit 1

④Unit 1

⑤Unit 2 基本戦略①

⑥Unit 2

⑦Unit 2

⑧Unit 3 基本戦略②

⑨Unit 3

⑩Unit 3

⑪Unit 4 英文の基本構造を見抜く

⑫Unit 4

⑬Unit 4

⑭まとめテスト

⑮Review

英語（再）

【担当】宮尾 元子

【開講】後期 火4

■講義概要

英語の基礎力の定着とさらなる向上のために、TOEIC対策テキストを用いて学習する。

■到達目標

テキストの問題を解いて行くことで、実用的な英語表現の習得を目指す。

■講義方法

リスニングとリーディングとに分けて、2回の授業で一章を仕上げる。リスニングでは解答するだけでなく、音読やペアワーク等の練習も活発に行いたい。各章の学習終了後に小テストを行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業毎に語彙に関する予習を課す。また、小テストに備えての復習は手を抜かずにするように。

■成績評価の方法

平常点（30%）出席ではなく、発表等の授業に対する取り組み方への評価

小テスト（20%）

レポート（20%）提出課題

定期試験（30%）まとめのテスト

■テキスト

横川 綾子、他 『Level-Up Trainer for the TOEIC Test』
Cengage Learning 2,000円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

欠席5回で受講資格を失うものとする。また、遅刻3回、テキスト忘れ3回で、それぞれ欠席1回とみなす。辞書は必ず持参すること。

■講義計画

①オリエンテーション

②Unit 5 解答根拠の登場順

③Unit 5

④Unit 5

⑤Unit 6 正解の言い換えパターンを知る

⑥Unit 6

⑦Unit 6

⑧Unit 7 機能疑問文を聞き取る

⑨Unit 7

⑩Unit 7

⑪Unit 8 動詞の時制を見極める

⑫Unit 8

⑬Unit 8

⑭まとめのテスト

⑮Review

■サブタイトル

TOEIC対策セミナー

■講義概要

この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。

■到達目標

1年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。

■講義方法

毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。
TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週授業でおこなったUnitの復習をしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (70%) Participationが含まれる
定期試験 (30%) 最終授業日に行う (In Class Test)

■テキスト

Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝
日出版 2,000円

参考文献

宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかには負けるな』
化学同人 2,200円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②Text 1
- ③Text 2
- ④Text 3
- ⑤Text 4
- ⑥Text 5
- ⑦Text 6
- ⑧Text 7
- ⑨Text 8
- ⑩Text 9
- ⑪Text 10
- ⑫Text 11
- ⑬Text 12
- ⑭In class Final Exam
- ⑮Feedback

英語セミナーA 1

【担当】 宇野 誠一
【開講】 前期 月2

■サブタイトル

TOEIC対策セミナー

■講義概要

この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。

■到達目標

1年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。

■講義方法

毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。
TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週授業でおこなったUnitの復習をすること。

■成績評価の方法

平常点 (70%) Participationが含まれる
定期試験 (30%) 最終授業日に行う (In Class Test)

■テキスト

Junichi Uchida 『English Trainer for the TOEIC Test』 朝
日出版 2,000円

参考文献

宇野誠一、中村収三 『理系人よ！英語なんかには負けるな』
化学同人 2200円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②Text 1
- ③Text 2
- ④Text 3
- ⑤Text 4
- ⑥Text 5
- ⑦Text 6
- ⑧Text 7
- ⑨Text 8
- ⑩Text 9
- ⑪Text 10
- ⑫Text 11
- ⑬Text 12
- ⑭In class Final Exam
- ⑮Feedback

英語セミナーA 1

【担当】ワード ジョン

【開講】前期 水3

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies.

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from The Language Connection section of the Yomiuri Newspaper to read and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%) Class Performance

小テスト (25%) Small Test

その他 (25%) Homework

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』 ETS TOEIC

■履修上の注意・担当者からの一言

特になし

■講義計画

- ① Introduction to TOEIC
- ② Describing Photographs
- ③ Tactics: Aspects of Photos
- ④ Questions and Responses
- ⑤ Sound-alike Words
- ⑥ Information Questions
- ⑦ Yes/No Questions
- ⑧ Embedded Questions
- ⑨ Sound/Meaning Distractors
- ⑩ Negative Questions
- ⑪ Inference Questions
- ⑫ Short Conversations
- ⑬ Incomplete Sentences
- ⑭ Reading Comprehension
- ⑮ Mock Test

英語セミナーA 1

【担当】ワード ジョン

【開講】前期 金5

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies.

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1~4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from The Language Connection section of the Yomiuri Newspaper to read and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%) Active Participation

小テスト (25%) Results

その他 (25%) Homework

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』 ETS TOEIC

■履修上の注意・担当者からの一言

特になし

■講義計画

- ① Introduction to TOEIC
- ② Describing Photographs
- ③ Aspects of pictures
- ④ Questions and Responses
- ⑤ Sound-alike Words
- ⑥ Information Questions
- ⑦ Yes/No Questions
- ⑧ Embedded Questions
- ⑨ Sound/Meaning Distractors
- ⑩ Negative Questions
- ⑪ Inference Questions
- ⑫ Short Conversations
- ⑬ Incomplete Questions
- ⑭ Reading Comprehension
- ⑮ Mock Test

英語セミナーA2

【担当】ワード ジョン

【開講】後期 水3

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies.

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and give them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from The Language Connection section of the Yomiuri Newspaper to read and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%) Active Participation

小テスト (25%) Results

その他 (25%) Homework

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』 ETS TOEIC

■履修上の注意・担当者からの一言

特になし

■講義計画

- ①Intro to TOEIC
- ②Describing Photographs
- ③Aspects of Photographs
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound-alike Words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Sound/Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Conversations
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーA2

【担当】ワード ジョン

【開講】後期 金5

■サブタイトル

TOEIC Listening skills and strategies.

■講義概要

Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1~4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing students' English ability and giving them the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.

■到達目標

The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.

■講義方法

We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students will be given articles from The Language Connection section of the Yomiuri Newspaper to read and be required to submit their answers to the questions asked about the article.

■成績評価の方法

平常点 (50%) Class Performance

小テスト (25%) Small Test

その他 (25%) Homework

■テキスト

『TOEIC (R) Preparation Book Volume 4』 ETS TOEIC

■履修上の注意・担当者からの一言

特になし

■講義計画

- ①Introduction to TOEIC
- ②Describing Photographs
- ③Aspects of Photos
- ④Questions and Responses
- ⑤Sound-alike Words
- ⑥Information Questions
- ⑦Yes/No Questions
- ⑧Embedded Questions
- ⑨Sound Meaning Distractors
- ⑩Negative Questions
- ⑪Inference Questions
- ⑫Short Questions
- ⑬Incomplete Sentences
- ⑭Reading Comprehension
- ⑮Mock Test

英語セミナーC 1

【担当】音羽 レベッカ

【開講】前期 水2

■サブタイトル

Thinking about Human Life 人生を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、個人の生活・自分と周りの人々との関係を考える

■到達目標

人間として大事なことを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記のとおり
平常点10・参加40・宿題30(1回につき10点×3回)・テスト20
合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our lives in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com (必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
- ②Movie: "The Apartment" Part I & discussion
映画:「アパートの鍵を貸します」パート1
- ③Movie: "The Apartment" Part II & discussion Assign HW 1
映画:「アパートの鍵を貸します」パート2
- ④Me & Myself I: Personal History-Who am I?
私自身I: パーソナルヒストリー わたして誰?
- ⑤Me & Myself II: Taking Care of Myself-What do I need? Hand in HW 1
私自身II: 自分を大切にすること私に何が必要か?
- ⑥Me & Myself III: Choices-What should I do?
私自身III: 選択 私はなにをすればいい?
- ⑦Me & Myself IV: Self-control-How can I manage myself?
私自身IV: 自己管理 私をどうやって管理する?
- ⑧Me & Myself V: The Future-How can I realize my dreams? Assign HW 2
私自身V: 将来 私はどうやって夢を実現する?
- ⑨Me & Others I: Differences-What makes me me?
私と人I: 違い 私と他の人との違い
- ⑩Me & Others II: Groups-Where do I belong? Hand in HW 2
私と人II: グループ 私はどこに属する?
- ⑪Me & Others III: Friends & Family-How should I relate?
私と人III: 友達と家族 私はどうやって関係をつくる?
- ⑫Me & Others IV: Emotions-How should I handle my feelings?
私と人IV: 感情 私はどうやって感情を管理すればいい?
- ⑬Me & Others V: Civility-How should I behave? Assign HW 3
私と人V: 社会の中の私のふるまい 私はどう振舞うべきか?
- ⑭Me & Others VI: Judgment-How should I evaluate myself and others?
私と人VI: 判断 自分と他の人をどうやって判断すればいい?
- ⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

英語セミナーC 1

【担当】ワード ジョン

【開講】前期 水2

■サブタイトル

Language Acquisition Through Interaction.

■講義概要

The objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts. Throughout the course we will develop the learners listening and speaking skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give the students the opportunity to personalize the language they learn, and make use of their own experience and knowledge. We will be working in pairs and small groups, providing a maximum amount of student-generated communication.

■到達目標

After completing this course, students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.

■講義方法

Students will be divided into pairs or small groups at the beginning of each class, thus providing many opportunities for student interaction. Throughout the course, students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students are required to download the Self-study audio at >www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.

■成績評価の方法

平常点(50%) Active Participation
小テスト(25%) Results
その他(25%) Homework

■テキスト

Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book 2』 Longman

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①Explanation of course
- ②Asking for Information
- ③Describing Things
- ④Making Requests
- ⑤Giving Instructions
- ⑥Reviewing
- ⑦Making Excuses-Giving Reasons
- ⑧Giving Opinions
- ⑨Comparing Things
- ⑩Reviewing
- ⑪Giving advice-Suggestions
- ⑫Talking about Experiences
- ⑬Inviting
- ⑭Predictions
- ⑮Reviewing

英語セミナーC 1

【担当】音羽 レベッカ

【開講】前期 水3

■サブタイトル

Thinking about Human Life 人生を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、個人の生活・自分と周りの人々との関係を考える

■到達目標

人間として大事なことを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記のとおり
平常点10・参加40・宿題30(1回につき10点×3回)・テスト20
合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our lives in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com (必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, student questionnaire
コース紹介・学生アンケート
- ②Movie: "The Apartment" Part I & discussion
映画:「アパートの鍵を貸します」パート1
- ③Movie: "The Apartment" Part II & discussion Assign HW 1
映画:「アパートの鍵を貸します」パート2
- ④Me & Myself I: Personal History - Who am I?
私自身I: パーソナルヒストリー わたしって誰?
- ⑤Me & Myself II: Taking Care of Myself - What do I need? Hand in HW 1
私自身II: 自分を大切にすること私に何が必要か?
- ⑥Me & Myself III: Choices - What should I do?
私自身III: 選択 私はなにをすればいい?
- ⑦Me & Myself IV: Self-control - How can I manage myself?
私自身IV: 自己管理 私をどうやって管理する?
- ⑧Me & Myself V: The Future - How can I realize my dreams? Assign HW 2
私自身V: 将来 私はどうやって夢を実現する?
- ⑨Me & Others I: Differences - What makes me me?
私と人I: 違い 私と他の人との違い
- ⑩Me & Others II: Groups - Where do I belong? Hand in HW 2
私と人II: グループ 私はどこに属する?
- ⑪Me & Others III: Friends & Family - How should I relate?
私と人III: 友達と家族 私はどうやって関係をつくる?
- ⑫Me & Others IV: Emotions - How should I handle my feelings?
私と人IV: 感情 私はどうやって感情を管理すればいい?
- ⑬Me & Others V: Civility - How should I behave? Assign HW 3
私と人V: 社会の中の私のふるまい 私はどう振舞うべきか?
- ⑭Me & Others VI: Judgment - How should I evaluate myself and others?
私と人VI: 判断 自分と他の人をどうやって判断すればいい?
- ⑮TEST & Wrap up Hand in HW 3

英語セミナーC 1

【担当】イエニク・S・C

【開講】前期 金2

■サブタイトル

English Communication

■講義概要

To develop an intuitive grasp of and fluency with relatively easy English, especially through experiencing the sound of the language.

Mainly utilizes narrative and dramatic language in the forms of stories and video skits.

A balanced and integrated approach to all four language skills: listening, speaking, reading and writing.

A variety of exercises and tasks will be used to demonstrate common English usage and guide students to express their own original thoughts directly in English in both spoken and written forms. This will also naturally reinforce basic grammar and function structures from an active point of view.

■到達目標

Relative to students' abilities.

■講義方法

Various types of class participation. Dialogues, narrative writing, etc.

■授業時間外における予・復習等の指示

Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.

■成績評価の方法

平常点(100%) Class participation.

■テキスト

辞書持参

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①Dialogue
- ②Narrative
- ③Reading
- ④Dialogue
- ⑤Narrative
- ⑥Reading
- ⑦Dialogue
- ⑧Narrative
- ⑨Reading
- ⑩Dialogue
- ⑪Narrative
- ⑫Reading
- ⑬Dialogue
- ⑭Narrative
- ⑮Reading

英語セミナーC2

【担当】音羽 レベッカ

【開講】後期 水2

■サブタイトル

Thinking about Global Life 世界を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える

■到達目標

世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記を参照
平常点10・参加40・宿題30 (1回につき10点×3回)・テスト20合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com (必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, world map work
コース紹介・世界地図を親しんで
- ②Natural Environment I: Creating the Earth
自然環境1: 地球をつくったのは?
- ③Natural Environment II: Competition & Cooperation
自然環境2: 競争と協力
- ④Global Relationships I: Humanity the Superorganism
グローバル関係1: 人類スーパーオーガニズム
- ⑤Global Relationships II: Work
グローバル関係2: 人間の仕事
- ⑥Global Relationships III: Food Culture
グローバル関係3: 食物の文化
- ⑦Global Relationships IV: Culture
グローバル関係4: 人間の文化
- ⑧Global Relationships V: A Gaijin in Japan
グローバル関係5: 日本に住む外国人
- ⑨What is Civilization I: Human Rights & Responsibilities
文明とは何か1: 人権と責任
- ⑩What is Civilization II: History of Economic Man
文明とは何か2: 経済人間の歴史
- ⑪What is Civilization III: Humanity's Highest Achievements
文明とは何か3: 人間の最高の達成
- ⑫When Civilization Breaks Down I: Crime & Punishment
文明が危ないとき1: 犯罪
- ⑬When Civilization Breaks Down II: War
文明が危ないとき2: 戦争
- ⑭Word Work and Review
単語の勉強と復習
- ⑮Final Test
ファイナルテスト

英語セミナーC2

【担当】ワード ジョン

【開講】後期 水2

■サブタイトル

Language Acquisition Through Interaction.

■講義概要

The objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts. Throughout the course we will develop the learners listening and speaking skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give them the opportunity to personalize the language they learn, and make use of their own experiences and knowledge. We will be working in pairs and small groups providing a maximum amount of student-generated communication.

■到達目標

After completing this course, students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.

■講義方法

Students will be divided into pairs or small groups at the beginning of each class, thus providing many opportunities for student interaction. Throughout the course, students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.

■授業時間外における予・復習等の指示

Students are required to download the Self-study audio at >www.fifty-fifty-series.com and submit the results to me weekly.

■成績評価の方法

平常点(50%) Active Participation
小テスト(25%) Results
その他(25%) Homework

■テキスト

Warren Wilson 『Fifty-Fifty Book 2』 Longman

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①Explanation of Course
- ②Asking for Information
- ③Describing Things
- ④Making Requests
- ⑤Giving Instructions
- ⑥Reviewing
- ⑦Making Excuses-Giving Reasons
- ⑧Giving Opinions
- ⑨Comparing Things
- ⑩Reviewing
- ⑪Giving advice-Suggestions
- ⑫Talking about Experiences
- ⑬Inviting
- ⑭Predictions
- ⑮Reviewing

英語セミナーC2

【担当】音羽 レベッカ

【開講】後期 水3

■サブタイトル

Thinking about Global Life 世界を考える

■講義概要

簡単な英語を使って、地球・世界の中に生きることを考える

■到達目標

世界の大事なトピックを英語で話しながら、英語に親しむと同時に、これからの人生に役に立つことを考えて学ぶ

■講義方法

教師の話・教師と学生との会話・Role Play・単語力を向上させるExercises

■授業時間外における予・復習等の指示

- (1) 毎回の単語を次回に復習する
- (2) 宿題を3回出す
- (3) 15回目にテストを行う

■成績評価の方法

その他(100%) 下記を参照
平常点10・参加40・宿題30(1回につき10点×3回)・テスト20
合計100

■テキスト

教師がコピーを渡す

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Let's think about our place in the world in English. It is important to be serious and attend the class regularly.

■オフィスアワー・教員への連絡方法

palantir55@yahoo.com (必要な時だけ使うこと)

■講義計画

- ①Introduction to course, world map work
コース紹介・世界地図を親しんで
- ②Natural Environment I: Creating the Earth
自然環境1: 地球をつくったのは?
- ③Natural Environment II: Competition & Cooperation
自然環境2: 競争と協力
- ④Global Relationships I: Humanity the Superorganism
グローバル関係1: 人類スーパーオーガニズム
- ⑤Global Relationships II: Work
グローバル関係2: 人間の仕事
- ⑥Global Relationships III: Food Culture
グローバル関係3: 食物の文化
- ⑦Global Relationships IV: Culture
グローバル関係4: 人間の文化
- ⑧Global Relationships V: A Gaijin in Japan
グローバル関係5: 日本に住む外国人
- ⑨What is Civilization I: Human Rights & Responsibilities
文明とは何か1: 人権と責任
- ⑩What is Civilization II: History of Economic Man
文明とは何か2: 経済人間の歴史
- ⑪What is Civilization III: Humanity's Highest Achievements
文明とは何か3: 人間の最高の達成
- ⑫When Civilization Breaks Down I: Crime & Punishment
文明が危ないとき1: 犯罪
- ⑬When Civilization Breaks Down II: War
文明が危ないとき2: 戦争
- ⑭Word Work and Review
単語の勉強と復習
- ⑮Final Test
ファイナルテスト

英語セミナーC2

【担当】イエニク・S・C

【開講】後期 水3

■サブタイトル

Active English

■講義概要

The aim of this course is to improve students ability to use English by dividing the class into groups and having them create their own extended dialogues or short plays. This places emphasis on the active skills: writing and speaking. The students create the concrete contents of the course themselves.

■到達目標

Relative to students abilities

■講義方法

Individual students each write dialogues or short plays and then perform them in groups.

■授業時間外における予・復習等の指示

Homework and preparatory exercises will be assigned to be done outside of class.

■成績評価の方法

平常点(100%) Homework. Class Performance.

■テキスト

特になし

■参考文献

Any good dictionary.

■履修上の注意・担当者からの一言

Do not miss the first class.

■講義計画

- ①Introduction and Video Exercise
- ②Creative Stimulus Exercise
- ③Creative Stimulus and Narrative Writing
- ④Convert Narrative to Dialogue
- ⑤～⑮Learn, Practice and Perform Skits and Short Plays

■サブタイトル

Welcome to Suspense: Super Fiction English 1

■講義概要

とにかく英語で物語を読む経験を積むのが主眼。英語で物語を楽しめるようになり、英語で読むほうが翻訳より面白いと思えばしめたもので、読み続けることさえできれば、英語力向上という結果はあとからついてくる。そのために面白い物語を複数読んでみる。まずアメリカの人気俳優マット・デイモン主演で大ヒットしたスパイスリラー、The Bourne Identityの原作をretold版（より易しい英語で書き直したもの）で読む。記憶をなくした男が見出す自分についての衝撃の真実！筋はやや複雑だが、リトールド版の英語はあまり難しくないで、予習でしっかり読んでもらい、授業では内容が理解できているかどうかを確認して、重要表現などの学習に力を入れる。また、英語の物語に一層興味を持ってもらうことを狙って、これ以外にも様々な魅力的な短いストーリーや、長編の一部なども適宜追加で読んでみたい。

■到達目標

物語を英語で読むことが楽しい、翻訳より英語で読む方が面白い、と思えるようになること。物語への興味から英語をより多く読もうという姿勢を身につけること。

■講義方法

前週に次回扱う内容のハンドアウトを配布。せいぜい5ページ程度の予定。授業で内容を確認、表現の練習など。メインのThe Bourne Identityについては、全部は読めないで、話の展開はリスニング練習を兼ねて映画の映像で補う。授業ではまず前回学習した英語表現及び当日読む作品のストーリーについての小テスト。メインの場面の英語の確認と鑑賞、解説、表現練習など。次回分の作品について、必要に応じて予告的解説＋情報提供、留意点の指摘。まとめの作業。毎回学習内容についてコメントを書いてもらう。

■系統的履修

英語セミナーD2

■授業時間外における予・復習等の指示

予習が大前提。とにかく自分で読んでみようとしなければいつまでも読めるようにならない。より意欲的に読む気になるようにこちらも工夫はするつもり。

■成績評価の方法

平常点（40%）小テスト、予習状況、授業中の発表、コメントなど

定期試験（60%）

3分の1以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則0点とする。

■テキスト

The Bourne Identity、及び他の物語の、いずれもハンドアウトを使用する予定。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

欲ばりな内容なので消化しきれない恐れもあり、授業の進め方を調整する可能性がある。メイン作品については、この機会にぜひ丸ごと読破してほしい。図書館にもあるし、2014年1月現在、Amazonで買くと、本だけで850円弱、CD付きで1,700円余り。購入については相談に乗る。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learningサイトを開設予定。

■講義計画

- ①introduction
 - ②The Bourne Identity (1)
 - ③The Bourne Identity (2)
 - ④The Bourne Identity (3)
 - ⑤The Bourne Identity (4)
 - ⑥The Bourne Identity (5)
 - ⑦The Bourne Identity (6)
 - ⑧The Bourne Identity (7)
 - ⑨The Bourne Identity (8)
 - ⑩The Bourne Identity (9)
 - ⑪The Bourne Identity (10)
 - ⑫The Bourne Identity (11)
 - ⑬The Bourne Identity (12)
 - ⑭The Bourne Identity (13)
 - ⑮The Bourne Identity (14)
- 以上にいくつか別のストーリーを追加

教育原論A

【担当】藤井 奈津子

【開講】前期 月1

■サブタイトル

子ども期の再発見

■講義概要

かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Aでは、まず後者のロマン主義的子ども観の流れに沿って、大人とは異なる〈子ども〉特有の生のありようについて考えていきたい。文学作品や映画に描かれた子どもを手がかりに、議論を進めていく予定である。

■到達目標

近代における子ども期の発見の歴史と、そこで見出された子ども特有の生のありようについて理解することによって、現代の教育を考えていく上で重要な子ども観を養う。

■講義方法

板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には、ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。

■系統的履修

できれば教育原論Bも受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし。

■成績評価の方法

レポート(40%) 小レポート4回

定期試験(60%) 期末試験

■テキスト

テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。

■参考文献

Ph. アリエス 『〈子供〉の誕生—アンシャン・レジーム期の子供と家庭生活』 みすず書房 5,200円

森田伸子 『テキストの子ども—ディスクール・レシ・イマージュ』 世織書房 2,600円

本田和子 『映像の子どもたち—ビデオという覗き窓』 人文書院 1,900円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②子ども期の発見
- ③子どもの時間(1) — ロマン主義的子ども観
- ④子どもの時間(2) — [映画視聴]
- ⑤子どもの時間(3) — 映画解説 — 子どものリアリティ
- ⑥子どもと秘密(1) — 子どもの秘密と大人の秘密
- ⑦子どもと秘密(2) — [映画視聴]
- ⑧子どもと秘密(3) — 映画解説 — 禁止への侵犯
- ⑨子どものイニシエーション(1) — イニシエーションとは何か
- ⑩子どものイニシエーション(2) — [映画視聴]
- ⑪子どものイニシエーション(3) — 映画解説 — 子どもから大人へ
- ⑫大人の生における子ども期の意味(1) — 子ども期とは何か
- ⑬大人の生における子ども期の意味(2) — J.S.ミルの事例から
- ⑭大人の生における子ども期の意味(3) — 里山学校の実践
- ⑮まとめ

教育原論A

【担当】広川 義哲

【開講】前期 月2

■サブタイトル

子ども・学校・社会

■講義概要

教育をめぐる動向がさまざまな変貌をとげ、教育をめぐるさまざまな言説が競合しているなかで、あらためて、教育について考えたい。子どもが「育つ」とときには、どんな風景がそこに広がっているのか。子どもが「学ぶ」学校とは、どのような場所なのか。そして、教育の思想は社会のあり方をどのように説明し、教育の歴史はどのように展開してきたのか。こうした問いを立てつつ、本講義では、教育の歴史や思想および今日的な状況を、子ども・学校・社会の三つの大きなテーマに配分して解説していく。

■到達目標

教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。

■講義方法

毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に適宜、指示します。

■成績評価の方法

レポート(20%) 毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験(80%) 学期末の筆記試験。

■テキスト

講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。

■参考文献

西平直 『教育人間学のために』 東京大学出版会

矢野智司 『ソクラテスのダブル・バインド』 世織書房

高橋勝 『文化変容のなかの子ども』 東信堂

柴田義松編 『新・教育原理』 有斐閣

これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②教育学の基礎的な概念と枠組み
- ③育つ子ども：人間の発達と教育の理念
- ④遊ぶ子ども：フレーベルと遊びの思想
- ⑤子どもと教育の歴史①：近代日本の学力論争と学びの思想
- ⑥子どもと教育の歴史②：近代西洋の教育史と自己形成の思想
- ⑦学校と教育①：学校と教室の変容
- ⑧学校と教育②：経験の場所としての学校
- ⑨学校と教育③：子ども期の発見
- ⑩学校と教育④：近代における学校の成立史と学校像の変動
- ⑪教育をめぐる現状と課題①：学校化する社会
- ⑫教育をめぐる現状と課題②：教育と公共性の思想
- ⑬教育をめぐる現状と課題③：教育と社会化
- ⑭教育をめぐる現状と課題④：教育と社会の理念
- ⑮まとめ

教育原論A

【担当】 広川 義哲

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

子ども・学校・社会

■講義概要

教育をめぐる動向がさまざまな変貌をとげ、教育をめぐるさまざまな言説が競合しているなかで、あらためて、教育について考えたい。子どもが「育つ」とときには、どんな風景がそこに広がっているのか。子どもが「学ぶ」学校とは、どのような場所なのか。そして、教育の思想は社会のあり方をどのように説明し、教育の歴史はどのように展開してきたのか。こうした問いを立てつつ、本講義では、教育の歴史や思想および今日的な状況を、子ども・学校・社会の三つの大きなテーマに配分して解説していく。

■到達目標

教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。

■講義方法

毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に適宜、指示します。

■成績評価の方法

レポート(20%) 毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験(80%) 学期末の筆記試験。

■テキスト

講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。

■参考文献

西平直 『教育人間学のために』 東京大学出版会
矢野智司 『ソクラテスのダブル・バインド』 世織書房
高橋勝 『文化変容のなかの子ども』 東信堂
柴田義松編 『新・教育原理』 有斐閣
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②教育学の基礎的な概念と枠組み
- ③育つ子ども：人間の発達と教育の理念
- ④遊ぶ子ども：フレーベルと遊びの思想
- ⑤子どもと教育の歴史①：近代日本の学力論争と学びの思想
- ⑥子どもと教育の歴史②：近代西洋の教育史と自己形成の思想
- ⑦学校と教育①：学校と教室の変容
- ⑧学校と教育②：経験の場所としての学校
- ⑨学校と教育③：子ども期の発見
- ⑩学校と教育④：近代における学校の成立史と学校像の変動
- ⑪教育をめぐる現状と課題①：学校化する社会
- ⑫教育をめぐる現状と課題②：教育と公共性の思想
- ⑬教育をめぐる現状と課題③：教育と社会化
- ⑭教育をめぐる現状と課題④：教育と社会の理念
- ⑮まとめ

教育原論B

【担当】 藤井 奈津子

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

近代教育を超える可能性

■講義概要

かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Bでは、前者の流れに沿って、子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題について検討し、その上で近代教育を超える新たな教育の可能性について考えていきたい。できるだけ具体的な教育問題・教育実践の事例を取り上げながら、議論を進めていく予定である。

■到達目標

子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題を理解した上で、近代教育を超える現代の教育の可能性を考えていく視点を養う。

■講義方法

板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。ビデオ視聴の際には、ビデオ内容についての感想を小レポートとして提出してもらう。

■系統的履修

できれば教育原論Aも受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし。

■成績評価の方法

レポート(40%) 小レポート4回
定期試験(60%) 期末試験

■テキスト

テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。

■参考文献

亀山佳明 『子どもと悪の人間学—子どもの再発見のために』 以文社 3,400円
矢野智司 『自己変容という物語—生成・贈与・教育』 金子書房 2,200円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②近代教育の誕生
- ③近代教育の諸問題(1) —学級のアノミー化
- ④近代教育の諸問題(2) —他者への過剰同調
- ⑤近代教育の諸問題(3) —〔映画視聴〕
- ⑥近代教育の諸問題(4) —〔映画視聴〕
- ⑦近代教育の諸問題(5) —映画解説—共有し得ない痛み
- ⑧近代教育の諸問題(6) —空虚感からの脱出
- ⑨近代教育を超える可能性(1) —社会化から超社会化へ
- ⑩近代教育を超える可能性(2) —〔ビデオ視聴〕—新しい授業実践(中学校)
- ⑪近代教育を超える可能性(3) —ビデオ解説—新しい授業実践(中学校)
- ⑫近代教育を超える可能性(4) —〔ビデオ視聴〕—新しい授業実践(高校)
- ⑬近代教育を超える可能性(5) —ビデオ解説—新しい授業実践(高校)
- ⑭近代教育を超える可能性(6) —〔ビデオ視聴〕—新しい授業実践(小学校)
- ⑮まとめ

教育原論B

■サブタイトル

教育の歴史と理論

■講義概要

本講義では、学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容、そして、家庭が教育の場所として機能し、家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに、近代以降、教育学が学問として成立してきた歴史をたどり、最後に、大人と子ども、教師と生徒、あるいは友人や恋人との関わりなど、さまざまに彩られる人間関係の諸相から教育を読み解いてゆく。

■到達目標

教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。

■講義方法

毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に適宜、指示します。

■成績評価の方法

レポート (20%) 毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験 (80%) 学期末の筆記試験。

■テキスト

講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。

参考文献

原聰介ほか編 『近代教育思想を読みなおす』 新曜社
高橋勝・浜瀬俊雄編 『教育関係論の現在』 川島書店
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。

■講義計画

- ① イントロダクション
- ② 教育の歴史①：学校の成立史
- ③ 教育の歴史②：子どもへの眼差しの変容
- ④ 教育の歴史③：家庭／家族という問題
- ⑤ 教育の歴史④：身体技法・体育の構想
- ⑥ 近代の教育思想①：ルソー
- ⑦ 近代の教育思想②：ペスタロッチ
- ⑧ 近代の教育思想③：ヘルバルト
- ⑨ 近代の教育思想④：デューイ
- ⑩ 近代の教育思想⑤：シュプラランガー
- ⑪ 関係から教育を読む①：自己形成の物語
- ⑫ 関係から教育を読む②：公共性への通路
- ⑬ 関係から教育を読む③：ライフサイクルと人間形成
- ⑭ 関係から教育を読む④：教育関係の理論
- ⑮ まとめ

教育原論B

【担当】 広川 義哲

【開講】後期 月3

■サブタイトル

教育の歴史と理論

■講義概要

本講義では、学校が制度的に整備されてきた歴史的な背景や子どもを表象する仕方の変容、そして、家庭が教育の場所として機能し、家族が教育する役割を担ってきた歴史を説明する。さらに、近代以降、教育学が学問として成立してきた歴史をたどり、最後に、大人と子ども、教師と生徒、あるいは友人や恋人との関わりなど、さまざまに彩られる人間関係の諸相から教育を読み解いてゆく。

■到達目標

教育学の基礎的な概念や枠組みへの理解を深めるとともに、教育をめぐるさまざまな事象に対する批判的な思考力の養成を目指す。

■講義方法

毎回配布するレジュメや資料にそって講義を進めていく。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に適宜、指示します。

■成績評価の方法

レポート (20%) 毎回の講義時に提出してもらう小レポート。
定期試験 (80%) 学期末の筆記試験。

■テキスト

講義時に使用するテキスト、資料はコピーして配布します。

参考文献

原聰介ほか編 『近代教育思想を読みなおす』 新曜社
高橋勝・浜瀬俊雄編 『教育関係論の現在』 川島書店
これらの他にも参考文献を講義時に紹介します。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②教育の歴史①：学校の成立史
- ③教育の歴史②：子どもへの眼差しの変容
- ④教育の歴史③：家庭／家族という問題
- ⑤教育の歴史④：身体技法・体育の構想
- ⑥近代的教育思想①：ルソー
- ⑦近代的教育思想②：ペスタロッチ
- ⑧近代的教育思想③：ヘルバルト
- ⑨近代的教育思想④：デューイ
- ⑩近代的教育思想⑤：シュプラランガー
- ⑪関係から教育を読む①：自己形成の物語
- ⑫関係から教育を読む②：公共性への通路
- ⑬関係から教育を読む③：ライフサイクルと人間形成
- ⑭関係から教育を読む④：教育関係の理論
- ⑮まとめ

経済学入門

【担当】 藤田 和孝

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

政策的視点から経済学の基礎を学ぶ

■講義概要

日々、デフレ不況、円高、金融緩和などの経済ニュースを新聞などで目にする事が多い。マクロ経済学、マクロ経済政策の基礎を学ぶことで、日本政府の様々な経済政策が、どのような期待の下で導入されているのか、そしてどのような結果を導いたのか、さらに日本経済の何が問題で政府が何を悩んでいるのか、そして何をどのような視点で考えるべきなのか分かる。

■到達目標

現在のわが国の景気動向や経済政策についての理解を深めることを目指す。マスコミや政治家の意見に左右されることなく、日本の経済政策について自分の意見をしっかり持てるよう考え方を鍛える。

■講義方法

講義形式で、テキストに沿って進める。
優秀な若手経済学者によるコンパクトな入門書を約3か月で読破する。各自でしっかり読み込んでほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストは、一般向けに易しく書かれているので、講義に合わせて最後まで読破してほしい。とにかく教科書を隅々まで読むこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 授業への参加度/貢献度を考慮する場合がある。
集中して話を聞くこと。
レポート (80%) 講義中に4回のレポート提出を課す。
出席は一切評価しないし、出題の趣旨を理解していないレポートも評価しない。

■テキスト

飯田泰之 『ゼロから学ぶ経済政策』 角川書店 724円

■参考文献

飯田泰之 『世界一わかりやすい経済の教室』 中経文庫 619円
岩田規久男 『デフレと超円高』 講談社現代新書
岩田規久男 『マクロ経済学を学ぶ』 ちくま新書
いずれもコンパクトな一般向けの本である。まずは、小さい本を読破することからはじめて欲しい。

■履修上の注意・担当者からの一言

本講義で取り上げるテーマは、主に経済学部で学ぶ内容である。卒業後、経済学部出身ではないから知らないという言い訳は通用しない。社会人として経済政策に関心をもって勉強を続けていくきっかけを掴んでほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義の後は時間に余裕があるので、捕まえてほしい。

■講義計画

- ①マクロ経済学と経済政策の3つの柱
- ②成長政策－総需要と景気変動－
- ③インフレとデフレ
- ④金融と総需要－金利と民間設備投資－
- ⑤為替レートとマクロ経済－経常収支決定のメカニズム－
- ⑥ミクロ経済政策－市場の失敗など－
- ⑦情報の非対称性
- ⑧安定化政策①財政政策
- ⑨公共投資は景気対策として有効か
- ⑩安定化政策②金融政策のメカニズム
- ⑪不況対策としての金融政策
- ⑫変動相場制の下での金融政策
- ⑬再分配政策の基本理念
- ⑭機会の平等と結果の平等
- ⑮日本の社会保障制度の再分配機能

経済学入門

【担当】 長谷 祐

【開講】 前期 金5

■サブタイトル

「合理的」って?

■講義概要

私たちは日々、選択に迫られます。「どこで何を食べようか?」、「どのサークルに入ろうか?」、「どんなアルバイトをしようか?」、「どの講義を受けようか?」などなど、皆さんはいろんな選択をしながら生活しています。
では、皆さんは「なぜ」その選択をしたのでしょうか? 「好きだから」、「仕方なく」、「他より面白そうだったから」、いろんな答えがあると思います。それらの優先順位はどう決まったのでしょうか? 今度は逆の立場で考えてみましょう。「たくさんの新入生に自分のサークルに入ってほしい!」つまり、「多くの新入生に、『自分のサークルに入るといふ選択をしてほしい』」。この時、皆さんはどんな作戦を立てればいいでしょうか?
経済学はこうした選択の裏側を考える学問です。決してお金の問題だけではありません。
この講義では、皆さんの選択の裏側を経済学や心理学の視点から考えていきます。

■到達目標

経済学の基本を学ぶことで、自分たちの行動の裏側にある論理を理解できるようになる。

■講義方法

講義形式による。また、学生の意見・考え方を講義に反映させたいので、意見・考え方を取り入れられるような工夫を試みる

■授業時間外における予・復習等の指示

日常生活の中で、自分の行動を説明しようとしてみる。

■成績評価の方法

平常点 (40%)
定期試験 (60%)

■テキスト

特になし
受講生に合わせて、テキストを紹介するが、基本的には配布資料によって講義を行う。
ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献

特になし
「経済学」には色んな考え方があります。「経済学」を学び、自分の行動を見つめ直すことで、自分の考え方や好みというもの、より理解できるようになると思います。
なお、他の学生になるような非常識な行為(私語・携帯)は慎むようお願いします。私語が多い場合は、退出をお願いしております。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②日常生活における経済とは?
- ③経済・心理のお話①: 価値とは何か?
- ④経済・心理のお話②: 満足とは何か?
- ⑤経済・心理のお話③: 右向け右! 右向け左!
- ⑥経済・心理のお話④: 自分でもわからない金銭的価値と心理的価値
- ⑦経済・心理のお話⑤: あなたの(時間的)価値とは何か?
- ⑧これまでの復習
- ⑨経済行動のお話①: なぜ、われわれは不合理な行動をとるのか?
- ⑩経済行動のお話②: なぜ、となりのレジに並び変えようとするのか?
- ⑪経済行動のお話③: 払ってしまったお金のことは忘れよう!
- ⑫経済行動のお話④: 騙す方が悪い? 騙されるほうが悪い?
- ⑬世界と日本のお話①: 風が吹けば桶屋が儲かる!?
- ⑭世界と日本のお話②: よりよい社会・日常生活のために・・・。
- ⑮これまでの復習

経済学入門

【担当】 李 复屏

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

暮らしの中の経済学

■講義概要

この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。

■到達目標

経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。

■講義方法

視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。

なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。

■系統的履修

なし。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。

■成績評価の方法

平常点 (100%)

■テキスト

N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社 3,200円

■参考文献

授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは月2。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。

■講義計画

- ①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
- ②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
- ③経済学者らしく考える②：大学進学のコストはいくらか
- ④取引と貿易：なぜ取引するのか
- ⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
- ⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
- ⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
- ⑧価格の役割：市場が語る時
- ⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
- ⑩公共部門：政府も失敗するさ
- ⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
- ⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
- ⑬貨幣システム：お金とはなにか
- ⑭もう一度、経済学とは：人間は合理的か
- ⑮期末練習問題

経済学入門

【担当】 李 复屏

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

暮らしの中の経済学

■講義概要

この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、高い価格は強欲のせいなのか、汚染権を売買してもいいのか、政府は何をしているのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。

■到達目標

経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。

■講義方法

視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。授業中の練習問題がよくある。

なお、ナマの時事経済を取り入れて解説することもある。

■系統的履修

なし。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業関連の資料や予・復習の具体的な内容は、すべてネットで配布するので、それにしたがって予・復習を行いなさい。

■成績評価の方法

平常点 (100%)

■テキスト

N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳 『マンキュー入門経済学』 東洋経済新報社 3,200円

■参考文献

授業内容に応じて、授業中に適宜提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生の皆さんにとって、経済学はよく分からない学問のようだが、そもそも学ぶとは、分からないことを分かるように努力することなので、分かるように「多少」努力してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは月2。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。

■講義計画

- ①経済学とは：経済学はお金儲けのためか
- ②経済学者らしく考える①：ほしいものがなぜ手に入らないのか
- ③経済学者らしく考える②：大学進学のコストはいくらか
- ④取引と貿易：なぜ取引するのか
- ⑤取引と貿易：取引において誰が得するか
- ⑥需要と供給①：食べられないダイヤモンドはなぜ水よりも高いか
- ⑦需要と供給②：贅沢品への税金を支払うのは誰か
- ⑧価格の役割：市場が語る時
- ⑨外部性：市場は失敗することがあるよ
- ⑩公共部門：政府も失敗するさ
- ⑪GDPとは①：GDPの高さが豊かさを測れるか
- ⑫GDPとは②：何がGDPを決めるか
- ⑬貨幣システム：お金とはなにか
- ⑭もう一度、経済学とは：人間は合理的か
- ⑮期末練習問題

言語学入門

【担当】 泉 文明

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

日本語学と対照言語学

■講義概要

世界にはどれくらいの言語があるのでしょうか。また、言語はどのようにグループ分けできるのでしょうか。そして、その中で日本語はどのように位置づけられているのでしょうか。諸外国語を知ることで、日本語のカタチが分かってくるでしょうし、日本語がしっかり分かっているなければ諸外国語の姿・生態もつかめません。認知言語学や計量言語学の紹介も行います。

■到達目標

国語としての日本語の知識と外国語としての英語や中国語の知識を活用しながら、言語を見つめる客観的な態度を身に付ける。

■講義方法

基本的には講義方式をとるが、場合によっては演習方式をとることもありうる。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストと講義計画を見れば、予習のポイントが分かるので、それを参考にして予習すること。

■成績評価の方法

平常点 (10%)

小テスト (20%)

定期試験 (70%)

定期試験が大きな割合を占めるが出席(抜き打ち)も重視するし、毎回の予習は念入りにして臨むこと。

■テキスト

玉村文郎編 『新しい日本語研究を学ぶ人のために』 世界思想社 2,300円

■参考文献

玉村文郎編 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社 1,893円

■講義計画

- ①言語学とは何か
- ②言語研究の歴史
- ③世界の言語 (1)
- ④世界の言語 (2)
- ⑤世界の言語 (3)
- ⑥世界の言語 (4)
- ⑦小テスト
- ⑧小テストの解説
- ⑨日本語の姿 (1)
- ⑩日本語の姿 (2)
- ⑪表現 (1)
- ⑫表現 (2)
- ⑬表現 (3)
- ⑭その他の言語研究
- ⑮まとめ

言語学入門

【担当】 磯江 源

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

理論言語学と比較言語学

■講義概要

言語学にもさまざまな分野があるが、本講においては、言語の成り立ち(構造)と、英語と関係の深い、いくつかの言語の比較を取り扱う。まず、ことばを構成している、文、単語、形態素、音素などを理解し、その研究方法を概観する。そののち、フランス語、ドイツ語が、どのように英語に類似し、影響を与えてきたかを見て、言語の比較研究について考える。

英語の名詞句の構造、修飾の方法、動詞の形など、その理解には現代の英語を分析するだけでは不十分な現象が多い。この点についてのわかりやすい解説を並行して行なう予定です。昨今は実用知識としての英語ばかりが強調されていますが、英語そのものの知識を含む、教養として英語の知識を少しでも習得することをめざします。

■到達目標

なじみの深い学校文法を、より分析的に見る場合などには、新しい概念を理解する必要がある。提示される問題について、積極的に考え、言語に一般的な性質を探る態度を身に付けよう。

■講義方法

始めに理論言語学の基礎的な概念を解説して、その方法を理解していただく。この知識を活用して、比較言語学の成果を学習していく。

■授業時間外における予・復習等の指示

受講した講義の内容をよくまとめて復習し、次の講義がよく理解できるようにすること。

■成績評価の方法

小テスト (100%) 複数回の小テストを実施して、学期中のコンスタントな学習を促す。

課外活動、龍谷祭などを理由とする欠席を予定する人は、よく小テストの日程を注意すること。小テストは、欠席すれば、

0点となり、直接成績に反映される。2回以上小テストを欠席すれば、単位取得は、不可能になる可能性が高い。また、出席していないと、解答は大変困難な問題である。持ち込み不可。

■テキスト

特になし

■参考文献

J.C. Catford 『Fundamental Problems in Phonetics』 Midland Book

John Lyons 『Introduction to Theoretical Linguistics』 Cambridge University Press

Charles Barber 『The English Language』 Cambridge University Press

■オフィスアワー・教員への連絡方法

木曜日昼休み。そのほかは、授業の前後に相談してください。

■講義計画

- ①言語学の各分野
- ②音声学
- ③英語の音声 (1)
- ④英語の音声 (2)
- ⑤英語の音声 (3)
- ⑥英語の音声 (4)
- ⑦音素と異音
- ⑧英語の語構造 (1)
- ⑨英語の語構造 (2)
- ⑩英語の歴史 (1)
- ⑪英語の歴史 (2)
- ⑫ドイツ語と英語
- ⑬フランス語と英語
- ⑭ラテン語と英語
- ⑮まとめと復習

コリア語ⅠA

【担当】孫 才喜
【開講】前期 水3

■サブタイトル

韓国語の初級

■講義概要

言葉は自己表現のツールの一つであり、外国語は自己発見や自己成長のツールにもなるという観点から、コミュニケーションを楽しみ、話せる韓国語を目指します。

■到達目標

まず、韓国語の文字と音の原理を日本語と比較して理解する。そのうえ、演習を通じて韓国語の読み書きができる。さらに、韓国語の基本的な言葉や短い文が書けて話せる。

■講義方法

授業はテキストの進度に基づいて行われ、演習のために多様な資料をも活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習を中心とした文字の読み書きの練習とその表現への積極的な意欲。

■成績評価の方法

平常点（30％）授業態度や授業中の質疑応答、読み書きの熟達度
小テスト（30％）課題遂行、聞き取りと書き取りの達成度
定期試験（40％）事前に説明して告示する。

■テキスト

崔柄珠 『おはよう韓国語Ⅰ』 朝日出版社 2,400円

■参考文献

入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語stepⅠ』 白帝社 2,500円

■講義計画

- ①人間と言語文化、母国語と外国語、日本語とハングル
- ②ハングルの構造と母音①
- ③ハングルの母音②
- ④ハングルの子音①
- ⑤ハングルの子音②
- ⑥パッチム①－鼻音・流音
- ⑦パッチム②－口音・日本語のハングル表記
- ⑧発音規則①
- ⑨発音規則②
- ⑩名詞形の肯定表現－発音と語彙
- ⑪名詞＋～は
- ⑫名詞＋～です／～ですか
- ⑬名詞形の否定表現－発音と語彙
- ⑭名詞＋～が
- ⑮名詞＋～ではない、まとめ

コリア語ⅠB

【担当】孫 才喜
【開講】後期 水3

■サブタイトル

韓国語の初級

■講義概要

言葉は自己表現のツールの一つであり、外国語は自己発見や自己成長のツールにもなるという観点から、コミュニケーションを楽しみ、話せる韓国語を目指します。

■到達目標

まず、韓国語の文字と音の原理を日本語と比較して理解する。そのうえ、演習を通じて韓国語の読み書きができる。さらに、韓国語の基本的な言葉や短い文が書けて話せる。

■講義方法

授業はテキストの進度に基づいて行われ、演習のために多様な資料をも活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習を中心とした単語や文の読み書きの練習とその表現への積極的な意欲。

■成績評価の方法

平常点（30％）授業態度や授業中の質疑応答、読み書きの熟達度
小テスト（30％）課題遂行、聞き取りと書き取りの達成度
定期試験（40％）事前に説明して告示する。

■テキスト

崔柄珠 『おはよう韓国語Ⅰ』 朝日出版社 2,400円

■参考文献

入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語stepⅠ』 白帝社 2,500円

■講義計画

- ①用言の丁寧表現①－発音と語彙
- ②用言＋～です・ます
- ③助詞（～で、～から、～を等）の使い方
- ④用言の丁寧形の否定表現
- ⑤指示詞①
- ⑥指示詞の縮約形②
- ⑦漢数詞
- ⑧用言の丁寧表現②
- ⑨用言の縮約形
- ⑩固有数詞
- ⑪時間の話し方
- ⑫丁寧な請願表現－発音と語彙
- ⑬動詞＋～（し）てください①
- ⑭動詞＋～（し）てください②
- ⑮用言の活用、まとめ

コリア語セミナーA

【担当】柳 綏美
【開講】前期 水3

■サブタイトル

韓国語

■講義概要

韓国語の丁寧表現や否定の表現、数字の使い方などを扱う。

■到達目標

基礎的な文型と日常会話の能力を身につける。

■講義方法

講義や練習による授業

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回扱う文法事項や単語などを復習し覚えること

■成績評価の方法

平常点 (20%)

小テスト (30%)

定期試験 (50%)

■テキスト

入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語』 白帝社

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

毎回、ペアー或いはグループで会話練習を行うので積極的に参加すること。

■講義計画

①ガイダンス、ヘヨ体（名詞文）

②漢語系数詞

③年月日の言い方

④ヘヨ体（存在詞）

⑤電話番号の言い方

⑥固有語系数詞

⑦時間の言い方

⑧ヘヨ体の作り方（動詞）

⑨助詞「～から」「～まで」

⑩否定形1、曜日

⑪ヘヨ体の練習（形容詞）

⑫不規則活用1

⑬不規則活用2

⑭否定形2

⑮助詞「場所＋から」

⑯期末テスト

コリア語セミナーB

【担当】柳 綏美
【開講】後期 水3

■サブタイトル

韓国語

■講義概要

過去形や用言の不規則活用を主に扱い、状況や場面別の会話練習を行う。

■到達目標

基礎的な文型と日常的な会話能力を身につける。

■講義方法

講義と練習による授業

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回習った文法や進出語彙を覚えること。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

小テスト (30%)

定期試験 (50%)

■テキスト

入佐信宏・文賢珠 『よくわかる韓国語』 白帝社

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

毎回、ペアー或いはグループで会話練習を行うので積極的に参加すること。

■講義計画

①買い物

②食堂

③過形の作り方

④過去形の運用

⑤過去の状態・様子に関する表現

⑥過去の状態の否定

⑦勧誘の表現1

⑧動作の目的を表す表現

⑨不規則活用

⑩勧誘の表現2

⑪意志の表現

⑫願望の表現1

⑬願望の表現2

⑭指示に関する表現

⑮依頼に関数表現

⑯期末テスト

社会学入門

【担当】山本 哲司

【開講】前期 木3

■サブタイトル

人生の社会学—自己認識と社会の探求

■講義概要

社会学者グールドナーは、社会をテーマに探求することの意義を、次のように考えていました。いわく、“社会の認識を探求することは、自己自身への認識を深めることである”。この講義では、人が生まれてから体験する社会的経験について、社会学が、どのような解釈・分析（社会的な出来事を考察する視点は、複数存在する）を行うのか、そのエッセンスを紹介していこうと考えています。人の社会的経験には、どのようなものが考えられるのでしょうか。出産と誕生、子どもの社会化、さまざまな教育現象、子どもの遊び、教育問題、自己・アイデンティティ、親子関係、男と女、結婚と適齢期、家族、労働問題、地域社会との関わり、都市やむら社会の変貌、情報環境とマスコミ、差別・人権・環境・保健医療などさまざまな社会問題、若い、高齢化する社会……。社会や文化にかかわることで、私たちの身のまわりにあることから、話をはじめましょう。

■到達目標

この講義では、社会のさまざまな現象をひもといていくことによって、講義に参加する人たちが、自分と社会への関わりについて、自分なりのテーマを考えることを目的とします。

■講義方法

適宜、参考文献を紹介し、プリント・資料等を配布しながら、講義をすすめる。

■授業時間外における予・復習等の指示

歴史的出来事や社会問題だけでなく、生活の出来事を社会的に思考する点に留意してほしい。

■成績評価の方法

平常点（60％）出席率・ミニッツペーパーの授業の反映度
レポート（40％）
授業では出席がわりにミニッツペーパーを書いてもらいます。

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜紹介します。

■講義計画

- ①講義の進め方／社会学の特質
- ②社会学の考え方
- ③社会学の誕生
- ④人の誕生と社会
- ⑤子どもの社会化
- ⑥社会学の考え方2
- ⑦「教育」の社会学
- ⑧青年期の成長と社会環境
- ⑨社会学の考え方3
- ⑩日本の家族
- ⑪男女の共生
- ⑫結婚と社会
- ⑬家族関係とコミュニケーション
- ⑭情報環境とマスメディア
- ⑮社会調査と現実

社会学入門

【担当】山本 哲司

【開講】後期 木3

■サブタイトル

人生の社会学—自己認識と社会の探求

■講義概要

『社会学的想像力』という書物において、かつて、ミルズは次のように述べました。「社会学的想像力は、(社会の)歴史と(個人の)生活史とを、また、社会のなかでのそのふたつの関係をも、把握することを可能にする」。私たちの、個人的なさやかな暮らしは、歴史の流れのなか、社会のしくみのなかに、なんらかの形で位置づけられています。

私たちの暮らしているこの社会には、各種メディアを通して、さまざまな呼び名が付されてきました。大衆社会、学歴社会、管理社会、(高度)消費社会、情報化社会、国際化社会、核家族社会、少子化社会、高齢化社会、男女平等の社会、福祉社会、癒しの社会等々。すでにあまり聞かれなくなった名前や、これから目指すべき社会の名前があります。

とりわけ、戦後の日本社会は、大きな歴史的な変動期とも言われてきました。大きな変動のなかで、私たちの暮らしは、どのような影響を被ってきたのでしょうか。また、人々は、どのようにして、家族・地域などの個々人をとりまく環境の変化に対応しようとするのでしょうか。

現代社会を考察する社会学のツールを紹介しながら、現代社会のありようと、私たちの暮らしの意味について考えていきます。

■到達目標

この講義では、社会のさまざまな現象をひもといていくことによって、講義に参加する人たちが、自分と社会への関わりについて、自分なりのテーマを考えることを目的とします。

■講義方法

適宜、参考文献を紹介し、プリント・資料等を配布しながら講義をすすめる。

■授業時間外における予・復習等の指示

歴史的出来事や社会問題だけでなく、生活の出来事を社会的に思考する点に留意してほしい。

■成績評価の方法

平常点（60％）出席率・ミニッツペーパーの授業の反映度
レポート（40％）

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜紹介する

■講義計画

- ①講義の進め方／社会学の特質
- ②社会学の考え方
- ③社会学の誕生
- ④人の誕生と社会
- ⑤子どもの社会化
- ⑥社会学の考え方2
- ⑦「教育」の社会学
- ⑧青年期の成長と社会環境
- ⑨社会学の考え方3
- ⑩日本の家族
- ⑪男女の共生
- ⑫結婚と社会
- ⑬家族関係とコミュニケーション
- ⑭情報環境とマスメディア
- ⑮社会調査と現実

社会思想史入門

【担当】 森 元斎

【開講】 前期 水2

■サブタイトル

現代社会を理解するための思想史入門

■講義概要

私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験を重ねて、いまの社会の姿ができています。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を掲げてつくりだされたものです。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることがはかばかしく有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。とりわけ福島原発事故後の日本社会の目も覆うばかりの状況乗り越えるためにも、今後の社会のあり方を若い人たちが考えていく必要に迫られています。

この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題を学生ひとりひとりが自分自身で考察できるようにすることを目的としています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。

■到達目標

社会のあり方と思想の関連について理解する。

■講義方法

講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示。

■成績評価の方法

レポート (20%)

定期試験 (80%)

評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめ、厳しい処置をとる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業中に指示する。

■講義計画

- ①人間と自然：正義の根拠
- ②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
- ③古代ギリシア：プラトンとアリストテレス (2)
- ④中世神学とミクロコスモス：トマス・アキナス
- ⑤ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
- ⑥国際法の構想：グロティウスとカント
- ⑦近代精神と新しい社会 (1)：デカルトとホッブス
- ⑧近代精神と新しい社会 (2)：スピノザとライプニッツ
- ⑨近代国家の構想 (1)：ルソー
- ⑩近代国家の構想 (2)：ロック、モンテスキュー
- ⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
- ⑫近代社会の矛盾 (1)：マルクス
- ⑬近代社会の矛盾 (2)：社会学と社会主義
- ⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
- ⑮まとめと補足

社会思想史入門

【担当】 村澤 真保呂

【開講】 後期 水2

■サブタイトル

現代社会を理解するための思想史入門

■講義概要

私たちのいる社会は、一朝一夕にできあがったものではありません。人類が誕生して以来、多くの試行錯誤と経験が積み重ねられて現在の社会の姿がつくられました。とくに市民革命以降の近代社会は、宗教や王権から解放された人々が、自分たちの理念や理想を追求するなかで、多くの犠牲と苦勞の果てにつくりだされました。つまり「社会はどのようにあるべきか」という思想にもとづいて社会のさまざまな仕組みが考案されてきたのです。そのような社会の歴史を知るためにも、また社会をつくりあげてきたさまざまな理想の歴史を知るためにも、社会思想史を知ることがはかばかしく有益であるだけでなく、今後の社会のあり方を考えるために不可欠と言えるでしょう。とりわけ若い人たちは、福島原発事故後の日本社会の目も覆うばかりの状況乗り越えるためにも、今後の社会のあり方を考える必要に迫られています。

この授業では、古代ギリシアにはじまる西欧の社会思想の歴史を、その時代の社会的・文化的背景の歴史とかさねあわせて理解することをつうじて、現代社会の課題を学生ひとりひとりが自分自身で考察できるようにすることを目的としています。なお、シラバスに書かれているのはあくまで予定であり、実際には学生諸君の理解度や関心にあわせて内容を変更することがあります。

■到達目標

社会のあり方と思想の関連について理解する。

■講義方法

講義形式を基本としつつ、必要におうじて映像資料や音声資料を利用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に指示。

■成績評価の方法

レポート (20%)

定期試験 (80%)

評価基準はあくまで予定であり、授業のなかで学生との対話をつうじて最適な評価方法を決定する。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語や居眠り、途中入室などの授業妨害にたいしては、受講資格の取り消しをはじめ、厳しい処置をとる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業中に指示する。

■講義計画

- ①人間と自然：正義の根拠
- ②古代ギリシア：プラトンとアリストテレス
- ③古代ギリシア：プラトンとアリストテレス (2)
- ④中世神学とミクロコスモス：トマス・アキナス
- ⑤ルネサンスと宗教改革：ルター、エラスムス、トマス・モア
- ⑥国際法の構想：グロティウスとカント
- ⑦近代精神と新しい社会 (1)：デカルトとホッブス
- ⑧近代精神と新しい社会 (2)：スピノザとライプニッツ
- ⑨近代国家の構想 (1)：ルソー
- ⑩近代国家の構想 (2)：ロック、モンテスキュー
- ⑪市場の理論：ベンサムからアダム・スミスへ
- ⑫近代社会の矛盾 (1)：マルクス
- ⑬近代社会の矛盾 (2)：社会学と社会主義
- ⑭現代社会の課題：ポスト近代の理論
- ⑮まとめと補足

心理学入門

【担当】 松島 恵介

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

心理学諸理論の体系的理解

■講義概要

心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテインメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。

■到達目標

心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）

■参考文献

宝島編集部編 『心理学・入門』 宝島社
大橋ら著 『心理学者、裁判と出会う』 北大路書房
松島著 『記憶の持続 自己の持続』 金子書房

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①「心」概念とその認識の在り方を巡って
- ②科学的方法論と心理学との関係性
- ③心理学的測定論
- ④主観性／客観性という二元論を巡って
- ⑤モチベーションに関する諸理論
- ⑥行動主義の心理学
- ⑦条件付けと行動療法
- ⑧認知心理学概説
- ⑨神経心理学概説
- ⑩発達心理学概説
- ⑪臨床心理学概説
- ⑫フロイト／ユングの理論
- ⑬人格心理学概説
- ⑭社会性と自己との関係性を巡って
- ⑮総括

心理学入門

【担当】 松島 恵介

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

心理学諸理論の体系的理解

■講義概要

心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテインメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。

■到達目標

心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には授業外の予習復習も含まれるので各自で行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

テキストは使用しない。（必要に応じて講義内で資料を配布する）

■参考文献

宝島編集部編 『心理学・入門』 宝島社
大橋ら著 『心理学者、裁判と出会う』 北大路書房
松島著 『記憶の持続 自己の持続』 金子書房

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①「心」概念とその認識の在り方を巡って
- ②科学的方法論と心理学との関係性
- ③心理学的測定論
- ④主観性／客観性という二元論を巡って
- ⑤モチベーションに関する諸理論
- ⑥行動主義の心理学
- ⑦条件付けと行動療法
- ⑧認知心理学概説
- ⑨神経心理学概説
- ⑩発達心理学概説
- ⑪臨床心理学概説
- ⑫フロイト／ユングの理論
- ⑬人格心理学概説
- ⑭社会性と自己との関係性を巡って
- ⑮総括

■講義概要

現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。

- 1) スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
 - 2) スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
 - 3) 自己の体力を分析し、改善策を探る。
- スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標

1. スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2. 自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法

より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、1) 1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する(どちらか不認定になった場合は次年度再履修する)。2) ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツ、パレーボールの7種目の中から指定された種目を履修する。

■授業時間外における予・復習等の指示

オリエンテーションのときに指示する。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 出席と授業参加

レポート (30%) 体力測定に関するレポート

各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視すること
と、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト

特になし

参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

- スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。
- 体力測定②は、体育館シューズを持参すること。

■講義計画

- ①各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ②各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑫体力測定①
- ⑬体力測定②（体育館に集合）
- ⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
- ⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については、講義時に指示）

【担当】 中沖 隆彦
【開講】 後期 木3

■講義概要

私たちが現代社会で生活していく上で、化学物質の使用や化学反応は日常いたるところで見られます。普段何気なく使っていて、どうしてこうなるのか?と不思議に思ったことはないでしょうか?本講義では生活に密着した身近なところで見られる化学に関する話や実際の化学製品について化学の知識があまりなくても平易に解説します。例えば毎日身に付けている洋服の素材はいい香りがするのはなぜ?環境問題はどのようなもの?といったことをとりあげます。

■到達目標

身の回りのいたるところに見られる「化学」を身近に感じて
もらい、化学に対する関心と知識が深まります。

■講義方法

1回の講義でトピックを決めて話をします。演示実験や適宜パワーポイント等の視覚的な教材も使用します。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習に力を入れてください（講義の内容を意識しながら、身の回りにある「化学」を再度見つめて欲しい）。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 毎回小エッセーを授業の終わりに書いてもらいます

定期試験（70%） 語句説明や論述式問題から評価します。

定期試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■テキスト

特になし

参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

化学の話をも肩ひに張らずにします。講義内容はビギナー向け

ですので化学の知識がなく化学式が苦手という人でも大歓迎です。より高度な内容を望む学生は他の講義を選択してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業が終わったあと研究室で行います。

■講義計画

- ①グリーンケミストリーⅠ
- ②グリーンケミストリーⅡ
- ③合成繊維
- ④界面活性剤
- ⑤コスメの化学
- ⑥偶然の発見ーゴムの化学ー
- ⑦空が青いのは?ー色の化学ー
- ⑧ゲルの化学ー砂漠の緑化に役立つ吸水性高分子ー
- ⑨香りの化学
- ⑩微生物発酵でつくられる酒、味噌
- ⑪食品添加物
- ⑫原子力エネルギー
- ⑬植物のつくるエネルギーー光合成ー
- ⑭最先端ディスプレイー液晶orプラズマ?ー
- ⑮まとめ

■サブタイトル

身の回りの物理と科学技術

■講義概要

身の回りの科学技術に限っても、その進歩は著しく、益々高度になると共に複雑になり、その仕組みを理解して使うことは益々難しくなっている。それ故に、その基本的な仕組みを知って、正しく使うのみならず、人類の将来に貢献する科学技術の推進のさせ方がより強く求められている。この講義では、誰もが恩恵に浴している科学技術に使われている物理的仕組みを、身の回りの物理現象に注目することから、平易に理解することを目的としている。毎回、話題を一つ取り上げ、ビジュアルな資料提示の手段を採り入れたりすることにより、その物理的現象に興味を持ち注目することから始めて、その物理的仕組みについて理解していく。文系、理系の履修にかかわらず、身の回りの物理現象に対する直観的な理解を促進し、科学に対する興味を刺激するようなわかり易い講義を行う。

■到達目標

身の回りの物理現象ならびに科学技術の仕組みと理屈に強く関心を持つようになる。同時に、物理は数少ない基本法則から、論理的に物理現象を説明したり説明したりすること、さらに応用として人に役立つ便利で確実な動作する機械を作るところに特長があるとわかることが講義目標とも言える。

■講義方法

授業計画に示すように、毎回一つのテーマについて、身の回りの自然としての物理現象または科学技術としての物理学の応用例について、直観的な理解が深まるような授業を行う。

■系統的履修

一般に物理関係の科目を受講すると効果的であるはずであるが、論理的に考えることを訓練する科目はすべて役に立つ。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義計画に示したテーマについて、講義の前後に関連する資料（本、新聞・雑誌、インターネットなど何でも可）でもっと詳しく調べて、自分の興味を膨らませていくこと。

■成績評価の方法

平常点（100%）講義を頭と耳と目を使って聴いているか、内容を理解しているかを問う小テストにより評価する。毎回実施するので出席が難しい人は受講を避けて下さい。

平常点を小テストで評価することの意味をよく認識してください。講義を聴いて考えているか努力しているか、その度合い、即ち平常点を、小テストで調べます。能力テストではありません。従って、問いに対して、講義内容を用いて自分の言葉で回答してはじめて評価されます。注意する必要はないと思いますが、代筆等の不正行為に対しては関係した者全員が不合格になります。

■テキスト

講義において、主としてPowerPointにより示す内容、さらに他のマルチメディアを使って示す内容

参考文献

藤城敏幸 『生活の中の物理』 東京教学社 1,800円
 広く科学分野の出版物、書籍から科学雑誌、大手の新聞の科学欄の記事に関心を持って読んでください。

■履修上の注意・担当者からの一言

出席しても、耳を貸すだけでは修得できません。教壇で説明していることをしっかり見ながら聞くことが必須です。さらに、その場で考えることが要求されます。また、理解した内容を、説明に適した簡単なスケッチ図やグラフを添えて、的確な文章で表現する努力が評価されます。なお、高等学校で物理を学んでいることを前提にすることはありません。講義の時間に学ぶ基本概念と法則から理解ができるはずと考えてください。勿論、そのためには小中学校で教わった理科と算数と、大学生レベルの日本語と、勉学の努力は前提になります。さらに、成績評価の方法の項に記載した内容に注意してください。

■講義計画

- ①振り子の原理…位置エネルギーと運動エネルギー
- ②てこの原理…支点、力点、作用点
- ③ロケットの仕組み…アポロからスペースシャトル、はやぶさまで
- ④引力と遠心力…人工衛星の話（宇宙ステーションから静止衛星まで）
- ⑤モータと発電機…電気はどこで作られる。電車の話。
- ⑥電波の利用…ラジオ、テレビの話
- ⑦電子レンジの原理…なぜ温まるか、おいしい冷凍食品
- ⑧楽音の周波数の規則、音階、和音…十二平均率音階、純正調音階、和音
- ⑨ギターの弦の振動、たいこの皮の振動…波の伝搬と反射の話
- ⑩温度と熱…物の温まり方、熱の伝わり方
- ⑪トランジスタと半導体…エレクトロニクスの話
- ⑫粒子と波動の二重性…量子力学と特殊相対性理論
- ⑬地球と宇宙…気候変動、オーロラの話
- ⑭電話とインターネット、コンピュータの話
- ⑮携帯電話・スマートホンの仕組みと中身

■講義概要

中国語 I Bは、中国語 I Aを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標

ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法

講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修

中国語 I A、I Cと I D及び中国セミナー

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業への出席状況、宿題、授業態度
小テスト (70%)

■テキスト

竹山相哲 [ほか] 共著 『超入門中国語』 晃洋書房

参考文献

※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つしましょう。

■講義計画

講義時に指示します。

中国語 I C

【担当】張 健同
【開講】前期 水3

■講義概要

中国語ⅠCは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《1冊めの中国語(会話クラス)》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標

正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法

繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習と宿題をしっかりとってください。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
小テスト (70%)
出席 (10%)、宿題 (20%)、小テスト (70%) 合計100点満点
で評価します。

■テキスト

劉穎 (ほか)『1冊めの中国語 (会話クラス)』白水社 2415円

参考文献

参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言

中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはあり

ません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみならずには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画

- ① 発音 1
- ② 発音 2
- ③ 発音 3
- ④ 第一課：1、人称代詞；2、“是”；3、“不是”；4、副詞“也”“都”“不”
- ⑤ 第二課：5、指示代詞－中国語の「こそあど」；6、“吗”疑問文；7、反復疑問文
- ⑥ 第三課：8、形容詞文；9、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
- ⑦ 第四課：12、“的”（日本語の「の」）；13、“的”後の名詞省略；14、親族呼称；15、“的”が省略される条件
- ⑧ 第五課：16、前置詞“在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
- ⑨ 第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞“几”；22、“呢”
- ⑩ 第七課：23、モノを数える；24、“有”（動詞「もつ」）；25、“二”と“兩”
- ⑪ 第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）；27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
- ⑫ 第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么”と“那么”
- ⑬ まとめ 1
- ⑭ まとめ 2
- ⑮ まとめ 3

中国語 I C

【担当】 韓 正愛

【開講】 前期 水4

■講義概要

中国語 I Cは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標

中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることを目標としています。

■講義方法

講義毎にテーマを設定し、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生が学習者の発音の誤りや表現を直す法式をとります。小テストも実施しますが、実施日時は講義中にお知らせします。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 授業への出席状況、宿題、授業態度
定期試験 (50%)

■テキスト

内田慶市ほか 『中国語への道』 金星堂 2,380円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ピンイン母音
- ②ピンイン子音
- ③第1課 会話と要点
- ④第1課 練習
- ⑤第2課 会話と要点
- ⑥第2課 練習
- ⑦第3課 会話と要点
- ⑧第3課 練習
- ⑨第4課 会話と要点
- ⑩第4課 練習
- ⑪第5課 会話と要点
- ⑫第5課 練習
- ⑬第6課 会話と練習
- ⑭第6課 練習
- ⑮まとめ

中国語 I C

【担当】 張 健同

【開講】 前期 水4

■講義概要

中国語 I Cは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《1冊めの中国語(会話クラス)》という教材を使います。それにより基本的な文法と簡単な日常会話を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標

正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法

繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習と宿題をしっかりとやってください。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
小テスト (70%)
出席 (10%)、宿題 (20%)、小テスト (70%) 合計100点満点で評価します。

■テキスト

劉穎 (ほか) 『1冊めの中国語(会話クラス)』 白水社 2,415円

■参考文献

参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言

中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはあり

ません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画

- ①発音1
- ②発音2
- ③発音3
- ④第一課：1、人称代詞；2、“是”；3、“不是”；4、副詞“也”“都”“不”
- ⑤第二課：5、指示代詞－中国語の「こそあど」；6、“吗”疑問文；7、反復疑問文
- ⑥第三課：8、形容詞文；9、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
- ⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）；13、“的”後の名詞省略；14、親族呼称；15、“的”が省略される条件
- ⑧第五課：16、前置詞“在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
- ⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞“几”；22、“呢”
- ⑩第七課：23、モノを数える；24、“有”（動詞「もつ」）；25、“二”と“兩”
- ⑪第八課：26、“有”（動詞「ある／いる」）；27、“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
- ⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么”と“那么”
- ⑬まとめ1
- ⑭まとめ2
- ⑮まとめ3

■講義概要

初級中国語を学んだ学生を対象とします。正しい発音の復習を重視しながら中国語の聴く、話す、読む、書く、訳す能力を養います。それに会話、スピーチなどの口頭表現力を向上していきます。必要に応じてDVDなどの映像を通して中国及び中国文化に対する理解を深めます。

■到達目標

簡単な作文、スピーチできること。

■講義方法

演習方式

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に指示します

■成績評価の方法

平常点 (20%)

小テスト (30%)

定期試験（50％）授業の進め状況による変えることがある。

■テキスト

劉 穎 『1冊めの中国語購読クラス』 白水社 2,300円

参考文献

共同編集 『中日辞典』 北京商務印刷館 小学館 7,000円

■講義計画

①後期の授業について

②第七課

■サブタイトル

倫理観の根を求めての序章

■講義概要

哲学は自然、人間、社会を考えるうえでの一貫した道筋を見いだそうと、模索を続けながら受け継がれてきた、二千数百年以上の歴史をもつ営為である。難解で日常生活に関係ないイメージをもたれがちであるが、実は人間の生き方を問うていくことに直結するものでもある。「どう生きていくか」を問うことは「よく生きること」、つまりわれわれがよって立つ「倫理観」の根を求めることである。「倫理観の根を求めて」問いを發し、筋道立てて考える、そうした訓練の「序章」に本講座がなればよいと考える。一人一人がただ受動的に聞くだけでなく、「自ら考える」姿勢をもって積極的に参加してほしい。

■到達目標

答をすぐに求めるのではなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾ける心の余裕を養うこと。

■講義方法

講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布し、より詳細な講義資料はホームページに掲載する【サイト名:せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについてグループディスカッションを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのディスカッションの実施翌週には、ディスカッションテーマおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料に目を通してほしい。また三回のレポートはディスカッションの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法

平常点 (16%) ディスカッションに参加し、所感文を提出することによる参加点。

レポート (80%) 一回目から三回目のディスカッション実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。

その他 (4%) 第二回目の講義の出席点他

ディスカッションの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する講義要点プリントおよびホームページ「せたなべ」に掲載する。二回目の講義ではディスカッションや提出物についての詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。ディスカッション実施前週の木曜日にはテーマについてさらに詳細な情報をホームページ上で公開するので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のディスカッションに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト

特になし

■参考文献

各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■履修上の注意・担当者からの一言

「自ら問題意識をもって進んで考える」という意味で参加型授業を目指している。それには他の話をよく聞き理解することも重要となる。仮に座席に座っていても、講義を聞く気がなかったり雑談をしているならば、それを「参加」とは呼ばないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①哲学の芽生え
- ②古代原子論の挑戦
- ③ソフィストとソクラテス
- ④プラトンのイデア論
- ⑤ディスカッション① (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑥アリストテレスの倫理思想
- ⑦ストア派とプロティノスのアパテイア
- ⑧神を巡る世界観の推移
- ⑨ディスカッション② (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑩デカルトの真理観と情念論
- ⑪理性的存在としての人間—カント
- ⑫ニーチェと永劫回帰
- ⑬ディスカッション③ (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑭ロールズの格差原理
- ⑮ディスカッション④ (所感文を当日提出)

哲学入門

【担当】 渡邊 華月

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

倫理観の根を求めての序章

■講義概要

哲学は自然、人間、社会を考えるうえでの一貫した道筋を見いだそうと、模索を続けながら受け継がれてきた、二千数百年以上の歴史をもつ営為である。難解で日常生活に関係ないイメージをもたれがちであるが、実は人間の生き方を問うていくことに直結するものでもある。「どう生きていくか」を問うことは「よく生きること」、つまりわれわれがよって立つ「倫理観」の根を求めることである。「倫理観の根を求めて」問いを發し、筋道立てて考える、そうした訓練の「序章」に本講座がなればよいと考える。一人一人がただ受動的に聞くだけでなく、「自ら考える」姿勢をもって積極的に参加してほしい。

■到達目標

答をすぐに求めるのではなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾ける心の余裕を養うこと。

■講義方法

講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布し、より詳細な講義資料はホームページに掲載する【サイト名:せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについてグループディスカッションを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのディスカッションの実施翌週には、ディスカッションテーマおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料に目を通してほしい。また三回のレポートはディスカッションの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法

平常点 (16%) ディスカッションに参加し、所感文を提出することによる参加点。

レポート (80%) 一回目から三回目のディスカッション実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。

その他 (4%) 第二回目の講義の出席点他

ディスカッションの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する講義要点プリントおよびホームページ「せたなべ」に掲載する。二回目の講義ではディスカッションや提出物についての詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。ディスカッション実施前週の木曜日にはテーマについてさらに詳細な情報をホームページ上で公開するので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のディスカッションに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト

特になし

■参考文献

各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■履修上の注意・担当者からの一言

「自ら問題意識をもって進んで考える」という意味で参加型授業を目指している。それには他の話をよく聞き理解することも重要となる。仮に座席に座っていても、講義を聞く気がなかったり雑談をしているならば、それを「参加」とは呼ばないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①哲学の芽生え
- ②古代原子論の挑戦
- ③ソフィストとソクラテス
- ④プラトンのイデア論
- ⑤ディスカッション① (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑥アリストテレスの倫理思想
- ⑦ストア派とプロティノスのアパテイア
- ⑧神を巡る世界観の推移
- ⑨ディスカッション② (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑩デカルトの真理観と情念論
- ⑪理性的存在としての人間—カント
- ⑫ニーチェと永劫回帰
- ⑬ディスカッション③ (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑭ロールズの格差原理
- ⑮ディスカッション④ (所感文を当日提出)

■サブタイトル

自然観を中心として

■講義概要

哲学は二千数百年以上の昔より、自然万物の根源について思いをはせてきた。自然というものは「環境」というわれわれをとりまくものとしてもとらえられるが、われわれもその一部であり、われわれの生き方のモデルを提供しうるものでもあるだろう。われわれの生き方を探る視点と併せて自然というものを今一度とらえ直してみてもどうか。環境問題や自然科学にも目を向けながら、受講者自らも考える機会を提供するひとときとしていきたい。

■到達目標

答をすぐに求めるのではなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾ける心の余裕を養うこと。

■講義方法

講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布し、より詳細な講義資料はホームページに掲載する【サイト名:せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについてグループディスカッションを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのディスカッションの実施翌週には、ディスカッションテーマおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料に目を通してほしい。また三回のレポートはディスカッションの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法

平常点 (16%) ディスカッションに参加し、所感文を提出することによる参加点。

レポート (80%) 一回目から三回目のディスカッション実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。

その他 (4%) 第二回目の講義の出席点他

ディスカッションの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する講義要点プリントおよびホームページ「せたなべ」に掲載する。二回目の講義ではディスカッションや提出物についての詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。ディスカッション実施前週の木曜日にはテーマについてさらに詳細な情報をホームページ上で公開するので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のディスカッションに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト

特になし

■参考文献

各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■履修上の注意・担当者からの一言

「自ら問題意識をもって進んで考える」という意味で参加型授業を目指している。それには他の話をよく聞き理解することも重要となる。仮に座席に座っていても、講義を聞く気がなかったり雑談をしているならば、それを「参加」とは呼ばないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①ロゴスの自然観の形成
- ②原子論の利点と問題点
- ③幸福と快楽—ソクラテス対カリクレス
- ④知性となる魂—アナクサゴラスからプラトンへ
- ⑤ディスカッション① (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑥アリストテレスの自然観
- ⑦ストア派とプロティノスの自然観
- ⑧ルネサンスの新しい自然観
- ⑨ディスカッション② (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑩デカルトの自然観
- ⑪運動と空間を巡って
- ⑫理性的存在者のなすべきこと・カント～ヨナス
- ⑬ディスカッション③ (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑭「物語の主体」としての自己—マッキンタイア
- ⑮ディスカッション④ (所感文を当日に提出)

哲学入門

【担当】 渡邊 華月

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

自然観を中心として

■講義概要

哲学は二千数百年以上の昔より、自然万物の根源について思いをはせてきた。自然というものは「環境」というわれわれをとりまくものとしてもとらえられるが、われわれもその一部であり、われわれの生き方のモデルを提供しうるものでもあるだろう。われわれの生き方を探る視点と併せて自然というものを今一度とらえ直してみてもいいだろうか。環境問題や自然科学にも目を向けながら、受講者自らも考える機会を提供するひとときとしていきたい。

■到達目標

答をすぐに求めるのではなく、問いを立てて、情報を収集し整理したうえで考える姿勢を身につけること。自分と違う意見にも耳を傾ける心の余裕を養うこと。

■講義方法

講義形式の日はプロジェクターを用いて講義のポイントについて説明する。講義全回の要点をコンパクトにまとめたプリントを二回目の講義で配布し、より詳細な講義資料はホームページに掲載する【サイト名:せたなべ哲学／GOOGLEに「せたなべ」と入力して検索】。また期間中四回、所定のテーマについてグループディスカッションを行い、実施当日に所感文の提出を求める。さらに一回目から三回目までのディスカッションの実施翌週には、ディスカッションテーマおよび講義内容について、各自が理解し考えたことについて、三回のレポート提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自、「せたなべ」ホームページ上の詳細資料に目を通してほしい。また三回のレポートはディスカッションの内容をベースとしたものに加え、それまでの講義内容の理解を問う記述も求めているので、講義内容で理解不明瞭な点は質問や各自の情報収集で解決をはかる努力をすること。

■成績評価の方法

平常点 (16%) ディスカッションに参加し、所感文を提出することによる参加点。

レポート (80%) 一回目から三回目のディスカッション実施次週以降に提出を求める三回のレポートの内容による評価。テーマ、条件にそって根拠のある記述がなされているかどうか、講義内容の理解が深められているかどうかを評価基準とする。

その他 (4%) 第二回目の講義の出席点他

ディスカッションの実施日、所感文やレポートの作成・提出方法・期日等は二回目の講義で配布する講義要点プリントおよびホームページ「せたなべ」に掲載する。二回目の講義ではディスカッションや提出物についての詳細を説明し、グループ分けもするので登録者は出席すること。ディスカッション実施前週の木曜日にはテーマについてさらに詳細な情報をホームページ上で公開するので、チェックを欠かさないようにしてほしい。四回のディスカッションに一度も参加していない生徒、または三回のレポートのうち一回でも提出を欠く生徒には単位を認定できないので注意してほしい。

■テキスト

特になし

■参考文献

各自、哲学の入門書や哲学関係の著作で興味のもてるものを何か読んでみることをお勧めする。

■履修上の注意・担当者からの一言

「自ら問題意識をもって進んで考える」という意味で参加型授業を目指している。それには他の話をよく聞き理解することも重要となる。仮に座席に座っていても、講義を聞く気がなかったり雑談をしているならば、それを「参加」とは呼ばないことは言うまでもない。勘違いをしていると思われる生徒には強く注意を促す場合がある。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問、問い合わせ等→katsuki6_6@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①ロゴスの自然観の形成
- ②原子論の利点と問題点
- ③幸福と快楽—ソクラテス対カリクレス
- ④知性となる魂—アナクサゴラスからプラトンへ
- ⑤ディスカッション① (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑥アリストテレスの自然観
- ⑦ストア派とプロティノスの自然観
- ⑧ルネサンスの新しい自然観
- ⑨ディスカッション② (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑩デカルトの自然観
- ⑪運動と空間を巡って
- ⑫理性的存在者のなすべきこと・カント～ヨナス
- ⑬ディスカッション③ (所感文は当日、レポートは翌週以降の提出)
- ⑭「物語の主体」としての自己—マッキンタイア
- ⑮ディスカッション④ (所感文を当日に提出)

ドイツ語 I A

【担当】 青山 豊

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

ドイツを知るための第一歩

■講義概要

ドイツ語というヨーロッパの言語を学ぶことによって、日本語や英語による表現や発想に基づくものとは異なる文化があることを実感し、ドイツ語圏の国々に対する視野を広げ理解を深めることを目標とする。この I A の授業では、ことばの学習の第一歩である発音と日常の挨拶からはじめて、さまざまな場面におけるやり取りや自己紹介、状況の説明、さらには平易なドイツ語文の理解へと進めていく。この段階では文法的なポイントにはあまりこだわらず、ドイツ人が普段の生活で話しているなまのことばとしてのドイツ語をそのまま受け入れればよい。授業ではドイツ語を聞き、それを真似て発音することに重きを置く。特に表現力をつけるためにドイツ語 I C を併せて履修することを強くすすめる。

■到達目標

「ことば」を学ぶうちに、ドイツ人の生活や文化にも目が向くようになり、現代のドイツやヨーロッパに対する認識もあらたなものとなるだろう。

■講義方法

テキストの音声を毎回聞きながら授業を進める。

■系統的履修

ドイツ語 I C (特にドイツ語を総合的に理解するために、この科目との同時履修が望ましい。)

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回短時間でも予習と復習をすること。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席を重視する
小テスト (50%)

■テキスト

小野寿美子 他『クロイツング ネオ』 朝日出版社 2,500円

■参考文献

辞書等については授業中に説明する。

■履修上の注意・担当者からの一言

C D を用いてドイツ語を聞き取る努力をしてほしい。質問や相談事がある場合には遠慮なくどうぞ。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画

- ①アルファベット
- ②綴りと発音
- ③自己紹介
- ④国名
- ⑤趣味は漫画
- ⑥職業
- ⑦フランクフルト中央駅で
- ⑧小テスト
- ⑨家族
- ⑩エコ先進国
- ⑪チューリヒの町で
- ⑫ホテルに宿泊
- ⑬文法の補足
- ⑭同上
- ⑮小テスト

ドイツ語 I A

【担当】 呉 春吉

【開講】 前期 月3

■講義概要

この授業は、初めてドイツ語を学習する人を対象とし、ドイツ語のアルファベットの読み方、発音、簡単な挨拶というような基礎的なことから始めます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味のもてる内容のテキストがバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。

■到達目標

「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法

各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。ドイツに関するビデオなども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法

平常点 (40%)
定期試験 (60%)
出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点 (40%)
と期末試験 (60%) を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト

小野寿美子 『クロイツングネオ』 朝日出版社
辞書等については授業中に紹介します。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じつくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画

- ①ドイツ語の発音アウトライン
- ②挨拶表現
- ③動詞の現在人称変化
- ④sein と haben
- ⑤名詞の性、冠詞
- ⑥定冠詞と名詞の格変化
- ⑦不定冠詞と名詞の格変化
- ⑧不規則動詞の現在人称変化
- ⑨人称代名詞の格変化
- ⑩命令形
- ⑪名詞の複数形
- ⑫不定冠詞類、定冠詞類
- ⑬前置詞の格支配
- ⑭分離動詞
- ⑮前期のまとめ

ドイツ語 I B

【担当】 青山 豊
【開講】 後期 月2

■サブタイトル

ドイツを知るための第一歩

■講義概要

ドイツ語をととしてドイツ語圏および周辺諸国に目を向けられるようになるための手段、またEUの時代をむかえた新しいヨーロッパに対する理解への手がかりとしてこのIBの授業を位置付ける。この授業では内容的にはIAを引き継ぎながらも、たとえばワク構造や副文といったドイツ語らしい文の構造を学ぶことによって、日本語や英語とは異なる思考のあり方に気づくことになる。またそれと同時に、辞書をひきながらドイツ語の文章を読み解いていく知的な喜びを味わうこともできるようにする。特に表現力をつけるためにドイツ語IDを併せて履修することを強くすすめる。

■到達目標

「こば」を学ぼうちに、ドイツ人の生活や文化にも目が向くようになり、現代のドイツやヨーロッパに対する認識もあらたなものとなるだろう。

■講義方法

テキストの音声を毎回聞きながら授業を進める。

■系統的履修

ドイツ語 I D (特にドイツ語を総合的に理解するために、この科目との同時履修が望ましい。)

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回短時間でも予習と復習をすること。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席を重視する
小テスト (50%)

■テキスト

小野寿美子 他『クロイツング ネオ』朝日出版社 2,500円

参考文献

辞書等については授業中に説明する。

■履修上の注意・担当者からの一言

CDを用いてドイツ語を聞き取る努力をしてほしい。質問や相談事がある場合には遠慮なくどうぞ。

■ オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレス: qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画

- ①映画を見に行きたい
- ②ドイツ映画の現在
- ③大学の教室で
- ④私の願い
- ⑤食べ物
- ⑥昨日 今日 明日
- ⑦ドイツ人とパン
- ⑧小テスト
- ⑨負の遺産
- ⑩オペラ鑑賞
- ⑪音楽
- ⑫ホテル
- ⑬数詞
- ⑭文法の補足
- ⑮小テスト

ドイツ語 I B

【担当】 吳 春吉
【開講】 後期 月3

■講義概要

この授業は、ドイツ語Ⅱで習得した知識を踏まえた上で、さらに様々な動詞表現、時制等を学びます。テキストは平易な語句を使いながら、楽しい会話表現や読解力を鍛えながらも興味をもてる内容のテキストがバランスよく配置されています。授業の効果を上げるために予習復習をしっかりとすることを希望します。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましよう。

■到達目標

「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」という総合的なドイツ語運用能力の基本の確立を目指すとともに、日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法

各課の文法を解説した後、文法問題を練習します。ドイツに関するビデオなども観る予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回のこまめな予習、復習が学習効果を増進します。

■成績評価の方法

平常点 (40%)
定期試験 (60%)
出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点 (40%)
と期末試験 (60%) を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト

小野寿美子 『クロイツングネオ』 朝日出版社 2,500円
辞書等については授業中に紹介します。

参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画

- ①前期の復習
- ②話法の助動詞
- ③従属接続詞と副文
- ④形容詞の格変化
- ⑤zu不定詞
- ⑥動詞の3基本形 (1)
- ⑦動詞の3基本形 (2)
- ⑧現在完了形 (1)
- ⑨現在完了形 (2)
- ⑩過去形
- ⑪再帰代名詞と再帰動詞
- ⑫形容詞、副詞の比較
- ⑬関係代名詞 (1)
- ⑭関係代名詞 (2)
- ⑮総復習

ドイツ語 I C

【担当】 青山 豊

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

ドイツ語文法

■講義概要

文法とドイツ語による表現を学ぶ。文法の学習というと無味乾燥というイメージを持つかもしれないが、外国語をマスターするにはこれが早道であり合理的でもある。授業では、必要最小限の文法規則を繰り返し学習することによって自分のものとしたうえで、受講生各自が、それを用いて自分の思うところをドイツ語で表現できるようにしたい。

■到達目標

まとまった内容のドイツ語文が正確に読めるようになる。

■講義方法

受講生の理解度を確認しながら、ゆっくり進めていく。

■系統的履修

ドイツ語 I A

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回少しずつでも予習復習をすること。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席を重視する

小テスト (50%)

■テキスト

新田春夫 『エレメンテ』 郁文堂 2,500円

■参考文献

授業中に説明する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画

- ①文字と発音
- ②同上
- ③動詞の現在人称変化
- ④名詞の格変化
- ⑤規則動詞
- ⑥不規則動詞
- ⑦前置詞
- ⑧小テスト
- ⑨副文
- ⑩再帰動詞
- ⑪人称代名詞
- ⑫冠詞類
- ⑬分離動詞
- ⑭補足
- ⑮小テスト

ドイツ語 I C

【担当】 永井 達夫

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

テキスト、インターネット、DVDなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（前半部分）

■講義概要

語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。

■到達目標

ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。

■講義方法

一人一台のPCが使えるCALL教室で授業をする予定です。講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。

■系統的履修

必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に随時指示します。

■成績評価の方法

小テスト (60%) 数回の筆記テストは、すべて授業中に実施します。

レポート (40%) (宿題やレポートのための)「ドイツ語ノート」と「日常の学習状況」で評価します。

総得点で60%以上が合格です。出席は3分の2以上必要です。遅刻2回につき欠席1回に換算しますので、注意してください。

■テキスト

新田春男、他 『エレメンテ - ドイツ語の文法と表現』 郁文堂 2,500円

■参考文献

必要があれば、授業のなかで紹介いたします。

■履修上の注意・担当者からの一言

ほんとうにドイツ語が身につく講義にしていきたいと思います。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

開講時に連絡方法を言います。

■講義計画

- ①イントロダクション DVDによるドイツへの仮想旅行
- ②発音とつづり
- ③Lektion 1 動詞の人称変化
- ④Lektion 2 名詞の性格変化
- ⑤Lektion 2 名詞の格変化
- ⑥Lektion 3 sein/haben, 人称代名詞
- ⑦Lektion 4 前置詞
- ⑧中間テストを予定
- ⑨Lektion 5 名詞の複数形
- ⑩Lektion 6 否定冠詞／所有冠詞
- ⑪Lektion 7 werden など
- ⑫Lektion 8 命令形
- ⑬Lektion 9 語順、分離動詞
- ⑭前期の総復習
- ⑮学期末テストを予定

ドイツ語 I D

[担当] 青山 豊
【開講】後期 月3

■サブタイトル

ドイツ語で表現する

■講義概要

ドイツ語文を正確に読むためには最小限のしっかりした文法規則を自分のものにしなければならない。この授業ではできるだけ負担を感じることなく文法的に正確に読み書きができるようにしたい。

■到達目標

文法規則に従ってドイツ語文を読んで理解し、さらにドイツ語で表現できるようになること。

■講義方法

受講生の理解度に合わせてゆっくり進める。

■系統的履修

ドイツ語 I B

■授業時間外における予・復習等の指示

少しずつでも毎回予習と復習をしてほしい、

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席を重視する

小テスト (50%)

■テキスト

新田春夫 『エレメンテ』 郁文堂 2,500円

■参考文献

授業中に説明する

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールアドレス：qqfd8qx9k@crux.ocn.ne.jp

■講義計画

- ①話法の助動詞
- ②過去形
- ③現在完了形
- ④受動態
- ⑤形容詞の格変化
- ⑥比較
- ⑦関係代名詞
- ⑧小テスト
- ⑨命令形
- ⑩接続法
- ⑪同上
- ⑫補足
- ⑬同上
- ⑭同上
- ⑮小テスト

ドイツ語 I D

[担当] 永井 達夫
【開講】後期 水3

■サブタイトル

テキスト、インターネット、DVDなどを使って、多角的に学習するドイツ語、文法編（後半部分）

■講義概要

ドイツ語 I C の続きです。授業の概要は I C と同じです。以下は繰り返しになります。

「語学を本気で学ぼうと思えば、文法的な理解は欠かせません。この講義ではドイツ語の文法を最初歩（I C の続き）から順を追って積み上げていきます。ドイツ語は、ドイツのほか、オーストリア、スイスでも話されています。それらの国のこともDVDなどを使って学んでいきましょう。ドイツ語圏の音楽、映画なども取り上げたいと思っています。」

■到達目標

引き続き、ドイツ語文法の基礎を身につけます。文法のための文法ではなく、いわゆる使える文法を習得します。

■講義方法

一人一台のPCが使えるCALL教室で授業をする予定です。講義の進行は教科書に従っていきます。映像教材は提出するレポートの資料となるのでしっかり見るようにしてください。

■系統的履修

必修ではありませんが、平行して開講されるドイツ語の授業を取るのが理想的です。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に随時指示します。

■成績評価の方法

小テスト (60%) 数回の筆記テストは、すべて授業中に実施します。

レポート (40%) (宿題やレポートのための)「ドイツ語ノート」と「日常の学習状況」で評価します。

総得点で60%以上が合格です。出席は3分の2以上必要です。遅刻2回につき欠席1回に換算しますので、注意してください。

■テキスト

新田春男、他 『エレメンテ - ドイツ語の文法と表現』 郁文堂 2,500円

■参考文献

必要があれば、授業のなかで紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

後期になって学習の速度が少し上がりますが、予習復習をしっかりしてついてきてください。ドイツ語 I C を履修せずにこの講義を取る学生は、開講時までに自分で前期の範囲を学習しておくことが前提となります。後期も引き続きレポートなどの課題をたくさん出します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

開講時に連絡方法を言います。

■講義計画

- ①前学期の復習
- ②Lektion 10 話法の助動詞
- ③Lektion 11 再帰動詞
- ④Lektion 12 形容詞
- ⑤Lektion 13 動詞の3基本形
- ⑥Lektion 14 過去形
- ⑦Lektion 15 現在完了形
- ⑧中間テストを予定
- ⑨Lektion 16 受動表現
- ⑩Lektion 17 接続詞
- ⑪Lektion 18 関係文
- ⑫Lektion 19 接続法 1
- ⑬Lektion 11 接続法 2
- ⑭後期の総復習
- ⑮学期末テストを予定

統計入門

【担当】李 复屏

【開講】前期 月1

■サブタイトル

数字に弱い人のための統計学

■講義概要

世界は数字でできている。世の中を知るには、経済学より、まず統計学である。この講義は、世の中を知りたいという意欲を持っている（いわゆる、統計の利用者としての）学生を対象とし、新聞や報告書を読み解くに必要な統計学の基本概念を理解することを目的とする。単に「数をかみ砕き、答えを吐き出す」かを教えるだけではない。それはあなたのパソコンがやることである。身近な例に、知っておくと役立つ話を織り交ぜながら、統計学のエッセンスを会得していただきたい。

■到達目標

新聞や報告書などを読むとき、そこにどのような統計が含まれているようにも、その要点を理解できるようになる。

■講義方法

授業中、時々受講生にちょっとした問題を解いてもらうことがあるので、ルートキー（ $\sqrt{\quad}$ ）付きの電卓を用意すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

統計学は積み重ねの学問である。基礎概念を一つ一つ順を追って議論していくため、次の授業に進む前に、前の授業内容を復習してしっかり理解してくる必要がある。

■成績評価の方法

平常点（100%）
授業中の練習問題で評価する。

■テキスト

D. ロウントリー著 加納悟訳 『新・涙なしの統計学』 新世社 1,600円

■参考文献

鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社 2,233円

ダレル・ハフ著 高木秀玄訳 『統計でウソをつく法』 講談社 880円

神永正博 『ウソを見破る統計学』 講談社 900円

カイザー・ファンク著 矢羽野薫訳 『ヤバイ統計学』 阪急コミュニケーションズ 1,900円

■履修上の注意・担当者からの一言

計算ではなく、統計学的な考え方を理解していただくのが本講義の目的であるため、可能な限りに、式を使わず図で説明しようとするが、努力なしの統計学というつもりは毛頭ない。むしろ、統計学を理解するために一所懸命努力していただきたい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは月2です。この時間帯に来れない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまで相談してください。

■講義計画

- ①統計学とは
- ②標本の収集
- ③標本の記述
- ④データの中心的傾向
- ⑤データのばらつき尺度
- ⑥正規分布
- ⑦標本平均の標本分布
- ⑧母平均の推定
- ⑨t分布と母平均の推定
- ⑩X乗分布と母標準偏差の推定
- ⑪仮説検定
- ⑫相関分析
- ⑬回帰分析
- ⑭復習①
- ⑮復習②

統計入門

【担当】長谷 祐

【開講】後期 金5

■サブタイトル

数字に騙されないために

■講義概要

世の中を見渡せば、インターネット、テレビ、新聞など様々な場所で様々な数字が使われています。そこには、内閣支持率や大卒者内定率といった難しそう数値だけでなく、スポーツ選手の成績、流行のお店の人気度ランキングというものもあります。これらは全て「統計数値」と呼ばれるものです。また、そうした情報をもとに判断した（たとえば、美味しいラーメンランキングを見てお店を選んだ）のに、あまり満足できなかったこともあるのではないのでしょうか？ どうしてそうしたことが起きるのか？ どうすればそうした情報に騙されずにすむのか？

この講義では、そうした数字の情報を正しく理解する力を養い、数字に惑わされずに判断していくコツを学びます。そのため、この講義では、日常生活の中の現象（経済・心理の関連）を例に取り上げ講義を行います。数学の知識がなくても（ $+-\times\div$ で充分です）、世の中の様々なことが見えてくるようになると思います。皆さんが近い将来、必要となる（身につけておくべき大きな力となる）客観的なモノの見方について一緒に学んでいけたらと思います。

■到達目標

身近にあふれる数字の意味と、その背景や問題点を理解できるようになる。

■講義方法

講義形式で行います。また、身近な例を使いながら、簡単な例題を解いてもらい、統計を学んでいただけるよう心がけます。

■授業時間外における予・復習等の指示

日常生活のなかで、数字の意味について考えてみる。

■成績評価の方法

平常点（40%）
定期試験（60%）

■テキスト

特になし。
講義資料を配布します。
ただし、配布当日に欠席した人は自己責任のもとにおいて何らかの方法で資料を入手してください。

■参考文献

特になし
統計学は何か意味のある事を言うために、数式を使います。それゆえに拒否反応を示しがちですが、加減乗除（ $+-\times\div$ ）が出来ればその多くは問題ありません。むしろ、拒否反応を示す人が多いということは、それだけ身につければ武器になるということです。
授業中、私語が多い場合、他の学生の迷惑になりますので退出をお願いいたします。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②記述統計①：日常生活の中でみる統計
- ③記述統計②：分布とその特性①（集団の特性を知ろう）
- ④記述統計③：さまざまな指標がもたらす日本社会の現状（騙す図を描くには）
- ⑤記述統計④：分布と特性②（偏差値の恐怖からの開放）
- ⑥記述統計⑤：これまでの復習
- ⑦確率①：確率の基本（コイン投げで5回連続「表」がでたら、次は・・・？）
- ⑧確率②：期待値とは？（直感と実際のズレ）
- ⑨確率③：母集団と標本（賭け事で負けないようにするには？）
- ⑩確率④：これまでの復習（勝ち逃げするためには）
- ⑪日常の中の統計①：当たり前を当たり前のように疑う
- ⑫日常の中の統計②：人間の感覚とは・・・
- ⑬日常の中の統計③：われわれは意図的に誘導されている？（アンケートのお話）
- ⑭日常の中の統計④：統計のその後・・・（統計を使った分析のお話）
- ⑮これまでの復習

日本国憲法

【担当】 時本 義昭

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

法学入門も受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成26年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下での平等
- ⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
- ⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】 時本 義昭

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

法学入門も受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成26年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下での平等
- ⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
- ⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】 時本 義昭

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

前期に法学入門を受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成26年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下での平等
- ⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
- ⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】 時本 義昭

【開講】 後期 木3

■サブタイトル

日本国憲法の規定する統治機構と人権

■講義概要

近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

前期に法学入門を受講することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験（100％）学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

小嶋和司・大石真 『憲法概観〔第6版〕』 有斐閣
佐藤幸治他編 『デイリー六法平成26年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①憲法の基本概念
- ②日本国憲法の成立過程と基本原理
- ③国会
- ④内閣
- ⑤裁判所
- ⑥基本的人権の分類と基本原理
- ⑦包括的基本権
- ⑧法の下での平等
- ⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
- ⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
- ⑪経済的自由
- ⑫社会権
- ⑬人身の自由
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

発達と教育A

【担当】 松島 恵介

【開講】 前期 水1

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる。）
※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達とは何か（序論）
- ②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
- ③発達と自我、それをめぐる教育について
- ④対人関係と自己の発達
- ⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
- ⑥ピアジェの発達理論・概説
- ⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
- ⑧発達と教育の接点
- ⑨学習・日常認知
- ⑩知能とは何か
- ⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
- ⑫発達と現代の諸問題（1）～人間関係、とりわけ家族をめぐ
る問題について
- ⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
- ⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
- ⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育A

【担当】 松島 恵介

【開講】 前期 水2

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる。）
※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達とは何か（序論）
- ②発達論にみられる児童期～青年期の様相（総論）
- ③発達と自我、それをめぐる教育について
- ④対人関係と自己の発達
- ⑤子どもの生活世界／学校とは何ものか
- ⑥ピアジェの発達理論・概説
- ⑦ヴィゴツキーの発達理論・概説
- ⑧発達と教育の接点
- ⑨学習・日常認知
- ⑩知能とは何か
- ⑪敢えて「教えない」ことのもつ意味をめぐって
- ⑫発達と現代の諸問題（1）～人間関係、とりわけ家族をめぐ
る問題について
- ⑬発達と現代の諸問題（2）～様々な病理をめぐって
- ⑭発達と現代の諸問題（3）～教育のあるべき姿とは
- ⑮まとめと今後の課題・質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】 松島 恵介

【開講】 後期 水1

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期

試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達と教育を学ぶ意義（序論）
- ②自己意識と発達課題
- ③学習と自律性
- ④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
- ⑤論理構成力と発達過程
- ⑥社会的問題行動
- ⑦遊びと発達・教育
- ⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
- ⑨学校文化と発達
- ⑩隠れたカリキュラムをめぐって
- ⑪個性化の教育
- ⑫教育と現代的諸問題
- ⑬発達と現代的諸問題
- ⑭まとめと今後の課題
- ⑮質疑応答（総括的議論）

発達と教育B

【担当】 松島 恵介

【開講】 後期 水2

■サブタイトル

児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要

子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ多面的に理解する。

■到達目標

児童・青年期特有の発達・教育に関わる諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法

口頭説明および板書（要点のみ）を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修

「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

単位には予習復習の実践が含まれるので各自行うこと。

■成績評価の方法

その他（100%）以下を参照。

定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期

試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。※いわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト

特になし

■参考文献

授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画

- ①発達と教育を学ぶ意義（序論）
- ②自己意識と発達課題
- ③学習と自律性
- ④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
- ⑤論理構成力と発達過程
- ⑥社会的問題行動
- ⑦遊びと発達・教育
- ⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
- ⑨学校文化と発達
- ⑩隠れたカリキュラムをめぐって
- ⑪個性化の教育
- ⑫教育と現代的諸問題
- ⑬発達と現代的諸問題
- ⑭まとめと今後の課題
- ⑮質疑応答（総括的議論）

仏教の思想

「仏教の思想 A・B」

龍谷大学は、「一切の人間が平等に真実心を与えられているという親鸞精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養とをもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想 A・B」は龍谷大学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義は、龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己をふりかえり、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とします。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想 A・B」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。

この「仏教の思想 A・B」を平易に理解していただくために、以下に教育目標と講義の主な内容を掲げておきます。

講義の教育目標

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。

真実の宗教は、その思想と文化を通して、人間に二つの働きをもっている。一つは、自己の存在意味や人生の根本的な方向性を指し示すという働きである。もう一つは、日々の生活の中で直面する苦しみや悲しみを乗り越えさせるという働きである。仏教は、この二つの働きをもって、自己中心的に生きようとする人間が、あるべき理想の人間に向かって、脱皮、成長していくことをめざしている。

2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。

仏教は一つの学問である。高校では、公民科「倫理」や地歴科「世界史」「日本史」の教科で、仏教を学習する。それを踏まえ、「仏教の思想」の教育目標に、次の点を掲げる。

- ① 青年期における人間が、自ら歩んできた道・人生をあらためて見つめ直し、人間として生きる意味を考える。
- ② 学生が過去の人々の思想や生き方を学び、また現代社会の諸問題を考えることを通して、人間としての生きる意味や目的を探究する。
- ③ 仏教は、人類が継承してきた一つの智慧であり、世界の各地で、人々の心の依りどころになっている。この歴史を学ぶことを通して、ものの見方を豊かにし、人生への思索を深める。

3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。

宗教は民族宗教と世界宗教に大きく分類されるが、世界宗教としての仏教の特質には次のような点があげられる。

- ・創造主なる神を想定しない
- ・人間を含むあらゆるいのちに重きを置く

仏教がめざしたのは生きとし生けるものの幸せ・平等・平和である。講義を通して自己を内省し、悲しみや苦しみに立ち向かう勇気と、他者に対する慈愛と感謝と寛容さを培う。

4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。

一つの固定的なものの見方を離れ、柔軟で、幅広い考え方や生き方が開かれるように、「仏教の思想」を学ぶ。

5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。

戦争・差別・貧困・犯罪など、世界の各地で現実に行き起きている問題と向きあい、どのように解決したらよいかについて考える。

6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。

いのちに関わる現代の諸問題－生命倫理や地球環境など－を積極的に見つめる。仏教は、一つひとつの存在が無限の意味と尊さをもって輝いていると伝えてきた。さまざまな執着や偏見をとりはらい、相手の幸せを願い、相手の痛みをともに分かちあおうとする共感を養う。

7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

龍谷大学は、シルクロードコレクションなどの世界的に貴重な古典籍を有する大学である。1639年創設以来からの、龍谷大学の仏教の先進性と歴史的伝統を、建学の精神を学ぶことを通して理解し、龍谷大学を愛する学生を育てる。

講義の概要

「仏教の思想 A」 講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を適宜活用して講義を展開します。

「仏教の思想 A」では、釈尊の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

人間と宗教——カルトや原理主義・宗教の意義

神々と仏——民族宗教・世界宗教（キリスト教・イスラム教・仏教）

あるがままに見る眼——智慧・如実知見・四諦・三法印

いのちあるものすべてへの慈愛——慈悲・非暴力

自己中心的に考える人間存在——煩惱・我執・四苦八苦

支えあってつながっている宇宙——縁起の理法・空・無我

仏教の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している「仏教の思想と文化」に関する現物資料を教材として授業を行う予定です。講義とともに展示を観覧することで講義内容の理解を深めます。詳細については、講義の中でお知らせします。

仏教の思想A

【担当】井上 博文

【開講】前期 水2

■講義方法

特定のテキストは使用しない。レジュメや参考資料のプリントを毎回配布し、口頭説明と板書による通常の講義形式で授業を進める。また視聴覚教材も適宜使用する。

■系統的履修

仏教の思想B

■授業時間外における予・復習等の指示

生の情報を見ることは重要であるので、龍谷ミュージアムに行くこと、及び近畿圏には見るべき寺院が多くあるので、適宜紹介する。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席とレポート

定期試験 (50%) 出題、形式に関するガイダンスは事前に行う

■テキスト

特になし

■参考文献

龍谷ミュージアム編 『釈尊と親鸞：インドから日本への軌跡』 法蔵館 1,575円

参考文献は担当者ができるだけ毎回紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

仏教は非常に面白いものであり、私たちの知的好奇心を大いに刺激してくれます。思想史としても、世界史としても奥行きがあり、これを学ぶことによってたくさんの気づきを与えてくれます。可能な限り、毎回参加し、感じたこと、考えたことをアウトプットできるようにしますので、是非興味を持つところから始めてください。

■講義計画

- ① 龍谷大学の沿革と建学の精神
- ② 宗教についての考え方
- ③ 伝承や伝説との向き合い方
- ④ 仏教以前のインド
- ⑤ 仏教興起の時代（バラモン教と六師外道）
- ⑥ ブッダとは？
- ⑦ ブッダの生涯と思想（1）～誕生と出家～
- ⑧ ブッダの生涯と思想（2）～求道（苦行から中道へ）
- ⑨ ブッダの生涯と思想（3）～降魔成道～
- ⑩ ブッダの生涯と思想（4）～初転法輪
- ⑪ ブッダの弟子たち
- ⑫ ブッダの入滅
- ⑬ 結集伝説
- ⑭ 戒律について
- ⑮ 部派仏教と教義の体系化

仏教の思想A

【担当】道元 徹心

【開講】前期 水2

■講義方法

特にテキストは定めず、毎回配布するレジュメに沿って授業を進める。また適宜視聴覚教材を使用する。受講生は担当者が講義時に示したテーマについてのコメントシートを提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に紹介した参考文献を読む。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席状況と受講態度

定期試験 (50%)

■テキスト

特に定めない。

■参考文献

講義時に随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養ってほしい。

■講義計画

- ① 龍谷大学の沿革と建学の精神
- ② 宗教の意義
- ③ 釈尊以前のインド
- ④ 釈尊の生涯－誕生から出家
- ⑤ 釈尊の生涯－苦行から成道
- ⑥ 釈尊の生涯－伝道から入滅
- ⑦ 釈尊の思想－煩悩と苦
- ⑧ 釈尊の思想－四諦
- ⑨ 釈尊の思想－四法印
- ⑩ 釈尊の思想－縁起の理法
- ⑪ 部派仏教とその思想
- ⑫ 大乘仏教の興起とその理念
- ⑬ 大乘仏教の思想－経典
- ⑭ 仏教の伝播
- ⑮ 総括

仏教の思想A（再） ※3年次以上対象

【担当】 溪 英俊

【開講】 後期 火5

■講義方法

特にテキストは定めず、講義形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時間に書籍の紹介などを行う。各自で興味のあるものを学んでほしい。

■成績評価の方法

平常点（40％）出席状況、受講態度などで総合的に判断する。

定期試験（60％）講義内容をもとに、定期試験を行う。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス
 - ②仏教を学ぶということ
 - ③釈尊の生涯
 - ④仏教の伝播
 - ⑤大乘仏教について
 - ⑥まとめ
- 上記内容ごとに1～5回を予定

講義の概要

「仏教の思想 B」 講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の内容全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、龍谷ミュージアムの展示や視聴覚教材を適宜活用して講義を展開します。

「仏教の思想 B」では、親鸞の生涯と思想を中心に、以下の授業内容で進めます。

鎌倉仏教の位置と特質——法然・親鸞・道元・日蓮・一遍

真実の探求——老少善悪を問わず・易行・わけへだてのない安らぎの道

自己を徹底的に見つめる——悪人正機・煩惱具足の凡夫・罪惡深重

現実世界への凝視と安らぎへの願い——火宅無常の世界・欣求浄土・世のなか安穩なれ

あるがままで受け容れられる世界——攝取不捨・阿弥陀仏の本願・自力と他力

あらゆるものは輝いている——白色白光・御同朋御同行・他者の尊重

親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神

※本講義では、龍谷ミュージアムで展示している「仏教の思想と文化」に関する現物資料を教材として授業を行う予定です。講義とともに展示を観覧することで講義内容の理解を深めます。詳細については、講義の中でお知らせします。

仏教の思想B

【担当】井上 博文

【開講】後期 水2

■講義方法

特定のテキストは使用しない。レジュメや参考資料のプリントを配布し、口頭説明と板書による通常の講義形式で授業を進める。また視聴覚教材も適宜使用する。

■系統的履修

仏教の思想A

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習等の指示はないが、龍谷ミュージアムで見学をする際にはレポートを求める。
また適宜レポートを課題とすることもある。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席とレポート
定期試験（50%）出題、形式に関するガイダンスは事前に行う

■テキスト

特になし

■参考文献

龍谷ミュージアム編 『釈尊と親鸞：インドから日本への軌跡』 法蔵館 1,575円
参考文献は担当者ができるだけ毎回紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

後期は日本仏教と親鸞を中心に見るが、日本の仏教は私たちの生活にあまりにも近くにあるため、かえって気付かない点、知っているようで知らない点が多々あります。日本にどうやって仏教が導入され、どんな経緯で奈良から京都に移転し、京都でどんな仏教が変わっていったのか。疑問をたくさん持てば持つほど、なるほどという気づきに出会えます。

■講義計画

- ①部派分裂と部派仏教
- ②大乘仏教の誕生と世界観、大乘仏教起源論争
- ③龍樹と中観学派
- ④唯識学派の誕生と展開
- ⑤如来蔵思想の誕生と展開
- ⑥密教とインドから出た仏教－仏教東漸
- ⑦中央アジアやチベットの仏教
- ⑧南方仏教－タイ、ミャンマー、スリランカ
- ⑨中国仏教1
- ⑩中国仏教2－仏教日本伝来
- ⑪日本仏教黎明期－聖徳太子から奈良仏教
- ⑫平城京から長岡京、平安京－最澄と空海
- ⑬鎌倉仏教－法然浄土宗から親鸞へ
- ⑭親鸞の生涯と思想
- ⑮親鸞の生涯と思想（続）と蓮如

仏教の思想B

【担当】道元 徹心

【開講】後期 水2

■講義方法

特にテキストは定めず、毎回配布するレジュメに沿って授業を進める。また適宜視聴覚教材を使用する。受講生は担当者が講義時に示したテーマについてのコメントシートを提出する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に紹介した参考文献を読む。

■成績評価の方法

平常点（50%）出席状況と受講態度
定期試験（50%）

■テキスト

特に定めない。

■参考文献

講義時に随時紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養ってほしい。

■講義計画

- ①大乘仏教の広がり
- ②中国仏教①
- ③中国仏教②
- ④聖徳太子の仏教
- ⑤日本の浄土教①
- ⑥日本の浄土教②
- ⑦法然の生涯と思想
- ⑧親鸞の生涯①
- ⑨親鸞の生涯②
- ⑩親鸞の思想①
- ⑪親鸞の思想②
- ⑫親鸞の思想③
- ⑬歎異抄
- ⑭歎異抄
- ⑮総括

■講義方法

特にテキストは定めず、講義形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時間に書籍の紹介などを行う。各自で興味のあるものを学んでほしい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席状況、受講態度などで総合的に判断する。
定期試験 (60%) 講義内容をもとに、定期試験を行う。

■テキスト

特になし

参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②北伝仏教について
- ③親鸞の生涯
- ④浄土真宗の歴史
- ⑤まとめ

上記内容ごとに1～5回を予定

フランス語 I A

【担当】 瓜生 濃世
【開講】 前期 水3

■サブタイトル

すぐに使えるフランス語

■講義概要

この授業では、フランス語で気軽にコミュニケーションがとれるようになることを目指し、基礎的な会話を幅広くとりあげると同時に初歩的な文法を学びます。教科書には日本のポップカルチャーがフランスで人気を集めている様子が紹介されているので、身近な話題を通してフランス語学習を行うことができます。また様々な教材を利用してフランスの文化についても解説を行い、多様な広がりを持つ授業としていきます。

■到達目標

平易なフランス語が理解できるようになること。

■講義方法

文法事項を解説し、視聴覚教材を利用して発音練習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

小テストがありますので、教員の指示に従って十分に準備すること。

■成績評価の方法

小テスト (40%)
定期試験 (60%)

■テキスト

藤田裕二 『パリのクール・ジャパン (Le Japon, c'est cool!)』
朝日出版社 2500円

参考文献

仏和辞典を入手する場合は、次の3点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、『クラウン仏和辞典』には、電子辞書版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言

初めての学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、授業中は集中して理解するよう努め、発音練習にも積極的に取り組んでください。

■講義計画

- ①第0課
- ②第1課
- ③第1課
- ④第2課
- ⑤第2課
- ⑥第3課
- ⑦第3課
- ⑧第4課
- ⑨第4課
- ⑩第5課
- ⑪第5課
- ⑫第6課
- ⑬第6課
- ⑭第7課
- ⑮第7課・まとめと復習

フランス語 I D

【担当】 森部 卓

【開講】 後期 月2

■サブタイトル

ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要

従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はICの続きです。

■到達目標

①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法

パソコンソフト“Tell me more”の興味あるメニューをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の授業の復習、およびボキャブラリーを増やして下さい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席点

定期試験 (50%) 受講者数により、小テストに変更する場合あり。

■テキスト

藤田裕二 『新・東京ーパリ、初飛行』 駿河台出版社 2,310円

■参考文献

辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ICの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。このソフトには日本語訳は付いていませんが、英語訳が出ますからうまく活用して下さい。

■講義計画

- ①パソコンソフトTell me more (フランス語版教材) の全体の構成の提示
- ②一日を語る
- ③頼む、命令する
- ④店で買い物をする
- ⑤未来のことを語る
- ⑥過去のことを語る (直説法複合過去)
- ⑦バカンスに行く
- ⑧フランス語でメールを出す
- ⑨人や物について語る
- ⑩美術館に行く
- ⑪大人気のジャパン・エキスポ
- ⑫フランス留学と学生生活について
- ⑬乗り物に乗る
- ⑭感情を表現する
- ⑮日仏文化交流の昨今

フランス語 I D

【担当】 嶋崎 陽一

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

さらに楽しいフランス語

■講義概要

フランス語IA、IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にする事で、より実践的な語学学習の場としたいと思います。後期はとくにコンピュータ教材、インターネットによる演習の比率を増やしていく予定です。

■到達目標

きれいな発音による、役立つフランス語の習得。

■講義方法

CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。

■系統的履修

後期完結の授業ですが、前期に開講されるフランス語ICもできれば受講しておいてください。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書の内容は授業時間内に完結しますが、付録のCD教材などを通じて自宅での復習を繰り返し行えば効果的です。また、CALL教室が自習用に開放されるときには、学習用ソフトウェアによる自習が可能です。

■成績評価の方法

平常点 (80%) 出席を重視します。

定期試験 (20%)

■テキスト

大久保政憲 『話してみようフランス語ー Oui!-』 朝日出版社 2,300円

■参考文献

仏和辞典を使用します。次の3点を特に勧めます。

『ディコ仏和辞典』(白水社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)
『クラウン』には電子辞書版が、『プチ・ロワイヤル』には電子辞書版とiPhone版があります。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。

■講義計画

次の教材を併用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。

Tell Me More (Auralog)

その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語セミナーB

【担当】 嶋崎 陽一

【開講】 後期 木4

■サブタイトル

フランス語・フランス文化の理解を楽しく深める。

■講義概要

1年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテキストとCALL教材を併用して、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。セミナーBでは、コンピュータ教材を利用して、会話練習をする一方、フランス映画から数本を選んで学生諸君に事前学習をしてもらい、フランスの歴史・文化について学ぶことに重点を置きます。

■到達目標

フランス語応用のための基礎的な語学力、現代のフランス文化についての知識を身に付ける。

■講義方法

CALL教室を利用します。引き続き中級文法を学ぶと同時に、視聴覚教材を通じてフランスの文化・歴史を学びます。また、希望により実用フランス語検定受験のための学習も用意します。

■系統的履修

後期完結の授業ですが、内容的にはフランス語セミナーAと共通しています。継続した受講を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの講読を中心に宿題を課します。

■成績評価の方法

平常点(80%)出席を重視します。

定期試験(20%)内容については受講生と相談の上決定します。

■テキスト

藤田裕二 『彼女は食いしん坊！2 フランス美味探訪の旅』
朝日出版社 2,500円

■参考文献

『ディコ仏和辞典』(白水社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的な参加を望みます。

■講義計画

教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More (Auralog)を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書はフランス各地の文化や料理を平易なフランス語で紹介するものです。

■サブタイトル

物語の逆襲

■講義概要

ある物語が面白く感じられ、ある言葉が魅力的に思えるのはなぜなのか。おそらくこれまでは漠然と文学に接してきた学生諸君に、文学を理解するための諸々の知的枠組みを紹介し、それによって新たな目で文学を捉え、より深く面白く味わえるようにするのが狙い。その過程で、道具となる考え方はもちろん、ときに専門用語も導入し、また例として学生にとって面白いのではないかとという諸作品をも紹介したい。対象は日本文学に限らず広く翻訳も含める。詩も取り上げるものの、何よりも物語の魅力を焦点とするため、ジャンルとしては主に小説を扱う。映画など、文学以外の物語形式にも多く言及することになる。

■到達目標

文学作品を、より知的に、より深く、より楽しく、味わうためのノウハウを身につける

文学という広く豊かな世界への意識を養う

■講義方法

受講者数にもよるが、授業計画に基づく理論的な講義と、実際に文学作品を読み解く作業とを併せて取り入れたい。細かいレベルで考えられるように、作品は短編を中心に扱う。出欠状況の確認も兼ねて、毎回講義の最初にミニクイズ、終わりに感想、質問などを書いてもらうほか、作品分析などで課題の提出を求めていることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回講義で解説予定の作品等をあらかじめ配るので、指示に従って自分なりに読んで考えてみることにしよう。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 講義末に書いてもらうコメントや課題の提出状況と内容

定期試験（60％）講義内容に関する選択問題、論述問題など試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として期末試験の受験資格を失うものとし、結果的に単位は認められないことになる。

■テキスト

使用せず。適宜プリント配布。

参考文献

中条省平 『小説の解剖学』 筑摩書房（ちくま文庫） 798円
 廣野由美子 『批評理論入門―「フランケンシュタイン」解剖
 講義』 中央公論社（中公新書） 780円

■履修上の注意・担当者からの一言

文学の世界をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいだけの人には向かない。よく話を聞いて、じっくり考え深く味わって欲しい。なお、物語についての講義となると、取り上げる小説などについての、いわゆる「ネタばれ」は多少とも避けられない。なるべく配慮はするが、あらかじめ了解の上受講のこと

■ オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。
2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learning
サイトを開設予定。

■講義計画

- ①序説—文学は死んだか?
- ②詩の言葉、言葉の詩
- ③ジャンル・タイプ・intertextuality
- ④幻想という名の真実
- ⑤言葉の裏を読む
- ⑥象徴の成立
- ⑦構造と対立
- ⑧アイロニー
- ⑨作者・作品・読者
- ⑩曖昧と解釈の問題
- ⑪文学と時間
- ⑫名前の文化論
- ⑬旅のモチーフ
- ⑭実践分析批評 1
- ⑮実践分析批評 2

* 以上は、講義項目の流れを示したもので、必ずしも回毎の内容というわけではない。1-13の項目に14,15を絡めてゆくのが基本スタイルである。

文学入門

【担当】 嶋崎 陽一

【開講】 後期 木3

■サブタイトル

ブンガクはなぜあんなにつまらないか?あるいはなぜこんなに面白いのか?

■講義概要

宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらかでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか?それによりによってブンガクだなんて!しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標

ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法

毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で採り上げた文学作品を、できるだけ自ら読んでみることを薦める。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席による
レポート (80%) 2000字程度

■テキスト

特になし

■参考文献

授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②文体と内容
- ③視点の問題
- ④ことばの3側面：外観
- ⑤ことばの3側面：響き
- ⑥ことばの3側面：意味
- ※毎回さまざまな作家を採り上げる。以下の作家については特に個別に論じる予定である。(順不同)
- ⑦谷崎潤一郎
- ⑧筒井康隆
- ⑨松本清張
- ⑩宮部みゆき
- ⑪山田風太郎
- ⑫奥泉光
- ⑬川崎洋
- ⑭入澤康夫
- ⑮谷川俊太郎

法学入門

【担当】 時本 義昭

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

日常生活と法

■講義概要

わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐられ、近代的法制度は一応完備されているといつてよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといつても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること

■講義方法

原則として毎回レジメを配布し、レジメに沿って講義を進めるので、レジメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

定期試験 (100%) 学期末の定期試験

■テキスト

※特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デリー六法平成26年版』 三省堂
※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

- ①基礎知識 (法の種類)
- ②日本国憲法の基本原理
- ③日本国憲法の保障する人権
- ④日常生活と契約Ⅰ (契約とその主体)
- ⑤日常生活と契約Ⅱ (動産と不動産)
- ⑥日常生活と契約Ⅲ (金銭と保証)
- ⑦日常生活とアクシデント
- ⑧雇用と法
- ⑨家族関係Ⅰ (夫婦と親子)
- ⑩家族関係Ⅱ (相続)
- ⑪犯罪と法Ⅰ (刑法の基本原理)
- ⑫犯罪と法Ⅱ (犯罪の成立)
- ⑬行政と法
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

- ①基礎知識（法の種類）
- ②日本国憲法の基本原理
- ③日本国憲法の保障する人権
- ④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
- ⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
- ⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
- ⑦日常生活とアクシデント
- ⑧雇用と法
- ⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
- ⑩家族関係Ⅱ（相続）
- ⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
- ⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
- ⑬行政と法
- ⑭裁判員制度Ⅰ
- ⑮裁判員制度Ⅱ

倫理学入門

【担当】 菊地 建至

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

現代社会の倫理学入門（個人の行為の規制や支援について「倫理的に」考える）

■講義概要

- ★「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。
- ★この「水曜日3時限の倫理学入門」の学期末試験は、「一切持込なし」で実施する予定です。
- 現代社会において、「個人の自由」についてどう考えるかは重要なことです。しかし、「自由」ってどういうことか、じっくり考えたことのあるひとは少ないのではないだろうか。この「水曜日3時限の倫理学入門」は、個人の行為の「規制」と「支援」に注目することによって、また、「経済・市場と倫理の関係」に注目することによって、「自由」について倫理的に考える授業です。
- 「現代社会の自由の問題には、倫理学の視点でどのような特徴があるか」と「倫理的なアプローチは自由の問題にどのような提案をすることができるか」、これら両方の問いを意識し、「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。
- この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について（他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど）考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。
- この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことからか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしてほしい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

- 現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常生活や社会の諸問題に関して「倫理的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

■講義方法

- 「講義」形式だが、多くの授業のなかで「（映画を中心とする）映像資料」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。また、テキストは使用しないが、課題・ホームワークは少なくないだろう。あなたは「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の復習やホームワークが求められる機会は少なくないだろう。

■成績評価の方法

平常点（50％） 積極的な授業参加、小テスト（確認テスト）、比較的短い論述（レポート）などで評価する

定期試験（50％）

■テキスト

特になし

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

- わたしが担当する倫理学入門は、2014年度も、三種類あります（水曜日3時限・前期、水曜日4時限・前期、水曜日5時限・後期）。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分（たち）で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます。
- あなたは上記の（三種の）倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。また、曜日・時間により受講者数が大きく異なることはありうるから、「平常点の評価法」や「試験の持込条件」もそれに応じて異なることはあります。詳しくは初回授業で説明します。
- 継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、（知的に）楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画

- ①ガイダンス
 - ②～③（テレビドラマなどの）映像資料を用いて、自由や倫理について考えることを始める
 - ④～⑤「個人の行為を規制すること」についてよく考える
 - ⑥～⑧（映画などの）映像資料や読書資料を用いて、「個人の行為を支援すること」についてよく考える
 - ⑨～⑩「倫理の基礎」について理解を深める
 - ⑪～⑬（映画などの）映像資料や読書資料を用いて、「経済・市場と倫理」や「グローバリズムと倫理」についてよく考える
 - ⑭～⑮授業で取り上げた範囲であなたがもっとも関心のある「自由や倫理の問題」について、徹底的に考えよう
- ※以上、順不同。

■サブタイトル

「勇気」、「平等」、「エンハンスメント」などをよく考える

■講義概要

★「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。

★この「水曜日4時限の倫理学入門」は、「(授業内で配布する)読書資料」と「映像資料」とともに頻繁に活用する授業です。そういう意味では読書の予習・復習の機会は少なくありません。そういう自習はしたくないというひとは、この授業に向かないでしょう。もちろん、ただ読書資料を順番に読むだけといったものではなく、さまざまな(映画など)映像資料やワークも活用し、学生が「楽しく、能動的に」取り組める工夫もたくさんあります。

●「水曜日4時限の倫理学入門」は、「徳(たとえば勇気、節制、正義)とはどのようなものか」、「徳はどのようにして身につくか」など、倫理学の基本的かつ根本的な問題に取り組みます。また、「ひと(人間)が科学技術の進展に期待して生きること」に関連する現代的な問題として、「エンハンスメント」、すなわち「治療にとどまらない増強・強化(たとえば筋肉の増強、知能の増強、「デザイナーベビー」など)の倫理問題にも取り組みます。たとえば、「あなたはエンハンスメントを利用して活躍するひとを応援しつつけるか」、「エンハンスメントを推進する社会はどのようなひと(人間)とその生活をつくるだろうか」などの問題は、あなたにとって縁遠いことではないだろう。

●授業内で配布する読書資料や(映画などの)映像資料を積極的に活用し、「勇気」、「平等」、「人間性」などについてよく考える授業です。具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。

●この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について(他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど)考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。

●この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことがらか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしたい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

●現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

●大学で求められる「読むこと」や「議論すること」について理解を深める。

■講義方法

●「講義」形式だが、多くの授業のなかで「(映画を中心とする)映像資料」や「(授業内で配布する)読書資料」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこたらないことを約束します。あなたは「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。

●授業で配布する「読書資料」は(これらは授業内で使用することもあればホームワークに活用する場合もある)、ときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、あなたにやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大

学で求められる読書のトレーニング」にもなると前向きに理解するといいたいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示

読書資料を読んできること、授業内容の自習(予習・復習を含む)など、求められる機会は少なくないだろう。

■成績評価の方法

平常点(50%) 積極的な授業参加、小テスト(確認テスト)、比較的短い論述(レポート)などで評価する
定期試験(50%)

■テキスト

特になし

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

●わたしが担当する倫理学入門は、2014年度も、三種類あります(水曜日3時限・前期、水曜日4時限・前期、水曜日5時限・後期)。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分(たち)で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます。

●あなたは上記の(三種の)倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。また、曜日・時間により受講者数が大きく異なることはありうるから、「平常点の評価法」や「試験の持込条件」もそれに応じて異なることはあります。詳しくは初回授業で説明します。

●継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座ってればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、(知的に)楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画

①ガイダンス

②～③(映画などの)映像資料や(授業内で配布する)読書資料を用いて、「勇気」や「勇気以外の諸徳」について考えることを始める

④～⑥(映画などの)映像資料や(授業内で配布する)読書資料を用いて、「エンハンスメント」と「倫理の基礎」について考えることを始める

⑦～⑧「倫理の基礎」、「平等」、「卓越」、「自由」などについて整理し、よく考える

⑨調整日

⑩～⑪「徳(たとえば勇気、節制、正義)は教えられるか」、「徳はどのようにして身につくか」などについて整理し、よく考える

⑫～⑬「異なるものの共生」、「友」、「倫理」などについてよく考える

⑭～⑮授業で取り上げた範囲であなたがもっとも関心のある「倫理の問題」について徹底的に考えよう

※以上、順不同

倫理学入門

【担当】 菊地 建至
【開講】 後期 水5

■サブタイトル

現代社会の倫理学入門 (J.S.ミル『自由論』を活用する)

■講義概要

★「倫理学入門」担当の菊地建至です。はじめまして。各授業の「講義概要」の説明に入る前に話しておきたいことがあります。ただし字数制限のためここには書けないから、「履修上の注意・担当者からの一言」に書きます。先に、よく読んでください。

●現代社会において、「個人の自由」や「多様な価値観」は重視されていると言えるだろう。しかし、「自由に生きるなんて結局無理なことだから」や「自由といっても結局ひとそれぞれだから」といった態度も、根強い。そういう状況において「自由をよく考えること」や「異なるものの共生をよく考えること」に無関心を決め込むのではなく、それならば「自由について」一度徹底的に取り組んでみよう、そう思うひとが参加するのが、この「水曜日5時限の倫理学入門」です。

●「現代社会の自由の問題には、倫理学の視点でどのような特徴があるか」と「倫理的なアプローチは自由の問題にどのような提案をすることができるか」、これら両方の問いを意識し、「現代社会の主要な倫理問題」について、具体的かつ理論的にていねいに授業を進めることを約束します。

●この「水曜日5時限の倫理学入門」は、わたしが担当する倫理学入門のなかで唯一「テキストを使用する」授業です。そういう意味では読書の予習・復習の機会は少なくありません。そういう自習はしたくないというひとは、この授業に向かないでしょう。もちろん、ただ本を順番に読むだけといったものではなく、さまざまな(映画など)映像資料やワークも活用し、学生が「楽しく、能動的に」取り組める工夫もたくさんあります。

●この授業は「入門」だから、まず単位取得に必要なのは「基本・標準レベルの」理解ということになるが、さらにあなたが授業をとおしてとくに関心をもった倫理問題について(他のひとたちと話し合う、基本レベル以上に徹底的に考えるなど)考察を展開することの援助もする。受身ではなく、積極的な参加を求めたい。

●この「倫理学入門」を通して、「倫理とはどのようなことからか」、「現代社会の倫理学はどのようなことを主題とし、どのようにそれらを探求するか」など、じっくり考えるきっかけにしたい。きっと、「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直したり、あなたの身近な日常のできごとやさまざまな社会問題について「倫理的に」考え、話し合うきっかけになるだろう。

■到達目標

●現代社会において倫理学はどのように生かされるか、このことの理解を深めるとともに、日常生活や社会の諸問題に関して「倫理的に」考え、話し合い、表現する仕方を身につける。これらの点で上達することが、この授業を受講する学生にとっての、第一の目標です。

●世界で長きにわたって「繰り返し読まれてきた」価値ある本(こういうものを古典と呼びます)の一冊に集中的に取り組む、「読むこと」や「伝えること・表現すること」について理解を深める。

■講義方法

●「講義」形式だが、多くの授業のなかで「(映画を中心とする)映像資料」や「テキスト」を活用する。わたしは、楽しく学べるように準備をおこなうことを約束します。あなたは、「能動的・積極的に」授業に取り組むことを重視してほしい。

●テキストはときに、簡単に読めるものではないこともあるだろう。しかし、「文章を読む」のに役立つようにアドバイスするから、あなたにやる気さえあれば心配することはありません。この機会が「大学で求められる読書のトレーニング」にもなると思前向きに理解するといいたいだろう。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の復習やテキストの自習(予習・復習を含む)が求められる機会は少なくないだろう。

■成績評価の方法

平常点(50%) 積極的な授業参加、小テスト(確認テスト)、比較的短い論述(レポート)などで評価する

定期試験(50%)

■テキスト

ミル『自由論』 光文社 1,048円

J.S.ミルは1806年に生まれ1873年に死んだ。活動の時期からすれば、およそ150~200年前のひとです。しかし、たんに昔の有名人というのではなく、「これまでの自由な社会」の基礎となる考えのいくつかを示し、「これからの自由な社会」を開く力にもなるひとだと言えます。

この『自由論』の読書を通して、あなたは、「個人と社会はどうかかわるのが正しいか」、「自分の意見を持ちそれを表明する自由や少数意見が聞かれるということは、わたしの人生にとって、また、人間の社会にとって、どのようなものか」、「個性の発展は、わたしの人生にとって、また、人間の社会にとって、どのようなものか」、「他者に危害を与える行為と自分自身を害する(本人のためにならない)行為は、おなじように規制されてよいのか」など、さまざまに徹底的に考えるきっかけをもつだろう。

■参考文献

授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

●わたしが担当する倫理学入門は、2014年度も、三種類あります(水曜日3時限・前期、水曜日4時限・前期、水曜日5時限・後期)。毎年、どの授業も、参加者が多数になり、多人数授業だから「講義中心」になります。しかし、わたしは学生が「倫理に関して自分(たち)で考えること」を重視するから、学生が「自分で考える、そしてその思考を表現する」きっかけになる工夫に力を入れます。

●あなたは上記の(三種の)倫理学入門の「どれかひとつだけに」登録することができます。曜日・時間だけでなく「内容」や「授業の進め方」も異なる部分があるように授業計画するから、ぜひ「内容や進め方を理解し」、あなたが「積極的に」授業参加したいと思うものを選んで登録してほしいと思います。また、曜日・時間により受講者数が大きく異なることはありうるから、「平常点の評価法」や「試験の持込条件」もそれに応じて異なることはありえます。詳しくは初回授業で説明します。

●継続的で、積極的な授業参加を望みます。ただ毎回座っていればそれだけで単位がとれて当然だとか、授業中の私語など厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生は、この授業に合わないと思います。その点では厳しい授業です。とはいえ、上記のことが守られれば、基本的に、親しみやすく、(知的に)楽しく学べる、ていねいな授業でありたいと思っています。

■講義計画

①ガイダンス

②~③(映画などの)映像資料を用いて、「自由」について考える

④~⑤テキストを用いて「自由」について考えることを始める

⑥「思想と表現の自由」について整理する

⑦~⑧(映画などの)映像資料とテキストを用いて、「自由」や「個人とコミュニティ」について考える

⑨~⑩「異なるものの共生」、「多数決が重視されるデモクラシーの特長と問題点」について理解を深める

⑪テキストを用いて「人間の進歩と倫理」について考える

⑫~⑬(映画などの)映像資料とテキストを用いて、「友」、「自由」、「倫理」などについてよく考える

⑭~⑮授業で取り上げた範囲であなたがもっとも関心のある「自由や倫理の問題」について徹底的に考えよう

※以上、順不同

歴史入門

【担当】佐野 東生

【開講】後期 金2

■サブタイトル

西アジアの歴史と文化

■講義概要

西アジアは多様な民族・宗教・文化が交流する地域として長い歴史を有している。この講義では、史料を主体とした歴史学の基礎を理解した上で、古代から近現代に至る西アジア史について概観する。まず、古代オリエント文明を基としたギリシア・ペルシア文明のあり様について述べ、その後のヘレニズム文化の成立と仏教にも影響を与えた発展について理解を深める。次いで中世イスラーム世界の、アフリカからインド・中国にいたる大規模な交流について解説する。最後に、近現代史について西洋の進出とそれへの対応の視野から概観し、現代のグローバル化する世界の中でいかなる変貌を遂げているか考察する。

■到達目標

中東とも呼ばれる西アジア地域の現代の情勢を考察する上で、歴史的理解の必要性を認識すること。

■講義方法

講義形式で、日本語に訳された史料を配布し、講読する。ビデオなど視覚教材を適宜使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

配布された史料を批判的に評価できるように復習すること。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 質問票 (出席票にもなる) を数回提出。

小テスト (20%) 1 回実施する。

定期試験 (60%)

■テキスト

講義の際に講読する史料を適宜配布する。

■参考文献

前嶋信次 『イスラムの時代』 講談社学術文庫 1,365円

イブン・バットゥータ著・家島彦一訳注 『大旅行記』 平凡社東洋文庫 (全8巻) 3,150円

■履修上の注意・担当者からの一言

西アジア史に関する書籍は多いので、講義とともに読む習慣を身に着けてもらいたい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義中に指示

■講義計画

- ①歴史学の方法 1
- ②歴史学の方法 2
- ③古代の西アジア 1
- ④古代の西アジア 2
- ⑤古代の西アジア 3
- ⑥古代の西アジア 4
- ⑦中世イスラーム史 1
- ⑧中世イスラーム史 2
- ⑨中世イスラーム史 3
- ⑩近代 1
- ⑪近代 2
- ⑫現代 1
- ⑬現代 2
- ⑭現代 3
- ⑮まとめ

論理学入門

【担当】中谷 隆雄

【開講】前期 月3

■サブタイトル

練習して身につく論理学

■講義概要

講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまな形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。

■到達目標

弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか (辻褄があっているかどうか) を吟味する力を高めていく。

■講義方法

推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

評価は主として定期試験によって評価する。定期試験約80点 (80%)、平常点約20点 (20%)

■テキスト

飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂 2,000円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。

■講義計画

- ①論理とは何か
- ②推論の最小単位としての命題 (文)・命題を否定する語 (ない)
- ③命題と命題を結ぶ語 (そして)
- ④命題と命題を結ぶ語 (あるいは)
- ⑤命題と命題を結ぶ語 (ならば)
- ⑥命題と命題を結ぶ語 (双条件)
- ⑦常に真な命題; 表による判定
- ⑧常に真な命題; 図による判定
- ⑨推論の妥当性; 表による判定
- ⑩推論の妥当性; 図による判定 (その基本)
- ⑪推論の妥当性; 図による判定 (その応用)
- ⑫ルールによる推論の証明 (1) (そして)
- ⑬ルールによる推論の証明 (2) (ならば)
- ⑭ルールによる推論の証明 (3) (ない)
- ⑮総復習

■サブタイトル

練習して身につく論理学

■講義概要

講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまな形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には、長くて複雑なものもあるが、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときにも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。もちろん、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。

■到達目標

弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。

■講義方法

推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけでなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。

■授業時間外における予・復習等の指示

特に予習の必要はないが、復習は常に心がけ、不明な点は質問してほしい。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

主として定期試験によって評価する。定期試験約80点 (80%)、平常点約20点 (20%)

■テキスト

飯田賢一他著 『論理学の基礎』 昭和堂 2,000円

改定の予定があるので、テキストは後期になってから購入すること

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。

■講義計画

- ①論理とは何か
- ②推論の最小単位としての命題(文)・命題を否定する語(ない)
- ③命題と命題を結ぶ語(そして)
- ④命題と命題を結ぶ語(あるいは)
- ⑤命題と命題を結ぶ語(ならば)
- ⑥命題と命題を結ぶ語(双条件)
- ⑦常に真な命題；表による判定
- ⑧常に真な命題；図による判定
- ⑨推論の妥当性；表による判定
- ⑩推論の妥当性；図による判定(その基本)
- ⑪推論の妥当性；図による判定(その応用)
- ⑫ルールによる推論の証明(1)(そして)
- ⑬ルールによる推論の証明(2)(ならば)
- ⑭ルールによる推論の証明(3)(ない)総復習
- ⑮総復習

教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）

（総 合 科 目）

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時	ページ
ア	アジアの文化	徐 光輝	前期 木 4	97
	アジアの文化	松井 智子	後期 水 3	97
	アジアの文化	舟橋 健太	後期 木 4	98
オ	欧米の文化	嶋崎 陽一	前期 月 4	98
	欧米の文化	瀧口 順也	前期 金 2	99
	欧米の文化	サルズ・ジョーナ・I	後期 水 2	100
	欧米の文化	大槻 志郎	後期 水 3	101
カ	科学技術史	林 久夫	前期 月 1	102
	科学技術史	岩本 太郎	後期 月 3	103
	環境と人間 A	竺 文彦	前期 月 4	104
	環境と人間 A	小山 豊一	後期 月 4	104
	環境と人間 B	本多 真	前期 木 4	105
	環境と人間 B	鈴木 滋	後期 水 2	105
	環境と倫理	柿本 佳美	前期 木 4	106
キ	教養教育科目特別講義 A（里山学入門） ／共同開講科目特別講義	宮浦 富保／越川 博元／ 鈴木 龍也／須藤 明子／ 田中 滋／帖地 孝人／ 朴 炫国／丸山 徳次／ 山崎 英恵／遊磨 正秀 横田 岳人	前期 月 3	106
	教養教育科目特別講義 B （西洋近現代史入門）	福田 宏	前期 水 4	107
	教養教育科目特別講義 B （西洋近現代史入門）	福田 宏	後期 水 3	107
	教養教育科目特別講義 C （アジアの映画）	李 相哲	前期 月 1	108
	教養教育科目特別講義 D （アジアの歴史と社会）	野呂 靖／鍵和田 聖子／ 吉田 慈順	前期 月 3	108
	教養教育科目特別講義 D （アジアの歴史と社会）	野呂 靖／鍵和田 聖子／ 吉田 慈順	後期 月 3	109
	教養教育科目特別講義 E （アジアの途上国と社会開発）	佐藤 彰男	前期 木 3	109
	教養教育科目特別講義 F （現代社会と栄養）	土居 幸雄	前期 木 3	110
	教養教育科目特別講義 F （現代社会と栄養）	土居 幸雄	後期 月 1	110
	教養教育科目特別講義 G （雑草学）	古本 強	後期 木 3	111
ケ	健康とスポーツ	渡辺 英児	後期 月 1	111
	現代社会と宗教	辻 虎志	後期 月 2	112
	現代社会と宗教	辻 虎志	後期 月 3	112
	現代社会とスポーツ	辻 延浩	後期 月 4	113
	現代社会と福祉	岡野 英一	前期 木 3	114
	現代社会とマス・メディア	中野 有	前期 木 4	114
	現代社会とマス・メディア	中野 有	後期 木 4	115
	現代社会とマス・メディア	西村 敏雄	後期 水 2	115
	現代の技術	小川 圭二／長澤 佳克	後期 月 3	116
コ	国際社会と日本 A	池尾 靖志	後期 水 1	117
	国際社会と日本 B	佐藤 一進	前期 水 1	117
	国際社会と日本 C	川村 覚文	前期 金 2	118

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時	ページ
シ	ジェンダー論	堀江 有里	前期 火 5	118
	ジェンダー論	堀江 有里	後期 火 5	119
	ジェンダー論	高橋 慎一	後期 金 5	119
	自然観察法	宮浦 富保／遊磨 正秀	前期 金 2	120
	情報社会とメディア	外村 佳伸／三浦 雅展	前期 月 3	120
	情報社会とメディア	外村 佳伸／三浦 雅展	後期 木 3	121
	情報と人間	植村 渉	後期 木 3	121
	情報倫理	野村 竜也／芝原 努	前期 月 4	122
	人権論 A	稲田 七海	前期 月 2	122
	人権論 A	中川 ユリ子	前期 月 2	123
	人権論 A	稲田 七海	前期 月 3	123
	人権論 A	中川 ユリ子	前期 月 3	124
	人権論 A	岸 衛	前期 水 3	124
	人権論 A	金 光敏	前期 水 3	125
	人権論 A	金 光敏	前期 水 4	125
	人権論 A	矢野 亮	前期 木 3	126
	人権論 B	稲田 七海	後期 月 2	126
	人権論 B	中川 ユリ子	後期 月 2	127
	人権論 B	稲田 七海	後期 月 3	127
ス	人権論 B	中川 ユリ子	後期 月 3	128
	人権論 B	金 光敏	後期 水 3	128
	人権論 B	岸 衛	後期 水 3	129
セ	人権論 B	金 光敏	後期 水 4	129
	人権論 B	矢野 亮	後期 木 3	130
	スポーツ文化論	久保 和之	前期 水 2	130
タ	世界の福祉	太谷 亜由美	前期 水 3	131
	生活の中の宗教	辻 虎志	前期 月 2	131
	生活の中の宗教	辻 虎志	前期 月 3	132
	生命と共生	田村 公江	前期 木 3	132
	生命と共生	柿本 佳美	後期 木 3	133
ニ	歎異抄の思想 I	殿内 恒	前期 水 2	134
	歎異抄の思想 II	殿内 恒	後期 水 2	134
	日本の文化	泉 文明	前期 月 3	135
ヘ	日本の文化	泉 文明	前期 木 5	135
	日本の文化	泉 文明	後期 木 5	136
	人間と社会と法	時本 義昭	前期 木 4	136
メ	平和学入門	清水 耕介	前期 月 2	137
	平和学入門	宮崎 寛	後期 木 3	137
	メディアにみる福祉	高田 敏司	後期 木 5	138
メ	メディアにみる福祉	幸重 忠孝	後期 木 3	138

教養教育科目
共同開講（共通）
総合科目

アジアの文化

【担当】 徐 光輝

【開講】 前期 木4

■サブタイトル

中国歴史文化概説

■講義概要

考古学発掘調査によれば、中国文明のあけぼのは遅くとも5000年前の新石器時代後期にさかのぼる。畑作や水田稲作に代表される農耕文化の発展に伴って、各地に城郭都市の原型が現われ、地域初期国家の胎動が注目を浴びており、従来疑われてきた「三皇五帝」などの文献資料の虚実が再検討されるようになった。

このような先史文明を土台に、夏・商（殷）・周のような古代国家が各地で興亡を繰り返し、春秋戦国時代を経て、秦漢帝国が登場した。とりわけ城郭都市、文字、百家思想、金属器（青銅器、鉄器）文化、郡県制度が注目される。

後漢末に起きた「黄巾の乱」を経て、魏、蜀、呉といった三国時代に入るが、西晋王朝によって再び統一された。南北朝時代の民族大融合のなかで、地域文化交流が活発になり、絢爛たる六朝文化、北朝文化が栄え、朝鮮半島や日本列島との文化交流を裏付ける考古発見も多い。

隋唐時代には東西文化交流が更に盛んになり、科学技術、経済、文化、芸術などの分野において大きく発達した。朝鮮半島や日本列島との文化交流も頻繁に行われた。

■到達目標

隋唐時代に至る中国歴史文化の主な流れを知り、また朝鮮半島や日本列島との比較研究の一助になってほしい。

■講義方法

時代順に概説するが、パワーポイント、ビデオなどによる映像資料を常に使う。

■系統的履修

アジアの歴史文化に関する科目を多く履修してほしい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席率や受講態度等を重視する

小テスト（20%）点数により評価する

レポート（20%）内容により評価する

定期試験（50%）点数により評価する

■テキスト

特になし

■参考文献

尾形勇・岸本美緒編 『中国史（新版世界各国史3）』 山川出版社 1998 3,500円

小澤正人・谷豊信・西江清高著 『中国の考古学（世界の考古学7）』 同成社 1999 3,200円

■講義計画

- ①はじめに
- ②中国文明のあけぼの（黄河流域）
- ③中国文明のあけぼの（長江、淮河流域）
- ④中国文明のあけぼの（西遼河流域）
- ⑤考古学上の夏王朝、夏文化の実体
- ⑥殷周王朝と都城遺跡の考古発見
- ⑦春秋戦国時代の百家思想
- ⑧秦の統一と始皇帝陵の考古発見
- ⑨漢王朝と長安城、洛陽城の考古発見
- ⑩魏晋王朝と陳寿の『魏志倭人伝』
- ⑪南北朝時代の民族大融合
- ⑫宗教文化の発展と伝播
- ⑬隋唐帝国の成立と繁栄
- ⑭隋唐時代の文化交流
- ⑮まとめ

アジアの文化

【担当】 松井 智子

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

タイの社会と文化

■講義概要

この授業では、東南アジア社会、とりわけタイの社会と文化について学ぶ。授業の前半では、東南アジア社会を理解するための基礎的な概念を解説する。「海域世界」、「開拓社会」などがキーワードとなる。授業の後半では、東南アジア社会、とりわけタイ社会の現代的課題を取り上げ、理解を深める。具体的には、都市下層に生きる人々の生活世界や、山地民族女性の表象といった問題を取り上げる。現代タイ社会の理解を深めるため映像資料も用いる。ゲストスピーカーによる講義も予定している。

■到達目標

東南アジア社会、とりわけタイの社会と文化を捉えるための基礎的な概念を理解する。その上で、具体的な現代的課題を検討することによって、文化と権力という問題について考える。東南アジア、特にタイの社会と文化を多面的に学ぶことによって、アジアの社会に対するステレオタイプにとらわれない公平な見方ができるようになることを目指す。

■講義方法

ハンドアウトを用いた講義形式で行う。映像資料等も使用する。ゲストスピーカーによる講演も予定している。

■授業時間外における予・復習等の指示

初回授業時に指示する。

■成績評価の方法

平常点（30%）

小テスト（30%）

定期試験（40%）

■テキスト

初回授業時に指示する。

■参考文献

坪内良博編 『東南アジアの社会』 弘文堂

初回授業時に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

無遅刻・無欠席が原則です。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②東南アジアの社会と文化（1）
- ③東南アジアの社会と文化（2）
- ④東南アジアの社会と文化（3）
- ⑤東南アジアの社会と文化（4）
- ⑥タイの都市化と社会変容（1）
- ⑦タイの都市化と社会変容（2）
- ⑧タイの都市化と社会変容（3）
- ⑨これまでのまとめ・中間テスト
- ⑩国際比較の視点①
- ⑪タイのエスニシティとジェンダー（1）
- ⑫タイのエスニシティとジェンダー（2）
- ⑬国際比較の視点②
- ⑭タイのエスニシティとジェンダー（3）
- ⑮まとめ

アジアの文化

【担当】 舟橋 健太

【開講】 後期 木4

■サブタイトル

南アジアの宗教と文化

■講義概要

南アジア社会に暮らす人びとにとって、「宗教」は生活の中心に位置するきわめて重要なものである。本講義においては、インドを中心とした南アジア社会を対象に、人びとの暮らしの軸にある宗教、ならびに、背景となる当該地域の文化について、映像や画像を多用しつつ、特に人びとの日々の生活の様相に重点を置いた講義を行っていく。そこには、日本における宗教をめぐる風景とはまた異なる地平が広がっている。

■到達目標

南アジア地域社会、またその宗教と文化ならびにそこに住まう人びとについて学び考察することから、「異文化」を理解すること、さらには了解することの必要性和重要性について認識し、「他者」と接する際の視角のありようについて、受講生が自省的に思考することを目標とする。

■講義方法

基本的に講義形式で行うが、受講生の人数や希望に応じて、受講生の発表の場や、ディスカッションの場を設けていく。

■系統的履修

文化人類学

■授業時間外における予・復習等の指示

各自で諸媒体を有効に用いて、毎回の授業のテーマについて振り返るとともに、次回テーマについて予備的知識を得ておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 出席、ならびにコメントを含めた授業への参加の度合いを考慮する。

定期試験 (70%) 論述形式で行う。詳細は授業において通達する。出席 (原則として無遅刻・無欠席)、ならびに、質疑や討議といった面での積極的な参加を高く評価する。

■テキスト

特にテキストは指定しないが、必要に応じて、適宜資料を配布する。

■参考文献

辛島昇他 (監修) 『新版 南アジアを知る事典』平凡社 9,450円

田中雅一・田辺明生 (編) 『南アジア社会を学ぶ人のために』

世界思想社 2,520円

その他、講義ごとに、テーマに沿った参考文献を提示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

南アジア社会 (あるいは「異文化」というもの) への関心を有する方々の受講、ならびに、質疑・討議という点からの講義への積極的な参加を期待します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

基本的に、電子メール (アドレス: kfunama43@ybb.ne.jp) でのコンタクトとする。

■講義計画

- ① ガイダンス、イントロダクション
- ② 南アジア社会概説 「宗教」とは何か
- ③ 南アジアの歴史～古代から近世～
- ④ 南アジアの歴史～近代から現代～
- ⑤ ヒンドゥー教①
- ⑥ ヒンドゥー教②
- ⑦ イスラーム①
- ⑧ イスラーム②
- ⑨ コミュナリズム
- ⑩ シク教、ジャイナ教
- ⑪ 仏教
- ⑫ キリスト教、その他の宗教
- ⑬ 儀礼と祭礼 人びとの暮らしと宗教
- ⑭ 現代社会における宗教
- ⑮ 多宗教社会に生きる

欧米の文化

【担当】 嶋崎 陽一

【開講】 前期 月4

■サブタイトル

20世紀芸術の歴史をふりかえる

■講義概要

19世紀の後半から20世紀にかけて、西欧世界の芸術には数々の傑作が生み出された。それらの作品は、さまざまな先端的思想を反映しつつ、私たちの感性を革新し、日常生活のなかでの事物の見方すら変えてしまいかねないほどの大きなインパクトをいまだに与え続けている。本講義では、20世紀を彩ったさまざまな芸術作品 (とくに美術)、文化現象を、フランスを中心に歴史的にふりかえりながら、そうした芸術作品への理解を深めるための手がかりを提示していく。

■到達目標

「ゲンダイゲイジュツは難解だ」「よく分からない」といわれがちな20世紀の芸術、文化をもっと身近に楽しむための入門を提供したい。

■講義方法

絵画写真、ビデオ、CDなどさまざまな教材を使って講義形式ですすめる。

■授業時間外における予・復習等の指示

自らも積極的に絵画や音楽・建築といった芸術作品に触れる機会を持っていたきたい。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 出席による。

定期試験 (80%) 論述式の試験を課す。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ① イントロダクション：常識のウソと芸術のヴィヴィッドな関係
- ② モダン・アートの誕生 (印象派・後期印象派)
- ③ マルセル・デュシャン
- ④ ジャクソン・ポロックとアクション・ペインティング
- ⑤ アンディ・ウォーホルとポップ・アート
- ⑥ 絵画におけるミニマリズム
- ⑦ 音楽におけるミニマリズム
- ⑧ コンセプチュアル・アート
- ⑨ ジョン・ケージ
- ⑩ パフォーマンス
- ⑪ 森村泰昌
- ⑫ まとめ

■サブタイトル

文化を学ぶまなざし－西洋文化史

■講義概要

本講義は、「文化史」というアプローチを用いて欧・米および日本のさまざまな文化の成り立ちと変容を考察します。現在のわれわれが日常で経験・体験している行為の多くは、近現代に誕生し異文化との接触や異なる地域に伝播されるなかで変化を遂げてきました。

本講義が扱う「文化」の領域は、物質文化、芸術文化、身体文化、日常文化と、きわめて幅広いものです。

普段の生活で何気なく接している行為や言葉にも、由来があり歴史があります。講義で扱う事例の多くは欧・米圏のものですが、それらの多くは日本の文化様式にも影響及ぼしています。それぞれのキーワードとトピックを軸に、われわれの現在への理解を深め、これからを考えるための手掛かりとして、文化の歴史を紐解く試みです。

■到達目標

1. 「文化史」の視点や方法論への理解を深める。
2. 21世紀の現代に行われている様々な文化様式の変遷を知り、現代文化を洞察する見識を養う。
3. 欧・米圏と日本の文化接触への知見を深め、日本文化への理解を促進させる。

■講義方法

パワーポイントを用いて講義を進める。適宜プリントを配布する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に多くの参考文献や映像資料を紹介しします。ひとつでも多くの本や映画・ドキュメンタリーなどに触れ、歴史を体感するように心掛けて下さい。

■成績評価の方法

- 平常点 (10%)
- レポート (30%) 学期中のレポート
- その他 (60%) 学期末レポート
- 二度 (中間・学期末) のレポートにより評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

ピーター・バーク 『文化史とは何か』 法政大学出版局
個別のトピックについては、講義内で随時紹介します。「文化史」への総体的な理解を深めるものとして、上記の文献を挙げておきます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

第一回講義時に指示します。

■講義計画

- ① イントロダクション：「文化史」というアプローチ
- ② 食物と消費文化Ⅰ：砂糖
- ③ 食物と消費文化Ⅱ：塩
- ④ スポーツと現代文化Ⅰ：フットボール
- ⑤ スポーツと現代文化Ⅱ：ボクシング
- ⑥ スポーツと現代文化Ⅲ：オリンピック
- ⑦ 儀礼と国家Ⅰ：権力の表象
- ⑧ 儀礼と国家Ⅱ：「全体主義国家」と儀礼
- ⑨ 集合的記憶Ⅰ：「未来予想図」とベル・エポック
- ⑩ 集合的記憶Ⅱ：オスタルギーと昭和ノスタルジー
- ⑪ 集合的記憶Ⅲ：ノスタルジーの克服
- ⑫ 音楽と文化Ⅰ：クラシックの時代
- ⑬ 音楽と文化Ⅱ：20世紀音楽史
- ⑭ テキストと身体：書物と出版、監視と規律
- ⑮ まとめ：文化の歴史と現代文化

■サブタイトル

映画で見るアメリカの現代社会 Contemporary American Society through Film

■講義概要

アメリカ映画はその初期から大衆芸術としてあり、劇的な場面や生き生きとした見せ場を通して、同時代のさまざまな問題に取り組んできた。なかには議論を呼ぶような深いテーマを扱う映画もあり、それらは重要な文化的アイコンとなったり、各世代のアイデンティティや心性を探るための窓となっているものもある。

この講義は、映画を通して1980年代以降のアメリカの主要な社会問題について議論することを目的とする。具体的には、人種差別や「アメリカン・ドリーム」という根強い神話、フロンティアの開拓者たち、青年セクスと暴力、孤高の人物やアウトサイダーたち、資本主義の危機に関する問題である。これらの映画は、同時代の社会問題をどの程度正確に反映しているのだろうか？そして、これらの映画が与えた影響は、アメリカ人の自己へのまなざしや世界の見方をどのように変えたのだろうか？

■到達目標

この講義では、過去30年間にアメリカで生じた社会的・政治的な問題を取り上げる。

■講義方法

毎週、まず有名なハリウッド映画又テレビ番組（英語版、日本語字幕付き）を1本取り上げて、その物語の戦略と問題点を紹介する。次に、映画の受容とその影響について議論する。その後、授業内にその映画を鑑賞して、感想の意見交換する。授業で鑑賞する作品の多くは、映画の道を切り開いてきたものである。たとえば、物語の構成方法は、暗示的なメッセージと同様に影響を及ぼしている。講義では、こうした先駆的な映画制作のテクニックを論じていく。

■系統的履修

アメリカの社会と政治文化、メディア共通テーマを探る。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義での映画の関連、延長線として他のアメリカの映画たくさん鑑賞する事。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 参加程度

小テスト (30%) 感想レポート (毎週の課題)

レポート (20%) 作品の比較分析レポート (授業で見た映画以外のアメリカ映画の文化としての分析)

定期試験 (30%) 授業で見た映画の内容について又はエッセイ

レポートでは、授業中に鑑賞した映画作品以外のアメリカの作品を感想、「アメリカの文化のメッセージ」を探る剽窃と判明した際、0点にする。

■テキスト

なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。

■参考文献

井上 一馬 『ブラック・ムービー—アメリカ映画と黒人社会 (講談社現代新書)』 (新書)

八尋 春海 『映画の中の星条旗—厳選映画100本で見る現代アメリカ社会 by』

鈴木 透 『性と暴力のアメリカ—理念先行国家の矛盾と苦悶』 中央公論新社

図書館、Tsutayaなどで現代のアメリカ (他の国も道論!) 文化を描いている映画沢山みてみましょう。

■履修上の注意・担当者からの一言

なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、遅刻、欠席の場合でも作品全体を各自で視聴することが望ましい。授業での作品はすべて英語で (字幕付け) ですが、英語を聞き取れない場合各自で振替版を又見に来なさい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

jonahATworld.ryukoku.ac.jp

■講義計画

①映像の基本の見方

アメリカ社会の最近20年

②『Gran Torino』『グラン トリノ』

③『Gran Torino』『グラン トリノ』

④『Gran Torino』『グラン トリノ』

⑤『The Simpsons』 1 テレビと暴力

⑥『Bowling for Columbine』『ボウリングフォー・コロンバイン』: アメリカの銃への欲望

⑦『Bowling for Columbine』

⑧『Bowling for Columbine』

⑨『Juno』 ー 少女妊娠コメディ

⑩『Juno』

⑪『Juno』

⑫『The Simpsons』『ザ・シンプソンズ』 2 日本のイメージ

⑬『真実の噂: Wag the Dog』

⑭『真実の噂: Wag the Dog』

⑮まとめ

■サブタイトル

テーマで斬る欧米文化

■講義概要

「文化を学ぶ」ということの意味は必ずしも明確ではない。したがって文化についての講義も、文化研究の最先端に触れるものから、観光ガイドに近いものまで、その振幅は広い。この講義は、特定の国や地域に限定せず、広く欧米文化を理解するためのテーマをいくつか設定して考察しながら、欧米を考え直す機会を提供しようとするものである。その際、歴史をはじめ、世界の状況に関する基本的な知識が土台となるが、そうした知識は日本の教育からしばしば欠落しているのが現状である。したがってこの講義では、時間の制約はあるものの、基本的な事項についても簡単な解説をする他、小テスト、課題などで補強的な学習を求めたい。

■到達目標

未知の世界としての異文化を、単純化せず、固定観念を持たずに、さまざまな角度、視点から考察する態度を養う。

欧米についての基礎知識をより多く身につける。

■講義方法

授業計画に基づく講義。出欠の確認も兼ねて、毎回講義の最初に、欧米の基礎知識についての小テスト、終わりに講義についての簡単なコメントを書いてもらう。課題として特定の問題について調べてもらうことがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

とくに最初の西洋史通史の段階では、たとえば参考文献などを講義の前後によく読んで、西洋史についての基礎知識を身に付けておくことが望ましい。また講義中いろいろ新しい概念、用語などを示すので、なるべくその日のうちに内容を思い起こして自分なりに整理しておくことよい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 小テスト、講義末に書いてもらうコメント、他の課題の提出と内容。

定期試験 (60%) 講義内容を理解できているかどうかについて、選択問題、論述などの筆記試験。小テストから一部出題。

試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として定期試験の受験資格を失うものとし、したがって単位も認められないことになる。

■テキスト

特になし

■参考文献

綿引弘『一番大切なことがわかる「世界史」の本』三笠書房(知的生きかた文庫) 619円

講義内容の土台となる西洋史の知識をサポートする副読本として好適。西洋史の基礎知識が不足としている場合は、講義前に一度通読し、講義期間中も折にふれて読むことが望ましい。

その他文献も講義中に紹介。

■履修上の注意・担当者からの一言

欧米の文化をもっと知りたい、理解したいという意欲ある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い講義をめざす。したがって楽に単位が取ればいいだけの人には向かない。しっかり話を聞いて、未知の内容はちゃんと学び、問題を掘り下げるつもりでいろいろ考えてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

水曜または金曜 4 講時。但しいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、e-Learning サイトを開設予定。

■講義計画

①「欧米」の誕生 (西洋史通史1)

②「欧米」の誕生 (西洋史通史2)

③聖書と神話

④時間をめぐる話

⑤移動としての歴史

⑥土地と家族の問題

⑦階級

⑧理性と野性、文明と自然

⑨風土と文化

⑩言語の歴史、言葉の重さ

⑪言葉、シンボル、数字

⑫人間主義

⑬個人主義

⑭個人主義と名前

⑮総合

* 以上は、講義項目のおおまかな流れを示したもので、必ずしも回数毎の内容ではない。

■サブタイトル

将来の科学技術を客観的に考えるために

■講義概要

20世紀は科学技術の時代と言われた。石炭・石油をエネルギー源として、18世紀から産業革命が始まり、高度な物質文明を築き上げてきた。しかし、同時にこのことが、地球環境問題を引き起こしている。石器時代から人類は道具を作り始めたが、ギリシア時代にものや現象に対する科学的な思考を始め、中世を経て近代の科学技術を基礎とした社会を作り上げてきたと言える。本講では、ギリシア・ローマ時代の科学技術、アラビアの科学、中世の錬金術、12世紀ルネサンス、産業革命以降の近代科学技術の発展について概観する。また、とくに天文学、物理学の分野においては宇宙観や力学の変遷に、化学・生物学の分野においてはエネルギー観や物質観の変遷に着目し、これらの分野における先駆者たちの発見のきっかけや思考過程について、科学者たちのエピソードなども交えて解説する。この講義を受講することによって、現在私たちが教育によって当然と考えている科学の基本的な概念の成り立ちを理解し、今後の科学技術の発展に対して客観的な判断が下せるようになることを期待する。

■到達目標

科学技術の発展を5つ程度の時代に分け、それぞれの発達した地域・国家を説明できる。

各時代の科学技術の特性を、それぞれ3人程度の科学哲学者の業績と関連付けて説明できる。

各時代の科学技術の相互関係を、経済的・政治的・宗教的背景と関連付けて説明できる。

■講義方法

プリント、DVD、PowerPointなどの視覚的教材を活用しながら、視覚に訴え、興味の持てる授業にしたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

配布資料のPowerPointなどの視覚的教材は未完成なので、授

業中に完成させたものを用いて予習と復習を行うこと。推薦・指定DVDなどは、締め切り間際には混雑するので、時間の余裕を持って視聴すること。

■成績評価の方法

小テスト (40%)

定期試験 (30%)

その他 (30%) 中間試験

■テキスト

特になし

■参考文献

渋谷一夫ら『科学史概論』ムイスリ出版 2,400円

八杉龍一『図解 科学の歴史』東京教学社 2,000円

伊東俊太郎『近代科学の源流』中央公論新社 1,050円

伊東俊太郎『十二世紀ルネサンス』講談社学術文庫 1,050円

■講義計画

①環境問題と科学技術

②ギリシアの宇宙観

③ギリシアの物質観

④ローマの科学技術

⑤アラビアの科学

⑥中世の科学技術

⑦ガリレオ、デカルト、ニュートン

⑧中間試験と解説

⑨錬金術と元素観

⑩フロギストン仮説の崩壊

⑪原子論の復活

⑫永久機関への夢

⑬産業革命と熱機関

⑭近代科学技術

⑮持続可能な社会のための科学技術と技術者倫理

■講義概要

現在の科学や技術は過去の長い期間にわたる真理の追及や技術改良の限らない努力の上に成り立っている。科学技術の発展の歴史を学ぶことは、現代の科学技術をより深く理解し、次への発展の手掛りを得ることにつながる。たとえば、製鉄の技術は文明の発展に寄与した。蒸気機関の発明は産業革命を推進し、近代文明への発展のきっかけを作った。現代の便利な社会はコンピュータの発明の恩恵を多大に受けていることは言うまでもない。数多くの技術が相互に影響を与えながら発展してきたのであるが、時系列的に見て科学技術の発展に大きな影響を与えた要素を大づかみする一方、個々の技術について注目し、その技術の発展について論述する。科学技術史は人と時と技術で構成されている。この講義では技術の内容に立ち入り、それがどう変わっていったのかを中心に、それに関わった人のエピソードを交えながら話をしたい。私の専門の関係から、内容が機械に偏ると思われるが、その点はお容赦願いたい。

■到達目標

社会に大きな変革を及ぼした主要な科学技術について説明ができ、その技術内容のポイントについてもある程度説明ができる。

■講義方法

見せたい写真や図があるので、パワーポイントを主体的に使用する。パワーポイントなので全てをメモすることはできないが、キーワードや主要点はメモすることが望ましい。出席の確認を兼ね、毎回の授業の終了時点で小問題の解答用紙を提出してもらい、その得点の合計を平常点とする。

■系統的履修

直接関連する科目は無いが、時代背景を理解するために世界史/日本史をおさらいしておくことが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習の手がかりとして年表を配布する。講義の後、当日の講義内容の要点をまとめておくこと。興味のある点、さらに詳しく知りたい点についてはインターネットや図書館で調べておくこと。このようにして作成したノートが学習の成果になる。

■成績評価の方法

小テスト（60％）出席確認と学習効果の把握を兼ねる。小テストの評価は合計して評価に用いる。
レポート（40％）学習が進んだ段階で、課題を出す。オリジナリティを重視し、他人のコピーは人数分の1にする。

■テキスト

特になし

■参考文献

山崎正勝他 『科学技術史概論』 ムイスリ出版 1,995円
中山秀太郎 『機械発達史』 大河出版 2,100円
三津間秀彦他 『新・機械技術史』 日本機械学会 2,800円
L・T・C・ロルト著、磯田浩訳 『工作機械の歴史』 平凡社 3,600円

ここに書ききれないが、参考図書はたくさんあり、記述内容もさまざまである。気に入ったものを探して読んでみるとよい。

■履修上の注意・担当者からの一言

講義は落語ではない。受け身でなく、自ら知識を学び取っていく姿勢で臨むこと。授業中の私語は周囲の学生や教員に迷惑をかける。厳に慎んでもらいたい。疑問点があれば授業中あるいは授業後に聞くこと。ただ漫然と聞き流すことなく、重要な点はノートに書き留めておくこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは定めないが、基本的に在室時は質問等に応じる。1号館315号室の扉に私の予定表を掲げている。参考図書を試読したいときは申し出ること。

■講義計画

- ①科学技術史総論（古代）
- ②科学技術史総論（中世）
- ③科学技術史総論（近世）
- ④科学技術史総論（近代）
- ⑤科学技術史総論（現代）
- ⑥製鉄の歴史
- ⑦紡績・織布産業の歴史
- ⑧工作機械の歴史
- ⑨動力の歴史
- ⑩蒸気機関車の歴史（世界）
- ⑪蒸気機関車の歴史（日本）
- ⑫日本の鉄道の歴史
- ⑬自動車の歴史
- ⑭電気の歴史
- ⑮計算機の歴史

環境と人間A

【担当】 竺 文彦

【開講】 前期 月4

■サブタイトル

環境をいかに学び、いかに対処するか。

■講義概要

かつては、公害問題が環境問題であったが、公害問題については、法的な対応や行政的な対応によって、一応社会的には対応がなされたといえる。しかし、その後、ダイオキシン問題などの微量汚染物質が問題となったり、地球温暖化というような社会のエネルギーの使用を根本的に考え直さなければならぬような大きな環境問題が出現してきている。これらのさまざまな環境問題の実態について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて、説明する。

■到達目標

さまざまな環境問題を理解し、基本的な考え方を確立する。

■講義方法

テキストおよびパワーポイント等を使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストを用いるので、テキストによる予習、復習を行うこと。

■成績評価の方法

定期試験（100％）

■テキスト

石川宗孝 『環境読本』 電気書院 2,500円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

広く世界の環境の問題に目を向けてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室を訪問してほしい。

■講義計画

- ①環境と社会づくり
- ②大気、水圏、土壌、森林
- ③地球温暖化、オゾン層
- ④酸性雨、森林破壊、砂漠化
- ⑤大気汚染
- ⑥水質汚濁
- ⑦廃棄物
- ⑧大気汚染防止技術
- ⑨水質汚濁防止技術
- ⑩化学物質、車社会
- ⑪温暖化、エネルギー
- ⑫CSR
- ⑬環境マネジメント、環境会計
- ⑭グリーン購入、LCA
- ⑮生活と環境

環境と人間A

【担当】 小山 豊一

【開講】 後期 月4

■サブタイトル

環境を学び、いかに対処するか。

■講義概要

今日の環境問題は、多くの分野を内包するため、多方面から複雑に絡み合う事象の一つ一つをたぐり寄せて全体像をとらえる必要に迫られている。また、水質汚濁、大気汚染、森林破壊など地球規模で起こっている地球環境問題の実態について知識を深め、今後どのように対処していかなければならないかについて説明する。

■到達目標

さまざまな環境問題を理解し、基礎的な考え方を学ぶ。

■講義方法

テキスト、補足資料およびパワーポイントを使用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストを用いるのでテキストによる予習を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（50％）出席・質問等

レポート（50％）期末に、与えられたレポートを提出

■テキスト

石川宗孝 『環境読本』 電気書院 2,500円

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時間前後の直接連絡

■講義計画

- ①環境問題と社会づくり
- ②基本的環境論
- ③地球環境問題その1
- ④地球環境問題その2
- ⑤日本の環境問題その1
- ⑥日本の環境問題その2
- ⑦日本の環境問題その3
- ⑧環境問題と具体的対策その1
- ⑨環境問題と具体的対策その2
- ⑩環境問題と具体的対策その3
- ⑪環境問題と具体的対策その4
- ⑫環境と企業その1
- ⑬環境と企業その2
- ⑭生活と環境
- ⑮まとめ、レポートの提出

環境と人間B

【担当】本多 真

【開講】前期 木4

■講義概要

標題にある「環境」や「人間」といった表現は、近代以降に現在のような用いられ方がなされるようになったもので、それは世界を客観的に理解しようという営みの中で生まれました。それまで人々は、自分の置かれた環境について、その性質や特徴あるいは将来を正確に把握することは困難でした。つまり、近代という時代は、わたしたちに新しい世界観をもたらしたといえます。では、新しい世界観とは具体的にどのようなものだったのでしょうか。

この講義では、歴史的に大きな変化をもたらした近代・現代に焦点を当てながら、私たちが住もう世界の特徴、それから問題点を探ってゆきます。とりわけ注目するのは、人と人のかかわりについてです。時代の変化によって人と人のかかわり方が大きく変化し、社会問題も複雑化しました。

講義では映像資料などを用いて社会に備わる様々な問題をみてゆきます。受講生にはそれぞれの研究テーマに沿って本講義を受講することが求められます。

■到達目標

この講義では、受講生一人一人が「考える」ことを目標とします。

■講義方法

配布資料のほか、動画などを用いて講義をおこないます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に紹介した文献に目を通し、内容を復習すること。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 出席、平常点
小テスト (20%) 加点、自由課題
レポート (50%) 内容+提出期限厳守

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①はじめに
- ②農耕社会
- ③近代社会
- ④西洋／非西洋
- ⑤人と人－お金をめぐる問題
- ⑥人と人－利益をめぐる問題
- ⑦人と人－性差をめぐる問題
- ⑧人と自然－環境問題①
- ⑨人と自然－環境問題②
- ⑩人と自然－環境問題③
- ⑪「権力」をめぐる考察
- ⑫「生命」をめぐる考察
- ⑬「つながり」をめぐる考察
- ⑭現代をどう生きてゆくか
- ⑮まとめ

環境と人間B

【担当】鈴木 滋

【開講】後期 水2

■サブタイトル

自然と人間の関係の人類史

■講義概要

環境問題に関心のある学生は多いが、人間が自然環境に依存して生きていくとはどういうことか、具体的な理解はごくかざられている。この授業では、生態人類学的な視点を中心に、ヒトという動物の特徴を、人類進化史から抽出し、人間と環境の基本的な関係を概観する。ヒトと霊長類の比較や、人類史の99%以上を占める狩猟採集生活についての研究成果をもとに、人間の環境利用の特徴を検討する。そして、狩猟採集や農耕などの生業活動が自然環境にもたらした影響を、進化史のかつ人類学的に考察する。また、人口増加や農耕と森林をめぐる問題を中心として、ヒトによる持続的な環境の利用のあり方を検討する。この授業で扱う環境とは、森林や動物などの自然をおもに対象としており、地球環境問題についての授業ではない。

■到達目標

環境問題の根源として、ヒトという生物の特徴と時代や生業や環境との関連を見渡す視点。

有史以前の人類と環境のかかわりの基本論点を説明できる。

■講義方法

パワーポイントのスライドで資料を提示しながら講義をする。ビデオも利用し、スライド資料はWEBで公開する。情報メディアセンターの携帯による出欠確認システムを利用予定。授業時間中に小テストを実施し、また宿題レポートの提出をもとめる。

■系統的履修

環境と倫理、環境と人間A

■授業時間外における予・復習等の指示

授業スライドの資料をダウンロードして予復習に活用すること。わからなかった用語・事項などをウェブや文献で調べること。

■成績評価の方法

平常点 (10%) 携帯出欠確認システムによる質問や意見
小テスト (40%) 授業時間中の小テスト
レポート (50%) 授業期間中に提出する課題レポート

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

この授業をきっかけに、人間と自然に対する根本的な興味をもってもらいたい。そのために、自分で調べ、考えるレポートなどの課題を重視する。よって簡単に単位をとりたい学生には向いていない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

木曜昼休み（メールでその他の日程を調整可）

■講義計画

- ①人類学からみる環境の視点
- ②霊長類の多様性とヒト
- ③人類の進化と環境（宿題レポート課題）
- ④ヒト化と出アフリカ
- ⑤新人の起源と世界進出
- ⑥人種と環境
- ⑦狩猟採集生活 1
- ⑧狩猟採集生活 2
- ⑨農耕の起源と帰結
- ⑩中間まとめと小テスト
- ⑪生活史
- ⑫人口
- ⑬環境の収容力と持続性
- ⑭里山と環境の持続性
- ⑮日本の環境利用の持続性

環境と倫理

【担当】 柿本 佳美

【開講】 前期 木4

■サブタイトル

環境正義と社会

■講義概要

環境倫理学は、自然環境に関わるさまざまな問題にかかわる人々の利害を考慮し、望ましくない環境変動の予防と、それによって不利益を受けるであろう人々の権利、生態系、自然生物の生を守るための、社会システムの構築を目指す領域です。

私たちは、食料はもちろんのこと、生活を豊かにするさまざまな資源とその材料を、生態系と自然環境のなかで形成された物質から得ています。科学技術と工業の発展は、自然環境から人間にとって有益なものを取り出す過程でもありました。

その一方で、科学技術と工業の発展の過程では、公害や希少な生物種の絶滅といった深刻な環境破壊も発生しました。そのなかで影響を受けるのは、社会や生態系のなかで最も弱い立場にあるひとであり生物です。環境をめぐるさまざまな問題の原因は、科学技術そのものにあるというよりはむしろ、それを利用する社会のあり方にあると言えるでしょう。この授業では、環境正義という視点から環境倫理に関わる基礎理論を学び、具体的な事例を手がかりに倫理的な課題について考えていきます。

■到達目標

環境倫理の基礎理論を学び、環境問題の射程を知ることで、多角的な思考ができる。尊重すべき原則と客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができる。

■講義方法

プリントを使用し、講義形式で行う。数回のミニレポートあり。これをもとに授業を進めることもある。

■系統的履修

「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。

環境問題に関する新聞等による報道に注意し、環境に関わる記事については必ず目を通しておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

レポート (10%)

定期試験 (70%)

通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。

■テキスト

加藤尚武編 『環境と倫理 (新版)』 有斐閣アルマ 1,890円

■参考文献

関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求著 『環境の社会学』 有斐閣アルマ 1,900円

上記のほか、参考となる文献については授業中に挙げます。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。

受講者の関心によって授業内容を一部変更することがあります。授業開始30分以降の入室はお断りすることがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

木曜日13:00～13:30、講師控室

■講義計画

- ①はじめに：私たちの身近にある環境問題
- ②環境問題のはじまり：「公害」の発生
- ③環境倫理のはじまり：自然保護と土地倫理
- ④環境倫理のキーワード：共有地の悲劇と世代間倫理
- ⑤環境倫理のキーワード：環境正義
- ⑥環境倫理のキーワード：「自然」「動物」に権利はあるか？
- ⑦自然環境とのつきあい：琵琶湖と暮らし
- ⑧環境資源と人間：水
- ⑨環境資源と人間：土地
- ⑩環境資源と人間：大気
- ⑪生活のなかの環境問題：ごみ問題と私たちの生活
- ⑫生活のなかの環境問題：里山と持続可能な発展
- ⑬エネルギー問題と環境：持続可能な社会とは？
- ⑭エネルギー問題と環境：再生可能エネルギー
- ⑮まとめ：共生と社会

教養教育科目特別講義A (里山学入門) (2008年度以降入学生) (担当) 共同開講科目特別講義 (2003～2007年度入学生)

宮浦 富保、越川 博元、鈴木 龍也、須藤 明子、田中 滋、帖地 孝人、朴 炫国、丸山 徳次、山崎 英恵、遊磨 正秀、横田 岳人 【開講】 前期 月3

■サブタイトル

里山学入門 地域の自然と文化

■講義概要

里山は、人間が長期にわたって手を入れ、自然と多様な形で関わり、自然と共生することによって、人間同士の共存を可能にしてきた場所であった。日本の生物の多様性の一部は里山の存在によって維持されてきたということも明らかになりつつある。ところがエネルギー革命と農業革命のため里山は放置され、都市の膨張とともに開発のターゲットにされてきた。生物多様性を維持し、人間の生活を支え、日本文化の形成にも密接に関連していたと考えられる里山が失われようとしている。「里山学入門」では、里山の環境、動植物、歴史、里山と文化・制度との関わりなどについて、複数の教員が講義する。

■到達目標

里山といわれる環境について、その歴史や現状を理解する。里山を代表とする身近な自然環境と人間との関係について、自分自身の意見を持つ。

■講義方法

複数教員によるチェーンレクチャーであり、それぞれの教員ごとにいろいろな方法で講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎回、レポートを課す。人間と自然の関係についての自分の考えを整理すること。

■成績評価の方法

レポート (100%)

■テキスト

講義時間内に教員ごとに指示する。

■参考文献

丸山徳次・宮浦富保 『里山学のすすめ』 昭和堂 2,310円

丸山徳次・宮浦富保 『里山学のまなざし』 昭和堂 2,310円

講義時間内に教員ごとに指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

チェーンレクチャーであるので、すべての講義時間に出席しないと、里山学の全体を理解することができない。

■講義計画

- ①4月14日 里山の歴史と現状
- ②4月21日 里山の環境倫理
- ③4月28日 里山の生物多様性
- ④5月12日 水辺環境と里山
- ⑤5月19日 環境社会学からみた里山
- ⑥5月26日 里山と山の神＜日本編＞
- ⑦6月2日 里山と山の神＜韓国編＞
- ⑧6月9日 人と自然の関係～森からの思想
- ⑨6月16日 里山の所有と利用
- ⑩6月23日 食と文化
- ⑪6月30日 人の生活と水環境
- ⑫7月7日 里山のバイオマス利用
- ⑬7月14日 瀬田地域の里山の歴史
- ⑭7月21日 里山が放置され、増える生きものと減る生きもの
- ⑮7月28日 植物と里山文化

教養教育科目特別講義B（西洋近現代史入門）

【担当】 福田 宏

【開講】 前期 水4

■サブタイトル

何のために西洋史を学ぶのか

■講義概要

私たちはなぜ歴史を学ぶのだろうか?なぜ西洋なのか?

1990年代以降、私たちの歴史観は大きく変わってしまったが、それに代わるものが見いだせているわけではない。(日本で使われている)世界史の教科書でも、基本的に西洋、特にヨーロッパをモデルとして書かれていたが、現在では、その前提が揺らいでいる。この授業では、ヨーロッパ近現代史を取り上げ、ヨーロッパの何がモデルとされ、何が問題点となっているのかを考えてみたい。その際、日本の歴史も参照しつつ、私たちがどのように「近代」を捉えてきたかについても考察する。

■到達目標

社会が不安定化したり、先行きが不透明になったりする時代には、歴史もまた不安定化する。過去をどう捉えるかという問題は、現在をどう捉えるかという点にも直結する。この講義では、歴史を柔軟に捉える習慣を身につけたい。

■講義方法

講義形式。授業の際に毎回プリントを配布する。配付資料についてはウェブよりダウンロードできるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

価値観が異なる地域の歴史を学ぶためには、映画や小説などによって人々の生活が見える「資料」に触れることも必要である。可能であれば、実際にその地域を訪れてみることも良い経験になる。受講に当たっては、授業で配布する文献一覧などを元に、可能な限り広い範囲の「資料」に触れるようにして欲しい。

■成績評価の方法

平常点(20%) 出席は義務ではないが、各授業の最後に提出して頂く感想・コメントについては平常点として考慮する。

定期試験(80%)

■テキスト

小山哲他編『大学で学ぶ西洋史』 ミネルヴァ書房 2,800円
テキストの購入は義務ではないが、高校で世界史を履修しなかった方、世界史をもう一度勉強し直してみたいという方には、本書をお薦めする。また、関心のあるテーマについては、授業で紹介する文献・ウェブサイトを図書館やコンピューターで確認し、各自の関心を広げていくようにして欲しい。

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問については、授業後、あるいはメール(hfukuda@cias.kyoto-u.ac.jp)にて受け付ける。

■講義計画

- ①はじめに — 西洋近現代史を学ぶということ
- ②回転ではなく革命を — フランス革命と近代
- ③ドイツ型ナショナリズムの誕生 — 遅れてきた国民?
- ④イギリス帝国と植民地世界
- ⑤ロシアとトルコにとってのヨーロッパ
- ⑥日本帝国の台頭 — 西洋とアジアの間
- ⑦音楽とナショナリズム — 文化の政治性
- ⑧ハプスブルク帝国は民族共存のモデル?
- ⑨近代オリンピック — スポーツと国民国家
- ⑩百年前の第一次世界大戦は何をもたらしたか?
- ⑪西洋の没落? — ファシズムとナチズムの台頭
- ⑫大国としてのアメリカ — フォードの素晴らしい世界
- ⑬第二次世界大戦とヨーロッパ統合
- ⑭1968年と1989年 — 現代社会の変容
- ⑮おわりに — 新しい世界史は可能か

教養教育科目特別講義B（西洋近現代史入門）

【担当】 福田 宏

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

何のために西洋史を学ぶのか

■講義概要

私たちはなぜ歴史を学ぶのだろうか?なぜ西洋なのか?

1990年代以降、私たちの歴史観は大きく変わってしまったが、それに代わるものが見いだせているわけではない。(日本で使われている)世界史の教科書でも、基本的に西洋、特にヨーロッパをモデルとして書かれていたが、現在では、その前提が揺らいでいる。この授業では、ヨーロッパ近現代史を取り上げ、ヨーロッパの何がモデルとされ、何が問題点となっているのかを考えてみたい。その際、日本の歴史も参照しつつ、私たちがどのように「近代」を捉えてきたかについても考察する。

■到達目標

社会が不安定化したり、先行きが不透明になったりする時代には、歴史もまた不安定化する。過去をどう捉えるかという問題は、現在をどう捉えるかという点にも直結する。この講義では、歴史を柔軟に捉える習慣を身につけたい。

■講義方法

講義形式。授業の際に毎回プリントを配布する。配付資料についてはウェブよりダウンロードできるようにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

価値観が異なる地域の歴史を学ぶためには、映画や小説などによって人々の生活が見える「資料」に触れることも必要である。可能であれば、実際にその地域を訪れてみることも良い経験になる。受講に当たっては、授業で配布する文献一覧などを元に、可能な限り広い範囲の「資料」に触れるようにして欲しい。

■成績評価の方法

平常点(20%) 出席は義務ではないが、各授業の最後に提出して頂く感想・コメントについては平常点として考慮する。

定期試験(80%)

■テキスト

小山哲他編『大学で学ぶ西洋史』 ミネルヴァ書房 2,800円
テキストの購入は義務ではないが、高校で世界史を履修しなかった方、世界史をもう一度勉強し直してみたいという方には、本書をお薦めする。また、関心のあるテーマについては、授業で紹介する文献・ウェブサイトを図書館やコンピューターで確認し、各自の関心を広げていくようにして欲しい。

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問については、授業後、あるいはメール(hfukuda@cias.kyoto-u.ac.jp)にて受け付ける。

■講義計画

- ①はじめに — 西洋近現代史を学ぶということ
- ②回転ではなく革命を — フランス革命と近代
- ③ドイツ型ナショナリズムの誕生 — 遅れてきた国民?
- ④イギリス帝国と植民地世界
- ⑤ロシアとトルコにとってのヨーロッパ
- ⑥日本帝国の台頭 — 西洋とアジアの間
- ⑦音楽とナショナリズム — 文化の政治性
- ⑧ハプスブルク帝国は民族共存のモデル?
- ⑨近代オリンピック — スポーツと国民国家
- ⑩百年前の第一次世界大戦は何をもたらしたか?
- ⑪西洋の没落? — ファシズムとナチズムの台頭
- ⑫大国としてのアメリカ — フォードの素晴らしい世界
- ⑬第二次世界大戦とヨーロッパ統合
- ⑭1968年と1989年 — 現代社会の変容
- ⑮おわりに — 新しい世界史は可能か

教養教育科目特別講義C（アジアの映画）

【担当】 李 相哲

【開講】 前期 月1

■サブタイトル

映画で語るアジアの歴史と文化

■講義概要

この授業は映画という芸術を理解するためのものではない。映画はその国の歴史や時代を背景にしている場合が多い。また、その空間に生きる人々の生活を題材にしている。映画は我々に過去の出来事を再現し、未知の世界を見せてくれたり、想像の世界を作り出すこともある。

この講義では、アジアの映画を通してアジアの近現代に対する理解を深めていく。映画に映し出される場所、人物、物語が、その国の歴史や文化、人々の普通の生活をどう反映しているのかを考えながら、映画に取り上げられた国について理解を深める。

■到達目標

アジアの国々の歴史、生活、文化を理解する。

■講義方法

講義形式

映画を見ながら、関連書物を読み、講義を聴くという形式。

■系統的履修

アジアの文化、欧米の文化

■授業時間外における予・復習等の指示

その都度指示する

■成績評価の方法

平常点（10%）講義中に取り上げる映画をみたか、テキストを読んだか

レポート（60%）映画に関する感想文、テキストに関する感想文
定期試験（30%）

指定のテキストをしっかりと読んで欲しい。

■テキスト

李相哲 『東アジアのアイデンティティ』 凱風社 2,300円

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：水曜日12時30分～13時30分

連絡方法：cieli@soc.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①スケジュール、講義方法を知ってもらう（必ず出席すること）
- ②現代韓国の文化事情について
- ③分断国家の悲劇を知る
- ④韓国の文化を知る
- ⑤韓国人の家族愛、映画芸術の今を知る
- ⑥韓国の歴史を知る
- ⑦韓国と日本の関係を知る
- ⑧現代中国の文化事情について
- ⑨現代中国を理解する
- ⑩中国の近代を知る
- ⑪中国の現代を知る
- ⑫現代中国と文化事情
- ⑬日本の映画は中国、韓国映画とどう違うか
- ⑭現代アジアの家族、アジア的英雄像
- ⑮日中韓文化、どう違うのか

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】 野呂 靖、鍵和田 聖子、吉田 慈順

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

近江の仏教文化

■講義概要

現在の滋賀県とほぼ領域が重なる近江国は、豊かな水をたたえた琵琶湖を有し、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在するなど日本文化の中心地の一つとなってきた。この講義では、近江における仏教文化の諸事象について、「説話」・「伝承」・「絵画」・「仏像」を素材として取り上げながら、「仏教」という視点から近江という地域を切り取ることで、新たな「近江像」を紹介する。

■到達目標

近江の歴史と文化における仏教との密接な関係性について「理解」し、資料などの「根拠」に基づいて自らの言葉で「表現」できることを目標とする。

■講義方法

3名の担当者（野呂靖・鍵和田聖子・吉田慈順）によるチェーンレクチャー形式をとる。講義にあたっては、プリント、板書、映像資料を用いて講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に紹介した参考文献を読み、指示された博物館・寺社の拝観を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（50%）「授業回数の3分の2以上の出席者」のみ評価対象とし、受講態度、および毎講義時に提出を求めるコメントカードの内容により総合的に評価する。

レポート（50%）近江と仏教との関係性について「理解」し、「根拠」を示しながら「論述」できているかを評価する。

■テキスト

担当者が毎回プリントを配布する。

■参考文献

講義時に随時、紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある近江については、知っているようで知らないことが数多くあるはずである。仏教との関わりを通して近江の歴史を見ることで、これまで全く気がつかなかった滋賀県の魅力が明らかになるであろう。なお、本講義は滋賀県の現状や、歴史・文化に関する「概説的・網羅的」な講義ではないので注意すること。また、講義中に私語を行う者や、無断で途中退出する者は、一切、成績評価の対象としない。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②比叡山の仏教と歴史①
- ③比叡山の仏教と歴史②
- ④比叡山の仏教と歴史③
- ⑤比叡山の仏教と歴史④
- ⑥比叡山の仏教と歴史⑤
 - ①～⑤のうち1回は比叡山への現地実習を予定（但し受講者数などにより変更あり。詳細は講義時に指示）。
- ⑦園城寺の歴史と文化
- ⑧石山寺の歴史と文化
- ⑨甲賀の忍者伝承と修験道
- ⑩琵琶湖の語源と比叡山の仏教
- ⑪近江の寺院と絵解き
- ⑫近江の神道美術
- ⑬湖北の観音信仰
- ⑭竹生寺と弁財天信仰
- ⑮総括・レポート提出

教養教育科目特別講義D（アジアの歴史と社会）

【担当】野呂 靖、鍵和田 聖子、吉田 慈順

【開講】後期 月3

■サブタイトル

近江の仏教文化

■講義概要

現在の滋賀県とほぼ領域が重なる近江国は、豊かな水をたたえた琵琶湖を有し、日本仏教の母山といわれる比叡山や、古代より人々の信仰をあつめた寺院が点在するなど日本文化の中心地の一つとなってきた。この講義では、近江における仏教文化の諸事象について、「説話」・「伝承」・「絵画」・「仏像」を素材として取り上げながら、「仏教」という視点から近江という地域を切り取ることで、新たな「近江像」を紹介する。

■到達目標

近江の歴史と文化における仏教との密接な関係性について「理解」し、資料などの「根拠」に基づいて自らの言葉で「表現」できることを目標とする。

■講義方法

3名の担当者（野呂靖・鍵和田聖子・吉田慈順）によるチェーンレクチャー形式をとる。講義にあたっては、プリント、板書、映像資料を用いて講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に紹介した参考文献を読み、指示された博物館・寺社の拝観を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（50%）「授業回数の3分の2以上の出席者」のみ評価対象とし、受講態度、および毎講義時に提出を求めるコメントカードの内容により総合的に評価する。

レポート（50%）近江と仏教との関係性について「理解」し、「根拠」を示しながら「論述」できているかを評価する。

■テキスト

担当者が毎回プリントを配布する。

■参考文献

講義時に随時、紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

皆さんが学ぶ瀬田キャンパスのある近江については、知っているようで知らないことが数多くあるはずである。仏教との関わりを通して近江の歴史を見ることで、これまで全く気がつかなかった滋賀県の魅力が明らかになるであろう。なお、本講義は滋賀県の現状や、歴史・文化に関する「概説的・網羅的」な講義ではないので注意すること。また、講義中に私語を行う者や、無断で途中退出する者は、一切、成績評価の対象としない。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②比叡山の仏教と歴史①
- ③比叡山の仏教と歴史②
- ④比叡山の仏教と歴史③
- ⑤比叡山の仏教と歴史④
- ⑥比叡山の仏教と歴史⑤
 - ①～⑤のうち1回は比叡山への現地実習を予定（但し受講者数などにより変更あり。詳細は講義時に指示）。
- ⑦園城寺の歴史と文化
- ⑧石山寺の歴史と文化
- ⑨甲賀の忍者伝承と修験道
- ⑩琵琶湖の語源と比叡山の仏教
- ⑪近江の寺院と絵解き
- ⑫近江の神道美術
- ⑬湖北の観音信仰
- ⑭竹生寺と弁財天信仰
- ⑮総括・レポート提出

教養教育科目特別講義E（アジアの途上国と社会開発）

【担当】佐藤 彰男

【開講】前期 木3

■講義概要

本講義では、貧困問題を基点にアジアの途上国におけるいくつかの社会問題をとりあげ、それらの問題がどのようにして先進社会と関係しているのかを明らかにしていく。またそのような問題を克服するために行われてきた先進諸国からの開発援助について検討し、効果や限界を明らかにしていく。

■到達目標

アジアの途上国に目を向けることによって視野を広げ、社会を理解するための新たな方途を獲得する。

■講義方法

基本的には音声と板書による講義であるが、必要に応じて映像資料等を用いる

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に適宜指示する。

■成績評価の方法

定期試験（100%）学期末に論述式の試験を実施する。

■テキスト

授業中に適宜指定する。

■参考文献

恩田守雄 『開発社会学-理論と実践-』 ミネルヴァ書房 3,800円

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②途上国の社会問題
- ③グローバリゼーションと貧困の構造
- ④植民地化の歴史と社会構造のひずみ
- ⑤農村の困窮と膨張する都市貧困層
- ⑥教育と階層間格差
- ⑦宗教・ジェンダー・人権問題
- ⑧「後進性」と環境汚染
- ⑨公害の域外転嫁
- ⑩社会開発の目的と理念
- ⑪途上国援助の歴史
- ⑫開発援助における住民参加とエンパワーメント
- ⑬NGOの役割
- ⑭マイクロファイナンスの試み
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義 F（現代社会と栄養）

【担当】 土居 幸雄

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

現代の食を巡る諸問題を知り、健康な食生活を考える

■講義概要

従属栄養生物であるヒトは様々な生き物（動植物、微生物）を食物として摂取するが、食物には生命の維持に不可欠な栄養素がバランス良く含まれなければならない。食を巡る様々な問題が社会を騒がす現代、食と栄養に関する基本的知識を持つことは、健康な生活を確保する大切な一歩である。本講義では、健康で豊かで食生活を送るために、我々が何を知らなければならないのか、広い視野に立って身近な問題から考えてゆきたい。始めに、食を巡る現代の課題を知り、食の安全について考えてゆく。次に、ヒトが摂取しなければならない栄養素について基本を学び、健康と食事の関連について考える。

■到達目標

食物と栄養について広い視点から捉えて学び、健康な食生活に必要な情報を選び取る能力を養う

■講義方法

講義形式を基本とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の時に指示する

■成績評価の方法

平常点（30%）

レポート（10%）

定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メール：doi@agr.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①食を巡る諸問題
- ②世界の食料事情と日本
- ③食料の安定供給
- ④食品の安全性
- ⑤食品の安全性
- ⑥食品の安全性
- ⑦食品添加物
- ⑧食物アレルギー、食品の表示
- ⑨食品の栄養成分
- ⑩栄養素の代謝
- ⑪栄養素の代謝
- ⑫生活習慣病と食事
- ⑬運動指針と食事バランスガイド
- ⑭食品の機能性
- ⑮まとめ

教養教育科目特別講義 F（現代社会と栄養）

【担当】 土居 幸雄

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

現代の食を巡る諸問題を知り、健康な食生活を考える

■講義概要

従属栄養生物であるヒトは様々な生き物（動植物、微生物）を食物として摂取するが、食物には生命の維持に不可欠な栄養素がバランス良く含まれなければならない。食を巡る様々な問題が社会を騒がす現代、食と栄養に関する基本的知識を持つことは、健康な生活を確保する大切な一歩である。本講義では、健康で豊かで食生活を送るために、我々が何を知らなければならないのか、広い視野に立って身近な問題から考えてゆきたい。始めに、食を巡る現代の課題を知り、食の安全について考えてゆく。次に、ヒトが摂取しなければならない栄養素について基本を学び、健康と食事の関連について考える。

■到達目標

食物と栄養について広い視点から捉えて学び、健康な食生活に必要な情報を選び取る能力を養う

■講義方法

講義形式を基本とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義の時に指示する

■成績評価の方法

平常点（30%）

レポート（10%）

定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メール：doi@agr.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①食を巡る諸問題
- ②世界の食料事情と日本
- ③食料の安定供給
- ④食品の安全性
- ⑤食品の安全性
- ⑥食品の安全性
- ⑦食品添加物
- ⑧食物アレルギー、食品表示
- ⑨食品の栄養成分
- ⑩栄養素の代謝
- ⑪栄養素の代謝
- ⑫生活習慣病と食事
- ⑬運動指針と食事バランスガイド
- ⑭食品の機能性
- ⑮まとめ

■サブタイトル

雑草のくらしから学ぶ

■講義概要

雑草はヒトの活動と切っても切れない関係にある。科学的な定義も曖昧で、たとえば「雑草のようにたくましいやつ」などの文学的な用法から作物の栽培に害をなす植物を指す農学的用法などが混在している。さまざまな定義があるということは、善くも悪くもそれだけヒトの生活に密着していることを示している。

本講義では、雑草のくらしを中心に、生理的・生態学的観点などから解説するとともに、農業上の問題やどのように管理されているかなど、江戸時代の農学書に記載されている内容から最先端の農業開発事情まで含めて解説する。

身近な植物についてこぼれ話なども折々に紹介する。

■到達目標

作物とは違う雑草のくらしへの理解を通して、道ばたに生える植物に想いをはせることができるようになること。

■講義方法

パワーポイント等を用いた講義を行う。資料は基本的に配布する。理解を促すために課題を求めることがある。

授業ごとにアンケート用紙を配布し、質問事項を受け付け、授業の双方向性を担保している。

■授業時間外における予・復習等の指示

生理や農業に言及するため、化学の知識がないとフォローアップが難しい。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席状況・参加態度をみて判断する
レポート（20%）折々に出すレポート課題への取り組みを評価する
定期試験（40%）試験評価

授業ごとにアンケート用紙を提出させる。そこへの書き込み内容を評価し、授業の双方向性を担保する。

授業中の私語は厳禁とする。

■テキスト

伊藤操子 『雑草学総論』 養賢堂

■参考文献

甲斐信枝 『雑草のくらし』 福音館書店

この本は、絵本である。しかし、その内容はとても深い、授業では繰り返し使用する。

身近な植物に興味がある学生の受講を希望する。☆授業内容を解説するために、生物だけではなく化学的な側面からも説明をすることがある。化学の知識がない学生にも配付資料を用意するなど一定の配慮はするが、予習復習が必要となる。

■講義計画

- ①概念1－くらしに着目する－
- ②概念2－農業と雑草－
- ③概念3－外来植物－
- ④絵本にみる生態 光合成生理
- ⑤絵本にみる生態 栄養生理
- ⑥絵本にみる生態 繁殖生理
- ⑦アレロパシー
- ⑧外部形態
- ⑨防除の考え方－生物防除－
- ⑩防除の考え方－物理防除－
- ⑪防除の考え方－化学防除－
- ⑫遺伝子組換え技術での防除
- ⑬ヒトによる利用－救荒植物－
- ⑭ヒトによる利用－作物の起源－
- ⑮まとめ

健康とスポーツ

■講義概要

テクノロジーの急速な発展は人類に多大な恩恵をもたらした一方で、運動不足などによる生活習慣病などの発生率が年々高くなってきている。そこで、本講義は、現代社会における健康とスポーツ・運動の役割をスポーツ科学の観点から以下の項目について紹介する。(1) 現代社会におけるスポーツ・運動と健康 (2) スポーツ・運動と身体的な健康 (3) スポーツ・運動と心の精神的健康 (4) 食生活とスポーツ

■到達目標

現代社会における運動やスポーツの重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。

■講義方法

講義形式で、担当教員が講義する。受講人数が少なければ実際にトレーニングセンターを使って運動を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外に講読できる文献を講義の時に紹介する。

■成績評価の方法

平常点（20%）授業参加状況を総合的に判断する
定期試験（80%）大学が定める定期試験中に試験を実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

スポーツや運動に興味のある学生の履修を期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

最初の講義で紹介する。

■講義計画

- ①健康、スポーツ、運動、身体活動とは
- ②①スポーツや運動への参加状況 ②運動は寿命を長くするか。
- ③スポーツ・運動不足と生活習慣病について
- ④健康に関する体力要素
- ⑤エネルギー供給システムの違いについて
- ⑥①運動処方について ②運動によるウェイトコントロール
- ⑦レジスタンストレーニング
- ⑧①ストレスと運動 ②行動パターンと運動
- ⑨①スポーツ・運動と精神的健康 ②運動の実践による心理的効果
- ⑩①運動により心理的効果のメカニズム ②運動の実践による自己概念の向上
- ⑪スポーツ・運動を継続させるための心理的方策
- ⑫スポーツ栄養学について
- ⑬スポーツの実践によるライフスキルの獲得
- ⑭スポーツ科学の基礎知識
- ⑮まとめ

■講義概要

現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。

■系統的履修

生活の中の宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (60%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 現代における宗教

②宗教と物語 (1)

③宗教と物語 (2)

④宗教と原理主義 (1)

⑤宗教と原理主義 (2)

⑥宗教と悪 (1)

⑦宗教と悪 (2)

⑧宗教と寛容 (1)

⑨宗教と寛容 (2)

⑩宗教と生命 (1)

⑪宗教と生命 (2)

⑫宗教と死刑 (1)

⑬宗教と死刑 (2)

⑭宗教と死刑 (3)

⑮まとめ

■講義概要

現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。

■系統的履修

生活の中の宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (60%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 現代における宗教

②宗教と物語 (1)

③宗教と物語 (2)

④宗教と原理主義 (1)

⑤宗教と原理主義 (2)

⑥宗教と悪 (1)

⑦宗教と悪 (2)

⑧宗教と寛容 (1)

⑨宗教と寛容 (2)

⑩宗教と生命 (1)

⑪宗教と生命 (2)

⑫宗教と死刑 (1)

⑬宗教と死刑 (2)

⑭宗教と死刑 (3)

⑮まとめ

■サブタイトル

現代のスポーツ文化

■講義概要

現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化・ビジネス化・グローバル化という3つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。

■到達目標

スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会の問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え、実践の視点を見つけることができる。

■講義方法

プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ（DVD、VHS）を使用。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況および受講態度
小テスト（20%）毎授業後のプリント
レポート（20%）中間試験。講義内容（前半）をもとに出題する。記述式。

定期試験（40%）講義内容（後半）を中心に出题する。記述式。出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し、記述を求める。

■テキスト

受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。

■参考文献

井上俊・亀山佳明編 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2,415円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業プリントは一人1枚受け取る。枚数に限りあり。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

以下のメールに連絡してください。ntsuji@edu.shiga-u.ac.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。
- ②スポーツの起こりと発展について、陸上競技の技術史をもとに学びます。
- ③競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。
- ④ホイジンガとカイヨワのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。
- ⑤教育としてのスポーツについて、学習指導要領の変遷、体育科（保健体育科）の目標と内容を中心に考えます。
- ⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。
- ⑦中間試験
- ⑧人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。
- ⑨「メディアと競技スポーツの商品化」、「勝利至上主義とドーピング」、「競技スポーツと環境問題」、「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。
- ⑩これからの社会とスポーツと題して、ニュースポーツやユニセックスのスポーツ、民族スポーツについて学びます。
- ⑪スポーツとライフマネジメントについて、子どもの体力・運動能力や生活行動の調査データをもとにして考えます。
- ⑫現代社会における健康問題に対する食事の重要性について学びます。
- ⑬24時間型社会がもたら睡眠への影響を実態調査結果をもとに理解するとともに、睡眠は脳とからだをつくるをキャッチフレーズとして、最近の睡眠の科学的知見を学びます。
- ⑭健やかなからだを育むことを目的として、睡眠6か条および補足6か条を理解するとともに、自己の睡眠生活を見つめ直し、その改善方法について考えます。
- ⑮「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。
- ⑯定期試験

■サブタイトル

現代社会の変化と福祉を捉える

■講義概要

人々にとって「福祉」とは何かを考えます。そのうえで、急激な現代社会の変化に対応して進められている福祉政策と福祉実践について、経済・社会的視点、歴史的視点、文化的視点を通じて考察することを目的とします。

■到達目標

私たちの社会生活の中に、福祉政策と実践はどのように関わっているのかを、授業を通じて具体的に理解できるようにします。

■講義方法

テキストに沿いながら制作した資料に基づき、講義を進めます。

■系統的履修

可能であれば、地域福祉論、ボランティア・NPO論等の履修を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの内容を予習しておくことを求めます。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 毎月定期的に出欠を確認します。
小テスト (20%) 中間時 (6月はじめ) に筆記試験を行います。
定期試験 (50%) 筆記試験を行います。

■テキスト

山縣文治・岡田忠克 『よくわかる社会福祉』 ミネルヴァ書房 2,400円
毎回資料を準備します。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

できる限り質問を受け付けます、そこから意見交換を行いたいと思います。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

okano@soc.ryukoku.ac.jpまで連絡ください。

■講義計画

- ①授業にあたってのオリエンテーションを行います。
- ②「社会福祉」という考え方、私たちのライフステージの中での社会福祉意味を考えます。
- ③少子高齢化、小家族化、個人化した社会状況の中での社会問題を考えます。
- ④世界と日本の社会福祉の歴史と、その展開を学びます。
- ⑤社会福祉を進める行政の仕組みと、サービス利用の仕組みを学びます。
- ⑥社会福祉を進める各種専門機関について、その性格と内容を学びます。
- ⑦社会福祉の実践である、ソーシャルワークについての理解をすすめます。
- ⑧日本における社会保障の仕組みを学びます。
- ⑨日本の子ども家庭福祉について、その実際と課題を学びます。
- ⑩日本の高齢者福祉の実際と課題を学びます。
- ⑪日本の障害者福祉の実際と課題を学びます。
- ⑫地域福祉がめざすものとは何かを学びます。
- ⑬住民主体の地域福祉実践と専門職の協働の実際と、その課題を学びます。
- ⑭福祉情報システムと苦情解決の仕組みを学びます。
- ⑮社会福祉専門職の現状と課題を学びます。

現代社会とマス・メディア

■サブタイトル

メディア・リテラシー

■講義概要

マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。

最新の情報をベースにマスメディアの本質を考える。

テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に接しながら考える能力を向上させる。国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標

メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。自分の頭で考え(Think)し、発表する能力を養う。

■講義方法

時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。
毎回、講義のレジュメを配布する。ハーバード大学のサンデル教授の「白熱教室」のような学生との対話形式の講義を目指す。
毎回の講義で確実にスマートになる講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法

平常点 (70%) 毎回の講義で約10分間の小レポートを作成。

レポート (30%) 講義で習得したことを1400字でまとめる。最終講義かその前の講義時にレポートを提出。

■テキスト

李相哲、小黒純他 『超入門ジャーナリズム101の扉』 晃洋書房 1,575円
オリエンテーションにて説明。

■参考文献

参考文献はオリエンテーションにて説明する。

■履修上の注意・担当者からの一言

世界に通用する教養を楽しく学ぼう。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室 email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②マス・メディアとは
- ③マス・メディアのエッセンス
- ④メディアはメッセージである
- ⑤メディア・リテラシーとは
- ⑥Think, Learn, Lead 自分の頭で考える
- ⑦哲学的思想
- ⑧近代史を語る
- ⑨国際情勢の変化を解説
- ⑩外交・安全保障とマス・メディア
- ⑪グローバル・イングリッシュの習得
- ⑫国際経済を解説
- ⑬ソーシャル・メディアの役割
- ⑭総括
- ⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】中野 有

【開講】後期 木4

■サブタイトル

メディア・リテラシー、現代社会を解説する

■講義概要

マス・メディアの基礎知識並びにメディア・リテラシーを習得する。そのために必要となる内外の新聞、テレビ、ラジオの特徴、社会問題、国際情勢の変化、歴史、哲学思想、メディアと宗教、外交、安全保障、グローバル経済、地球環境問題、異文化コミュニケーションなどの広範囲にわたる教養を分かり易く講義する。

毎日、メディアに接する時間は平均6時間と言われている。洪水のようにあふれる情報を如何に解説するかが非常に大切である。現代社会、特にグローバル・ソサエティーにおいては、単に学ぶことよりも自分の頭でThinkする能力が求められている。そこで、考えることを学ぶ講義を行う。

テレビや新聞等のマス・メディアの第一線で活躍するジャーナリスト、外交の最前線で活躍した国連職員、将来のキャリアパスの参考となる経営者をゲストスピーカーとして招聘し現在進行形の生きた情報に触れながら考える能力を向上させる。国連、ワシントンのシンクタンクなど海外で約20年生活した経験を活かし、国際情勢の解説、キャリアに役立ち、世界に通用するグローバルイングリッシュの基礎を教える。

■到達目標

メディア・リテラシーの習得。多角的視点で考察する能力を身につける。

■講義方法

時勢に適った現代社会のテーマを分かり易く講義する。
ハーバード大学のサンデル教授の「白熱教室」のような学生との対話形式の講義を目指す。

■系統的履修

毎週放送しているラジオカフェ・シンクタンクジャーナルをインターネットを通じて聴く。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞の社説を読む。ソーシャルメディアの活用。

■成績評価の方法

平常点（70%）積極的発言を重視、毎回約10分の小レポートを作成。

レポート（30%）講義で習得し分析したことを1400字でまとめる。
講義の最終日からその前の講義中に提出。

■テキスト

李相哲、小黒純他『超入門ジャーナリズム101の扉』晃洋書房 1,575円
オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■参考文献

オリエンテーションの時に参考文献を説明。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的かつ真剣に授業に参画して欲しい。人生で最も勉学・研究に没頭できる今にベストを尽くそう。豊かな人生を謳歌するための教養（リベラル・アーツ）を学ぶことができる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

研究室 email nakanoassociate@yahoo.co.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②マス・メディアのエッセンスを習得
- ③メディアはメッセージである
- ④鉄のトライアングル（政・官・財）とメディア
- ⑤哲学思想とメディア
- ⑥歴史の潮流
- ⑦近代史とメディア
- ⑧国際情勢の変化を解説
- ⑨外交・安全保障とメディア
- ⑩国際経済とメディア
- ⑪海外のメディアから学ぶ、ニューヨークタイムズ、BBC,CNN
- ⑫ソーシャル・メディア
- ⑬グローバル・イングリッシュ
- ⑭総括
- ⑮総括

現代社会とマス・メディア

【担当】西村 敏雄

【開講】後期 水2

■サブタイトル

メディアを監視、メディアの発信する情報から真実を読み取る

■講義概要

情報社会の中で、新聞やテレビ、インターネットなど情報は多様化している。その情報を発信するメディアは「記者や編集者のフィルターがかけられている」。その中からいかに真実を見抜くか。イラク戦争ではアメリカの攻撃する側からの情報が多く、被害者の観点からの報道は少なかった。3・11の東北震災では政府や東電の情報に踊らされた。また、先の選挙では自民党が圧勝したが、圧倒的多数の与党がこれからの日本の進路の舵をどうきるのか。その背景等を探る。さらに最近頻発している「冤罪」をめぐる警察や検察など権力の思惑など、その情報から「真実」を見抜く視点を養うことが求められている。こうした「作業」を通じて「人権とメディアのあり方」を基本的に学ぶことにより、より身近な社会、政治、国際、経済問題などの「真実」を見抜いて、「自分なりの意見を持つ」ことが求められている。

■到達目標

いかに多様な情報から「真実」を見つめる視点を養うか。マスコミ志願者にはその心構えを学ぶ機会としたい。

■講義方法

①新聞の読み比べ②大討論会③レジュメに沿った授業の3形式で行う。
ビデオを鑑賞しながら「知らなかった世界」を発見して、「自分の視点」を養う。毎回、授業の終わりに、感想文や意見などを書いてもらう→出席票の代わりでもある。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の前には前週の新聞やテレビを通して何が世の中で起きているかを考えてくこと。

■成績評価の方法

平常点（70%）欠席は3回まで、4回になると自動的に受講資格なしになる。

小テスト（30%）授業の節目に小レポートを3回（各1000字以上）

■テキスト

『超ジャーナリズム入門』 晃洋書房 2,100円
毎回、レジュメを作成して渡す。

■参考文献

『メディアコントロール』 集英社新書

■履修上の注意・担当者からの一言

欠席は4回で授業の受講資格を失うので注意。忌引きや病気などは必ず連絡すること

■オフィスアワー・教員への連絡方法

toshi_bozu_1949@yahoo.co.jpのパソコンに連絡する。

■講義計画

- ①授業の進め方
①この授業の意義②レジュメの内容③採点④受講生に求めるもの。
- ②メディア・リテラシーの意義
- ③新聞が読者に届くまで 記者の一日
- ④ジャーナリズムの役割や使命
- ⑤戦争とメディア
- ⑥ビデオ・ベトナム戦争「これは正義の戦いか」を鑑賞する。
- ⑦ビデオ・イラク戦争をベトナム戦争と比較してそれを取材するマスコミの違いを検証する。
- ⑧冤罪事件 「痴漢冤罪」の恐怖
- ⑨冤罪事件 「足利事件」のDNA科学を信用し、誤審になった菅谷さんの失われた17年の人生を考える。
- ⑩冤罪事件 「松本サリン事件」での被害者が、権力やマスコミによって「犯人」に仕立てられていく危険性を検証する。
- ⑪日本軍「従軍慰安婦」に関するマスコミの対応や日韓の政治の思惑を検証する。
- ⑫「戦争とメディア」 教員と受講生との意見交換
- ⑬「冤罪とメディア」 教員と受講生との意見交換
- ⑭授業を振り返っての大討論会
- ⑮14回分の授業の確認

■サブタイトル

現代社会を支える先進技術

■講義概要

本講義の前半では、現代社会を支える基盤技術の概要について講義する。その内容は以下の通りである。まず技術の歴史を手短に紹介した上で、現代技術の概要を解説する。ついで現代技術の代表的分野の中から、コンピュータ技術、輸送技術、エネルギー技術、微細技術、ロボット技術などを取り上げ、これらの分野における基礎的知識、技術の現状、および今後の課題などについてわかりやすく講述する。

後半の講義では、まず先進技術の発祥と進化をノーベル賞、トレイバー賞を中心に解説し、次に日本が得意とする高分子から半導体までの新素材、新機能材料について、その機能発現の原理と実社会での応用をわかりやすく説明する。また社会的な問題であるエネルギーや環境問題について、その現状と解決への技術上の取り組み述べる。さらに医薬品、バイオテクノロジー等のライフサイエンスを支える現代技術についても講義を行い、これら全ての先進技術の発展に不可欠な分析・解析技術を紹介して、後半の講義をまとめる。

■到達目標

現代社会を縁の下で支えている先端技術の現状と課題について理解を深め、今後のあるべき姿あるいは方向性を考えるための基礎知識を修得する。また、科学技術の進歩とそれらの恩恵について知り、21世紀において、20世紀にもたらされた地球環境の悪化に対する対策を講じながら、持続的発展をいかに続けていくかを理解することが到達目標である。

■講義方法

プリントを配布し、それに準じて講義する。

後半はパワーポイントを使つての講義を行う。

■系統的履修

「生活の中の物理」(教養教育科目)

■授業時間外における予・復習等の指示

現代技術に関する新聞、TVなどの報道記事に関心を持つことが好ましい。

■成績評価の方法

レポート(10%)

定期試験(50%)

その他(40%) 中間試験

前半は、授業途中で課すレポートの成績(10点満点)と中間試験の成績(第8回目授業時に実施、40点満点)によって評価する(合計50点満点)。

後半は定期試験(100%)を50点とする。

前半と後半の点数を足し合わせて総計100点とする。

■テキスト

特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

後半の講義では予め資料をシラバスに掲載する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

私語は他人に迷惑となるので慎むこと。目に余る者は退出または減点する。

中間試験は持ち込み不可。定期試験も持ち込み不可。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

特に設けない。

後半の講義ではメールによる質問も受け付ける。

■講義計画

①現代技術序論(技術略史、現代技術概説)

②コンピュータ技術(アナログとデジタル、計算機の歴史、計算機の応用)

③輸送技術(自動車、鉄道、飛行機、ロケット)

④エネルギー技術(エネルギー概説、各種発電法、地球環境問題)

⑤微細技術(マイクロマシン、ナノ技術)

⑥ロボット技術1(ロボット技術の歴史、産業用ロボット)

⑦ロボット技術2(ヒューマノイドロボット、ロボット技術の将来)

⑧中間試験・復習

⑨現代科学技術の発祥と進化

⑩産業各論1(化学材料、高分子材料)

⑪産業各論2(半導体、電子機器・・・自動車、画像表示、承明)

⑫産業各論3(エネルギー、環境)

⑬産業各論4(医薬品、食料品)

⑭産業各論5(バイオテクノロジー)

⑮まとめ(産業を支える分析・解析技術)

⑯定期試験

国際社会と日本A

【担当】池尾 靖志

【開講】後期 水1

■サブタイトル

日本をとりまく安全保障環境

■講義概要

沖縄では、1月の名護市長選挙で、辺野古移設の民意が示された。しかし、前年末、仲井眞弘多県知事の辺野古の公有水面埋め立て承認により、国は辺野古埋め立てを着実に進めようとしている。11月には、沖縄県知事選挙が開催される。ふたたび、沖縄県民の民意が示されるときが来る。本土はなぜ、沖縄に対して、「構造的差別」ともいべき米軍基地の集中にばかり目をやり、沖縄の「負担軽減」は実現されることがないのだろうか。この点を考えるべく、国際関係論の基礎知識を習得しながら、沖縄をとりまく安全保障環境をどのようにみていくのか、検討する。

■到達目標

- 1) 日本をとりまく東アジアの安定について、自分なりの意見がもてるようになる。
- 2) そのために、新聞やニュースで書かれた記事の内容が理解できるようになる。

■講義方法

視聴覚教材を使用しながら講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞・ニュースを欠かさずチェックすること。
中間レポートにとりくむこと。(e-ラーニングシステムを使用する。)

■成績評価の方法

レポート(10%) 講義の中間地点で1回課す。自分なりの意見を自分とは異なる意見と比べながら説得的に論じているか。
定期試験(90%) 論述2問。講義中に取りあげた分析概念を用いて、自分の意見を論理的に述べているかを採点基準にする。

■テキスト

池尾靖志編 『第2版 平和学をつくる』 晃洋書房

■参考文献

池尾靖志 『自治体の平和力』 岩波書店 530円
講義中に適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

自分の意見に固執するのではなく、他者の意見にも耳を傾けること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

e-ラーニングシステムに質問のできる掲示板を用意しておくので、教員のみならず、受講生同士のコミュニケーションもはかってほしい。

■講義計画

- ①「標的の村」をみる
- ②北東アジアの安全保障を概観する
- ③国際関係のしくみ
- ④リアリズム(1) 古典的リアリズム
- ⑤リアリズム(2) 核兵器の登場
- ⑥リアリズム(3) ネオリアリズム
- ⑦リアリズム(4) 冷戦後の国際社会
- ⑧リアリズム(5) テロ後の国際社会
- ⑨リベラリズム(1) トランスナショナルなアクター
- ⑩リベラリズム(2) 国際的相互依存の進展
- ⑪リベラリズム(3) 国際レジーム論
- ⑫リベラリズム(4) 日本のエネルギー政策
- ⑬リベラリズム(5) 日米安保は国際公共財なのか
- ⑭沖縄から見た国際社会(1)
- ⑮沖縄から見た国際社会(2)

国際社会と日本B

【担当】佐藤 一進

【開講】前期 水1

■サブタイトル

思想課題としての「西欧近代」と日本

■講義概要

本講義では「西欧近代」を日本にとっての思想課題としてとらえ、その衝撃によって生じた葛藤について政治、経済、社会、科学、芸術などの側面から思想的な分析と考察を行います。東日本大震災と原発事故を経た日本は多くの困難を抱えていますが、それらの起源をたどれば黒船来航以来、日本がつねに葛藤してきた「近代性」の問題へといたります。日本にとって国際化とは何よりもまず「近代化」であり、それはすなわち「西欧化」を意味してきました。しかし近代化の問題と限界は現在、いっそう切迫した状況として私たちの眼前に広がっています。したがって、日本社会に山積する数々の問題を克服していくことはただ政策的、技術的なテーマではなく、「西欧近代」を支える思想と対峙しながら、いかにして日本は日本であろうとするのかという思想的な問いを問うことにほかなりません。

■到達目標

- ・「西欧近代」と「近代性」の原理をつかむ。
- ・「西欧近代」との出会いのなかで日本が経験した葛藤について知る。
- ・日本における伝統的な徳の精神や美の意識に関する言説にふれる。
- ・現代的な諸問題を展望するための思想的な視座を築く。

■講義方法

基本的に講義形式で行ないますが、状況に応じてディスカッションの形式をとることもあります。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中にとったノートで、できるだけその日のうちに整理してください。その時に不明な点、分からない点を明確化し、次の講義において質問してください。毎回講義の冒頭で質問を受け付け、それについて答えながら講師と受講生で一緒に考える時間を設けます。講義で示した文献にもできるだけアクセスしてください。

■成績評価の方法

定期試験(100%) 論述形式をとります。
試験への持ち込みは自筆ノートのみ認め、書籍や他人のノートのコピー、ワープロ入力した文書を印刷したものなどは持ち込み不可とします。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

予備知識は特に要求しませんが、政治や経済、社会、歴史に対する思想的、哲学的な関心と意欲を持つ人の受講を歓迎します。講義中に受講生に対して問いを投げかけますので、それに積極的に反応する主体性を求めます。

■講義計画

- ①国際化とグローバル化
- ②西欧近代とは何か
- ③主権国家と社会契約(1)
- ④主権国家と社会契約(2)
- ⑤普遍同質国家と歴史の終わり(1)
- ⑥普遍同質国家と歴史の終わり(2)
- ⑦近代性の三つの波(1)
- ⑧近代性の三つの波(2)
- ⑨近代性の三つの波(3)
- ⑩明治維新と武士道(1)
- ⑪明治維新と武士道(2)
- ⑫文明開化と個人主義
- ⑬東洋の美、民藝の美
- ⑭「近代の超克」と太平洋戦争(1)
- ⑮「近代の超克」と太平洋戦争(2)

■講義概要

現代は、「グローバリゼーション」の時代であるといわれています。しかし、「グローバリゼーション」とはいったい何なのでしょう。国際化という言葉と、どう違うのでしょうか。曖昧なまま、なんとなくわかった気持ちでいる、という人が大半なのではないでしょうか。そこで、本講義ではこの「グローバリゼーション」という概念への考察を深め、そしてこの「グローバリゼーション」と現代日本はどのような関係にあるのか、ということを中心に議論を進めていきたいと思います。本講義では特に、政治と文化と言う事を問題にしていく予定です。この二つの領域は、しばしば別々のもの、あるいは全く無関係なものとして理解されがちですが、実は密接に関係しているものです。「グローバリゼーション」が進行する中、現代日本における政治と文化の関係性はどのような影響をそこから受けているのか、このことについて理解を深め、批判的な視点を養うというのが、本講義の狙いです。

■到達目標

1. グローバリゼーションとは何かを理解する
2. 政治と文化の密接な関係について理解する
3. 現代日本における政治と文化へのグローバリゼーションの影響を理解する
4. 上記を達成するために必要な諸理論（哲学・思想を含む）について理解する

■講義方法

基本的にレクチャー形式で授業を進めますが、適宜受講者への質問等を通じたディスカッションの形式も取りたいと思います。また、パワーポイントやDVDなどの視覚資料も用います。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジュメなどは配布しない予定ですので、各自でしっかりとノートを取ってください。また、復習をきちんとする事をお

勧めします。

■成績評価の方法

定期試験（100%）基本的に講義内容に関する正しい理解が出来ているかを評価しますが、自身の意見も展開できればさらに評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義内において適宜紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

興味をもって自発的に学ぼうという態度をもつ人を対象にした講義をします。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②グローバリゼーションと国際化
- ③近代の特質
- ④近代国民国家の形成
- ⑤ナショナリズムと人種主義
- ⑥資本主義と帝国主義
- ⑦植民地帝国と新しい帝国
- ⑧グローバリゼーション、ナショナリズム、公共圏
- ⑨日本のナショナリズム
- ⑩日本のポピュラー文化とグローバリゼーション
- ⑪日本のポピュラー文化と日本社会
- ⑫オリエンタリズムと日本
- ⑬クールジャパンと日本
- ⑭日本のポピュラー文化はナショナリズムを超える事が出来るか
- ⑮総括

ジェンダー論

■サブタイトル

ジェンダー入門

■講義概要

ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性差（女らしさ・男らしさ）のことである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」を「つがう」ものとして認識する社会規範もあわせもっている（「異性愛主義」）。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在するこれらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ない、ジェンダーを基盤とした社会構造のなかに個々人が生活していることを考察して行きたい。

■到達目標

ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることを目指す。

■講義方法

講義形式にて進める。また、適宜、映像資料などを用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内に指示する。また、わからないことがあったら、その都度、図書館等で調べるようにすること。

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況およびミニレポート

定期試験（80%）論述試験

■テキスト

特になし

■参考文献

大越愛子・倉橋耕平 『ジェンダーとセクシュアリティ』 昭和堂 2,520円

高橋準 『ジェンダー学への道案内（三訂版）』 北樹出版 2,100円

風間孝・河口和也 『同性愛と異性愛』 岩波書店 798円

その他、講義内に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語等、講義妨害行為には厳しく対処しますので各自注意して受講登録をしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

非常勤講師（パートタイム）のため、講義時間にのみ出講しています。講義後に声をかけてください。

■講義計画

- ①イントロダクション：講義概要の紹介等
- ②ジェンダーとは何か？：概念説明、性差別の存在
- ③女性解放の思想と実践（1）：市民権を求める運動
- ④女性解放の思想と実践（2）：「家父長制」という装置
- ⑤女性解放の思想と実践（3）：日本の場合
- ⑥労働とジェンダー（1）：賃金格差と職場・法
- ⑦労働とジェンダー（2）：セクシュアル・ハラスメント
- ⑧家族とジェンダー（1）：近代家族の成り立ち
- ⑨家族とジェンダー（2）：家族の多様性
- ⑩性暴力の諸問題（1）：軍事・基地とジェンダー
- ⑪性暴力の諸問題（2）：軍隊「慰安婦」問題
- ⑫ジェンダーとセクシュアリティ（1）：性の多様性
- ⑬ジェンダーとセクシュアリティ（2）：性自認と越境
- ⑭ジェンダーとセクシュアリティ（3）：性的指向／同性愛と異性愛
- ⑮振り返りとまとめ

ジェンダー論

[担当] 堀江 有里

[開講] 後期 火5

■サブタイトル

ジェンダー入門

■講義概要

ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性差（女らしさ・男らしさ）のことである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」を「つがう」ものとして認識する社会規範もあわせもっている（「異性愛主義」）。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在するこれらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ない、ジェンダーを基盤とした社会構造のなかに個人が生活していることを考察して行きたい。

■到達目標

ジェンダーとは何か、また性別をめぐる「常識」に対する客観的な視点と、なぜそのような「常識」が生まれてきたのか、維持されてきたのかを考察する視点を身につけることを目指す。

■講義方法

講義形式にて進める。また、適宜、映像資料などを用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内に指示する。また、わからないことがあったら、その都度、図書館等で調べるようにすること。

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況およびミニレポート

定期試験（80%）論述試験

■テキスト

特になし

■参考文献

大越愛子・倉橋耕平 『ジェンダーとセクシュアリティ』 昭和堂 2,520円

高橋準 『ジェンダー学への道案内（三訂版）』 北樹出版 2,100円

風間孝・河口和也 『同性愛と異性愛』 岩波書店 798円

その他、講義内に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語等、講義妨害行為には厳しく対処しますので各自注意して受講登録をしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

非常勤講師（パートタイム）のため、講義時間にのみ出講しています。講義後に声をかけてください。

■講義計画

- ①イントロダクション：講義概要の紹介等
- ②ジェンダーとは何か？：概念説明、性差別の存在
- ③女性解放の思想と実践（1）：市民権を求める運動
- ④女性解放の思想と実践（2）：「家父長制」という装置
- ⑤女性解放の思想と実践（3）：日本の場合
- ⑥労働とジェンダー（1）：賃金格差と職場・法
- ⑦労働とジェンダー（2）：セクシュアル・ハラスメント
- ⑧家族とジェンダー（1）：近代家族の成り立ち
- ⑨家族とジェンダー（2）：家族の多様性
- ⑩性暴力の諸問題（1）：軍事・基地とジェンダー
- ⑪性暴力の諸問題（2）：軍隊「慰安婦」問題
- ⑫ジェンダーとセクシュアリティ（1）：性の多様性
- ⑬ジェンダーとセクシュアリティ（2）：性自認と越境
- ⑭ジェンダーとセクシュアリティ（3）：性的指向／同性愛と異性愛
- ⑮振り返りとまとめ

ジェンダー論

[担当] 高橋 慎一

[開講] 後期 金5

■講義概要

「私」は何ものなのか。「私」はどの場所から語るのか。「私」の性別は何か。「私」の性別は「私」にどのような生き方を与えるのか。男女という性の違いがこの社会で「私」たちに与えるものについて、この講義では考える。

■到達目標

価値中立的な学習ではなく、この社会の中で生活している自分自身の立ち位置から、考え、話し、書く力を養ってもらいたい。

■講義方法

新聞雑誌・学術論文などのコピーを配布して学習の導入に使う。また、ニュース映像・ドキュメンタリーなどの視聴覚資料ももちいる。授業内で受講生にはコメントを書いてもらい、質問にはなるべく応答する。

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜、授業内に指示する。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜、授業内に指示する。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②一人で暮らすこと、誰かと暮らすこと（1）
- ③一人で暮らすこと、誰かと暮らすこと（2）
- ④産まないこと、産むこと、育てること（1）
- ⑤産まないこと、産むこと、育てること（2）
- ⑥働くこと（1）
- ⑦働くこと（2）
- ⑧性を売ること、性を買うこと（1）
- ⑨性を売ること、性を買うこと（2）
- ⑩性暴力について（1）
- ⑪性暴力について（2）
- ⑫ジェンダーと教育（1）
- ⑬ジェンダーと教育（2）
- ⑭マイナーであるということ（1）
- ⑮マイナーであるということ（2）

自然観察法

【担当】 宮浦 富保、遊磨 正秀

【開講】 前期 金2

■講義概要

瀬田学舎の近くには比較的豊かな自然環境が残されています。この講義では、瀬田学舎周辺で観察できる植物や動物を主な題材として、身近な自然を観察するポイントを学習します。身近な動植物の名前を知るのみでなく、行動や生態、進化的な観点から、観察し、記録し、簡単な分析を行う方法を学びます。

■到達目標

身近な自然環境を観察するための基本的な項目を体得する。

■講義方法

スライドや板書による講義とともに、実際にキャンパス内外の身近な自然を観察し、記録、分析する方法を体験学習する。

■系統的履修

なし

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時間中に学習した観察手法を、身近な環境で実践することにより、確実に身につけるとともに、自然の多様な側面を理解していただきたい。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 3回以上の欠席で不合格とする
レポート (50%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①野外における観察とは (ガイダンス)
- ②地形図の見方と野外での観察記録
- ③自然の恵み
- ④覚えよう身近な樹木
- ⑤「昆虫の飛び方を探る」(チョウやハチの飛翔)
- ⑥田圃の生き物
- ⑦植物と動物の関係
- ⑧ホタルの観察
- ⑨動物の餌探し
- ⑩生物による造形 (巣作り)
- ⑪生物の形の数理
- ⑫「生き物のだましを見抜こう」(擬態)
- ⑬カワニナの観察
- ⑭樹木の形
- ⑮まとめ

情報社会とメディア

【担当】 外村 佳伸、三浦 雅展

【開講】 前期 月3

■講義概要

本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。
我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標

- ・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
- ・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
- ・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法

主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法

平常点 (40%)
レポート (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画

- ①現代情報化社会：情報社会の問題点と背景
- ②生活とメディア：デジタルな生活考
- ③コミュニケーション・メディア論：電話からつぶやきまで
- ④ビジネスとメディア：ビジネス・モデルはメディアと共に
- ⑤文化とメディア：日本文化、アーカイブ
- ⑥安心・安全社会とメディア：情報化時代のリスク論
- ⑦社会秩序とメディア：ネット時代の生き方
- ⑧情報の基本概念：情報・メディア・伝達
- ⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
- ⑩情報システムと情報ネットワーク
- ⑪メディアの諸相 (1)：音メディアが伝える情報
- ⑫メディアの諸相 (2)：映像メディアが伝える情報
- ⑬メディアの諸相 (3)：感情・感動を伝えるメディア
- ⑭人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
- ⑮芸術とメディア：デジタルアート、デザイン

■講義概要

本講義では、現代情報社会に対し、特にメディアとの関わりを中心にその特性を理解するとともに、様々な観点から現状と課題について考える。

我々はいわゆる情報社会に生きている。文明史的に見れば、牧畜社会、農業社会、工業社会の次に現れた、情報が主役となる新しい社会である。特に昨今、コンピュータとインターネットの普及と高度化を背景に、インフラからサービスまで急速に変わりつつあり、従来社会とは本質的に異なる情報社会の様相があらわになってきた。この情報社会と密接に関わるのが、日常生活から文化、産業に至るまで幅広く影響を与えるメディアである。メディアとは何か、メディアは情報社会とどのように関わるかをよく理解してはじめて、我々が情報社会とどのように対峙していくかを考えることができる。そこで本講義では、情報とメディアの特性を本質的に理解し、様々な観点から情報社会の現状と課題について考えることを通じ、情報があふれる現代情報社会においても自ら主体的に考え、判断する力を身につけることをねらいとする。

■到達目標

- ・メディアの基本的な特性と役割を理解している。
- ・情報社会の変遷や現状の概要を、メディアとの関わりにおいて把握している。
- ・情報社会の身近な課題に多様な観点から問題意識をもつことができ、自ら考えることができる。

■講義方法

主に講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

復習として、毎回授業で学んだ知識をもとに身の回りや社会のニュースに目を向け、気が付いたことに問題意識を持って考えること。

■成績評価の方法

- 平常点 (40%)
- レポート (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に適宜指示する

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に各自の考えを聞くことがあるので、常に自分で考えながら講義を聴くように。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等ある場合は授業の直後に教員まで

■講義計画

- ①現代情報化社会：情報社会の問題点と背景
- ②生活とメディア：デジタルな生活考
- ③コミュニケーション・メディア論：電話からつぶやきまで
- ④ビジネスとメディア：ビジネス・モデルはメディアと共に
- ⑤文化とメディア：日本文化、アーカイブ
- ⑥安心・安全社会とメディア：情報化時代のリスク論
- ⑦社会秩序とメディア：ネット時代の生き方
- ⑧情報の基本概念：情報・メディア・伝達
- ⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
- ⑩情報システムと情報ネットワーク
- ⑪メディアの諸相 (1)：音メディアが伝える情報
- ⑫メディアの諸相 (2)：映像メディアが伝える情報
- ⑬メディアの諸相 (3)：感情・感動を伝えるメディア
- ⑭人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
- ⑮芸術とメディア：デジタルアート、デザイン

情報と人間

■講義概要

我々の生活には、スマートフォンやゲーム機を始め、あらゆる所でコンピュータを利用している。それらは「情報」をやり取りしているが、その「情報」とはどういうものを科学・技術的な側面から学習する。前半は数学的な扱いを紹介し、後半は通信的な側面からの扱いを紹介する。

■到達目標

「情報」がどういうものか理解し、コンピュータやインターネットがどのように動いているかを理解することを目標とする。

■講義方法

板書を中心に一部パソコンによる提示も行う。

■系統的履修

なし

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜レポート課題を出すので、自習すること。わからないことがあれば、教員の部屋に質問に来ること。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

特になし

■参考文献

河村一樹 『情報とコンピュータ』 オーム社

■履修上の注意・担当者からの一言

科目は瀬田学舎の全学部・全年次を対象としたものですが、理工学部、特に電子情報学科の学生には推奨しません。本来、理工学部固有の科目において学習すべき内容（と理工学部生として当然身につけているはずの教養）を講義するからです。すでに学習した内容、もしくは今後学習する内容を聴くことになるので、本科目により新たな知識を得ることはないと思います。教養教育科目の総合科目については、他の科目（理工系でない科目）を受講することを強く推奨します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

電子情報学科のページにて公開しています。

■講義計画

- ①デジタルについて (情報量、2進数)
- ②数字の表現 (変数の型、符号の扱い、2の補数)
- ③論理演算
- ④論理回路、標準化と量子化
- ⑤アルゴリズム
- ⑥いろいろなアルゴリズム
- ⑦前半のまとめ
- ⑧オペレーティングシステム概要
- ⑨オペレーティングシステムの構成要素1 (CPU、プロセス)
- ⑩オペレーティングシステムの構成要素2 (記憶装置)
- ⑪インターネットの仕組み
- ⑫ネットワークサービスとサーバ (www)
- ⑬トランスポート層とインターネット層
- ⑭DNS
- ⑮まとめと質疑応答

■サブタイトル

情報社会における心理・技術・法

■講義概要

情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。例えば、従来の知的財産権法制は情報社会において有効な行動指針たりうるのか、新たな形態の反社会的行動に対する対策はいかにありうるのか、人と人の間の対話のあり方はどのように変容していくのか等、問題は多岐に渡り、社会や個人の様々な側面に関係している。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の3テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していくことを目指す。

■到達目標

人がインターネット等で活動する際に直面する問題はどのようなものか、そうした問題を予防し、またはこれに対処する行動指針とはどのようなものかを理解する。

■講義方法

講義計画に沿ってレジュメと資料を配布し、それに基づき講義形式で進める。可能な限り視聴覚教材も利用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

インターネット上での心理に関連する新聞コラム、事件報道等に常に注目しておくこと。講義内容を理解する上で必須かつ有用。

■成績評価の方法

平常点 (20%)
小テスト (10%)
レポート (40%)
定期試験 (30%)

■テキスト

特になし

■参考文献

A.N.ジョインソン 『インターネットにおける行動と心理』
北大路書房 2,800円
ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー他 『ビッグデータの正体』 講談社 1,800円
名和小太郎 『情報の私有・共有・公有 ユーザーからみた著作権』 NTT出版 2,500円

■講義計画

①～⑤インターネットにおける行動と心理
⑥～⑨コンピュータウイルス、セキュリティ対策、ネットワークサービスと開発者倫理
⑩確認のための小テスト
⑪～⑭関連法律、現行法の問題点および今後の動向
⑮総括

人権論A

■サブタイトル

流動社会における労働と生活

■講義概要

本講義では、雇用、貧困、生活保護、ホームレスなどの社会問題を通して、流動社会における労働や生活のあり方について考えることを目的とします。雇用の流動化による格差の拡大や貧困問題が深刻化する現在、「働き方」や「生活」をめぐる問題は、私たちにとってもっとも身近で重要な課題となっています。労働や生活をとらえて見えてくる貧困・格差をめぐる問題と、それらに対応する社会保障や社会政策、そしてそれらを補完する都市部コミュニティの民間の実践プロセスを通して、わたしたちの労働や生活における権利について考えていきます。

■到達目標

本講義では、私たちに身近な労働や生活のあり方と、おいて、「働くこと」や「生活すること」をめぐる自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。

■講義方法

教科書は指定しませんが、各テーマに合わせた資料(新聞記事、論文、報告書、映像資料)などを活用しながら講義を進めていきます。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席やワークシートなどの課題
定期試験 (60%)
平常点と試験の結果から総合的に評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介する予定です。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語厳禁。しつこく注意します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義実施日の昼休みに非常勤控室にいます。

■講義計画

①イントロダクション:「働くこと」「生活すること」と人権
②多様化する「働き方」と都市生活
③高度経済成長期における労働と生活1—都市化とライフコース
④高度経済成長期における労働と生活2—日本型雇用とライフコースの分岐
⑤労働と社会保障1—歴史と展開
⑥労働と社会保障2—経済成長と福祉国家
⑦ホームレスの労働と生活1
⑧ホームレスの労働と生活2
⑨ホームレスの労働と生活3
⑩流動化とライフコース1
⑪流動化とライフコース2
⑫流動化とライフコース3
⑬セーフティネットと地域1
⑭セーフティネットと地域2
⑮これまでの総括

人権論A

【担当】 中川 ユリ子

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

現在の被差別部落・入門

■講義概要

日本で人権ということが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。

本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。時代とともに全体として裕福にもなった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言えない。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。

大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。

差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。

■到達目標

たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。

■講義方法

初回から4、5回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかが理解できるような題材を用いて、講義を行う。

■系統的履修

特になし。

■授業時間外における予・復習等の指示

社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること

■成績評価の方法

平常点 (20%) 全講義回数の1/3の回について、出席をとる。

定期試験 (80%) 部落問題の現状とその背景について、的確に捉えているのかどうかの評価基準となる。

基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える(文章を作る)という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献

読んで欲しい本、興味をひくだろうと思われる書籍等は、講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義が終わったあとで、質問に対応する。その時に、不十分であれば、改めて日時を設定することもできる。

■講義計画

- ①部落問題とは何か
- ②今日の差別事象－結婚差別を考える
- ③被差別部落の実態－統計資料より
- ④被差別部落の実態－統計資料より
- ⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
- ⑥古い問題、新しい問題
- ⑦部落の新しい世代
- ⑧ある唄から部落を見る①
- ⑨ある唄から部落を見る②
- ⑩賤民の歴史－中世・近世
- ⑪部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
- ⑫部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
- ⑬部落の人々が語ること
- ⑭部落とは何か
- ⑮予備日（ビデオの上映など）

人権論A

【担当】 稲田 七海

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

流動社会における労働と生活

■講義概要

本講義では、雇用、貧困、生活保護、ホームレスなどの社会問題を通して、流動社会における労働や生活のあり方について考えることを目的とします。雇用の流動化による格差の拡大や貧困問題が深刻化する現在、「働き方」や「生活」をめぐる問題は、私たちににとってもっとも身近で重要な課題となっています。労働や生活をとらえて見えてくる貧困・格差をめぐる問題と、それらに対応する社会保障や社会政策、そしてそれらを補完する都市部コミュニティの民間の実践プロセスを通して、わたしたちの労働や生活における権利について考えていきます。

■到達目標

本講義では、私たちに身近な労働や生活のあり方と、[働くこと]や[生活すること]をめぐる自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持つことを到達目標とします。

■講義方法

教科書は指定しませんが、各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料）などを活用しながら講義を進めていきます。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席やワークシートなどの課題

定期試験 (60%)

平常点と試験の結果から総合的に評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介する予定です。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語厳禁。しつこく注意します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義実施日の昼休みに非常勤控室にいます。

■講義計画

- ①イントロダクション：「働くこと」「生活すること」と人権
- ②多様化する「働き方」と都市生活
- ③高度経済成長期における労働と生活1－都市化とライフコース
- ④高度経済成長期における労働と生活2－日本型雇用とライフコースの分岐
- ⑤労働と社会保障1－歴史と展開
- ⑥労働と社会保障2－経済成長と福祉国家
- ⑦ホームレスの労働と生活1
- ⑧ホームレスの労働と生活2
- ⑨ホームレスの労働と生活3
- ⑩流動化とライフコース1
- ⑪流動化とライフコース2
- ⑫流動化とライフコース3
- ⑬セーフティネットと地域1
- ⑭セーフティネットと地域2
- ⑮これまでの総括

人権論A

【担当】 中川 ユリ子

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

現在の被差別部落・入門

■講義概要

日本で人権ということが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。

本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。時代とともに全体として裕福にもなった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言えない。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。

今、大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。

差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。

■到達目標

たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。

■講義方法

初回から4、5回目までの講義は、部落の現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかが理解できるような題材を用いて、講義を行う。

■系統的履修

特にない。

■授業時間外における予・復習等の指示

社会問題に興味を向け、現在の問題を知るように心がけること

■成績評価の方法

平常点 (20%) 全講義回数の1/3の回について、出席をとる。

定期試験 (80%) 部落問題の現状とその背景について、的確に捉えているのかどうかの評価基準となる。

基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える(文章を作る)という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献

読んで欲しい本、興味をひかれるだろうと思われる本等は、講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義の終了後に質問に対応する。その時の時間が不十分であれば、改めて日時を設定することもできる。

■講義計画

- ①部落問題とは何か
- ②今日の差別事象－結婚差別を考える
- ③被差別部落の実態－統計資料より
- ④被差別部落の実態－統計資料より
- ⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
- ⑥古い問題、新しい問題
- ⑦部落の新しい世代
- ⑧ある唄から部落を見る①
- ⑨ある唄から部落を見る②
- ⑩賤民の歴史－中世・近世
- ⑪部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
- ⑫部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
- ⑬部落の人々が語ること
- ⑭部落とは何か
- ⑮予備日（ビデオの上映など）

人権論A

【担当】 岸 衛

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

自分を見つめ・差別を見つめ・世間を見つめる

■講義概要

- 1 社会心理学的に自分と他人の関係をみつめる。
- 2 民俗学や社会史・文化史の観点から、差別問題、差別する心を見つめる。
- 3 「世間」とは、何か。社会とは違う「世間」の構造を見つめる。

■到達目標

- *今の「世の中」を見る目を身につける。
- *自分との関係でものをとらえる習慣を身につける。
- *本を読む習慣を身につける。

■講義方法

受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。

■系統的履修

人権論B

■授業時間外における予・復習等の指示

次の講義内容を予告し、あらかじめ「自分の考え・意見」をまとめておく。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 講義ごとのコミュニケーションカードの提出
レポート (20%) 講義の中でテーマを課し、レポートを提出する
定期試験 (50%)

■テキスト

岸 衛 『自分・差別・世間 第2版』 反差別国際連帯解放研究所しが 700円

■参考文献

遠藤周作 『ほんとうの私を求めて』 集英社文庫 457円
阿部謹也 『「教養」とは何か』 講談社現代新書 750円

■講義計画

- 01：オリエンテーション
- 02：知ってもらいたい「自分」
- 03：「まなざし」と差別
- 04：まとめ：「自分を見つめる」
- 05：人は「なぜ、差別するのか」
- 06：畏れながら遠ざける「差別」
- 07：賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて①
- 08：賤民身分の人たちが担ってきた仕事や暮らしについて②
- 09：日本人の「原風景」と差別
- 10：結婚をめぐる
- 11：まとめ：「部落差別の根底にあるもの」
- 12：世間とは何か
- 13：世間の中の「自分」
- 14：「世間」の中でどう生きるか
- 15：まとめ：「自分・差別・世間」

人権論A

【担当】金 光敏

【開講】前期 水3

■サブタイトル

社会の扉として人権

■講義概要

社会問題との接点に積極的な姿勢を持ち、自らの進路とも関連付けながら、人権をどのように生かすのかについて考えていきます。社会のありよう、政府、国家について多角的な評価を加え、批判的視覚を培うことはすべての学問、社会、企業活動に有意義なことです。ひとつの事柄を固定的に捉えるのではなく、多面的に捉える訓練を重ね、事実だとされているその裏側や背景をたどりながら、再評価することで自らと社会との関係性の中に多様性を担保してほしいと考えます。そのことを通して、自らの進路選択の幅を広げてほしいと考えています。メディアや政治に対するリテラシーを培い、溢れる情報化社会の中で、自分自身にとって必要な情報とは何かを主体的に見つけ出して行く視点としての「人権論」の役割に期待し、そこから学び取ってほしいと思います。

■到達目標

この授業では、国際化社会の到来を受け、多様な背景を持つ人々が共生していくために必要なアプローチとは何で、溢れる情報の時代に一面的ではなく、多面的な社会考察の力を育む『リテラシー』を重視します。

■講義方法

講義では、プリント、新聞、映像などを活用して、「人権」、「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのような対話が行われ、どのような対論が存在しているのかを見ていきます。また、授業の前半は授業と関連する直近のニュースの解説を行います。授業終了前に「意見カード」を書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (40%) 全授業終了後に試験を実施します。

その他 (20%) 授業中に取り上げた内容に基づいて意見カードが記載されているのかを評価します。

人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意識を見せているのかを評価したいと思います。

■テキスト

藤木美奈子 『傷つけあう家族』 講談社 600円

■参考文献

授業ごとに関連資料を印刷配布します。

■履修上の注意・担当者からの一言

大学生として知って欲しい社会の動きについて、授業では積極的に取り上げたいと思います。

■講義計画

- ①意思表明することの大切さ この授業のねらいとガイダンス
- ②夫婦別姓は賛成か、反対か① ～家族観をめぐる対論～
- ③夫婦別姓は賛成か、反対か② ～女性の社会進出をめぐる現実～
- ④定住外国人の政治参画は賛成か反対か ～憲法判断をめぐる～
- ⑤定住外国人の政治参画は賛成か反対か ～基礎となる地域社会に国籍のちがいは重要か～
- ⑥朝鮮学校をめぐる賛成と反対 制度除外は妥当か
- ⑦沖縄に対する差別の現実 ～押し付けられる米軍基地と日米関係～
- ⑧上方落語「代書」はなぜ演じられなかったか
- ⑨映画の中の人権
- ⑩映画の中の人権
- ⑪公権力による人権侵害の実態
- ⑫メディアによる人権侵害の実態①～警察発表を鵜呑みする報道～
- ⑬ヘイト・スピーチの実態に迫る
- ⑭生きることが重んじられる社会とは?～労働と人権～
- ⑮生きることが重んじられる社会とは?～子どもの目線から見た社会～

人権論A

【担当】金 光敏

【開講】前期 水4

■サブタイトル

社会の扉として人権

■講義概要

社会問題との接点に積極的な姿勢を持ち、自らの進路とも関連付けながら、人権をどのように生かすのかについて考えていきます。社会のありよう、政府、国家について多角的な評価を加え、批判的視覚を培うことはすべての学問、社会、企業活動に有意義なことです。ひとつの事柄を固定的に捉えるのではなく、多面的に捉える訓練を重ね、事実だとされているその裏側や背景をたどりながら、再評価することで自らと社会との関係性の中に多様性を担保してほしいと考えます。そのことを通して、自らの進路選択の幅を広げてほしいと考えています。メディアや政治に対するリテラシーを培い、溢れる情報化社会の中で、自分自身にとって必要な情報とは何かを主体的に見つけ出して行く視点としての「人権論」の役割に期待し、そこから学び取ってほしいと思います。

■到達目標

この授業では、国際化社会の到来を受け、多様な背景を持つ人々が共生していくために必要なアプローチとは何で、溢れる情報の時代に一面的ではなく、多面的な社会考察の力を育む『リテラシー』を重視します。

■講義方法

講義では、プリント、新聞、映像などを活用して、「人権」、「人権問題」と関連したことがらをめぐってどのような対話が行われ、どのような対論が存在しているのかを見ていきます。また、授業前半に授業内容と関連する直近のニュース解説などを行います。授業終了前に「意見カード」を書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (40%) 全授業終了後に試験を実施します。

その他 (20%) 授業中に取り上げた内容に基づいて意見カードが記載されているのかを評価します。

人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意識を見せているのかを評価したいと思います。

■テキスト

藤木美奈子 『傷つけあう家族』 講談社 600円

■参考文献

授業ごとに関連資料を印刷配布します。

■履修上の注意・担当者からの一言

大学生として知って欲しい社会の動きについて、授業では積極的に取り上げたいと思います。

■講義計画

- ①意思表明することの大切さ この授業のねらいとガイダンス
- ②夫婦別姓は賛成か、反対か① ～家族観をめぐる対論～
- ③夫婦別姓は賛成か、反対か② ～女性の社会進出をめぐる現実～
- ④定住外国人の政治参画は賛成か反対か ～憲法判断をめぐる～
- ⑤定住外国人の政治参画は賛成か反対か ～基礎となる地域社会に国籍のちがいは重要か～
- ⑥朝鮮学校をめぐる賛成か反対か 制度除外は妥当か
- ⑦沖縄に対する差別の現実 ～押し付けられる米軍基地と日米関係～
- ⑧上方落語「代書」はなぜ演じられなかったか
- ⑨映画の中の人権
- ⑩映画の中の人権
- ⑪公権力による人権侵害の実態
- ⑫メディアによる人権侵害の実態～警察発表を鵜呑みする報道～
- ⑬ヘイト・スピーチの実態に迫る
- ⑭生きることが重んじられる社会とは?～労働と人権～
- ⑮生きることが重んじられる社会とは?～子どもの目線から見た社会～

人権論A

【担当】 矢野 亮

【開講】 前期 木3

■サブタイトル

生活のなかにある「人権」

■講義概要

私たちはすでに「人権」と関わる日常生活世界を生きています。にもかかわらず、「人権」と聞くと、ある特定の差別や排除を被った「当事者（たち）」の問題だと括って（限定して）考えてしまいがちです。

本講義では、身近な生活場面において生起する人権侵害に関する具体的事例を取り上げ、それらの対応策について検討することを通じて、人権について議論していきます。その際、「当事者」を理解することにとどまらず、「当事者」を取り巻く社会政策や社会運動の歴史的展開過程についても視野に入れて考え議論していきます。

■到達目標

本講義では、身近な生活場面における事例検討を通して、自らの権利について学び、自ら主張し行動できるような意識を持てるようになることを到達目標とします。

■講義方法

教科書は指定しません。各テーマに合わせた資料（新聞記事、論文、報告書、映像資料等）を活用しながら講義を進めていきます。

■系統的履修

人権論B

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点（40%）

レポート（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②私と人権——部落問題から
- ③「生活」の捉え方
- ④生活のなかにある人権①児童
- ⑤生活のなかにある人権②保育・教育
- ⑥生活のなかにある人権③恋愛・結婚
- ⑦生活のなかにある人権④労働
- ⑧生活のなかにある人権⑤老い
- ⑨生活のなかにある人権⑥障がい
- ⑩生活のなかにある人権⑦住宅
- ⑪生活のなかにある人権⑧家族
- ⑫生活のなかにある人権⑨地域
- ⑬生活のなかにある人権⑩国家
- ⑭生活のなかにある人権⑪国際
- ⑮まとめと振り返り

人権論B

【担当】 稲田 七海

【開講】 後期 月2

■サブタイトル

居住権について考える

■講義概要

本講義では、居住福祉の観点から人権について考えることを目的とします。近年、ホームレスやネットカフェ難民などの住居を持たない人々や、無縁化や孤立化によって無届の福祉施設などを転々する困窮高齢者など、安定した居場所を持たずに都市空間の中を漂流する人たちの存在が社会問題化しています。労働が流動化し、家族のあり方や人とのつながり方が大きく変化する現在、所与のものとして存在した住宅のあり方は変化し、人々の「居住する権利」が脅かされる場面も少なくありません。本講義では、「住宅とは福祉の基礎である」という居住福祉の観点から、「住まうこと」と人権について議論していきます。

■到達目標

「住まうこと」は、人が生きていくために不可欠な条件です。本講義では、自らの居住する権利について知り、居住をめぐる多様なあり方への理解を深めることを目標とします。

■講義方法

テーマに沿って、参考資料（映像資料、調査報告書、審議会資料など）を活用しながら講義を進めていきます。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席とワークシートなどの課題

定期試験（60%）

平常点と試験によって総合的に評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介する予定です。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語厳禁。板書やパワーポイントの撮影も禁止します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業実施日の昼休みに講師控室にいます。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②居住福祉とは何か？
- ③居住福祉をめぐるさまざまな動向
- ④居住福祉と住宅政策
- ⑤ネオリベリズムと住宅政策
- ⑥居住の貧困とホームレス
- ⑦ホームレスと居住支援
- ⑧公共空間と不法占拠1
- ⑨公共空間と不法占拠2
- ⑩子どもの貧困と居住福祉1
- ⑪子どもの貧困と居住福祉2
- ⑫若者の仕事と居住1
- ⑬若者の仕事と居住2
- ⑭まちづくりと居住福祉
- ⑮これまでの総括

人権論B

【担当】中川 ユリ子

【開講】後期 月2

■サブタイトル

「生」と「性」

■講義概要

女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と何の疑問も持たずに言う大人たちも多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、その言葉に違和感を感じる人は必ずいるに違いない。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。

現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。

「らしさ」の呪縛から解放されるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。

■到達目標

常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。

■講義方法

まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。

■成績評価の方法

平常点（20%）全講義回数の1/3の回について、出席をとる。
定期試験（80%）ジェンダーに関する問題の現状と背景について、的確に捉えているかどうかの評価基準になる。

試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。プリントを配布する。

■参考文献

おもしろい本などは、講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

希望があればemailを使用する。

■講義計画

- ①差別問題を考える意味
- ②世間は女と男をどう扱うのか
- ③新聞で気付くこと
- ④女の子、男の子はつくられる——性の認識
- ⑤どこで「らしさ」を学んだのか——絵本
- ⑥どこで「らしさ」を学んだのか——学校
- ⑦どこで「らしさ」を学んだのか——学校
- ⑧どこで「らしさ」を学んだのか——TVのCM、アニメ、漫画など
- ⑨どこで「らしさ」を学んだのか——TVのCM、アニメ、漫画など
- ⑩どこで「らしさ」を学んだのか——抗議の歴史
- ⑪常識を疑え！
- ⑫女人禁制——伝統をどう考えるか
- ⑬多様な性のあり方——同性愛
- ⑭多様な性のあり方——同性愛
- ⑮まとめ（ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】稲田 七海

【開講】後期 月3

■サブタイトル

居住権について考える

■講義概要

本講義では、居住福祉の観点から人権について考えることを目的とします。近年、ホームレスやネットカフェ難民などの住居を持たない人々や、無縁化や孤立化によって無届の福祉施設などを転々する困窮高齢者など、安定した居場所を持たずに都市空間の中を漂流する人たちの存在が社会問題化しています。労働が流動化し、家族のあり方や人とのつながり方が大きく変化する現在、所与のものとして存在した住宅のあり方は変化し、人々の「居住する権利」が脅かされる場面も少なくありません。本講義では、「住宅とは福祉の基礎である」という居住福祉の観点から、「住まうこと」と人権について議論していきます。

■到達目標

「住まうこと」は、人が生きていくために不可欠な条件です。本講義では、自らの居住する権利について知り、居住をめぐる多様なあり方への理解を深めることを目標とします。

■講義方法

テーマに沿って、参考資料（映像資料、調査報告書、審議会資料など）を活用しながら講義を進めていきます。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示します。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席とワークシートなどの課題
定期試験（60%）
平常点と試験によって総合的に評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介する予定です。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語厳禁。板書やパワーポイントの撮影も禁止します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業実施日の昼休みに講師控室にいます。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②居住福祉とは何か？
- ③居住福祉をめぐるさまざまな動向
- ④居住福祉と住宅政策
- ⑤ネオリベリズムと住宅政策
- ⑥居住の貧困とホームレス
- ⑦ホームレスと居住支援
- ⑧公共空間と不法占拠1
- ⑨公共空間と不法占拠2
- ⑩子どもの貧困と居住福祉1
- ⑪子どもの貧困と居住福祉2
- ⑫若者の仕事と居住1
- ⑬若者の仕事と居住2
- ⑭まちづくりと居住福祉
- ⑮これまでの総括

人権論B

【担当】中川 ユリ子

【開講】後期 月3

■サブタイトル

「生」と「性」

■講義概要

女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった・・・そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強できなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるよ」と何の疑問も持たずに言う大人たちは多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、違和感を感じる人は必ずいるに違いない。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの大きな差に気づくはずである。現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。「らしさ」の呪縛から解放されるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。

■到達目標

常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。

■講義方法

まず、身近な問題を取り上げ、私たちの社会の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。

■授業時間外における予・復習等の指示

テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられる性に関する問題に興味を向け、自分で考える時間を設ける。

■成績評価の方法

平常点（20%）全講義回数の1/3の回について、出席をとる。
定期試験（80%）ジェンダーに関する問題の現状と背景について、的確に捉えているかどうかの評価基準になる。

試験による評価を考えている。自分で解答を作文する、記述式試験である。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。

■テキスト

教科書は使用しない。プリントを配布する。

■参考文献

おもしろい本などは、講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

希望があればemailを使用する。

■講義計画

- ①差別問題を考える意味
- ②世間は女と男をどう扱うのか
- ③新聞で気付くこと
- ④女の子、男の子はつくられる——性の認識
- ⑤どこで「らしさ」を学んだのか——絵本
- ⑥どこで「らしさ」を学んだのか——学校
- ⑦どこで「らしさ」を学んだのか——学校
- ⑧どこで「らしさ」を学んだのか——TVのCM、アニメ、漫画など
- ⑨どこで「らしさ」を学んだのか——TVのCM、アニメ、漫画など
- ⑩どこで「らしさ」を学んだのか——抗議の歴史
- ⑪常識を疑え！
- ⑫女人禁制——伝統をどう考えるか
- ⑬多様な性のあり方——同性愛
- ⑭多様な性のあり方——同性愛
- ⑮まとめ（ビデオ鑑賞など）

人権論B

【担当】金 光敏

【開講】後期 水3

■サブタイトル

社会的スキルとしての人権アプローチ

■講義概要

「人権」「人権問題」とは、となく堅苦しいもののイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人々の、特定の課題をさすものなのでしょうか。「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連による1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の個人、特定の課題ではなく、すべての人々に保障されるべきものと語られています。

この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとに、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない社会的スキルとしての「対話力」を着目し、「人権」「人権問題」へのアプローチが社会的スキル向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。

■講義方法

講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席

定期試験（40%）全授業終了後に試験を実施します。

その他（20%）授業中に取り上げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。

■テキスト

人権法連絡会『外国人・民族的マイノリティ人権白書』1,000円

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思っています。

■講義計画

- ①この授業のねらいとガイダンス
- ②国際人権①～戦争と人権～
- ③国際人権②～世界人権宣言～
- ④性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
- ⑤性差別の現実②～女性と労働～
- ⑥在日外国人の人権①～在日外国人の現状から見えてくる日本社会～
- ⑦在日外国人の人権②～深刻な人身売買の現実～
- ⑧在日外国人の人権③～外国人の子どもの人権～
- ⑨在日外国人の人権④～国内の労働現場を支える在日外国人～
- ⑩在日外国人の人権⑤～難民保護をめぐる日本の狭き門～
- ⑪映画の中の人権
- ⑫映画の中の人権
- ⑬ハンセン病元患者らの記憶
- ⑭人権をテーマとした社会変革の可能性
- ⑮水平社宣言～差別克服への胎動～

人権論B

【担当】岸 衛

【開講】後期 水3

■サブタイトル

－ ライフストーリー・インタビューへの招待 －

■講義概要

- 1 ライフストーリー・インタビューは、文字として記録には残らなかったけれども「あった」ひとり一人の生活を聞き取る作業である。インタビューから得られた被差別部落での20年間に渡る「語り」を紹介する。
- 2 差別の「今」を明らかにする。

■到達目標

- * 今の「世の中」を見る目が身につく。
- * 自分との関係でものをとらえる習慣が身につく。
- * 本を読む習慣が身につく。
- * 「いかに生きるか」を問う姿勢ができる。

■講義方法

受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。
実際の聞き取り調査にもとづく映像や写真、資料も紹介しながら、進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

テキストの次章を、事前に読み込んでくる。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 講義ごとにコミュニケーションカードを提出する
小テスト (30%) 理解度を問うための「まとめ」
レポート (40%) 講義の中で課した章ごとのまとめをするためのノートをつくる。

■テキスト

岸 衛・桜井厚著『差別の境界をゆく』せりか書房 2,300円

■参考文献

桜井厚『境界文化のライフストーリー』せりか書房 2,500円

桜井厚・岸衛 編『屠場文化…語られなかった世界…』創土社 2,520円
反差別国際連帯解放研究所しが編『語りのちから』弘文堂 2,415円

■講義計画

- 01: ライフストーリーインタビューとは何か
- 02: 宮本常一の世界
- 03: 柳田国男の仕事
- 04: I 戦中・戦後を生きる
生活のための仕事
- 05: 差別経験の語り方
- 06: II 「太鼓の里」から東京へ
皮革の「技」をもって
- 07: 皮革業の変化と差別観
- 08: III 「伝統の技」に生きる
靴職人の世界
- 09: 「嫁盗み」の物語
「はしり」
- 10: 「屠場文化」
屠畜をめぐる
- 11: IV 「部落」を伝える
親と子の苦悩
「部落」の語りがたさ
- 12: V 差別の「はざま」で
結婚・子育ての中で
- 13: 差別を越えて
若者たちの「自己認識」
- 14: VI アイデンティティを問う
若者たちの自己認識
- 15: アイデンティティ形成の困難

人権論B

【担当】金 光敏

【開講】後期 水4

■サブタイトル

社会的スキルとしての人権アプローチ

■講義概要

「人権」「人権問題」とは、となく堅苦しいもののイメージがあります。あるいは人権問題と聞いた場合、同和問題、在日問題、障害者問題など特定の課題をイメージして語られることも少なくありません。果たして「人権」とは、「人権問題」とは、特定の人々の、特定の課題をさすものなのでしょうか。「人権」が重要な価値として広く認識されるようになったのは、第二次世界大戦後です。そこには最大の人権侵害が戦争であるとの認識があり、二度と繰り返してはならないという反省がありました。国際社会が取り組むべき共通の課題として明文化されたのが、国連による1948年の「世界人権宣言」の採択でした。「世界人権宣言」は日本国憲法の中にも生かされており、そこでは「人権」が特定の人々の、特定の課題ではなく、すべての人々に保障されるべきものと語られています。
この授業では、「人権」「人権問題」の基礎理解をもとにし、新しい視点からの接近を考えています。「人権」「人権問題」に取り組むことが日常生活の何に生かされ、生かされるべきかをエピソード加えながら、進めて行く予定です。

■到達目標

この授業では、国際化と情報化社会を意識し、多様な背景を持つ人々が共生する社会には欠かせない社会的スキルとしての「対話力」を着目し、「人権」「人権問題」へのアプローチが社会的スキル向上にどのように生かされるべきかを考えます。また、「人権」課題への接近が、社会変革にどのような可能性を持つのかについても考えます。

■講義方法

講義では、プリント、新聞（雑誌）、映像、音楽などを活用し、社会が「人権」「人権問題」をどのように捉えているのかを問題提起した上で、意見交換したいと思います。
授業終了間際に意見カードを書いてもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の冒頭でその時の注目ニュースについて解説します。新聞・ニュースなどをできるだけ見ておいてください。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席
定期試験 (40%) 全授業終了後に試験を実施します。
その他 (20%) 授業中に挙げたキーワードを授業終了時の意見カードに正しく記載されているかを評価します。
人権問題を正しく理解しているかどうかを評価するわけではありません。課題を能動的に捉えようとしているのか、積極的な参加意思を見せたのかを総合的に評価したいと思います。

■テキスト

外国人権法連絡会『外国人民族的マイノリティ人権白書』1,000円

■参考文献

授業と関連する文献について、その都度紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

社会生活を送る際の参考してほしいと思っています。生きて行く上で役に立つこと満載の授業にしたいと思っています。

■講義計画

- ① この授業のねらいとガイダンス
- ② 国際人権①～戦争と人権～
- ③ 国際人権②～世界人権宣言～
- ④ 性差別の現実①～セクシャルハラスメントは我慢すべきか～
- ⑤ 性差別の現実②～女性と労働～
- ⑥ 在日外国人の人権①～在日外国人の現状から見えてくる日本社会～
- ⑦ 在日外国人の人権②～深刻な人身売買の現実～
- ⑧ 在日外国人の人権③～外国人の子どもの人権～
- ⑨ 在日外国人の人権④～国内の労働現場を支える在日外国人～
- ⑩ 在日外国人の人権⑤～難民保護をめぐる日本の狭き門
- ⑪ 映画の中の人権
- ⑫ 映画の中の人権
- ⑬ ハンセン病元患者らの記憶
- ⑭ 人権をテーマとした社会変革の可能性
- ⑮ 水平社宣言～差別克服への胎動～

■サブタイトル

部落問題を事例として

■講義概要

本講義では、戦前、戦中、戦後から現代における「人権」をめぐる言説空間について、部落問題を事例として取り上げることを通じて、いかなる時代状況において、「部落」と「人権」が人びとにいかに関与され問題化されてきたのかを考えたい。また、それらの問題化のプロセスを理解すると同時に、各時代における社会事業や社会政策、社会運動等の目的と方策、影響力についても理解を深める。

■到達目標

部落問題を事例として、いかなる時代状況のもと、いかなる実践と研究があり、現代にいたる人権概念に到達してきたのかを理解することを通じて、身近な人権に関する諸課題の解決策を模索する手掛かりを得ること。

■講義方法

参考資料を使用しながら講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (40%)

レポート (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

講義時に紹介する。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②私と人権——部落問題から
- ③部落問題をめぐる言説空間——戦前①
- ④部落問題をめぐる言説空間——戦前②
- ⑤部落問題をめぐる言説空間——戦時
- ⑥部落問題をめぐる言説空間——1945年～1950年
- ⑦部落問題をめぐる言説空間——1950年代
- ⑧部落問題をめぐる言説空間——1960年代
- ⑨部落問題をめぐる言説空間——1970年代
- ⑩部落問題をめぐる言説空間——1980年代
- ⑪部落問題をめぐる言説空間——1990年代
- ⑫部落問題をめぐる言説空間——2000年代
- ⑬人権の到達点と現代的課題①
- ⑭人権の到達点と現代的課題②
- ⑮まとめ、振り返り

スポーツ文化論

■サブタイトル

スポーツについての知識を増やす

■講義概要

近代スポーツは、様々なところで人々の生活とつながりを持っており、様式は時代や地域、民族で異なっている。スポーツ種目や国によってそれぞれの文化的背景が異なる。オリンピックや海外のスポーツを通して、多様なスポーツ文化の意義とその歴史的な背景について、歴史学・文化人類学的な視点からアプローチし、スポーツについて深く知ることを目的としている。

■到達目標

スポーツの成り立ちや現在の状況について理解する。

■講義方法

パワーポイント、板書、配布資料、ビデオ、を用いて講義形式で進める。

■系統的履修

現代社会とスポーツ、健康とスポーツ

■授業時間外における予・復習等の指示

できるだけ新聞を読んでください。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 講義中のミニレポート

レポート (50%) 期末の課題レポート

■テキスト

なし

■参考文献

井上 俊・亀山佳明 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2,300円

■履修上の注意・担当者からの一言

パワーポイントのスライドをすべてノートに書き写す必要はありません。

資料が必要であれば、申し出てください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業後に問い合わせてください。

■講義計画

- ①スポーツ文化とは
- ②スポーツの成立
- ③古代スポーツ
- ④古代オリンピック
- ⑤近代オリンピック
- ⑥スポーツの国際化
- ⑦現代スポーツの諸問題1
- ⑧現代スポーツの諸問題2
- ⑨海外のスポーツ文化1
- ⑩海外のスポーツ文化2
- ⑪日本のスポーツ1
- ⑫日本のスポーツ2
- ⑬マイナースポーツ
- ⑭シーズンスポーツ
- ⑮まとめ

■サブタイトル

子供の貧困と子育て支援政策を考える

■講義概要

少子化が進行する日本の状況は、他の先進国と比較すると一層その深刻さが克明となる。やはり、欧米諸国との比較において、日本では子供に関する政策が遅れていることは明白である。少子化対策の必要性が論じられる一方で、他の先進国と比べると、その対策は統計上も不十分である。少子化対策だけでなく、子供に対する支援も見劣りがするのが現状だ。このような日本の少子化の状況は我々の社会にどのような影響を及ぼすのか、またなぜ少子化が進行する要因なのかを、本講義では分析し一緒に考えていきたい。その上で、どのような政策が実現可能か考えていきたいが、日本と同じような経済体制の下、中程度の負担、中程度の福祉を行う、イギリス、ニュージーランド、オーストラリアを取り上げ、こうした国々ではどの程度の負担によって、どの程度の政策が行われているかを考察したい。今年度は離婚によって別に暮らす親からの養育費の問題についても取り上げたい。3か国とも、子供の養育を行っていない親からの養育費は所得が一定以上あれば、強制的に国によって徴収され、子供の養育費とされるシステムを取っている。しかし、日本ではそうした制度の導入には程遠い。こうした問題もとりあげていきたい。

■到達目標

日本ではあまり詳しく紹介されていない3ヶ国の状況を理解し、日本の状況と比較し、どうした政策が望ましいか各受講者が考え、身近な問題として意識づけできるように取り組んで頂きたい。実生活に役立つ情報をどんどん取り入れましょう。

■講義方法

主として、教員による講義とそれを元に受講者に意見を求め、考察して頂く。

■授業時間外における予・復習等の指示

各国の状況と制度について、復習を適宜行っていただきたい。

■成績評価の方法

平常点（10%）出席などの状況を勘案します。

定期試験（90%）論述式筆記試験

リアクション・ペーパーをほぼ毎回、配布し出席をとります。一度も出席のないものは不可といたします。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義中に追って紹介いたします。

■履修上の注意・担当者からの一言

成績評価の方法でも記載しましたが、一度も出席のない受講生は不可と致しますので、ご注意ください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義後、ご質問ください。

■講義計画

- ①日本の少子化の状況と世界 - OECD加盟各国との比較 -
- ②日本の子供の貧困、一人親世帯の現状
養育費の問題
- ③日本における実際の子育て支援政策の紹介
- ④日本の子育て支援政策の問題点
- ⑤イギリスの子供の貧困と対策
- ⑥イギリスの実際の子育て支援政策の紹介 1
- ⑦イギリスの実際の子育て支援政策の紹介 2
- ⑧講義予備日
- ⑨ニュージーランドの子供にかんする状況
- ⑩ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介 1
- ⑪ニュージーランドの実際の子育て支援政策の紹介 2
- ⑫オーストラリアの子供の貧困と現状
- ⑬オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介 1
- ⑭オーストラリアの実際の子育て支援政策の紹介 2
- ⑮講義予備日

生活の中の宗教

■講義概要

我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。

■系統的履修

現代社会と宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席

定期試験（60%）

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

- ①はじめに — 生活の中の宗教
- ②宗教とお金 (1)
- ③宗教とお金 (2)
- ④宗教と食
- ⑤宗教と医療 (1)
- ⑥宗教と医療 (2)
- ⑦宗教と経済 (1)
- ⑧宗教と経済 (2)
- ⑨宗教とアート
- ⑩宗教と文学
- ⑪宗教と政治
- ⑫宗教とインターネット
- ⑬宗教とおひとりさま
- ⑭宗教と性愛
- ⑮まとめ

■講義概要

我々の生活・生存の中にはすでに宗教がしみ込んでいる。このことをどう考えるか。そこにどんな問題が浮かび上がってくるか。宗教を知ることとは自己を知ることである。授業では、宗教と食、お金、医療、アート、政治、インターネットといった切り口を1つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標

宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法

プリントを配布し、それをもとに講義する。映像資料なども使用する。

■系統的履修

現代社会と宗教

■授業時間外における予・復習等の指示

前回の講義内容を復習しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 出席

定期試験 (60%)

出席回数・授業態度が反映されるようなテストを実施する。

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業終了時。

■講義計画

①はじめに ― 生活の中の宗教

②宗教とお金 (1)

③宗教とお金 (2)

④宗教と食

⑤宗教と医療 (1)

⑥宗教と医療 (2)

⑦宗教と経済 (1)

⑧宗教と経済 (2)

⑨宗教とアート

⑩宗教と文学

⑪宗教と政治

⑫宗教とインターネット

⑬宗教とおひとりさま

⑭宗教と性愛

⑮まとめ

生命と共生

■サブタイトル

生命倫理の諸問題

■講義概要

医療技術の進歩とともに、延命や治療を至上とする考え方に対して、「それでいいのだろうか?」という疑問が寄せられるようになってきました。たとえば、ガンの治療について考えてみましょう。外科的治療、抗がん剤による治療、放射線による治療、あるいはそれらの組み合わせなど、治療の選択肢はさまざまです。また、発見されたとき、すでに末期の状態だったとしたら、完治をめざすよりも痛みや苦痛をやわらげることが重要となります。生命倫理の問題は、生殖技術や臓器移植などの新しい技術についても発生します。新しい技術によって恩恵を受ける人がいるのはとても喜ばしいことです。しかし、「代理母を認めてもいいのか」、「脳死は人の死か」などの問題について、あなたなら、どう考えますか? 「その時はその時だ」と思う人もいるかもしれませんが、生き方の問題として、今から少しずつ考えてみませんか? すぐに答は出ませんし、唯一の正しい答があるわけでもありません。けれども、学習することによって、視野を広げることができます。この授業では、基礎的なことを分かりやすく解説します。基礎を学ぶことによって自分の意見を形作り、自分とは意見の異なる人と対話できる人になりましょう。

■到達目標

生命倫理学のキーワードの意味を理解して、様々な立場の対立点を把握すること。

■講義方法

授業計画に沿って講義形式で進めます。

■系統的履修

教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎回、次回のテーマについての予習資料を指示します。予習資料は主にテキストから選びます。復習に役立つプリントを配布します。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席状況などで評価する。詳しくは授業内で説明する。定期試験 (50%)

■テキスト

伏木信次・桧則章・霜田求 [編] 改訂2版 『生命倫理と医療倫理』 金芳堂 2,500円

加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理を学ぶ人のために』 世界思想社 1998 2,300円

■参考文献

欠席遅刻はしないこと。私語をしないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

月曜日と木曜日の昼休み、場所は研究室 (2号館300-1) 連絡はメールでしてください。ktamura@soc.ryukoku.ac.jp 件名に「生命と共生の受講生」と書き、本文に名前 (フルネーム) と学籍番号を書くこと。

■講義計画

①ガイダンス 倫理学とは

②生命倫理とは何か

③自分のことは自分で決める―医師と患者の関係―

④人工妊娠中絶に関する基礎知識

⑤人工妊娠中絶の問題点

⑥人工妊娠中絶に関する法律

⑦出生前診断

⑧優生思想と選択的中絶

⑨不妊治療の問題点

⑩臓器移植

⑪脳死は人の死か

⑫臓器移植、脳死判定の問題点

⑬自己決定原理とは

⑭安楽死・尊厳死

⑮安楽死・尊厳死の問題点

■サブタイトル

医療技術と人間の生命

■講義概要

医療技術の進歩は、人類が長い間望んでいた、健康で長生きするという夢を実現させつつあります。とりわけ、iPS細胞研究やSTAP細胞の発見は、患者本人の細胞を使ったオーダーメイドの治療を可能にするものとして期待されています。その一方で、自らの意志で延命治療を拒否して死を迎えようとする人も現れています。また、先進国の患者が発展途上国で臓器移植や生殖補助医療をはじめとする医療を受ける、メディカルツーリズムも問題となっています。

生命倫理学は、医療と生命科学に関わるさまざまな問題について、医学・法学・社会学・哲学などさまざまな分野からアプローチする領域です。とはいえ、生命倫理の諸問題は、専門家達が議論するだけでよいというものではありません。皆さんもまた、医療技術が進歩しつつあるこの社会の一員なのですから、生命倫理のさまざまな問題についても当事者なのです。

この授業では、生命倫理の基礎理論に関する解説ののち、主要な問題を取り上げ、生命技術のあり方について考えていきます。

■到達目標

医療技術・生命科学に関するさまざまな問題について、さまざまな角度から検討することができる。

客観的な根拠に基づき、自らの見解をまとめることができる。

■講義方法

映像資料とプリントを使用し、講義形式で行います。ディスカッションとミニレポートあり。ミニレポートをもとに授業を進めることもあります。

■系統的履修

「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に取り上げる文献については、予習または復習として読んでおくこと。

新聞等による報道に注意し、医療・生命科学等に関わる記事については読んでおくこと。

■成績評価の方法

平常点 (20%)

定期試験 (80%)

欠席遅刻はしないこと。通算欠席数が授業回数の3分の1以上欠席した場合は履修放棄と見なします。

中間レポート課題を課すことがあります。

■テキスト

加藤尚武・加茂直樹編 『生命倫理学を学ぶ人のために』 世界思想社 2,300円

玉井真理子・大谷いづみ 『はじめて出会う生命倫理』 有斐閣 1,995円

テキストは、2冊のうちどちらかを用意してください。

■参考文献

参考文献については、授業中に適宜提示します。

生命倫理に関する文献のうち1冊を読むように。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の途中であってもかまいませんので、分からないと思ったらすぐに質問してください。

受講者の関心によって、授業内容を一部変更することがあります。

なお、授業開始30分後以降の入室はお断りすることがあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

木曜日13:00～13:30、講師控室

■講義計画

- ①はじめに：私たちの身近にある生命倫理
- ②はじめに：生命倫理学の歴史
- ③生命倫理のキーワード：「自律」と「尊厳」
- ④生命倫理のキーワード：優生主義
- ⑤生命倫理の理論：障害学
- ⑥生命倫理の理論：ケアとは
- ⑦生殖に関する諸問題：中絶
- ⑧生殖に関する諸問題：出生前診断と選択的中絶
- ⑨生殖に関する諸問題：第三者提供配偶子の使用と代理母
- ⑩生命科学と私たち：遺伝子解読技術の進歩がもたらすもの
- ⑪生命科学と私たち：ES細胞研究とiPS細胞研究
- ⑫死に関する諸問題：植物状態と治療停止
- ⑬死に関する諸問題：脳死と臓器移植
- ⑭死に関する諸問題：安楽死と緩和ケア
- ⑮まとめ：多様な生の肯定とは

歎異抄の思想Ⅰ

【担当】 殿内 恒

【開講】 前期 水2

■サブタイトル

親鸞のことば

■講義概要

『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の前半（第10条まで）に伝えられる親鸞のことばを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解していきたい。

■到達目標

誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。

■講義方法

『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。

■系統的履修

「仏教の思想A・B」の履修を前提とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）

定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。

■テキスト

『歎異抄 現代語訳付き』 本願寺出版社

■参考文献

梯實圓 『聖典セミナー 歎異抄』 本願寺出版社

林智康（他）『歎異抄事典』 柏書房

■履修上の注意・担当者からの一言

龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。

■講義計画

- ①『歎異抄』とは：伝えられる親鸞の言葉
- ②第1条：本願のはたらき－摂取不捨－
- ③第2条：念仏との出会い－往生極楽の道－
- ④第3条：悪人正機の意味－いわんや悪人をや－
- ⑤第4条：本当の慈悲とは－浄土の慈悲－
- ⑥第5条：縁の中にある命－世々生々の父母兄弟－
- ⑦第6条：仏の前の平等性－弟子一人も持たず－
- ⑧第7条：信心の行者のあり方－無碍の一道－
- ⑨第8条：念仏の意味するもの－非行・非善－
- ⑩第9条：煩惱を持って生きる－浄土は恋しからず－
- ⑪第10条：他力のあるがまま－無義をもって義とす－

歎異抄の思想Ⅱ

【担当】 殿内 恒

【開講】 後期 水2

■サブタイトル

誤解をただす

■講義概要

『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解していきたい。

■到達目標

誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。

■講義方法

『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。

■系統的履修

「仏教の思想A・B」の履修を前提とする。「歎異抄の思想Ⅰ」も履修していることが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回に読むテキストの現代語訳に目を通しておくこと。

■成績評価の方法

その他（100%）

定期試験を80%、平常点（数回の小レポート）を20%で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。

■テキスト

『歎異抄 現代語訳付き』 本願寺出版社

■参考文献

梯實圓 『聖典セミナー 歎異抄』 本願寺出版社

林智康（他）『歎異抄事典』 柏書房

■履修上の注意・担当者からの一言

龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。

■講義計画

- ①「異義」とは：親鸞思想への誤解
- ②第11条：本願と念仏の関係
- ③第12条：学問の持つ意義
- ④第13条：人間にそなわる悪
- ⑤第14条：罪を滅ぼす行い
- ⑥第15条：この世で開くさと
- ⑦第16条：回心するということ
- ⑧第17条：本願を疑っての往生
- ⑨第18条：布施の意義と利益
- ⑩後序：信心は一つ－たまわりたる信心－
- ⑪後序：自身が対象－親鸞一人がため－
- ⑫後序：虚仮と真実－念仏のみぞまこと－

■サブタイトル

映像から探求する京都の魅力：京に学ぶ京を学ぶ

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。修学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思ひます。

■到達目標

京都の魅力に触れながら、京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、映像を駆使して、京都の〈姿〉〈カタチ〉を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点（20%）

定期試験（80%）

平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円

授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社

堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の町のでき方・京都の歴史
- ③京都を題材とした映画鑑賞1
- ④前回（第3回）の続編、解説と分析
- ⑤京都を題材とした映画鑑賞2
- ⑥前回（第5回）の続編、解説と分析
- ⑦京都の世界遺産・国宝・重要文化財／
小京都と姉妹都市・友好都市
- ⑧京都を題材とした映画鑑賞3
- ⑨前回（第8回）の続編、解説と分析
- ⑩京ことば1/京都人物列伝
- ⑪京都を題材とした映画鑑賞4
- ⑫前回（第11回）の続編、解説と分析
- ⑬京都の伝統工芸・伝統芸能・茶花香道
- ⑭京都の四大大行事/京ことば2
- ⑮総論

■サブタイトル

京都四大大行事と歳時記：京に学ぶ京を学ぶ

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。修学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思ひます。

■到達目標

京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点（20%）

定期試験（80%）

平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円

授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社

堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

- ①概論
- ②京都の季節感・歳時記
- ③京の町のでき方・歴史
- ④京都の四大大行事概観
- ⑤葵祭
- ⑥お盆行事と五山送り火1
- ⑦お盆行事と五山送り火2
- ⑧時代祭
- ⑨京都の京都の世界遺産・国宝・重要文化財／
小京都と姉妹都市・友好都市/京ことば1
- ⑩京都の伝統工芸・伝統芸能・茶花香道／京ことば2
- ⑪祇園祭1
- ⑫祇園祭2
- ⑬祇園祭3
- ⑭祇園祭4
- ⑮総論

■サブタイトル

京都学入門

■講義概要

皆さんが学ぶ龍谷大学は京都に在って、世界有数の歴史と伝統を誇る大学です。この【京都】は、〔古都〕〔学問の都〕〔国際都市〕〔観光都市〕〔学研都市〕〔歴史都市〕〔宗教都市〕などと形容されます。京都は古来、小説や映画の舞台となってきました。全国には〔小京都〕と呼ばれる都市は少なくなく、また、全世界にも京都の〔国際姉妹都市〕〔国際友好都市〕は少なくありません。修学旅行で京都に来たという人も少なくないはずです。人はなぜ、京都に憧れ、惹かれるのか、この講座では、京都の魅力を伝えながら、考えていきたいと思えます。

■到達目標

京都の基本的な事柄が分かるように理解を図りたい。

■講義方法

講義形式を主とするが、口述だけでなく、パワーポイントを駆使して、京都の魅力を存分に伝える。

■系統的履修

〔文化関係〕〔文学関係〕〔芸術関係〕〔観光関係〕〔歴史関係〕〔宗教関係〕などの諸科目。

■授業時間外における予・復習等の指示

休日等時間のある際には京都の寺院仏閣、神社、史跡、博物館、祭、行事を見学すること。

■成績評価の方法

平常点 (30%)

定期試験 (70%)

平常点は、受講生の人数等により、適宜小テストやレポートを課すこともあり、それを平常点と勘案することもある。

■テキスト

泉 文明 『京ことばとその周辺』 晃洋書房 1,800円

授業時に指示及び配布プリント。

■参考文献

上田正昭監修、芳賀徹編集 『京都学を学ぶ人のために』 世界思想社

堀井令以知 『京都語を学ぶ人のために』 世界思想社
授業時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言

京都に興味・関心のある人はぜひ受講して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

3学部合同ですので、質疑応答等は全て授業時にお願いします。そのための時間は可能な範囲で確保します。

■講義計画

①概論

②京都の町のでき方と歴史

③京ことば1 (アクセント・イントネーションにも配慮して) / 京都の世界遺産・国宝・重要文化財

④京都を題材とした映画鑑賞

⑤京都を題材とした映画鑑賞

⑥前回 (第5回) の解説と分析

⑦京ことば2 (アクセント・イントネーションにも配慮して) / 京都の四大大行事1

⑧京ことば3 (アクセント・イントネーションにも配慮して) / 京都の四大大行事2

⑨京ことば4 (アクセント・イントネーションにも配慮して) / 京都の四大大行事3

⑩京ことば5 (アクセント・イントネーションにも配慮して) / 京都の四大大行事4

⑪京都の伝統芸能・茶花香道

⑫京都の伝統工芸

⑬京都人物列伝

⑭小京都と姉妹都市・友好都市

⑮総論

人間と社会と法

■サブタイトル

現代日本における人権

■講義概要

日本国憲法が保障した平等は、法的な身分制度を否定しただけでなく、社会的な階層関係をも破壊した。その結果、一方で、身分制度から解放された国民の活力は高度経済成長と均質な社会を実現したが、他方で、平等意識に基づく無節操な自己主張ははじめを失い無秩序と混乱をもたらした。いずれにしても、日本の社会は憲法制定時からあまりにも変わってしまい、いまや憲法制定者が予想もしなかった利益や自由が人権の名の下に主張されている。そこで本講義では、人権の歴史をふまえたうえで、社会的背景や訴訟理論にもふれつつ、新しい人権について裁判所の判決を中心に検討したい。

■到達目標

基本的な法的思考を身につけること。

■講義方法

原則として毎回レジメを配布し、レジメに沿って講義を進めるので、レジメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修

法学入門か日本国憲法を受講していることを前提として講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

レジメを読み返し、必要があれば、自ら書き込みを行う。

■成績評価の方法

レポート (100%) 出席2/3以上の者を対象とする

■テキスト

特に指定しない。

■参考文献

佐藤幸治他編 『デイリー六法平成26年版』 三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言

六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画

①人権の歴史と分類

②憲法訴訟 I

③憲法訴訟 II

④日本国憲法の成立

⑤戦後史 I

⑥戦後史 II

⑦戦後史 III

⑧幸福追求権と新しい人権

⑨プライバシーの権利

⑩知る権利

⑪環境権

⑫自己決定権 I

⑬自己決定権 II

⑭裁判員制度 I

⑮裁判員制度 II

■サブタイトル

平和学なんて忘れてしまえ！

■講義概要

平和という言葉はとても難しい言葉です。平和が何を意味するのか？戦争の無い状態か、戦争の心配のない状態か、差別やいじめのない安心して生活できる状態か。よく「平和ボケ」という言葉も最近聞きますが、平和は人々を「ボケ」させるのか、そのときの「平和」とは何なのか。本当に「日本」は平和なのか。その平和は誰にとっての平和なのか。平気で「平和ボケ」という言葉を使う事自体「平和」でボケているのではないのか。この講義では、様々な側面から「平和」について考えていきたいと思います。具体的に取り上げる事象は時間の関係から、ルワンダ、ホロコーストおよびパレスチナ／イスラエルに限られますが、これらの問題を通して現代の世界における平和について考え始めてもらえればと思います。

大人数の講義になった場合でもできるだけみなさんと直接議論していきたいと思いますが、コミュニケーション・ペーパーも使いながらみなさんとの意思疎通をはかりたいと思います。積極的な参加を期待します。

■到達目標

自分なりの平和概念を持てるようになること、もしくはそのための研究を始めること。

■講義方法

主として講義形式となる予定ですが、映画・ビデオなどの教材をできるだけ使っていくつもりです。

■系統的履修

特にありません。

■授業時間外における予・復習等の指示

いくつかの映像資料については授業で放映しますが、個人的に視聴できる場合には前もって観ておいてください。

■成績評価の方法

小テスト (50%) In-class test

定期試験 (50%) In-class test

■テキスト

特になし

■参考文献

授業の中で適宜指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

ビデオ教材などを使用する予定です。上映中の出入りは他の受講生の迷惑になる場合もありますので、できるだけ遅刻しないようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業の中でお知らせします。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②「人」の「権利」と平和
- ③ルワンダ1
- ④ルワンダ2
- ⑤見える紛争と見えない紛争
- ⑥暴力とは何か
- ⑦中間試験と講評
- ⑧第二次大戦 I
- ⑨第二次大戦 II
- ⑩第二次大戦の原因とは？
- ⑪領土問題 I
- ⑫領土問題 II
- ⑬紛争、文化、宗教
- ⑭まとめ
- ⑮最終試験と講評

■サブタイトル

「ここ」と「あそこ」を繋ぐ思考

■講義概要

平和学は様々な学問が重なり合っている分野です。また、何が「平和な状態」であるかについても、統一見解があるわけではありません。本講義では、政治学（政治哲学）・国際関係論・グローバル市民社会論といった視点から平和と暴力について考えていきたいと思います。授業では映画や音楽などの教材も使いながら、核・ヒバクシャ、冷戦、ホロコースト、パレスチナ・イスラエル、イラク戦争などの事象を中心にとりあげていきます。同時に、これらの問題・暴力と私たちの日常生活とがどのような関係にあるのかについてもできる限り受講生のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。さらに、オルタナティブメディアをとりあげつつ多様な視点の可能性についても触れていきます。決まった「答え」がないからこそ、皆さんの自由な思考で自分なりの「平和」概念を磨いてください。大人数の講義になった場合は、コミュニケーション・ペーパーを通じて皆さんとの意見交換をしていきたいと思います。積極的な参加を期待します。

■到達目標

自分なりの「平和」概念を追究し始めること。普段の会話の中で、授業で扱った題材をはじめ時事問題を意識するようになること。

■講義方法

主として講義形式ですが、時々、映画・音楽などの視聴覚資料も使っていく予定です。

■系統的履修

日本と国際社会A、日本と国際社会Bなど

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で扱った内容やニュースで知った内容で気になった点があったら、積極的にメモを書きためてください。気になった点・質問をコミュニケーション・ペーパーやメールなどでお知らせしてもらえれば、できるだけ次の授業などで議論する時間を確保したいと思います。

■成績評価の方法

小テスト (30%) 第8回目の授業で実施します

レポート (70%) 第1回目の授業（イントロ）で説明します

■テキスト

必要に応じて授業中にお知らせします。

■参考文献

必要に応じて授業中にお知らせします。

参考までに2013年度で鍾愛した参考文献の一覧を「資料」に掲載しておきます。

■履修上の注意・担当者からの一言

基本的にはリラックスして受講してもらうのが一番です。ただし、多数の受講生が一つの教室を共有しますので、そのことを意識し、他の受講生の学習の妨げとならないような行動・発言を心がけて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業の中でお知らせします。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②ヒバクシャ1
- ③ヒバクシャ2
- ④暴力とは何か
- ⑤冷戦（後）と原子力「平和」利用
- ⑥暴力と思考1
- ⑦暴力と思考2
- ⑧1回目～7回目の授業の整理：小テスト
- ⑨ホロコーストとは何だったのか1
- ⑩ホロコーストとは何だったのか2
- ⑪パレスチナとイスラエル
- ⑫パレスチナとイスラエル2：文化的暴力に抗して
- ⑬イラク戦争と世界経済
- ⑭オルタナティブな視点、情報、言葉
- ⑮まとめ

メディアにみる福祉

【担当】高田 敏司

【開講】後期 木5

■講義概要

世界に例を見ない長寿化と少子化で、日本は人口の減少が進んでおり、「超高齢・人口減少社会」に突入しています。右肩上がりの経済成長を前提につくられた現在の社会保障制度は抜本的な見直しが迫られています。

そこで政治や行政、医療・福祉関係者、住民の中からさまざまな動きが起こっています。

本講義では現場で取材する新聞記者の立場から、社会保障について介護や医療、年金、雇用、生活保護、地方自治などの観点から時事ニュースなどを例に解説するとともに、どのような課題があるのかも考えます。

■到達目標

福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く知り、社会生活に向けて、最低限は必要な社会保障の教養が身につくようにしたいと考えます。さらには自分の問題として考えられる手がかりを示したいと思っています。

■講義方法

新聞記事やテレビの特集番組などを素材にして講義します。

■授業時間外における予・復習等の指示

できるだけ新聞に目を通し、社会保障関連の動向に関心を持ってください。

■成績評価の方法

定期試験（100%）（人数によってはミニレポートを課すこともあります。その場合は試験90点、ミニレポート10点とします）

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜、紹介します

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問などがあれば、気軽にメールで連絡下さい（taka8@mvd.biglobe.ne.jp）

■講義計画

- ①超高齢・人口減少社会の到来
- ②介護保険創設の背景と仕組み
- ③介護保険の課題
- ④すすむケアの工夫
- ⑤障害者福祉の今とこれから
- ⑥日本の医療の特徴
- ⑦医師不足の深層
- ⑧がん医療、先端医療のトピック
- ⑨患者が医療を変える
- ⑩年金のいま
- ⑪生活保護と雇用保険
- ⑫少子化への対応
- ⑬福祉の軸となる雇用と教育
- ⑭負担と給付の選択肢
- ⑮地域自治と社会保障

メディアにみる福祉

【担当】幸重 忠孝

【開講】後期 木3

■サブタイトル

身近なメディアから福祉を感じる

■講義概要

学生生活を過ごす中で「福祉」を身近に感じることは少ない。しかし、実は私たちの身近なところに福祉の課題や福祉サービスが存在している。この講義では、学生にとって身近なメディア（新聞、テレビ、インターネット、小説、コミックス、映画など）の中で表現されている福祉を題材に、様々な福祉課題や福祉サービスを講義を通して深めていくこととする。

■到達目標

- ・福祉とは身近なテーマであることを知る
- ・様々なメディアから福祉課題や福祉サービスを知る
- ・メディアによる福祉の表現の問題を学ぶ

■講義方法

講義の前半は、各回ごとのメディア教材（映画、ドラマ、コミックス、小説、インターネットなど）を紹介

※過去の講義で活用した題材

映画「誰も知らない」「ジョゼと虎と魚たち」「ウイニング・パス」「青い鳥」
TVドラマ「だいすき!!」「瞳」「どんまい」「僕と彼女と彼女の生きる道」「エンジン」
コミック・自叙伝「リアル」「ヘルプマン」「Flower」「ツレがうつになりまして。」
『ホームレス中学生』

他各種ドキュメンタリー番組、新聞記事、ホームページ

講義の後半は、使った教材による福祉課題が何なのかと福祉サービスの解説を行う
講義終了後、課題レポートによって学生自身の考察を深める

■授業時間外における予・復習等の指示

課題コミック、映画・ドラマの視聴と課題レポート（授業内レポートとの選択）

■成績評価の方法

レポート（100%）講義時のレポート試験か講義終了後に自宅での課題レポートを選択

■テキスト

特になし

■参考文献

二通論『映画で学ぶ特別支援教育』全国障害者問題研究会 1,785円

講義では使いませんが、講義で使う以外の映画もたくさん紹介解説している文献です。

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 視覚教材の視聴中に他者への迷惑になる行為を行った場合は退室も含め厳しく対処します。
2. 課題で指定された映画やドラマ、コミックなどは各自でレンタルなどをして視聴してもらいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

教員のホームページやブログを活用

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②身体障がい
- ③知的障がい
- ④精神障がい
- ⑤高齢者介護
- ⑥介護従事者
- ⑦子どもの貧困
- ⑧子ども虐待
- ⑨施設で生活する子ども
- ⑩ひとり親家庭
- ⑪生活困窮
- ⑫発達障がい
- ⑬災害における福祉
- ⑭若者への福祉
- ⑮まとめ

学部内共通科目

(数理情報学科)

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
エ	MOT演習	長谷 智弘	後期	月 1	141
	MOT概論	長谷 智弘／安藤 信行／加藤 正浩／ 佐藤 研司／神野 友香子／谷口 清志	前期	火 5	141
カ	化学概論Ⅰ	長澤 佳克	前期	水 3	142
	化学概論Ⅱ	三宅 司郎	後期	月 1	142
	科学技術英語	全教員	通年	集中	143
	科学思想史	但馬 亨	前期	月 1	143
	学外実習(キャリア実践実習)／ 学外実習	飯田 晋司	前期	集中	144
	環境科学	岩崎 仁	前期	月 3	144
キ	技術者倫理	田岡 直規／細谷 陽三	前期	集中	145
	キャリアデザイン	植田 香代子／澤田 幸子	前期	水 1	146
	キャリアプランニング	瀧井 智美／西木 多賀子	前期	水 2	147
ク	グローバル人材育成プログラムⅠ／ 海外キャリア実践教育及び実習A	大柳 満之／塩見 洋一	前期	集中	148
	グローバル人材育成プログラムⅡ／ 海外キャリア実践教育及び実習B	大柳 満之／塩見 洋一	前期	集中	148
ケ	計算機基礎実習Ⅰ	阪井 一繁	前期	金 4・金 5	149
	計算機基礎実習Ⅱ	宇土 顯彦	後期	金 4・金 5	149
コ	工学概論	泉田 信也	前期	木 1	150
	工業経済	齊藤 進	後期	金 4	150
シ	資源エネルギー論	白神 達也	後期	金 2	151
	自然観察実習	横田 岳人／丸山 敦／近藤 祥子	前期	水 3～5	151
	情報学概論	杉山 久佳	前期	木 5	152
	情報と職業	北林 雅俊	前期	集中	152
セ	生態学概論	山中 裕樹	後期	月 2	153
	生体情報概論	梶崎 弘幸	前期	金 2	153
	生物学概論Ⅰ	鈴木 孝仁	前期	月 1	154
	生物学概論Ⅱ	鈴木 孝仁	後期	月 1	154
ソ	総合演習	飯田 晋司／國府 宏枝／高橋 隆史／ 樋口 三郎	前期	木 2	155
チ	地域環境概論	竺 文彦／遊磨 正秀	前期	木 2	155
	地学概論Ⅰ	桑原 希世子	前期	月 3	156
	地学概論Ⅱ	塩野 清治	後期	水 2	156
	地球環境概論	市川 陽一／宮浦 富保	後期	火 1	157
	知的財産概論	藤河 恒生	後期	水 3	157
ニ	人間工学	橋本 正治	前期	水 1	158
フ	物理実験	金子 康智	後期	火 3～5	158

MOT演習

[担当] 長谷 智弘

[開講] 後期 月1

■講義概要

本演習は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計および労務・組織、(3) 情報管理、(4) 生産管理などを中心に、演習を通じて応用を重視した実践的なManagement of Technology (MOT: 技術経営) 教育を身に付ける。

■到達目標

技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法

各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■系統的履修

MOT (技術経営) 概論

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

レポート (50%)

各講師より出される課題のレポート内容、発表・討論などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

前期開講の「MOT (技術経営) 概論」の知識を前提とするため、本科目の履修登録は「MOT (技術経営) 概論」の単位合格者に限る。

■講義計画

①総論

②マーケティング・戦略論

③マーケティング・戦略論に関する事例演習 (1) 概論、SWOT

④マーケティング・戦略論に関する事例演習 (2) 戦略、戦術

⑤財務・会計および労務・組織

⑥財務・会計および労務・組織に関する事例演習 (1) 簿記、B/S、P/L

⑦財務・会計および労務・組織に関する事例演習 (2) 経営分析

⑧情報管理

⑨情報管理に関する事例演習 (1) インターネットショッピング

⑩情報管理に関する事例演習 (2) SE

⑪生産管理

⑫生産管理に関する事例演習 (1) 在庫管理

⑬生産管理に関する事例演習 (2) 生産計画

⑭ビジネスプランの作成方法

⑮まとめ

MOT概論

[担当] 長谷 智弘、安藤 信行、加藤 正浩、佐藤 研司、神野 友香子、谷口 清志

[開講] 前期 火5

■サブタイトル

技術経営入門

■講義概要

本講義は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計、(3) 労務・組織、(4) 生産管理・情報管理・流通管理など、(5) 法務・知財 (特許)・標準化 (品質管理など) を、バランス良く総合的に学べる内容になっている。応用を重視した実践的なManagement of Technology (MOT: 技術経営) 教育プログラムの構成とする。

■到達目標

技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド

■講義方法

各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業中に課される宿題課題と、復習課題を必ずすること。

■成績評価の方法

レポート (100%)

講師ごとに出される課題のレポート内容などを勘案した総合点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

後期開講の「MOT演習」を受講を希望するものは、本科目を受講すること。

■講義計画

①総論

②企業経営理論 (1) 企業形態・株式会社

③企業経営理論 (2) 経営計画・マーケティング

④企業経営理論 (3) 経営戦略

⑤企業経営理論 (4) 競争戦略

⑥財務・会計 (1) 概論・会計原則

⑦財務・会計 (2) 損益計算書・貸借対照表

⑧財務・会計 (3) 安全性・収益性・生産性分析

⑨財務・会計 (4) 損益分岐点分析

⑩人事・労務・組織

⑪運営管理: 生産・販売・流通・在庫・情報化

⑫法務: 会社設立・運営

⑬知的所有権: 特許

⑭標準化動向 (品質・環境・労務)

⑮まとめ: ビジネスプランの作成方法

化学概論Ⅰ

【担当】長澤 佳克

【開講】前期 水3

■講義概要

我々は様々な物質からなる材料を利用し、またそれに助けられて生活している。ところで日本は不況から回復したと言われているが、真の日本の回復は、この材料・素材を開発する技術の維持と更なる発展である。化学は物質の構造、機能、反応を研究する学問であり、日本が優位性を保っている材料開発技術の根底にある。この講義では化学物質を構成する原子、分子の概念を学び、物質が吸収または反射、放射する光（電磁波）から見た物質の構造や性質を説明する。また物質の構造や固有の機能・性質を応用した工業製品（発光体、電池、表示素子等）についてその機能発現の機構と抱えている課題を講義する。

■到達目標

材料が持つ化学的性質を基本から理解する。覚えることなく疑問をもち、調べ、理解し、他者に説明する力を身につけることを目標とする。

■講義方法

PowerPointを用いた講義。（資料はPDFでシラバスに講義後掲示）学生にとって主体的・能動的な講義にするため、講師から質問をして、共に考える授業とする。

■系統的履修

化学概論Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

当番を決め、与えた課題について、講義中に発表してもらう。大きな負荷はかけない。

■成績評価の方法

平常点（50%）課題発表を含む
定期試験（50%）

■テキスト

特になし

■参考文献

茅幸二 中嶋敦 『化学の考え方』 岩波書店 3,500円
M.J.Shultz著；長谷川哲也訳 『エンジニアのための化学』 東京化学同人 3,300円
講義の前にシラバスにパワーポイントで資料を掲載します。

■履修上の注意・担当者からの一言

化学を考える授業にする。企業で化学に35年以上にわたって携わった経験を生かして、化学を専攻しない理工系の学生に役立つ化学概論にする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

e-mail:y-naga2449@hotmail.co.jp
→ 7月10日は休講です。7月20日（同時刻）に補講を行います。
6月26日の資料を一部更新しました。

■講義計画

- ①化学について（私と化学、化学とは？ 化学が生み出した材料）
- ②原子の概念（原子模型の誕生まで）
- ③原子の概念（波動性、粒子性）
- ④原子・分子の概念（周期表、原子軌道）
- ⑤周期律表、分子軌道 化学結合（イオン結合、共有結合）
- ⑥化学結合（金属結合：自由電子とバンド理論、その他の結合）
- ⑦物質の状態（気体、液体、固体）
- ⑧光と物質の相互作用（透過、反射、吸収、放射）
- ⑨化学反応（触媒反応）
- ⑩化学反応（酸化還元反応、電気化学反応）
- ⑪界面化学、表面科学
- ⑫材料・素材（発熱体、電池）
- ⑬材料・素材（半導体、発光素子）
- ⑭分析化学
- ⑮分析化学（環境科学）
- ⑯記述式が中心

化学概論Ⅱ

【担当】三宅 司郎

【開講】後期 月1

■講義概要

本講では、有機化学が私達の生命や生活（エネルギーや衣食住）へ如何に深く関わっているかを学ぶ。まず、代表的な化学構造を身近な関連化学物質（燃料、医薬品、農薬など）とともに解説する。次に、合成高分子（衣食住）や生体成分（生命）を学ぶ。最後に、生体成分で構成されている細胞を基に生命を考えると共に、環境化学の視点から有機化学物質を捉える。

■到達目標

有機化学物質が、生命や生活に密接に関わっていることを理解する。

■講義方法

出版された成書を参考書として使用するが、適宜パワーポイントやプリントを用いることで講義への理解を深める。

■授業時間外における予・復習等の指示

新聞などの科学記事を読むことで、有機化学への関心を高めることが望ましい。

■成績評価の方法

小テスト（50%）毎回、前週の復習として小テストを行う。
定期試験（50%）

■テキスト

特になし

■参考文献

H.ハート、L.E.クレーン、D.J.ハート 『基礎有機化学』 培風館 4,000円

■講義計画

- ①概説
- ②炭化水素
- ③芳香族化合物
- ④有機ハロゲン化合物
- ⑤アルコール、フェノール
- ⑥カルボン酸とその誘導体
- ⑦アミンとそれに関連した窒素化合物
- ⑧複素環化合物
- ⑨合成高分子
- ⑩脂質と洗剤
- ⑪炭水化物
- ⑫アミノ酸、ペプチド、タンパク質
- ⑬ヌクレオチドと核酸
- ⑭細胞と生命
- ⑮環境化学

科学技術英語

【担当】全教員
【開講】通年 集中

■サブタイトル

実社会で使える英語を

■講義概要

英語で書かれた研究論文や技術資料を通して、論文の読みかたや科学技術英語の読解力を養う。また、英作文やコミュニケーションなどの素養を身につける。

■到達目標

現在のような国際化の時代にあって科学技術英語は不可欠である。この科目では特に実践的な英語力を養う。

■講義方法

担当教員毎に異なる。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法

取り組みの姿勢や課題の達成度を担当教員が評価する。

■テキスト

担当教員毎に異なる。

■参考文献

担当教員毎に異なる。

■講義計画

担当教員毎に異なる。

科学思想史

【担当】但馬 亨
【開講】前期 月1

■サブタイトル

ヨーロッパにおける近代科学・技術の成立と発展についての通史

■講義概要

現代世界において、科学・技術の問題に触れずして人類の知識総体の理解を行うことはまず不可能であろう。しかし、このように強大な影響力は古代の段階においてすでに得られていたのであろうか。当講義では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について、約二千年前のギリシャから遡り解説していく。なお、扱われる対象は近代の数学や物理学を主体としたいいわゆる自然科学分野であるが、その他として西洋思想の諸問題についての理解が必須であるため、適宜取り上げる。

■到達目標

各時代ごとの自然科学・技術の様態について適切な歴史的認識を得ること、さらには理論的な科学発展の経過についての理解を得ること。

■講義方法

プリントなどの資料の配布に加えて、映像資料などの学習教材を使って歴史的背景について説明する。

■系統的履修

自然科学の論理

■授業時間外における予・復習等の指示

参考図書等の指示をするが、課題の考察について図書館の蔵書等を利用して自主的に調査してもらう場合もある。

■成績評価の方法

平常点（15%）小テストと合算で30点

小テスト（15%）平常点と合算で30点

定期試験（70%）授業で扱ういくつかの核となるべきトピックについて、その理解を問う。

テストでは論述が主体となります。

■テキスト

特になし

■参考文献

トーマス・クーン著 中山 茂訳 『科学革命の構造』 みすず書房 2,730円

■履修上の注意・担当者からの一言

携帯電話や私語などには厳しく対処し、場合によっては単位を取り消す可能性もあります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業開始時にe-mailアドレスをお伝えします。

■講義計画

- ①ガイダンス
- ②古代ギリシャ（1）：前ソクラテス期
- ③古代ギリシャ（2）：プラトン以降
- ④ヘレニズム期と古代精密科学
- ⑤アラビアと中世の科学
- ⑥初期近代（1）：万能人の思想
- ⑦初期近代（2）：印刷術、近代解剖学
- ⑧前半内容の確認
- ⑨科学革命の世紀（1）：理論
- ⑩科学革命の世紀（2）：個別事例
- ⑪18世紀の科学
- ⑫19世紀（1）：科学の組織化、制度化
- ⑬19世紀（2）：近代生物学の誕生
- ⑭現代の科学：科学の巨大化
- ⑮総括

学外実習（キャリア実践実習）（2009年度以降入学生） 学外実習（2008年度以前入学生）

【担当】 飯田 晋司
【開講】 前期 集中

■サブタイトル

インターンシップで自分のキャリアプランを充実させよう！

■講義概要

キャリア教育の一環である選択科目です。3年次のすべての学生に受講を奨めます。

原則として夏期休暇中の約2週間、学外の企業・研究所・公共機関・非営利団体等で、実務を体験するインターンシップを行います。前期授業期間中に、各自のキャリアプランに応じたインターンシップ先の調査・選定・応募、インターンシップ先の実務内容に応じた事前学習を行います。

実習先は担当教員と相談の上で決定します。ただし、龍谷大学協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム、自己応募インターンシップなどに適切なものがあればそちらに応募することを推奨します。

■到達目標

現場でプロフェッショナルとして活動できる。インターンシップの体験に基づいてキャリアプランを築ける。

これまで大学で学んだことを現場で使ってみて理解を深めることができる。

■講義方法

事前学習に続いて企業・研究所・公共機関・非営利団体等でインターンシップを行います。

■系統的履修

1・2年次でキャリアデザイン、キャリアプランニングなどの科目を履修しておくといよいでしょう。履修していない場合も、総合演習（必修科目）で、学外実習の準備をすることができます。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自でインターンシップ先の調査や事前学習の予復習をしっかりやっておきましょう。

■成績評価の方法

実習前の事前学習の実施状況・実習先での取組・実習先に提出する学外実習報告書・学外実習報告会への参加等により総合的に合否を判定します。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

不定期にミーティングを行ったり、担当教員と打ち合わせを行ったりしますので、掲示や電子メールによる連絡に注意してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは追って掲示があります。メールでの連絡の際は、Subject を 学外実習 とし、本文には学籍番号と氏名を必ず書いてください。

■講義計画

- ① 4月に各種インターンシップの説明会に参加します。事前学習を行います。龍谷大学協定型インターンシップに応募します。
- ② 5月に事前学習を行います。大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムに応募します。
- ③ 6月に事前学習を行います。自己応募インターンシップに応募します。理工学部学外実習を希望する人は実習先を決定します。
- ④ 7月に事前学習を行います。
- ⑤ 原則として8月末から9月初めの2週間、実習に行きます。
- ⑥ 9月中旬に行われる学外実習報告会に参加します。学外実習報告書を提出します。

環境科学

【担当】 岩崎 仁
【開講】 前期 月3

■講義概要

地球環境の成り立ちや地球科学の基礎的な知識について説明し、最近の地球環境問題について、水、大気、土壌、生物等に関して具体的な例を上げて解説する。

また、環境マネジメントシステムや環境関連法規、地球を守る技術としてのエコテクノロジー、さらにエコロジー思想などについて解説し、科学技術の発展と人間の生活を自然環境に調和させることの大切さについて述べる。

■到達目標

1. 地球環境の成り立ちや、人と自然との共生の大切さを理解する。
2. 地球環境問題や地域環境問題について科学的に理解し、その原因、影響及び現在実施されている対策について説明できる。
3. 環境保全技術、環境管理システム、エコテクノロジー、エコロジー思想などを理解する。
4. 偏ることなく情報を入手することの大切さ、物事（事象）を表面だけで判断せず本質を理解することの大切さを学ぶ。
5. 環境問題解決のために自分たちは何ができるか、何をすべきかを考える。

■講義方法

毎回、講義の要点となるプリントを配布し、主にプロジェクタを使用して講義を行う。各回の最後に小テスト（レポート）を実施する。

■授業時間外における予・復習等の指示

研究・調査レポートを課することがある。

■成績評価の方法

平常点（20%）

小テスト（20%）

定期試験（60%）

平常点・小テスト・課題レポートを合わせて40%、定期試験を60%とする。

■テキスト

教科書は特になし。

■参考文献

参考となる資料や図書は講義で適宜紹介する。例：「地球その誕生と現在」上山弘、裳華房

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問や授業への希望などは、講義終了後の時間に受け付けます。また下記のアドレスへのメールも受け付けます。

iwasaki@kit.ac.jp

■講義計画

- ① 本講義の概要、現在の地球環境問題について
- ② 宇宙の進化と元素の合成、地球の歴史と生物の進化について
- ③ 地球大気、大気汚染の歴史、大気汚染のメカニズム、特に酸性雨について
- ④ 成層圏のオゾン、フロンによるオゾン層の破壊、紫外線の環境への影響およびオゾン層保護の対策について
- ⑤ 温室効果、温室効果ガスおよび過去から現在までの気候の変化について
- ⑥ 気候モデル、気候変動の予測、気候変動の影響およびその対策としての再生可能エネルギーについて
- ⑦ 湖沼・河川の汚染や富栄養化、およびその浄化作用など琵琶湖を例にして陸水の現状について
- ⑧ 生活排水対策、浄化槽や下水の水環境への影響など水資源の危機とその対応策などについて
- ⑨ ハイテク汚染などによる地下水の汚染、また海洋水の汚染について
- ⑩ 増加し続ける化学物質（農薬、環境ホルモン）の種類と特性、また、ダイオキシンなど環境への影響が大きい化学物質について
- ⑪ 生物多様性、生物圏の環境問題、熱帯林の消失、砂漠化および野生生物種の減少について
- ⑫ リサイクル法など環境に関連する法規について、および環境管理システム（ISO-14001）について
- ⑬ 化石燃料資源の問題、原子力エネルギーの利用と問題点などについて
- ⑭ 新しいエネルギー源、再生可能エネルギー、エコテクノロジーなどについて
- ⑮ 近代のエコロジー思想および環境活動家について

■講義概要

科学技術が人間社会や自然環境に対して与える正負の影響について理解する。また、その中で、専門職である技術者、研究者として、倫理に関わる問題に出会った場合にどのように対処すべきか、技術者、研究者の倫理、責任について理解する。さらに具体的な事例研究やグループディスカッション等を通じて、公衆の安全、公共の福祉、健康、文化、社会、環境等、様々な観点から価値を総合的に考慮する必要があることを理解し、具体的な問題解決を図る場合の、倫理的判断能力と問題解決能力の向上を図る。

■到達目標

①科学技術が人間社会や自然環境に対して与える正負の影響について理解する、②専門職である技術者として、技術者、研究者の倫理、責任について理解する、③専門職である技術者として、具体的な問題解決を図る場合の倫理的判断能力と問題解決能力を持つ、④自ら考える力を身に付ける、ことを目標とする。

■講義方法

講義に事例研究やグループディスカッション等を交えて進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

集中講義（4日間）のため、毎日講義終了時に小テスト、レポート、テストのいずれかを実施する。その際、配布資料、参考図書等持込可とする。

■成績評価の方法

平常点（20%）グループディスカッション、発表等
小テスト（20%）集中講義4日内、1・2日目終了時
レポート（30%）3日目終了時
定期試験（30%）4日目終了時

■テキスト

特になし

■参考文献

田岡直規・橋本義平・水野朝夫編著 『技術者倫理 日本の事例と考察－問題点と判断基準を探る』 丸善出版 3,000円
杉本泰治・高城重厚 『第四版 大学講義 技術者の倫理入門』 丸善 1,700円

■履修上の注意・担当者からの一言

講義に事例研究やグループディスカッション等を交えて進め、専門職である技術者、研究者として、具体的な問題解決を図る場合の倫理的判断能力と問題解決能力を持ち、自ら考える力を身に付けることを目標とするため、積極的に討議に参加すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

集中講義のため、講義終了後にオフィスアワーを設ける。場所は原則として講義を行った教室を利用する。

■講義計画

- ①技術者倫理とは
- ②企業倫理と技術者倫理
- ③倫理問題解決の技法。事例討議と演習 1
- ④事例討議と演習 2
- ⑤技術者とは何か
- ⑥日米学協会倫理規程
- ⑦環境倫理。事例討議と演習 3
- ⑧事例討議と演習 4
- ⑨科学技術社会と技術者倫理
- ⑩原子力と技術者倫理
- ⑪研究倫理。事例討議と演習 5
- ⑫事例討議と演習 6
- ⑬技術者、研究者の行動基準
- ⑭技術者の継続研鑽
- ⑮事例討議と演習 7
- ⑯テスト

■サブタイトル

willから始める大学生活

■講義概要

キャリアデザインへの1年次生からの取り組みが自分のキャリアをつくっていく上で決定的に重要であることを実践的に学ぶ。社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生には、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要がある。大学卒業を控えた選職活動に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。この授業では、自分のキャリアをつくっていく上で、何故、そうしたという「考え方」や「知識」の基、これから君達が自分でつくる学生生活を自分の言葉で語ることがいかに重要であるかを理論的・体験的に学ぶ。その具体的な演習方法として、

- 個人ワーク：自己に問いかける→考える→まとめる→書く→気づき、内省を深めて行く
- グループワーク：仲間を通じて、自分の考えやメンバーの考えを、話す→聞く→感じる→考える・気づき、自己を発見をする

また、演習を通じて考える・書く過程に必要な文章作成に対する授業も組み込んでいる。具体的には、

- 大学生としての適切な文章が書ける言語的指導
- レポート、論文作成に必要な基本的な言語表現技術の習得
- レポート作成を意識した論理展開の取り組み

を基本に、正しい文章が書けることを目指す。具体的には、文章作成の型を意識し、演習シートや振り返りシートを基に、スキル向上につなげて行く。

提出シートは、講師が励ましのコメントやスキル向上への方法等、地道な添削を行う。

<理工学部キャリア教育>http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標

- ・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが「キャリアデザイン」の第一歩であることを学ぶ
- ・キャリアデザインの基本となる「考え方」を習得

■講義方法

授業の中では、積極的に自分の事をしっかり考えていく為の講義、個人ワーク、グループワークを行いながら解説を試みる。グループワークでは、講師から教わるのではなく、自分自身で、体験の中から発見・再発見・再認識し、自分の考えとして発言していき、メンバーからも様々な考えを確認することにより、多くのことを学ぶ。また互いの意見を発言、聞く、伝えるスタイルはコミュニケーションの訓練にもなる。

自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を「自らの手で」作っていく面白さの参加型講義を行う。板書量は多くないが必ずノート記入を要求する。

■系統的履修

キャリアプランニング（2年次・前期）

■授業時間外における予・復習等の指示

講師からの指示により、自己紹介の準備やプレゼンテーション授業時の資料準備がある。

また、授業内では、毎回ワークシート作成があり、時間内で作成できなかった場合や、欠席したものは次回までに必ず、ワークシートは完成しておく必要がある。

■成績評価の方法

平常点（50%）遅刻・欠席及び授業態度等は減点法で厳しく行う
定期試験（30%）評価基準：文章作成の基礎習得の有無及びキャリア観。テーマはオリエンテーション時に発表

その他（20%）決められた提出物を何種類か提示する。
試験は実施するが、真面目に授業に取り組み提出物を提示することにより、単位取得は可能。従って、連続欠席等をするワークシート理解が不可能であり、注意を要する。

テキストの中にワークシートが組み込まれているため、授業時のテキスト忘れは要注意すること。平常点に影響する。文章作成においては、他の授業のレポート作成時に必要なスキルでもあり、役立つものとなる。

■テキスト

東田晋三著 『新自分デザイン・ブック I』 株式会社ドリームシップ 1,600円

生協にて販売。部数品切れの可能性あり、早めに確保すること。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。（並行して、龍子の部屋（カウンセリングルーム）」も開室しています。）生きることと働くことは切り離すことができません。学ぶことと仕事をする、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけ

ではないのです。生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものです。キャリア開発/キャリア教育の基本が自己理解にあるのはそういう理由です。3年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みます。講義予定は、受講生の反応を見ながら柔軟に進めます。今年で10年目になるキャリア教育、学生による授業評価は、毎回受講して良かった90%以上と非常に高い評価が出ている。受講学生の積極的な発言を期待しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

キャリア講師は9名で火曜日・水曜日・木曜日・金曜日に授業を行っている。授業の合間は講師控え室にて待機。

■講義計画

- ①オリエンテーション（評価の方法、学習のポイント等の解説）
高校時代に決別だ～オールクリアボタンを押そう～
大学生活を実りあるものにする考え方や捉え方を主体的に行うと同時に、キャリアデザイン・キャリア開発の大切さを伝える。
- ②レポートの書き方
レポートを書く際に問題となる、段落の作り方、文をつなぐ接続詞の使い方、事実と意見の書き分け方、明確に書くために気をつけることを確認していく。同様に、書くことを通じて「考え」「気づき」、その思いを「伝える」こともトレーニングしていく。
- ③自己紹介とは何かを考えてみよう
他者と関わり、新たな自分を知ること、自分から発信していく自己紹介のポイントを学ぶ。
- ④何のために大学にきたのだろう（目的）
「何のために大学にきたのか」今一度、入学動機を内省し、大学生活に役立つ【目的意識】の大切さを学ぶ。
- ⑤大学生活がこうなればいいなあ（目標）
目標を持つ大切さ及び実現するための必要なプロセスを学ぶ。その為に、スタートラインにいる自分が主体的に考え、失敗してもあきらめず行動を続けることで成長し、夢や目標に近づけることを個人・グループワークを通じて学ぶ
- ⑥伝えたい（バズコミュニケーション）
これまでの授業で自分の思いや考えを伝えることや伝わる難しさを感じた。なぜ伝える・伝わるが難しいのかSMC Rを通して理論的に学び、コミュニケーションの方法を体験し、気づきを得る。
- ⑦自分を表現しよう
グループメンバーを通して他者との違いを知り、自分への興味を深める。自己理解の大切さを学ぶ。
- ⑧協調性とは何かを知ろう
自分の思いや考えのもと、積極的に協力することが協調性であり、各人がその思いや考えを共有できれば、協力は強固なものになる。協力と共有の関係を理解し、協調性の大切さを学ぶ。
- ⑨好きなことから世の中に関わろう
～動く、感じる、考える～
キャリア開発を意識し、「世の中」と「学問・学び」について考えさせる。世の中の中の捉え方や、なぜ世の中に興味・関心をもつことが大切なのかを考える。
- ⑩失敗は成功へ向けての授業料
人は失敗した時に、その人の値打ちが問われる。失敗した時、どういう「振り返り」をして、どういう戦略・戦術で再チャレンジしたか。目標を失わなければ、失敗は成功への道標になり、キャリア開発に繋がることを学ぶ。
- ⑪キャリアマインドをもとう
～2つの軸が君の未来をつくる～
経験を通して形成される価値観によって行動が変わってくる。自身の価値観を積み上げていくことで、ぶれない自分の軸が出来てくる。それがキャリアデザインをすることにもつながる。
- ⑫ディスカッションの大切さを学ぼう
三段論法を学び、論理的に表現することを体験する。自分の意見を持ち、他者の意見も聞き、さらに考えるということをする。
- ⑬勉強・仕事の土台となるものと考えてみよう
仕事をしていく上で、規律・協調・積極・責任といった情意面が一番基本で必要な事であり、目に見えない心を鍛え・磨く事を伝える。
- ⑭プレゼンテーションにチャレンジ
プレゼンテーションは、レポートのように一方的に伝えるということではなく、双方向のコミュニケーションであることを実践して学ぶ。
- ⑮Willから始まる大学生活
WillがあればMustが生まれ、Actionへと移行し、継続することによりHabitがつき、Canとなる。
自分で決めたMustから導かれるActionとHabitの検討を前向きな自分を感じながら取り組む。

■サブタイトル

自らの意志と責任で考え、キャリアを開発しよう。

■講義概要

1年次では、自分の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、大学で学ぶ目的・目標を持つことの大切さを学んだ。2年次、キャリアプランニングでは、種をまき、芽を出すことの意識を自らが自覚しよう。自分らしさを活かして大学生活を充実させる為に、自分は何者か、どこへ行こうとしているのか、そんな自分を見つめる事から、この授業は展開する。その一つの手段として、自己理解及び自己現状把握・分析を行うが、自分の人生を可能な限り自分で納得のいくものにしていくにも、大切なことは、最終的な目的地やそこにいる筋道を明確にするだけでなく、「なぜそこを目指そうとしているのか」という理由や自分にとっての意味を明確にしていこうである。変化の激しい時代であるがゆえに、自分の考えも変わることもあるが、判断に迷った時の拠り所となる「理由や意味」を明確にしていこうことは、キャリア開発には欠かせない重要なことである。その為にも、マニュアル的な発想や行動ではなく、「自分で考える力」や「自分の中身」を鍛える授業とし、これからの大学生活で何を経験しておくべきか、実際に行動を起こす為の具体的な計画をたてよう。目標を達成するために自分でプロセスを楽しむ状態に持っていき、それは、「なぜ」「どうやって」「どうしたら」を考え、答えを出す作業が、その力として身につくものであり、自分の言葉でその経験を熱く語れるようになる。

＜理工学部キャリア教育の取り組み＞ http://www.rnikou.ryukoku.ac.jp/career_support/index.html

■到達目標

自分の考えをしっかりと持ち、自分の意見を発表することができ、議論ができること。その為に必要な事を考え、気づき、自分の中身を鍛えられ、成長できたと思えること。具体的には、
・コミュニケーション能力がつくこと
・課題解決能力がつくこと
・何事も後回しにせず、自発的に取り組める自立心が身に付くこと。

■講義方法

自分のキャリアを考える為のワークやグループでの学習がメインである。今年度より、一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、共に学び合うプロジェクト型学習を取り入れる。プロジェクトチームでの学習や行動する具体的な例として
1. テーマに沿って、達成するための自分たちの考えを出し合う。ブレインストーミングをする。
2. 必要な情報収集や調査を行い、企画書を作成し、プレゼンテーションをする。
3. 社会に関する情報として、働くことの楽しさや、問題解決、対人関係、組織のしくみ等様々なことについて、社会人を招き、皆さんとの対話を通じて、働くことの意味や価値を見だしていく。
4. 皆に評価してもらい、実現可能な企画書にするための行動計画をたてる。役割を決める。
5. 実際に行動し実行する。管理する。中間報告を行う。
6. 更に知恵を出し合い、より良い成果を上げる方法を考え、最終成果報告とする。
7. 自らが振り返り、キャリアプランニングへと結びつけて行く。

ワークおよびディスカッションを主に、受け身の講義ではなく自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を「自らの手で」作っていく面白さの参加型講義を行う。また、授業のなかで複数（3名～5名）の講師による「はたかちカード」を使って、自分の価値観を探っていくワークを行い、自己理解を深めていく。これらプロジェクト型学習は、社会に出て困らない基礎的な能力を必要とするため、グループでの活動をする中で、習得・習熟できていくものとし、また自分の課題が明確になり、今後の能力開発への目標にもなると考える。

■系統的履修

1年次キャリア授業：キャリア・デザイン

※1年次のキャリア・デザインを履修しなくても、履修登録は可能である。

■授業時間外における予・復習等の指示

講師からの指示により、宿題及び下調べとすべきことや資料準備等がある。（毎回ではない）具体的には
・自己紹介シート作成（随時）
・ワークシート作成（必要授業時に指示）
・グループとしての協同作業（次回授業までに消化しておくべきことの指示）等がある。
また、授業内ではワークシート作成があり、欠席した者は必ず、次回までに完成しておくこと。（授業について行けなくなるので注意を要します。規律性・責任性を仕事では基本として求められます。そのベースとなることを日常の大学生活でも身に付けることが重要である。）

■成績評価の方法

平常点（30%） 遅刻・欠席及び授業態度等は減点法にて厳しく行う

その他（70%）決められた提出物を何種類か提示する。

試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。（どのように対処すべきか自分で考える、大入度アップさせること）また、5章よりグループで考え・行動することになるので、互いに協調性をもって協力していくことが求められる。（この能力は仕事をするうえで、最も必要とされる能力である）キャリア教育とは、就職教育ではなく、その人がその人らしく生き生きと働き、その人らしい生き方を考えるための心理的な支援です。キャリア教育が心理教育である所以です。（並行して、龍子の部屋（カウンセリングルーム）も開室しています。）生きることと働くことは切り離すことができません。学ぶことと仕事をする、生きることと働くことは、それぞれが別々にあるわけではないのです。生活時間の大半を占める働くことを真剣に捉えること。そして自分自身のモチベーションの源泉は教えられるものではなく、気づくものです。キャリア開発/キャリア教育の基本が自己理解にあるのはそういう理由です。2年後に控えた就職活動に役に立ち、使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。

■テキスト

1. 授業時に使用する「はたかちカード」の購入。金額は¥400 授業時に徴収。☆2. 授業計画のテーマに沿ったテキストを配布予定。各人、幅3センチ以上の2穴綴じ仕様の A4サイズバインダーを必ず用意すること。☆※特に注意すべきこととして、授業時にワークシートの取り外し等を行う為、押さえ込み式のバインダーは絶対に持参・購入しないことを強く伝えます。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

キャリア教育の基本は、自分の能力を知り、人間性を磨くことから始まる。日頃からの言葉づかい・挨拶・礼儀作法、時間厳守は最低限のマナーとし、身に付けられることが必要である。その基本のもと、自由に発想し自らの信念に基づき主体的に行動し、結果に責任を持つことが求められる。つまり、授業を通して、日常生活や大学生活で大入度アップさせる行動や態度を常に意識し、大人の常識を身に付け社会性を高めること。このことは、2年後に控えた就職活動に役立ち、就活を左右するものである。今年度より導入するプロジェクト型学習で多くのことを学び、働く理由や意味を少しでも明確にできるよう成長した自分になってもらいたい。従って、この授業では、エントリーシートの書き方、模擬面接等、手法を学ぶ授業ではない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

2年次キャリア講師は5名。前期授業は火曜・水曜・木曜・金曜日。授業の合間には、いずれも講師控え室にて待機。

■講義計画

- ①自分について考える
オリエンテーション
- ②働くベースとなるものを知る
私の勤労観と職業観
自分の勤労観・職業観を探り、ベースにあるものに気づき、発展させる。
- ③自分のことを知ろう
自己理解：能力について
- ④グループディスカッション
ある目的や目標に沿って議論をすることは、どの場所でも必要なことである。ディスカッションやディベートは各人の価値観とのぶつかり合いや戦いであることを基に、理論だけではなく実際にやってみて、自ら発見することが大切である。就職試験対策のディスカッションというトレーニングだけではなく、大切なことを演習を通じ自ら発見し、できるようになろう。
- ⑤●社会を知ろう その1
この章より、PBL（Project-Based Learning 課題解決型学習）を行う。1グループ5～6人程度のチームを構成し、各チームのプロジェクトテーマとしては、解決方法が知られていないオープンなものを設定します。プロジェクト実行のためのフレームワークの設定、実施計画立案、プロジェクト実行を自ら行います。この過程で、皆さんは自らのキャリア開発の重要性を認識し、課題解決という目標に向かって意欲的に取り組むことにより、学習動機を強くすると同時に、通常の講義・科目では得られない実践的な力（課題解決能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力、コミュニケーション力など社会で求められる基本的な力）を身に付けることができます。
- ⑥●社会を知ろう その2
・社会人の話を聞く
社会について、インターネットやメディア情報だけでなく、実際に働いている方を招き、自分達の疑問とすること
や知りたいことを質問確認しながら、働くということにたいしての、意味や価値に気づいていく、参加型の授業を行う。
その為にも、ただ、漠然と聞く受け身の体勢ではなく、自分達の知りたいことをグループで事前整理するなどの作業を行う。
- ⑦●働くを知る 1：作成する
・目標設定→行動計画書作成
PBL型学習について説明を受け、社会人の話を聞いて、皆さんが疑問とすることや問題とすること等を話し合い、グループでどのような目標設定をするかをじっくり検討し、具体的に行動計画書に記入していきます。
- ⑧●働くを知る 2：検討する 行動計画書の発表
・行動計画書→実現可能か？
行動計画書の基、目標達成に必要な情報を、どこで・いつ・どんな形で・どのように得るのか等を検討し、形にしていきます。その為の必要なことに対して、グループで役割分担等を確立し、自分達でできることや協力を求めたり支援が必要とすることなどをイメージ化していきます。また自分達の作成した行動計画書が実現可能かもプレゼンをおこない、他のメンバー間との情報共有を行い、質問や確認を行います。
- ⑨●働くを知る 3：行動・調査する
・現状・問題把握→解決策検討
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
- ⑩●働くを知る 4：調査・報告する
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
- ⑪●働くを知る 5：調査・まとめる
行動計画に基づき、プロジェクトの目標（興味のある業界・職種・会社・仕事等）を実際に調べてみる
- ⑫●働くを理解する 調査結果最終報告
評価・振り返り
- ⑬●自己分析：価値観について ～はたかちカードワーク その1～
- ⑭●自己理解：価値観について ～はたかちカードワーク その2～ グループで語ろう
- ⑮●まとめ
ポートフォリオ作成 振り返り

グローバル人材育成プログラムⅠ（2011年度以降入学生）
海外キャリア実践教育及び実習A（2009～2010年度入学生）

【担当】大柳 満之、塩見 洋一
 【開講】前期 集中

■サブタイトル
 海外での実習

■講義概要

社会のグローバル化が進む中、企業の海外進出、海外企業との競争が加速し、企業の新卒採用においてグローバル志向を持った学生を求める傾向にある。しかしながら、日本から海外へ留学する学生減少に見られるように、海外に出たがらない内向きな志向をもつ学生が増加している。そこで、理工学部では、アメリカ・カリフォルニア州にある本学の海外拠点を活用しながら、同州のシリコンバレーやロサンゼルス周辺で事業展開している日系企業の協力を得て、海外での企業研修プログラムを実施する。なお、現地には理工学部の教員も滞在してサポートする。今ではほとんどの企業が海外で事業展開しているので、こうした企業への就職を希望している人は奮って受講すること。

<日程> 夏期休暇中のうち、2週間程度

<募集人数> 16名

<費用（予定）> 25万円程度（主に航空運賃など。航空運賃はサーチャージ等により変動することがあります。）

<実習先企業（予定）> Innovation Core SEI、United Television Broadcasting Systems、Senju Comtek、Neuro Skyなど

<応募方法> 科目の事前登録

■到達目標

働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。
 海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法

・実習は現地の日系企業にて実施するので、主に日本語での

実習となるが、英語を使う場面も当然あり得る。内容は実習先の計画による。

・実習中の滞在はホームステイを基本とする。外国での生活を通じて、生きた英語や異文化に触れることもできる。

・実習中は理工学部教員が現地に滞在してサポートを行う。

■系統的履修

グローバル人材育成プログラムⅡ

■授業時間外における予・復習等の指示

事前学修で身につけたことを実践するとともに、ホームステイでは自分から積極的に英語で話すように心がけること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。

説明会等には必ず参加すること。実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。実社会での実習であることを理解し、責任ある行動をとること。

■講義計画

①オリエンテーション・本科目の目的等の説明

②受講希望調査

③選考のための面接

④海外での実習・各実習先による実習内容

グローバル人材育成プログラムⅡ（2011年度以降入学生）
海外キャリア実践教育及び実習B（2009～2010年度入学生）

【担当】大柳 満之、塩見 洋一
 【開講】前期 集中

■サブタイトル
 事前学修および事後学修

■講義概要

海外での実習に必要な事前研修として、「中小企業研究セミナー」、「ビジネスマナー実践研修」、「英語コミュニケーション向上研修」、「実習での目的設定」などを行う。
 また、実習終了後に、「事後研修」、「報告会」を行う。

■到達目標

働くことの意義や企業とその仕事内容、産業を支える技術力についての理解を深める。
 海外における仕事の現場を体験しながら、グローバルな視点を養う。

■講義方法

【中小企業研究セミナー】

理工学部がこれまで培ってきた地域産業界との連携の実績を活かし、ものづくりの第一線で活躍する経営者・実務家によるチェーンレクチャーを実施し、働くことの意義や産業を支える技術力などについて学修する。

【ビジネスマナー実践研修】

ビジネスマナーの基本についての講義を受講した後、小クラス編成での実践練習を行う。

【英語コミュニケーション向上研修】

ネイティブの講師による英語コミュニケーションの実践的な学修を行う。

【事後学修】

実習の振り返りと受講者全員の報告会を実施。

【報告会】

学外実習（キャリア実践実習）と合同で実施する報告会に参加。

※本科目に関わる説明会、事前事後学修の日程等、その都度掲示を行うので、よく掲示板を確認すること。

■系統的履修

グローバル人材育成プログラムⅠ

■授業時間外における予・復習等の指示

英語自学自習支援のために貸し出した英語学習ソフトとノートパソコンで、自学自習を通して語学力を高めること。

■成績評価の方法

平常点（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

本科目は、事前登録科目であるため、受講希望者は、該当期間中に必ず事前登録をすること。

事前研修および事後研修には必ず参加すること。

■講義計画

①中小企業の経営者・実務家による講義

②ビジネスマナー講座（講義・実技）

③実践英語

④海外での実習での目的等の設定

⑤海外での実習の振り返り

⑥受講者全員による実習報告

⑦学外実習（キャリア実践実習）と合同の報告会

計算機基礎実習Ⅰ

【担当】阪井 一繁

【開講】前期 金4・金5

■講義概要

計算機（パソコン）を道具として利用するために必要な基本的事項を、実習を通して体得するのがこの科目のねらいです。最初に、Windows の計算機環境やワープロ・表計算ソフト・インターネットの基本的な利用法を学びます。その後、C言語というプログラミング言語によるプログラミングの基礎を習得します。

■到達目標

計算機の使い方に慣れるとともに、プログラミングの基本的な考え方が身につく。

■講義方法

毎週、180分（2講時）の授業を、適宜、講義と実習に分けて行います。毎回、実習の時間に課題が出るので、ティーチングアシスタントの助言を得ながら、取り組んでもらいます。なお、受講生の習熟度に応じて講義計画には多少の変更があるかも知れません。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回授業で課される課題は、授業時間内で完成するとは限りません。授業時間以外にも、セルフラーニング室などを利用して自主的に課題に取り組んでください。

■成績評価の方法

自由記載欄を参照して下さい。
期末試験（100点満点）と実習時の課題の出来によって評価します。期末試験が x 点、課題の得点率が $y\%$ のとき、総合成績は $x + (100 - x) y / 400$ （端数切り上げ）とします。

■テキスト

特になし

■参考文献

宇土顕彦 『効率よく学ぶCプログラミング』 コロナ社 2,100円

後期の計算機基礎実習Ⅱの教科書です。

■履修上の注意・担当者からの一言

プログラミングを楽しみましょう。とはいえ、プログラミングは多くの人にとっては初めての経験なので、苦労を嫌がって自主的な努力を怠ると脱落の危険が大です。セルフラーニング室（情報処理実習室）で自習ができるので大いに活用してください。また、オフィスアワー（授業時に案内します）やチューター制度を利用して、わからないところを放置しないようにしてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

自習してもわからないところは遠慮なく質問をしてください。オフィスアワーの曜講時は講義中に案内します。

■講義計画

- ①Windows の基本操作、電子メール
- ②文書作成ソフト、表計算ソフト
- ③プログラミング言語とは
- ④Cプログラムの基本、実行の流れと整数の四則演算
- ⑤変数の宣言、代入、参照
- ⑥Cプログラムの文、場合分けの処理
- ⑦繰り返しの処理
- ⑧関数、条件の組み合わせ
- ⑨最小値や最大値の計算、二重の繰り返し
- ⑩文字列を使った入出力
- ⑪フラグと繰り返しの途中終了
- ⑫いろいろな演算子、いろいろな制御構造
- ⑬プログラミングを楽しもう（補足と発展・1）
- ⑭プログラミングを楽しもう（補足と発展・2）
- ⑮全体の復習

計算機基礎実習Ⅱ

【担当】宇土 顕彦

【開講】後期 金4・金5

■サブタイトル

C言語による計算機プログラミング入門

■講義概要

計算機プログラミングの基礎をC言語を用いて学習するとともに、将来において実用プログラムの開発を効率良く行うための方法論を習得する。プログラムの基本的制御構造－接続、選択、反復－から始めて配列や関数について多くの演習課題に取り組み、構造化プログラミングを体験的に学習し、プログラミングスタイルを身に付ける。

■到達目標

プログラミング能力、論理的思考力を身に付ける。それとともに、「答えは1つとは限らない」ということをいろいろな面で認識できるようになること。

■講義方法

2コマ連続の時間割りの前半を教室での講義とし、そこで説明された内容について後半に演習室で演習問題に取り組む。実習に際しては数名のTAが配置され、個人的な指導を行う。講義では黒板とパワーポイントを併用する。

■系統的履修

計算機基礎実習Ⅰ。プログラミングの全科目につながる。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書を読んで用語を頭に入れ、例題のプログラムの動作を確認しておくこと。自由課題にもできるだけ取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）
定期試験（90%）
（1）期末試験の成績（100点）（2）演習課題の評価（12点）を加算（上限100点）。（2）の配点は大きくないが、6回以上欠席すると期末試験を受験できない。

■テキスト

宇土顕彦著 『効率良く学ぶCプログラミング』 コロナ社 2,000円

■参考文献

カーニハン、リッチー著、石田晴久訳 『プログラミング言語C』 共立出版

■履修上の注意・担当者からの一言

出題された課題は、必ず自分の力で解くこと。課題は例のプログラムの考え方に基づいて解くものであり、いきなり演習に取り掛かるのではなく、必ず例のプログラムを入力し、動作を確認することが「急がば回れ」で早道である。プログラミングの学習については「習うより慣れる」と言われる。一定の時間を掛けることが必要である。失敗にめげず頑張ってはじめて実力をつけることができるし、そこでは誤った方法が別のプログラムでは有効なこともある。

■講義計画

- ①Linuxの使い方
- ②C言語の入門：基本的な出力と変数
- ③C言語の入門：プログラムの基本と数学関数
- ④構造化プログラミングとPAD
- ⑤選択のプログラミング
- ⑥選択のプログラミング（多分岐）
- ⑦反復のプログラミング（While, do-while型反復）
- ⑧反復のプログラミング（パラメータ型反復）
- ⑨配列の概念
- ⑩配列に関する基本的な処理
- ⑪配列を使う基本的な統計処理
- ⑫関数の概念
- ⑬配列処理の関数
- ⑭ポインタ（試験の範囲外）
- ⑮全体の復習、傾向と対策

■講義概要

世の中の技術革新はめざましく、我々の身の回りに普及し、社会、経済の営みを大きく変えようとしている。技術革新で人々の暮らしは便利になった。しかし、その根底にはエネルギーという大事な問題があることも事実で東日本大震災で身近な問題となった。この講義では、まず電力とエネルギーに関連した工学技術の基礎から始め、次に、主に電気、エレクトロニクスが関係する身近にある技術革新やその原理を紹介する。また、これらの技術は、電気、機械などハード技術だけでなく、ソフトや材料技術など、いろいろな学問や異なる分野の技術が融合した成果であること、また、ものづくりの現場の絶え間ない開発・改良技術、量産化の技術、低コスト化技術、製品の信頼性を高める技術など、工場の生産技術も非常に重要であることを紹介し、エネルギーや物づくりの重要性を知ってもらう機会を与えることがこの講義の目的である。

■到達目標

何気なく使っている身の回りの製品にも、すごい技術が秘められていることを理解する。現代の工学技術の奥深さや、他の技術との関わり合いを知り、自分の将来の進路を考える参考とする。

■講義方法

毎回の授業が「読みきり」となる形で、昨今の新しい技術の流れの中のような話題を取り上げ、講義を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義では限られた時間内にいろいろな技術の内容に触れるので、重要な用語（キーワード）などは、あとで自分で調べてみる。それによって自分の知識として身につく。

■成績評価の方法

平常点（30%）毎回の講義の終わりに、講義でわかったこと、わからなかったことを書いて提出してもらい、それで出席とみなす。欠席居の無い3回以上の欠席は不合格とする。

定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

講義で紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

講義を聞いて理解できなかったことは、あとで質問したり、自分でインターネットや本などで調べる。講義中は私語を慎み、まず人（講師）の話を聞く。そして疑問、質問があれば遠慮なく質問すること。

■講義計画

- ①日本が直面している大問題、電力とエネルギーの基礎
- ②電気とは。電気ができ、家庭に届くまでの仕組み
- ③太陽電池、太陽光発電の現状
- ④風力、波力、潮力、電気自動車、クリーンエネルギーの新しい創生と蓄電技術
- ⑤いろいろな波（光、電波、音波、地震波、津波）の性質、現象、その関連技術
- ⑥ますます薄くなるディスプレイ、その原理と構造
- ⑦携帯やデジカメの中はどうなってる？、電子機器の軽薄短小化の技術
- ⑧ハイテク製品の陰にレアメタルあり。材料による製品の技術革新
- ⑨現代の通信はどのような原理で成り立っているか、そのしくみと歴史
- ⑩ランプからLED、有機EL照明まで。光の革命技術
- ⑪身近なすごい技術、レーザー。CDからレーザー兵器まで、その原理
- ⑫身の回りのいろいろな電磁気・電磁誘導、その応用技術
- ⑬家庭に普及したパソコンやインクジェット、その原理と進歩
- ⑭半導体って何？、どうやって作る？、工場の中は？
- ⑮まとめ

工業経済（2013年度以前入学生）

■サブタイトル

企業で働く技術者をめざしている学生向けの経済論

■講義概要

18世紀後半に、動力として人間を含む動物の力や、風力・水力などの自然の力を利用するだけであった時代から、蒸気機関のような機械による力も使える時代になった。その結果、工業は急速に発展し、社会構造も大きく変化した。このことを産業革命と呼んでいる。その時代以降、農業や商業に代わり、工業が経済の中心に位置することになった。

工業経済は、人間生活に使用する物資を製品として加工生産し、販売するときの経済活動を取り扱うものである。企業で働く技術者は、新製品を開発するとき、製品を生産するときなどには、意識しなくてはならない考えである。

この講義は、私の経験から、講義計画に記載した項目が技術者に必要な知識と考え、工業の歴史的な観点と工業経営の観点を含め「工業経済」として扱う。

■到達目標

技術者の業務に役立つ工業経済に関する知識、思考する能力を身につける。

■講義方法

配布資料に沿って、プロジェクターと板書を使って、講義を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習：現在興味のある業界や企業の経済動向と技術動向に関する情報を収集する。

復習：講義の内容に興味のある業界や企業に当てはめるとき、どのようになるか考える。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業回数の3分の2以上の出席者を評価対象とし、受講態度によって評価する。

レポート（40%）講義内容を理解したかどうかの確認のために、ミニレポートを5回+a提出してもらう。

定期試験（30%）「この講義で学んだことについて、自分の立場で説明できる。」という点を評価する。

■テキスト

配布資料をテキストとして使用する。

■参考文献

関連図書などは、配布資料に記載する。

■履修上の注意・担当者からの一言

「工業経済」は、企業に勤める技術者にとって、役立つものと確信しています。授業時間中は、授業に集中してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

疑問や質問がある場合は、講義中又は講義終了後に、話しかけてください。

■講義計画

- ①ガイダンス
 - 人類の進歩と工業発展の歴史
- ②「高校で習った（？）経済」の基礎概念と経済学
- ③日本の工業と工業経済
- ④分業と製造業の組織構造
- ⑤需要と供給の均衡
- ⑥生産過程と企業組織
- ⑦製品原価と技術者の役割
- ⑧生産方式の変遷
- ⑨生産管理と品質管理
- ⑩日本の工業発展経過と貿易
- ⑪標準化と知的財産
- ⑫給与体系と成果主義
- ⑬製品開発事例
- ⑭企業の社会的責任
- ⑮企業で働く技術者と起業する技術者
 - まとめ

■サブタイトル

22世紀以降も持続可能な社会を目指した技術

■講義概要

われわれの生活を支え、産業を発展させるには資源の消費が不可欠であるが、先進国における大量消費に加えて、近年は中国やインドといったアジアの人口大国での消費量が飛躍的に伸びていて、このままの持続的な社会発展は悲観的な見方が強い。それゆえ資源についてよく知り、その利用について今まで以上に深く考えねばならない。資源はその使用目的により大きく分けて物質資源とエネルギー資源とがある。本講義ではエネルギー資源を中心に、その相互の変換、特に発電についてや、将来伸びていくであろう新エネルギーについて説明する。さらに原発事故に対するリアルタイムな情報を提供し、原子力発電とその未来について考察する。また、物質資源としては特に金属資源およびセメントを取り上げ、リサイクルが資源の確保に果たす役割についても述べる。

■到達目標

われわれの生活を支えているエネルギー資源の状況とその将来の動向についての知識。金属資源の循環過程についての理解。

■講義方法

配布プリント、板書、プロジェクトによるパワーポイントや動画を中心に行う。理解を助けるためのレポートを必要に応じて課す。出席は何らかの形で毎回取る。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート課題などを通して、各分野の予習や復習を指示する。

■成績評価の方法

平常点 (11%)
レポート (30%) 10点×3回
定期試験 (59%) 上記の得点なしでテストだけ受けても合格しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

世羅力 『資源・エネルギー工学要論 第2版』 東京化学同人 2,400円

これらの参考文献はテキストの代わりに使用することがある。

■履修上の注意・担当者からの一言

資源・エネルギーに関する問題が解決しなければ、人類が22世紀まで存続できるかどうかおぼつかない。講義以外に日々発せられる情報にも関心を持ち、その行く末を考えてみて下さい。少々過激ではあるが、目からうろこが落ちる体験が待っているかも

■講義計画

- ①エネルギーの基礎
- ②化石エネルギー (1) - 石炭、石油 -
- ③化石エネルギー (2) - 天然ガス -
- ④化石エネルギー (3) - その他 -
- ⑤電力 (電気エネルギー) (1) - 火力発電 -
- ⑥電力 (電気エネルギー) (2) - その他の発電方法 -
- ⑦自然エネルギー (1) - 水力、地熱 -
- ⑧自然エネルギー (2) - 太陽、風力、バイオマス、その他 -
- ⑨核エネルギー (1) - 核分裂反応 -
- ⑩核エネルギー (2) - 原子力発電 -
- ⑪核エネルギー (3) - 未来の原子力 -
- ⑫省エネルギー
- ⑬金属資源と精錬・リサイクル
- ⑭セメントの概要
- ⑮まとめ

自然観察実習

■講義概要

環境科学では野外における自然現象を観察し、その場で生じている事柄や問題を、科学的なデータをもとに明らかにしていく。その最も基本となるのは、自然現象の観察である。この実習では、比較的身近にある自然環境を対象に、主として植物や動物などの生物が織りなす自然現象を対象に、自然観察法の初歩を体験的に幅広く学習する。

■到達目標

野外での生物現象の観察の基本を身につける。自然観察に用いる道具類の取り扱いを学ぶ。動植物の関わり合いについて、実際の観察を通じて理解する。

■講義方法

実習は3つの班に分かれ、概ね4回ずつ一つのテーマについて実習を行う。具体的な実習テーマは初回ガイダンス時に示す。基本的に実習内容についての講義の後に実習を行うが、詳細は担当教員毎に異なる。不明な点は初回のガイダンス時に確認すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

初回のガイダンス時に、授業時間以外で実施する実習内容について説明するので、指示にしたがうこと。

■成績評価の方法

平常点 (40%) 実習参加状況
レポート (40%) レポート、スケッチを評価。
その他 (20%) 積極性、自発性、協調性を総合評価。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。野外での実習には、思いがけない危険が伴う。安全のてびきを熟読し、指導者の指示に従うこと。また、実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので、事前の掲示に十分注意すること。

■講義計画

- ①実習ガイダンス
- ②3つのテーマについて4回ずつ実習を行う
- ③水域生物を中心とした自然観察 (丸山敦)
- ④陸上生物を中心とした自然観察 (近藤祥子)
- ⑤人間生活と自然
- ⑥博物館 (動物園・植物園) での実習
- ⑦実習まとめ

■講義概要

コンピュータと情報ネットワークの基礎を解説する。まずコンピュータの発展の歴史を延べ、現代および将来の応用分野を示す。次にコンピュータシステムの基盤となる2進数と論理回路などの諸要素について解説する。情報ネットワークに関しては、その基盤となる符号化とデジタル信号処理などの要素技術を解説する。

■到達目標

コンピュータと情報ネットワークの基礎を理解するとともに、これらを統合した現代社会の基盤技術の全体像を把握することを目標とする。

■講義方法

指定した参考書を中心として進める。授業中に適宜小テストを行うことで理解度をチェックする。

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜講義中に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (20%)
小テスト (20%)
定期試験 (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

三井田他 『情報工学概論』 森北出版 2,100円

■講義計画

- ①コンピュータの歴史 (機械式計算機)
- ②コンピュータの歴史 (電子計算機)
- ③コンピュータの歴史 (パーソナルコンピュータ)
- ④2進数の基礎
- ⑤2進数の演算 (加減算および乗算)
- ⑥2進数の演算 (計算機内部演算)
- ⑦小テスト
- ⑧2進数の内部表現
- ⑨ブール代数と演算回路 (ブール代数の基礎)
- ⑩ブール代数と演算回路 (演算回路設計)
- ⑪コンピュータの構成 (ハードウェア)
- ⑫コンピュータの構成 (ソフトウェア)
- ⑬ネットワークの基礎
- ⑭コンピュータネットワーク (インターネット)
- ⑮コンピュータネットワーク (移動体通信)

情報と職業

■サブタイトル

情報化の進展が及ぼす社会生活の変容

■講義概要

情報化の進展が社会を発展させ生活を充実させているが、同時に社会に及ぼす影響や課題も生じている。この現状を認識するとともに、情報化の進展が職業や教育に与える影響について考察する。

■到達目標

情報化社会の進展が及ぼす社会生活の変容をふまえ、更に高度化する情報化社会に柔軟にかつ、的確に対応できる能力と態度を育てる。

■講義方法

配布するプリント及び資料を用いて授業を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業の終了時に次回の授業に必要な事項について指示するときは、事前に調べて説明できるようにしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%)
レポート (30%)
定期試験 (40%)
試験、レポート、学習状況等を総合して評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部省 『高等学校学習指導要領解説 情報編』 開隆堂出版 株式会社 221円

■履修上の注意・担当者からの一言

高等教員免許教科「情報」に係る科目です。

■講義計画

- ①ガイダンス 教科「情報」、科目「情報と職業」について
- ②情報化の進展と学校教育 (1) 情報化の進展
- ③情報化の進展と学校教育 (2) 情報教育
- ④情報化の進展と学校教育 (3) 情報科教員に求められる資質・能力
- ⑤情報化の進展と職業 (1) 情報化社会と情報システム
- ⑥情報化の進展と職業 (2) 働く環境の変化と労働観
- ⑦情報化の進展と職業 (3) 企業の情報化と求められる人材の変化
- ⑧日本の情報通信技術政策 (1) (IT国家 IT基本法)
- ⑨日本の情報通信技術政策 (2) (e-japan IT新改革戦略)
- ⑩日本の情報通信技術政策 (3) (i-japan 情報通新戦略)
- ⑪企業における情報活用 (1) (情報システム POSシステム)
- ⑫企業における情報活用 (2) (SCM JIT)
- ⑬情報化社会における犯罪と法律
- ⑭情報化社会における危機管理
- ⑮産業構造の変化と職業 / 情報と職業のまとめ

■講義概要

環境問題への関心が高まり、「エコ」の語は世間に溢れる。しかし、生態学(ecology)の理解は必ずしも高いとは言えない。生態学は、生物どうし、および生物と非生物的環境の間の全ての関係を扱う科学分野であり、興味の方や時空間スケール、研究手法によって多方面に発展している。この学問を概観することで、生態学本来の可能性や、環境問題の本質を理解するための学問的基礎を得られよう。本講義では、生態学の基礎(共通)概念から始まり、進化生態学、行動生態学、社会生態学、個体群生態学、群集生態学、生態系生態学、応用生態学などについて概説する。重要キーワードの理解に重点をおき、具体的事例の紹介で理解を助ける。また、各分野の視点から、移入種、温暖化、生物多様性損失などの環境問題を考察する。

■到達目標

生態学全般についての概括的な知識を習得し、生態学の発展諸分野への興味を持つ。環境問題を生態学的に考察する重要性を知る。

■講義方法

プロジェクトを中心に行う。プロジェクトで示す内容はレジュメとして配布するが、教科書の購入および事前学習は必須である。適宜小テストを行い、習得状況を確認する。

■系統的履修

生物学序論、生物学概論、または高校「生物II」

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。

■成績評価の方法

平常点(40%) 各回の講義終了後に理解度を試す課題を出し、その得点を平常点とする／資料持込禁止
小テスト(60%) 合計3回実施／資料持込禁止
定期試験(0%)

■テキスト

日本生態学会 『生態学入門(第2版)』 東京化学同人 2,940円
教科書は必ず購入すること。講義各回前に該当場所を読んでいることを前提に講義を行う。第1版は内容が変更されているので注意が必要。

■参考文献

日本生態学会 『生態学事典』 共立出版 13,650円
マッキンジー、ボール、バーディー 『生態学キートン』 シュプリングー・フェアラーク東京 3,360円
ベゴン、タウンゼント、ハーバー 『生態学—個体・個体群・群集の科学』 京都大学学術出版会 12,600円

■履修上の注意・担当者からの一言

パワーポイントを併用し、その内容はレジュメとして配布する。教科書の購入は正しい理解のために必須である。自学習として毎回、教科書該当部分の予習および復習を求める。講義中に発言や質問を求めることがある。

■講義計画

- ①生態学概観、生物の基礎知識
- ②進化生態学の基礎
- ③分子進化と生態学
- ④生活史の適応
- ⑤性の意義
- ⑥生理生態特性の適応
- ⑦行動の適応
- ⑧社会の適応
- ⑨種内競争と個体群
- ⑩種間競争と個体群
- ⑪被食・寄生と個体群
- ⑫種間相互作用と生物群集
- ⑬生態系と機能
- ⑭応用生態学
- ⑮環境変動と生態学

生体情報概論

■サブタイトル

遺伝情報の伝達メカニズム

■講義概要

組換えDNA実験技術の発展を背景に、遺伝情報の解析が塩基配列レベルで飛躍的に進展し、細菌等の単細胞生物はもとより、ヒトに代表される高等生物の遺伝情報に対する理解が深まってきた。高次生命現象の研究までもが次々と組換えDNA実験技術を用いて発展し、新しい概念の確立、既成概念の修正がなされている。本講義では、組換えDNA実験技術の基礎となる原核生物の遺伝情報の伝達メカニズムについての解説から始める。さらに、この技術を用いて解明された真核生物の遺伝情報とその伝達メカニズム、生体機能の発現のメカニズムについて、分子レベルで追及した研究成果を紹介する。

■到達目標

遺伝情報の発現と制御のメカニズムを学ぶことにより、細胞内での情報伝達システムの一端を知ることができる。情報科学や物理系の学科を専攻する学生にとっても理解できるように、講義を進めていく。

■講義方法

毎回講義計画のテーマに関するプリントを配布し、パワーポイントを用いて講義を進めていく。
プリントの内容はpdfとして提供も可能。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎講義開始時に配布するプリントに記載のキーワードについて、授業内容の理解を深めるため、復習をしておくこと。

■成績評価の方法

定期試験(100%) 筆記試験により成績を評価する。
第1学期試験期間に筆記試験をおこなう。試験に際し、参考資料(本や配布資料など)の持ち込みを許可する。

■テキスト

特になし

■参考文献

J.D. Watson et al. 『遺伝子の分子生物学』 トッパン
B. Alberts et al. 『細胞の分子生物学』 教育社
B. Lewin 『遺伝子第8版』 東京化学同人
いずれの本も旧版ではあるが、本学の図書館に完備されている。一回目の講義時に配布するプリントに遺伝情報の伝達メカニズムに関する入門書を挙げておく。一読することを勧める。
■履修上の注意・担当者からの一言
参考文献に挙げた本は高価なので、あえて購入する必要はありません。知識をより深めたいときに、図書館に完備してある参考文献に挙げた図書を利用していただきたい。最初の講義の時に読める本を紹介します。将来生物科学を専攻したいと考えている人は参考文献の一読を薦める。

■講義計画

- ①遺伝物質の化学的本性
- ②遺伝物質の構造
- ③遺伝物質の自己複製
- ④遺伝物質の組換え
- ⑤遺伝情報の発現と制御(1) - 原核生物における転写のメカニズム
- ⑥遺伝情報の発現と制御(2) - 真核生物における転写とRNAプロセッシングのメカニズム
- ⑦蛋白質の構造と機能
- ⑧遺伝情報の発現と制御(3) - 翻訳のメカニズム
- ⑨遺伝子系の保存
- ⑩組換えDNA実験技術
- ⑪トピックス紹介(1) がん遺伝子
- ⑫トピックス紹介(2) 免疫系におけるゲノムの再編成
- ⑬トピックス紹介(3) シグナル伝達
- ⑭トピックス紹介(4) 細胞周期の制御
- ⑮トピックス紹介(5) 生物の形を決める遺伝情報

生物学概論Ⅰ

【担当】鈴木 孝仁

【開講】前期 月1

■サブタイトル

分子から細胞まで

■講義概要

生物学は生物の特長である生命現象とは何か、生きているとはどういうことかなどといった問題を自然科学の言葉で理解しようとする学問分野である。本講義では、まず生物界全体を概観し、次に生物の基本単位である細胞をとりあげ、細胞が示す普遍的な構造と機能について説明する。以下、生物は生命維持のため、どのように自己複製をし、新しい個体を形成するか。その際、どのようにして、個々の生物は特異性を維持するのか、その物質的背景は何かなどについて、一年を通して論じるので、生物学概論Ⅰ、生物学概論Ⅱ、両方を選択されるのが望ましい。

■到達目標

生物学領域の知識は飛躍的に増え、様々なバイオテクノロジーの分野へ応用され始めている。この講義を通じて生物の関わる現象を多面的に学んで欲しい。そして、生命という不思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法

講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義はオーソドックスな方法で行なうが、話題性のある項目も取り上げる。

■系統的履修

生物学を十分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

大学の講義の一時間には、二時間の予習と復習の時間も課されている。従って、予習・復習を通じて知識を補い、自分で考え、問題提起を試みて欲しい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

丸山工作・丸山敬 『生命科学入門』 東京教学社 2,300円
近年大きく発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、テキストに記されていない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献

鈴木孝仁監修『フォトサイエンス・生物図録』数研出版社 870円
その他参考図書やWEBサイトは随時講義中に知らせる。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義終了時。それ以外の時間はメールアドレス（takahito@cc.nara-wu.ac.jp）まで。

■講義計画

- ①講義に先立って、生物学の学問的位置や生物界の概観
- ②生体構成物質1：水、糖質、脂質、アミノ酸
- ③生体構成物質2：タンパク質と酵素
- ④生体構成物質3：核酸、その他
- ⑤細胞の観察法と細胞構造
- ⑥原核細胞の細胞の構造と機能
- ⑦真核細胞の構造と機能
- ⑧ミトコンドリアとエネルギー代謝
- ⑨葉緑体と光合成
- ⑩細胞の運動
- ⑪細胞骨格
- ⑫核・核酸の複製と転写
- ⑬タンパク質合成と細胞内輸送
- ⑭核分裂と細胞分裂
- ⑮細胞周期

生物学概論Ⅱ

【担当】鈴木 孝仁

【開講】後期 月1

■サブタイトル

細胞から個体、個体集団まで

■講義概要

生物学概論Ⅰの講義内容に続き、生物個体はどのような調節機構のもとで成体になるのか、また、それぞれの種の生物の形体や機能の特異性や変異性はどのようにして生じ、維持されるのか、その物質的基礎は何か。生物体の恒常性は、どのようなシステムのもとで維持されているのか。生命の誕生とその後の発展はどのようにして起ったと考えられているのか。動物の行動のもつ意義は何かなど、広範な分野について概観し、解説する。

■到達目標

生物学領域の知識は飛躍的に増え、様々なバイオテクノロジーの分野へ応用され始めている。この講義を通じて生物の関わる現象を多面的に学んで欲しい。そして、生命という不思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法

講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。講義はオーソドックスな方法で行なうが、話題性のある項目も取り上げる。

■系統的履修

生物学を十分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■授業時間外における予・復習等の指示

大学の講義の一時間には、二時間の予習と復習の時間も課されている。従って、予習・復習を通じて知識を補い、自分で考え、問題提起を試みて欲しい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

丸山工作・丸山敬 『生命科学入門』 東京教学社 2,300円
近年大きく発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、テキストに記されていない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献

鈴木孝仁監修『フォトサイエンス・生物図録』数研出版社 870円
その他参考図書やWEBサイトは随時講義中に知らせる。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業時間外における予・復習等の指示を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義終了時。それ以外の時間はメールアドレス（takahito@cc.nara-wu.ac.jp）まで。

■講義計画

- ①講義に先立って、前期講義のまとめ
- ②遺伝子と突然変異
- ③遺伝子工学の基礎
- ④原核生物の遺伝子発現調節
- ⑤真核生物の遺伝子発現調節
- ⑥動物の生殖と配偶子形成、受精
- ⑦動物の発生と分化
- ⑧植物の発生と生殖
- ⑨植物の形態形成と植物ホルモン
- ⑩動物の神経系の発達・構造・機能
- ⑪動物の内分泌系
- ⑫生体防御の仕組みと免疫学
- ⑬動物の行動の生物学的意義
- ⑭生物進化の考え方
- ⑮メンデル遺伝学と集団遺伝学の基礎

総合演習

【担当】飯田 晋司、國府 宏枝、高橋 隆史、樋口 三郎

【開講】前期 木2

■サブタイトル

プロフェッショナルとして今後60年生き延びる方法

■講義概要

大学生活も半分が過ぎました。ここまでに自分が達成したことを再確認して、次のステップの準備を始めましょう。自分は卒業後にどのような立場で社会に参加するか（60年間ぐらい参加し続けるわけですが、とりあえず最初の10年分ぐらいでもいいです）を考え、それに応じて大学生活後半の計画を立てましょう。

■到達目標

自分の専門性・特技・長所を根拠を挙げて説明できる。
各業種の企業・団体およびそこに存在する職種を取り巻く状況を調査・分析し説明することができる。
卒業までの1.5年間の活動計画を立てることができる。

■講義方法

担当教員のレクチャーだけでなく、ゲストによるレクチャー、受講者による課題文書の作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどからなります。

■系統的履修

キャリアデザイン、キャリアプランニングと重複する部分がありますが、この科目では学科の専門性を念頭においた考察を行います。この科目は、学外実習を効果的にするのに役立ちます。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の授業内の指示に従い、授業時間外の作業によって課題を完成する必要があります。

■成績評価の方法

平常点（60%）授業内・外での取り組みや提出した課題の内容を評価します。
その他（40%）総合演習発表会への参加とプレゼンテーションの内容を評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

時間割上は前期木曜日の科目ですが、前期木曜日に9回分（残りの週は休講）、6,7月の土曜日に3回分、9月中旬（履修指導期間中）に2回分、9月下旬（後期授業期間）に1回分を実施します。出席必須なのであらかじめスケジュールを調整してください。成績は後期の成績表で通知します。教室は授業の内容に応じて変更します。最新の予定は授業サポート hig3.net を参照してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画

- ①業種・職種を知ろう
- ②自分を知ろう・インターンシップを知ろう
- ③自己PR文書を作ろう（ワードプロセッサ）
- ④企業採用情報を分析しよう（表計算）
- ⑤企業会計情報を分析しよう（表計算）
- ⑥業種・職種志望理由を説明するスライドを作ろう（プレゼンテーション）
- ⑦自己PRプレゼンテーション:業種・職種志望理由を語ろう
- ⑧ゲストレクチャー:ビジネスマナーを知ろう[講義]
- ⑨ゲストレクチャー:ビジネスマナーを知ろう[実技]
- ⑩ゲストレクチャー:経営者・採用担当者の考えを知ろう[講義]
- ⑪企業分析プレゼンテーション:企業を分析し結果を説明するスライドを作ろう
- ⑫企業分析プレゼンテーション:リハーサル
- ⑬企業分析プレゼンテーション:総合演習発表会
- ⑭企業分析プレゼンテーション:他の人の分析結果を検討しよう
- ⑮自分のキャリアプランと総合演習を改善しよう（ディスカッション）

地域環境概論

【担当】竺 文彦、遊磨 正秀

【開講】前期 木2

■講義概要

一定の地域における汚濁発生源が水域に流入し、あるいは、廃棄物となって、地域の環境レベルを決定していく。生物においては、これらの無機的環境の中において、動物、植物が、生態系を構成し、総合的な環境が形成されている。これらの地域における無機的環境、生物的環境について述べる。たとえば、琵琶湖においては、流域の様々な汚濁物質、汚染物質が河川を通じて湖に流入し、琵琶湖の水質を形成していくため、陸域の汚濁源が問題となる。これらの琵琶湖に関連する環境を中心に解説していく。

■到達目標

地域における物理・化学的、生物的環境について基礎的な理解をする。

■講義方法

パワーポイント、プリント等を用いて講義する。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容に関連する新聞記事、雑誌記事、ウェブニュースを熟読し、その内容について日常を通じて理解を深める努力をする。

■成績評価の方法

平常点（20%）受講状況等による
定期試験（80%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①地域環境とは何か
- ②流域における水質汚濁源
- ③湖への汚濁源流入プロセス
- ④琵琶湖の水質変化
- ⑤湖内での水質形成プロセス
- ⑥地域での有機物発生源
- ⑦廃棄物処理・循環プロセス
- ⑧流域における水環境の縦断方向の連続性
- ⑨流域における水環境の横断方向の連続性
- ⑩流域における生物多様性（河川）
- ⑪流域における生物多様性（湖沼）
- ⑫流域における水環境の連続性と栄養塩帰帰
- ⑬流域における水資源開発（水道用水）
- ⑭流域における水資源開発（農業用水）
- ⑮地域環境を科学する

地学概論Ⅰ

【担当】桑原 希世子

【開講】前期 月3

■講義概要

人間や社会に歴史があるように、自然界にも長い歴史がある。地学の中でも特に自然界を歴史科学的観点から理解しようとする分野がある。自然史学・古生物学・地史学などの分野がこれに相当する。この講義では原始地球から現在までの自然史を、主に生物進化の跡をたどって概観する。

■到達目標

自然の歴史を概観することで、現在の地球環境をグローバルな視点で考える能力を身につける。
そして人類の産業活動と今後の地球環境保全について、洞察力を高めることを目的とする。

■講義方法

パワーポイントを使用して進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

次回の授業部分については、専門用語を調べておくこと。
授業後にノートを見直し、わからなかった点があれば調べ、復習すること。

■成績評価の方法

定期試験（100%）点数で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

川上紳一・東條文治 『地球史がよくわかる本』 秀和システム 1,900円
丸山茂徳・磯崎行雄 『生命と地球の歴史』 岩波書店 660円
木庭元晴 『宇宙 地球 地震と火山』 古今書院 2,600円
小出良幸 『早わかり地球と宇宙』 日本実業出版社 1,400円
大谷栄治・掛川武 『地球・生命 その起源と進化』 共立出版 2,200円

J.L.パウエル 『白亜紀に夜がくる』 青土社 2,800円

池谷仙之・北里洋 『地球生物学』 東京大学出版会 3,000円

■講義計画

- ①講義概要の紹介
- ②地球システム
- ③編年
- ④相対年代と数値年代
- ⑤京阪神の古地理分布の復元（ワーク）
- ⑥太陽系と地球地球形成のシナリオ
- ⑦生命の誕生 光合成生物の活動が大気組成を変化させた
- ⑧スノーボールアース仮説 カンブリア大爆発：多様な動物の爆発的進化
- ⑨オゾン層の形成と植物 動物の陸上への進出
- ⑩パンゲア大陸の分裂と生物大量絶滅
- ⑪恐竜の繁栄 白亜紀の温室地球 石油の形成
- ⑫中生代／新生代の境界の絶滅のシナリオ
- ⑬ほ乳類の繁栄 周期的気候変動とミランコビッチサイクル
- ⑭人類はどのように進化してきたのか
- ⑮地球環境問題 まとめ

地学概論Ⅱ

【担当】塩野 清治

【開講】後期 水2

■サブタイトル

変動する地球

■講義概要

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震の大被害を経験して、地震に備えるための防災・減災対策の必要性が広く認識されるようになった。なぜM9.0という超巨大地震が起こったのか。同じような巨大地震が西日本でも起こる危険性はないのか。起こるとすればいつごろか。流言・飛語に惑わされることなく、事態を正しく認識するには、変動する地球の実態（過去と現在）を正しく理解しておく必要がある。この講義では地球の内部構造や誕生してから現在に至る歴史について研究史を交えながら概観したのち、ヴェーゲナーによる大陸移動説がプレートテクトニクスとよばれる、様々な地学現象を総合的に理解するパラダイム（共通認識）へと発展していく歴史的経過をたどりながら、変動する地球についての基礎知識を体系的に学修する。最後にその観点から西日本に住む我々にとって無視することにはできない次の南海地震の必然性について考える。

■到達目標

地球上で発生する様々な地学現象を総合的に理解するための基礎的知識を身につけること。ニュース等で報道される地震や火山などの自然現象を地球の歴史という長期的視点にたって理解・考察できるようになること。

■講義方法

講義内容に関連する資料（Work Sheet）を配布する。その資料とパワーポイントを使用しながら講義を進める。

■系統的履修

地学概論Ⅰ、地学実験、力学、物理学、数学、化学

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の授業の最後に復習問題を課す。問題の解答は授業中に指定する時期（4回）にまとめて提出すること。予習が必要な

場合は適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点（50%）復習問題のレポートの成績

定期試験（50%）筆記試験の成績

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

毎回復習問題を課すので欠席しないように。授業中、講義に集中している者への迷惑行為（私語、携帯電話、飲食など）は慎むこと。疑問な点があれば授業中に積極的に発言してほしい。数値計算をする場合があるので電卓を持参すること。

■講義計画

- ①地球の形と大きさ：メートル単位の起源
- ②地球楕円体とジオイド：標高の基準
- ③アイソスタシー：大陸と海洋の違い
- ④地殻とマントル：モホロビッチ不連続面
- ⑤地球の深部構造：地殻・マントル・核
- ⑥地層と化石：地質年代
- ⑦放射性同位体による年代測定：地球の年齢
- ⑧地球全史：地球の誕生から人類の誕生まで
- ⑨大陸移動説：ウエゲナーの提唱
- ⑩地球の磁場：大陸移動説の復活
- ⑪海洋底拡大説：海嶺と海溝
- ⑫地磁気異常の縞模様：海洋底拡大説の検証と展開
- ⑬プレートテクトニクス：プレートの誕生・移動・消滅
- ⑭大地震への備え：南海地震の必然性
- ⑮まとめと復習

地球環境概論

【担当】市川 陽一、宮浦 富保

【開講】後期 火1

■講義概要

近年、地球がどのように変化したかを理解するためには、まず地球の生物圏としての機能を理解し、その機能に人間が影響をもたらす以前はどのようになっていたかを理解することが必要である。環境の時代を象徴するように、地球環境問題が声高に取り上げられているが、それらが人間の生活にどのように関わっているのか、その因果関係を明確にし、なぜ問題視するかを論述する。人間が引き起こしたさまざまな地球環境問題に取り組み、解決策をさぐるにあたって、まず地球が集積されたシステムとしてどのように機能しているかを基本的に理解することが重要である。

■到達目標

学習・教育目標：B1 (◎), A (○)

地球における複雑な物理的・生物的環境を把握し、人間活動が地球の機能に対しどのように影響をもたらしているかを理解する。人間による地球環境へのインパクトを評価し、対処するのに必要な基礎的知見を得ることが可能となる。

■講義方法

板書、OHP、あるいはパワーポイントを用いてわかり易く講義を進める。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で学んだことを理解するために、ネットや図書館を利用して事例研究を行うとともに、様々な観点から地球環境問題の議論が行われていることを確認し、理解を深めていただきたい。

■成績評価の方法

レポート (30%)

定期試験 (70%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

①講義の進め方
地球環境とは？

②地球の歴史

③地球の気候変動

④地球の生態系－起源と進化

⑤地球の生態系－生物多様性

⑥人類の来歴と環境問題

⑦生態系に与える人間の影響

⑧地球環境の持続可能性

⑨環境汚染－陸上

⑩環境汚染－大気

⑪環境汚染－海洋

⑫地球温暖化

⑬エネルギーと地球環境

⑭環境問題の対策と見通し

⑮まとめ

知的財産概論

【担当】藤河 恒生

【開講】後期 水3

■講義概要

本講座では産業財産権である特許権、実用新案権、意匠権、商標権について概観し、特に、技術者にとって大事な特許権について詳細に学習する。特許に関する手続きはどのようにするか、特許を受けるための要件とは何か、特許書類はどのように読み、書くか、などを実例を見ながら勉強する。特許庁が提供している産業財産権情報、特に特許電子図書館 (IPDL) を活用するため、それをアクセスする基本操作から学ぶこととし、IPDLの操作に関する時間もかなり取っている。本講座を通じて知的財産を身近に感じ、また、知的財産の重要性を感じ取ることも目的としている。

■到達目標

産業財産権 (特許、実用新案、意匠、商標) の取得、活用についての全体像を理解する。

特許制度について、全体にわたった基礎的な知識を習得する。将来、産業財産権の制度を利用できるよう実用的な知識を習得する。

■講義方法

配布する資料を使って講義をするとともに、インターネットを用いて実例を参照又は調査したり、電子出願ソフトを用いた特許出願書類作成の練習をしたりする。

講義は、各自がインターネットを使用できる教室で行う予定である。また、ゲストスピーカーによる講義もはさむ予定である。

■授業時間外における予・復習等の指示

パソコンの基本的な操作はできるようにしておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (50%)

レポート (50%)

レポートの課題は、最終講義の2回前の講義時に渡し、最終講義時にレポート提出を受ける予定である。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■講義計画

①知的財産権 (産業財産権) とは? 特許制度とは?

②出願から特許権取得までⅠ (特許出願書類)

③出願から特許権取得までⅡ (公報、産業財産権情報)

④出願から特許権取得までⅢ (審査請求以降)

⑤IPDLで特許情報にアクセス/演習

⑥発明とは? 特許になる発明とは?

⑦特許を受けることができる者とは? 職務発明とは?

⑧発明発掘から特許出願まで

⑨特許出願書類を書いてみようⅠ (特許請求の範囲)

⑩特許出願書類を書いてみようⅡ (明細書他)

⑪外国での特許取得 外国の特許情報にアクセス

⑫特許以外の産業財産権制度/実用新案・意匠

⑬特許以外の産業財産権制度/商標

⑭IPDLで意匠・商標情報にアクセス/演習

⑮企業における知的財産権の位置づけ

■サブタイトル

製品設計への人間工学的アプローチ

■講義概要

人間工学は、人間をシステムの一要素として扱い、人間の特性を考慮し、人間にとって適切なシステムの設計・改良をめざす工学である。ここでは、生理学・心理学・運動学の立場から人間の諸特性を明確にし、特に生産の場における製品設計・作業設計等に用いられる人間工学的な方法について解説する。これによって人間工学的な観点から設計における問題解決できる能力を養う。

■到達目標

人間の生体機能、運動機能に関する基本的な特性を理解でき、設計に応用できる。

機械・電気システムにおいて考慮しなければならない入出力インタフェースの特性を理解し設計に応用できる。

■講義方法

ノート講義を中心に進めますが、適時OHP等で最新事例も紹介します。図を使った説明が多くなりますので可能な限りプリントも用意します。ノートへの記入が負担となるかもしれませんが、整理されたノートを作り上げることで、学習が進むと考えます。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習：次のテーマに応じたキーワードの調べ、授業開始時に指定用紙に記入し提出

■成績評価の方法

平常点(40%) 予習課題の提出をもって平常点とします。
レポート(60%) 14週目に課題を出します。
平常点(40%)とレポート(60%)とし、合計100点満点で評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

長町三生 『現代の人間工学』 朝倉書店 3,885円

■履修上の注意・担当者からの一言

解らないことや興味のあることは授業の途中でも質問や意見を発言して下さい。それはきっと他の人も同じように考えているに違いないからです。ただ聞いているだけの授業ではなく、授業に積極的に参加して、より興味ある内容となるように一緒に学んでいきましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

下記アドレスまでメールしてください

hashi@mec.setsunan.ac.jp

■講義計画

- ①人間工学の定義(歴史的背景、人間工学をとりまく研究分野)
- ②人間の生理的特性と心理的特性(感覚器全般)
- ③人間の生理的特性と心理的特性(色の研究の歴史)
- ④人間の生理的特性と心理的特性(色を感じるメカニズム)
- ⑤人間の生理的特性と心理的特性(視覚と色覚特性)
- ⑥人間の生理的特性と心理的特性(色の表現法)
- ⑦人間の生理的特性と心理的特性(聴覚)
- ⑧生理的機能の測定法(筋電、心拍、呼吸、発汗)
- ⑨心理的機能の測定法(官能検査、アンケート調査)
- ⑩動作分析・動作解析(動作分析)
- ⑪動作分析・動作解析(動作解析)
- ⑫動作分析・動作解析(運動計測)
- ⑬マンマシンシステム(フィードバック、インターフェイスの要素、人間の制御機能)
- ⑭マンマシンインターフェイス(歴史的背景、コミュニケーションと情報の流れ)
- ⑮インターフェイスの最新事例(人工現実感)

物理実験

■サブタイトル

理工学基礎実験

■講義概要

理工学の全ての分野の基礎となる力学、光学、熱学、電磁気学、原子物理学の分野から選ばれた基本的で重要な11種の実験について実習する。数値情報の分野でも実験技術は非常に重要であり、将来卒業研究や大学院において、新しい方法を実験で検証したり、新しい実験装置や機器を製作したりすることが必要になるが、そのためのトレーニングになる。ノギス、マイクロメーター、サーキットテスター、デジタルボルトメーター、オシロスコープなどの簡単な道具や測定器をいつでも使えるようにすること、得られた実験データの誤差が評価できて、有効数字が分かること、重力加速度、波の波長、速度、振動数、温度、熱起電力、活性化エネルギー、電気抵抗、電圧、電流、電力、ローレンツ力、ヤング率、光の波長、屈折率、波の干渉、回折などの概念について実験によって深く理解することを目標とする。プレゼンテーションの練習のため、最後に発表会も行う。

■到達目標

種々の実験の原理を理解する。ノギスなどの基礎的器具を使えるようになる。実験データの誤差を評価できる。積極的に質問し、自ら進んで勉強できるようになる。

■講義方法

実験指導書にそって、二人一組で、毎回1つのテーマの実験を行う。レポートを各自まとめて提出する。

■系統的履修

物理的基礎科目と物理実験を続けて履修すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

事前にテキストを良く読み、実験の内容を良く理解してから実験を開始すること。実験終了後は、参考書などを利用して実験中の疑問点などを調べ、レポートにまとめること。

■成績評価の方法

レポート(80%)
定期試験(20%)
毎回のレポートを主体(約8割)にし、まとめの試験(約2割)を加味して総合的に評価する。

■テキスト

龍谷大学理工学部編 『物理実験』

テキストは初回に配布します。関数電卓とA4ノート1冊を各自用意して下さい。

■参考文献

小出昭一郎 『物理学(三訂版)』 裳華房 2,100円

原 康夫 『物理学基礎』 学術図書出版社 2,400円

■履修上の注意・担当者からの一言

初回のガイダンスとノギスの使い方の実験を無断欠席すると、今期履修しないものとみなすので注意して下さい。まず実験の原理、方法を自習して、考えても分からなかったことをTAに質問し、分からなかった理由を考えることにより力をつけて下さい。受講マナーにも気を付けて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

実験1テーマにつき1人のTAが配置された少人数教育であるので、3コマ連続の時間を有効に利用して物理の内容についても、どんどん教員およびTAに質問して下さい。

■講義計画

- ①ノギスの使い方
- ②振り子によるgの測定
- ③のびによるヤング率の測定
- ④弦の振動の実験
- ⑤分光器の実験
- ⑥レーザー光の回折実験
- ⑦テスターの使い方とパルス回路
- ⑧アナログ回路
- ⑨電気抵抗の温度変化
- ⑩熱起電力
- ⑪電子の比電荷の測定
- ⑫発表会準備と追加実験(公欠の人)
- ⑬発表会
- ⑭レポート総合指導
- ⑮まとめの試験及び解説

学科固有科目

(数理情報学科)

カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ
ア	アルゴリズム・演習	馬 青	後期 木2・木3	161
オ	応用アルゴリズム	宇土 顯彦	後期 月 2	161
	応用数理B	國府 宏枝	後期 水 3	162
	応用プログラミング演習	高橋 隆史/佐野 彰	後期 月4・月5	162
	オートマトン	植村 渉	前期 木 3	163
カ	確率統計・演習Ⅰ	樋口 三郎	後期 金 2	163
	確率統計・演習Ⅱ	中野 裕治	前期 火 4	164
	関数解析	松本 和一郎	前期 水 3	165
	関数論・演習	松本 和一郎	前期 金3・金4	165
キ	基礎セミナー	宇土 顯彦	前期 木 2	166
	基礎セミナー	大西 俊弘	前期 火 3	166
	基礎セミナー	松本 和一郎	前期 木 2	167
	基礎セミナー	森田 善久	前期 木 2	167
ク	基礎セミナー	四ッ谷 晶二	前期 木 2	168
	グラフィックス基礎・演習	高橋 隆史	前期 火1・火2	168
	計算科学Ⅰ	池田 勉	後期 月 2	169
	計算科学Ⅱ	樋口 三郎/國府 宏枝	前期 金 2	170
ケ	計算科学演習Ⅰ	池田 勉	後期 月 3	171
	計算科学演習Ⅱ	樋口 三郎/國府 宏枝	前期 水 3	172
	計算機援用数学	山岸 義和	後期 金 1	172
	計算機システムⅠ	佐野 彰	前期 木 3	173
コ	計算機システムⅡ	高橋 隆史	後期 金 4	173
	現象の数学A	四ッ谷 晶二	前期 月 3	174
	現象の数学B	飯田 晋司	後期 火 3	174
シ	集合と位相・演習	國府 宏枝	前期 木1・木2	175
	情報処理の基礎	樋口 三郎	後期 水 3	175
ス	数値計算法	松木平 淳太	前期 金 1	176
	数値計算法演習	松木平 淳太	前期 金 2	176
	数理計画法	荒谷 洋輔	後期 木 2	177
	数理情報演習	全教員	後期 月4・月5 or 木4・木5	177
	数理情報基礎演習A／ 数学序論	飯田 晋司/池田 勉/ 佐野 彰	前期 金 3	178
	数理情報基礎演習B／ 物理学序論	松本和一郎/阪井 一繁/ 山岸 義和	後期 金 3	178

カナ	科目名	担当者	開講曜講時	ページ
ス	数理モデル基礎・演習Ⅰ	四ッ谷 晶二	前期 月 1	179
	数理モデル基礎・演習Ⅱ	山岸 義和	後期 水 1	179
セ	セミナー	全教員	前期 月4・月5 or 木4・木5	180
	線形代数及び演習Ⅰ／ 線形代数・演習Ⅰ	池田 勉	前期 火4・火5	181
	線形代数及び演習Ⅱ／ 線形代数・演習Ⅱ	松本 和一郎	後期 木1・木2	182
	大域解析	四ッ谷 晶二	後期 月 2	182
タ	多様体と力学系	國府 宏枝	後期 木 1	183
	ディジタル信号処理	藤田 和弘	後期 木 3	183
テ	データ構造とアルゴリズム	馬 青	前期 月 4	184
	データベース	曾我 麻佐子	後期 月 3	184
	電気と磁気	阪井 一繁	前期 水 3	185
ト	特別研究	全教員	通年 集中	185
	特別講義	松本 和一郎	通年 集中	186
ニ	認知科学と人工知能	瀬田 和久	前期 集中	186
ネ	ネットワーク構成論	岡田 至弘	後期 火 2	187
ハ	パターン情報処理	高橋 隆史	前期 火 3	187
ヒ	微積分及び演習Ⅰ／ 微積分・演習Ⅰ	飯田 晋司	前期 木4・木5	188
	微積分及び演習Ⅱ／ 微積分・演習Ⅱ	森田 善久	後期 木4・木5	188
	微分幾何	森田 善久	後期 火 1	189
フ	物理数学及び演習Ⅰ／ 物理数学・演習Ⅰ	山岸 義和	前期 月4・月5	189
	物理数学及び演習Ⅱ／ 物理数学・演習Ⅱ	松木平 淳太	後期 月4・月5	190
	プレゼンテーション演習	野口 昌子	前期 月 1	191
	プレゼンテーション演習	野口 昌子	前期 月 2	192
ヘ	プログラミング・演習	馬 青	前期 火2・火3	193
	ベクトル解析	森田 善久	前期 火 1	193
	偏微分方程式	森田 善久	前期 火 4	194
リ	力学	飯田 晋司	前期 月 2	194
	離散数学・演習	四ッ谷 晶二	後期 月 1	195
	理論物理B	大坂 寿之	後期 水 2	195

■講義概要

与えられた問題をコンピュータで解くには、まずその問題を把握し、どのような手順で解いて行けばよいかを考え、その手順にそってプログラムを作成する必要がある。この問題解決の手順をアルゴリズムという。この講義では、ソートや探索などの基本的なアルゴリズムについて学ぶ。また、演習を通じて、学んだアルゴリズムについての理解を深めるとともに、それらをプログラムで実現する能力を養う。さらに、各種ソート法のプログラムを作成しそれらの性能（実行速度）を比較する実験を通してアルゴリズムの性能評価についても考える。

■到達目標

情報科学の分野における基礎知識を習得するとともに、コンピュータを利用した、基本的な問題解決能力を身につけることである。

■講義方法

毎週2講時（講義1講時と演習1講時）の授業が開講される。講義部分では、配布資料を使った解説の後、紙上演習を行い、内容理解を深める。演習部分では与えられた課題を、担当教員やティーチングアシスタントの助言を得ながら計算機上で完成させていく。

■系統的履修

計算機基礎実習Ⅰ・Ⅱ、プログラミング・演習

■授業時間外における予・復習等の指示

次回授業の1週間前に、講義プリントと演習課題をWebに載せておくようにしているので、必ず予習しておくこと。また、毎回の授業後は、未完成の演習課題と復習に十分な時間をかけること。

■成績評価の方法

平常点（30%）演習課題の完成状況＋平常点
レポート（20%）
定期試験（50%）

■テキスト

プリントを配布（Webからもダウンロード可）

■参考文献

石畑清 『アルゴリズムとデータ構造』 岩波書店
小澤孝夫 『コンピュータ・アルゴリズム』 昭晃堂
疋田輝雄 『Cで書くアルゴリズム』 サイエンス社

■講義計画

- ①導入：アルゴリズムとは
- ②導入：アルゴリズムの評価
- ③選択ソート
- ④バブルソート
- ⑤ヒープソート：ヒープ、ヒープ化
- ⑥ヒープソート：ヒープソート
- ⑦クイックソート
- ⑧各種ソート法の比較実験（レポート課題）について
- ⑨線形探索法、二分探索法
- ⑩ハッシュ法：基本的な考え方、ハッシュ関数、衝突
- ⑪ハッシュ法：ハッシュ表の作成、ハッシュ探索
- ⑫比較実験（レポート課題）の解説
- ⑬文字列探索：C言語の文字列処理とファイルの入出力、力任せ法
- ⑭文字列探索：応用例
- ⑮復習・質疑応答

応用アルゴリズム

【担当】宇土 顯彦
【開講】後期 月2

■サブタイトル

データ構造とアルゴリズムの知識を、ネットワーク関連を題材として深める

■講義概要

まず、通信網や電気回路網などのネットワークを抽象的に扱うための、グラフに関する基礎的な概念と用語について説明し、ついで、グラフにおける探索、さらに重み付きグラフにおける最小コスト木、最短路を求めるアルゴリズムなどを紹介する。直観的な説明と、的確な記号を使つての正確な記述の両面から理解を深める。

■到達目標

論理的思考力の向上、ソフトウェア開発の基本的能力の獲得

■講義方法

各回の授業では、まず一通り説明した後に演習問題を解いてもらい（出席確認を兼ねる）最後にその正解を示す。

■系統的履修

データ構造とアルゴリズムに関するまとめの科目である。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業に先だつて前回分の復習を確実にしておくこと。

■成績評価の方法

平常点（12%）
定期試験（88%）
（1）期末試験の成績（100点）
（2）レポート点（各回0.8点：基準を満たした場合）の合計（上限100点）

■テキスト

プリントを適宜配布

■参考文献

小澤孝夫 『コンピュータアルゴリズム』 昭晃堂（絶版）

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の順序は講義計画のとおりであるが、実施日は多少前後に移動することがある。

■講義計画

- ①ネットワークとその抽象的扱いのためのグラフ
- ②アルゴリズムのPADによる記述、計算複雑度
- ③集合
- ④グラフに関する記述法と基本操作
- ⑤無向グラフ、有向グラフの要素と種類
- ⑥2分木とその探索、アルゴリズムの再帰的記述
- ⑦スタックとキュー、グラフにおける広さ優先探索
- ⑧グラフにおける深さ優先探索
- ⑨コスト最小木（Kruskal法）
- ⑩コスト最小木（Prim法）
- ⑪最短路アルゴリズム（アサイクリック）
- ⑫最短路アルゴリズム（Dijkstra法）
- ⑬最大フローアルゴリズム
- ⑭マッチングアルゴリズム
- ⑮全体の復習、傾向と対策

■サブタイトル

解析力学+剛体の力学への応用

■講義概要

物理学・演習や力学で、正しく運動方程式をたてるのって大変じゃありませんでしたか
力や加速度はベクトルだから大きさだけじゃなくて向きも考えなきゃいけなかったし、座標軸をうまく選ばないとあとで大変になるし、極座標だったら合成微分をがんがん使って運動方程式を書き変えなきゃいけなかったし、運動が斜面上に限定されてたら抗力なんていう変な力を導入しなきゃいけなかったし、
この授業では、それらはすべて無駄な努力だったことを説明します（嘘です。たぶんそれらの努力をしないとこの授業の内容は理解できません）。Newtonの運動方程式と等価だけどどんな座標系でも簡単に立てられる、ベクトルを使わないEuler-Lagrangeの運動方程式を導入します。そして、Newtonの運動方程式が世界の法則である理由を理解します。それは、宇宙が「作用」と呼ばれる量の最小値を見つけようとしているから（なぜ見つけようとしているかそこは理論物理Bに丸投げ）。このような考え方による力学のことを解析力学と呼んでいます。後半では、この解析力学の考えを用いて、2年次の力学よりも進んだ剛体の力学を考えます。力学ではオープンに軸が固定されたパーベキューの串の運動を考えましたが、この科目では、パーベキューの串をひねりをいれて空中に投げた場合まで考えます。また、このような運動の数値計算をする（例えば3Dのゲームで）のに便利な表示についても説明します。この部分は、Lie群やLie代数という数学に広がっていきます。

■到達目標

運動方程式と言ったらNewtonでなくEuler-Lagrangeのものが思い浮かぶようになること。ひねりをいれて空中に投げたパーベキューの串をうまくキャッチできるようになること。

■講義方法

週1回の講義からなる科目です。講義資料と黒板を併用します。授業時間内に問題を解いてもらい添削することで、演習がないディスアドバンテージを補います。

■系統的履修

この科目は応用数理Aの続きではなく、2年次の力学の続きです。この科目に続いて、大域解析で変分法を深く学ぶことができます。理論物理B（量子力学）は、この科目で学ぶ解析力学の言葉を使うとよりよく理解することができます。

■授業時間外における予・復習等の指示

eラーニングシステム上での予習復習をしてもらいます。

■成績評価の方法

平常点（50%）講義中に出した問題を解いてもらいます。
小テスト（50%）13回目か14回目にテストをします。
龍谷大学eラーニングシステムReLSを使います。
詳細は講義中に案内します。

■テキスト

特になし

■参考文献

高木隆司『力学（II）』裳華房 1,900円

■履修上の注意・担当者からの一言

講義方法・講義計画の詳細は、到達目標になるべく近づくために、その回までの授業での達成度に応じて随時変更することがあります。

■講義計画

- ①一般化座標と変数変換
- ②Euler-Lagrangeの運動方程式
- ③Euler-Lagrangeの運動方程式の応用
- ④Euler-Lagrangeの運動方程式の連成振動への応用
- ⑤Hamiltonの最小作用の原理
- ⑥正準変換
- ⑦対称性と保存量
- ⑧晩秋のプチテスト
- ⑨固定軸を持つ剛体の運動
- ⑩慣性テンソルと慣性主軸
- ⑪Eulerの運動方程式
- ⑫Eulerの運動方程式の解
- ⑬オイラー角と回転行列
- ⑭ファイナルトライアル
- ⑮解説とまとめ

応用プログラミング演習（2013年度以前入学生）

■講義概要

計算機プログラムは、様々な操作を高速・効率的に処理したいという動機や目的があって作成されるものです。したがって、実用的なプログラムを作成するには、現実の様々なデータ形式に応じた計算や入出力を行う必要があります。この科目では、C言語を用いて、画像データやネットワークデータなどの具体的なデータを扱ったプログラムの作成を通して、より実地的なプログラミングの作法を学びます。

■到達目標

現実の多様なデータを処理するためのプログラミング作法を修得する。少し大きな規模のプログラムソースを管理・作成できるようになる。

■講義方法

講義とその内容に沿ったプログラミング演習を行います。

■系統的履修

「プログラミング・演習」の後を継ぎ、プログラミング能力のさらなる強化を目指します。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習ならびに演習課題に取り組むために授業時間外にも多くの時間を費やす必要があります。

■成績評価の方法

平常点（75%）主に演習の課題達成度
レポート（25%）

■テキスト

プリント等を適宜配布。必要に応じてウェブページで課題等を提示。

■参考文献

英語の読み書きを学ぶために辞書が必要のように、プログラミング言語を学ぶためにはその書き方をすぐに調べられる情

報源を手元に用意しておくべきです。書店に行けば山ほどC言語の書籍がありますので、辞書のように使える&自分の好みに合うものを手に入れておくことを強くおすすめします。講義でも幾つかの参考書を紹介する予定です。もちろん既に所有しているものが使えそうならそれでも構いません。使えそうなウェブページなどを自分で見つけておくのもよいでしょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1号館5階に掲示される担当教員のオフィスアワーを確認してください。

■講義計画

- ①よりよい授業にするために、項目ごとの開始時期を前後にずらしたり順序を入れ替えたりすることがあります
- ②Linux環境でのプログラミングに必要な知識・操作法の復習と、C言語の復習（主に関数）
- ③画像を処理してみよう
- ④画像を処理してみよう
- ⑤画像を処理してみよう
- ⑥郵便番号簿の探索
- ⑦郵便番号簿の探索
- ⑧郵便番号簿の探索
- ⑨前半のまとめと後半の導入
- ⑩計算機ネットワークとプロトコル
- ⑪TCP/IPのしくみ
- ⑫サーバ・クライアントシステム
- ⑬クライアントプログラム
- ⑭サーバプログラム
- ⑮ネットワークプロトコルの設計
- ⑯プロトコル実装の例

■講義概要

オートマトン (Automaton) とは計算機システムの動作原理をシンプルに数学的に表記したものである。本科目では「オートマトンとはどのようなものか」から始めて、その数学的表現、基本的諸性質を具体例を通して説明する。さらに記号列の集合を定義する生成文法との関連について説明する。

■到達目標

状態遷移図が理解でき、言語とオートマトンの関係、決定性と非決定性の動作の関係等を理解すること。

■講義方法

基本的に教科書に従って進める。演習問題に関してはレポートとする。

■系統的履修

コンパイラと形式言語 (形式言語)

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書をしっかりと読んでくること。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)
期末のテストで評価する。

■テキスト

富田悦次／横森貴 『オートマトン・言語理論 (基礎情報工学シリーズ5)』 森北出版株式会社

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①オートマトンと言語
- ②形式言語の最小構成要素
- ③基礎的な数学的準備
- ④ミーリー型順序機械
- ⑤ムーア型順序機械
- ⑥有限オートマトン
- ⑦等価性
- ⑧非決定性有限オートマトン
- ⑨部分集合構成法
- ⑩ ε -動作をもつ非決定性有限オートマトン
- ⑪言語演算
- ⑫スター閉包
- ⑬正規表現
- ⑭正規表現から有限オートマトンへの変換
- ⑮一斉射撃問題

確率統計・演習 I (2013年度以前入学生)

■サブタイトル

質的,量的,1変量,2変量の記述統計と推測統計

■講義概要

現実世界の現象を理解し,数理モデルとの関係を明らかにするためには,観察・実験により取得した現象のデータを整理・解析することが必要です。データを表現する記述統計,限られたデータから現象の性質を推測する推測統計を学びます。ただし,量的1変量の場合を主に扱います。これに必要な範囲で確率論を学びます。数式を用いた解析,ソフトウェアによる解析の両方に習熟します。

■到達目標

実験・観察により取得した(質的,量的,1変量,2変量)データを統計的に整理して,他者に対して表現できる。データから仮説を立てて検証し,他者を説得できる。

■講義方法

週に1回の授業内で,毎回テストと講義と演習を行います。授業内外でeラーニングを使用します。

■系統的履修

この科目の内容は,確率統計・演習II,計算科学・演習IIで必要です。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業前にeラーニングとして用意された予習を行います。授業後に,次回の授業内で行うテストの準備の形で復習を行います。この他にも自主的に予習・復習を行うことを期待します。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業時間内のテスト,予習復習,アンケートへの反応などの合計です。
小テスト (30%) プチテストとよんでいます。1回。
定期試験 (40%) ファイナルトライアルとよんでいます。1回。
上記以外に,追加点が得られるプロジェクトを行うことがあります。

ます。
合計が100点以上になる場合は100点とみなします。

■テキスト

特になし

■参考文献

向後千春,富永敦子 『統計学がわかる』 技術評論社 1,764円
東京大学教養学部統計学教室 『統計学入門』 東京大学出版会 2,940円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の情報は授業サポート hig3.net でPC/携帯向けに提供しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画

- ①データの分布
- ②データの平均値と分散
- ③量的2変量データの相関係数
- ④回帰分析
- ⑤連続値確率変数
- ⑥正規分布
- ⑦標本抽出と点推定
- ⑧プチテスト
- ⑨平均値の区間推定
- ⑩比率の推定
- ⑪小標本に対する平均値の推定とt分布
- ⑫平均値に関する検定
- ⑬分散に関する検定とカイ2乗分布
- ⑭比率に関する検定
- ⑮質的2変量データと独立性,適合度の検定

■サブタイトル

確率論入門

■講義概要

確率・統計Ⅰでは、基本的な統計の検定を学びました。この講義では、確率論の考え方、方法を学び、今後の研究、他の分野との関連も考慮して話を進めます。近代確率論は、古典確率論の発展を受けて、20世紀に旧ソビエトのコルモゴロフにより確立されました。

確率論は、統計学の理論を支え、現代では数学の解析のみならず、物理学においては統計物理、気象学等、経済学では、金融工学に多大なる影響を与えています。講義では、まずさまざまな不確定現象（確率現象）について復習し、現象に付随する統計値の計算を学びます。一見規則性のない現象でも、大数の法則や中心極限定理といわれる法則が発見されており、さまざまな分野に応用されています。これを次に学びます。条件付き確率の考えは、気象の予報など広くその考え方は普及しており、独立性と合わせて大事な概念でこれらをきっちり理解する必要があります。花粉のジグザク運動から発見されたブラウン運動は、ランダムウォークからも導かれ、今日では金融工学の基本事象になっていて、ブラック・ショールズ方程式は“金融工学の金字塔”と言われています。講義では、これらを初等的な方法で導き、講義の後半は演習室で確率現象のシミュレーションを学びます。

■到達目標

- 1.二項分布や正規分布などの確率現象の数学構造の把握
- 2.大数の法則や中心極限定理、確率解析方法としての特性関数などの理解
- 3.独立性、条件付き確率などの概念の理解と応用する力を身につけること
- 4.ランダムウォークやブラウン運動などの時間とともに変動する動きの理解
- 5.ブラック・ショールズ方程式などの確率論の応用モデルに興味を持つこと
- 6.Mathematica を使って、確率現象をシミュレーションする力を身につけること

■講義方法

前半は、教科書「明解 確率論入門」に沿って、授業を進めます。講義方法は、要点となる概念や教科書では省略されている計算を補いつつ、重要な定理の証明をきちんと説明します。後半7回の演習では、TAに手助けしてもらってプログラムを作成し、Mathematica によるシミュレーションや作図を行います。

■系統的履修

初等的な微積分および統計学

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で与えられた演習問題を、復習して理解してください。Mathematica を学ぶ絶好の機会ですので、演習室に常備してある Mathematica のソフトを利用して学んでください。

■成績評価の方法

平常点（40%）習熟度によって判定します。

定期試験（60%）

実習には、必ず出席し、わからないことは TA に質問すること。

■テキスト

笠原勇二『明解 確率論入門』 数学書房 2,100円

コンパクトにまとめた良書。講義の理論はこの本で学ぶ。

■参考文献

岡部靖憲『確率・統計－文章題のモデル解法－』 朝倉書店 2,800円

川平友規『レクチャーズ オン Mathematica』 プレアデス出版 2,400円

「確率・統計－文章題のモデル解法－」は、確率現象をどのようにして数学モデルとして構成していくかを示した、素晴らしい教科書です。確率論の考え方をやさしくしかも深く解説していて、確率論の体系的方法を得ることができます。レクチャーズ オン Mathematica は Mathematica の基礎をコン

パクトに解説しています。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業中に使う数学は、必要最小限説明します。教科書は必ず持参して下さい。教科書のデータや、数表を利用するため。卓上計算機も持参が望ましい。わからないときは質問して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

質問等は、y-nakano@biwako.shiga-u.ac.jp へメール下さい。

■講義計画

- ①基本の復習（1）確率変数
- ②基本の復習（2）いろいろな分布
- ③期待値
- ④分散
- ⑤ランダムウォーク
- ⑥ブラック・ショールズの公式
- ⑦条件付き確率と独立性
- ⑧特性関数
- ⑨演習室での実習（1）大数の法則
- ⑩演習室での実習（2）特性関数
- ⑪演習室での実習（3）中心極限定理
- ⑫演習室での実習（4）正規分布に関連した計算
- ⑬演習室での実習（5）ランダムウォーク
- ⑭演習室での実習（6）ブラウン運動
- ⑮演習室での実習（7）ブラック・ショールズモデル

関数解析

【担当】 松本 和一郎

【開講】 前期 水3

■サブタイトル

無限次元の線形代数

■講義概要

ある条件を満たす函数全体をベクトル空間と見なすことができる場合があり、線形代数が展開できる。しかし、いわゆる「線形代数」として学習した時と異なる点は、これらの空間は無限次元で、そのために（部分）空間に基底が存在するかどうかが自明でなくなる。この点を克服して、有限次元で得られたすばらしい結果（特に、行列の対角化）を無限次元に拡張したい。それがヒルベルト空間であり、ヒルベルト空間上の自己共役作用素の固有函数展開である。残念ながら、例えば連続函数の全体はベクトル空間ではあるが、ヒルベルト空間ではない。それでは、どのような空間がヒルベルト空間になるのだろうか

物理の美しい理論に現れる方程式はヒルベルト空間上の（非有界）自己共役作用素でありその固有函数系が完全系をなせば、初期値を固有函数展開することにより、解の固有函数展開もごく簡単に求まる。かくして、偏微分方程式がごく簡単に解ける。通常の偏微分方程式の解法には多大な計算と精緻な推論が必要であることに比べると、この理論のすばらしさが分かる。

この講義では、有限次元のユークリッド空間とヒルベルト空間の相違点と共通点を明確にしていく。80%は有限次元の場合と共通であるから、有限次元の「線形代数」をしっかり身につけて授業に臨むことが肝要である。

■到達目標

ヒルベルト空間が「無限次元ユークリッド空間」として理想的な性質を持つことを理解し、微分方程式の解法への応用の考え方を身につける。

■講義方法

プリントに沿って講義を進める。事前にプリントを配布するから、次回に進みそうな範囲を予習してくるようになしてください。その場でプリントを見て講義が分かるほど簡単な内容ではない。

■系統的履修

「線形代数Ⅰ、Ⅱ」、「微積分および演習Ⅰ、Ⅱ」が基礎である。

この講義の成果は「偏微分方程式」、「固有値問題」に発展していく。

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜講義の中で指示する。

■成績評価の方法

小テスト（20%）講義の進捗状況によっては、レポートに切り替えることもある。

定期試験（80%）

■テキスト

コルモゴロフ・フォーミン『函数解析の基礎（上・下）』岩波書店

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

この科目は大学院との合併科目です。受講に際しては担当教員とよく相談してください。

■講義計画

- ①一般のベクトル空間
- ②ベクトル空間とその例
- ③内積とノルム
- ④ノルム空間とその例
- ⑤点列の収束と完備性
- ⑥ヒルベルト空間とその例
- ⑦有界集合とコンパクト集合
- ⑧ベッセルの不等式
- ⑨完全正規直交系
- ⑩完全正規直交系の存在
- ⑪双対空間、ヒルベルト空間の双対空間
- ⑫有界作用素とその共役作用素
- ⑬コンパクト作用素
- ⑭有界な自己共役作用素
- ⑮固有函数展開

関数論・演習（2013年度以前入学生）

【担当】 松本 和一郎

【開講】 前期 金3・金4

■サブタイトル

複素関数、正則関数の性質

■講義概要

まずは複素数、複素平面の扱いに慣れることを目指します。つぎに複素関数とはどういうものか、その導関数はどのように定義できるかを解説します。複素関数の正則性から、コーシーの積分定理や積分公式など非常にシンプルできれいな性質が導かれます。しかもこれらの理論は実用的な計算に広く応用できることを演習問題を交えて解説します。

■到達目標

複素数の世界まで関数概念を広げることによって、新しい視野の獲得や数学的な発想を学びます。また留数計算など新しい積分計算の方法をマスターし、さらに応用の例を多数挙げます。

■講義方法

講義と演習を実施します。講義では複素関数の性質や計算方法をていねいに解説します。演習では基礎的問題を多数解くことに主眼をおきます。

■系統的履修

微積分・演習Ⅰ、Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

演習は少人数のクラスに分かれて行います。演習問題は自宅で行ってきてください。演習時間においては、解いてきた解答を黒板に書き、クラスの全員に説明し納得させてください。必要に応じてTAがアドバイスをします。

■成績評価の方法

平常点（30%）活動点10、宅習点10、発表点10。活動点は、活動率2/3で0点、3/3で10点、0で-20点です。

定期試験（70%）

■テキスト

原 惟行・松永秀章『複素解析入門』共立出版 1,995円

■参考文献

寺田文行・田中純一『演習と応用 関数論』サイエンス社 1,680円

■履修上の注意・担当者からの一言

複素数の扱いが苦手な人が多いですが、この講義と演習を受講して複素数へのコンプレックスを克服し、複素関数の新しい世界を体験してください。数学の持つ自由な発想がいかにして応用に結びつくかを体験できる分野です。講義においては、あらかじめ教科書やプリントを読んでおいて、分からなかったところを注意深く聞いてください。ノートを取るより、講義を聴いてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

新学期が始まってから松本の研究室のドアに張り出します。

■講義計画

- ①複素数の性質：複素数計算、極形式、オイラーの公式
- ②複素平面と複素数列：複素平面、数列の収束
- ③複素関数：複素関数、写像、連続
- ④複素関数の微分：コーシー・リーマンの関係式
- ⑤複素積分：曲線、領域、線積分
- ⑥コーシーの積分定理
- ⑦正則関数の積分表示：コーシーの積分公式
- ⑧正則性の同値条件
- ⑨関数の巾級数展開：テイラー展開
- ⑩正則関数の零点、一致の定理
- ⑪初等関数：指数関数、三角関数、対数関数
- ⑫ローラン展開
- ⑬孤立特異点
- ⑭留数の定理
- ⑮留数の定理の応用

基礎セミナー

【担当】宇土 顯彦

【開講】前期 木2

■サブタイトル

「コンビニで数学しよう」から大学の数学へ

■講義概要

高校までに習った数学の知識を総合化し、「単に公式を暗記して使う」数学から卒業することを目的とします。

教科書「コンビニで数学しよう」は、身近なテーマ、意外性のあるテーマを高校迄に習った数学で説明しています。各回の最初20-30分位は受講者1名にその1つないし2つの単元を学習してきた内容をPowerPointで説明してもらい、教員が補足説明を行います。残りは数学を体系的に、かつ、いろいろな角度から理解することの面白さを判ってもらうために、マクローリン展開から初めて $\exp(i\pi) = -1$ の式の証明や直感的考え方を紹介します（講義）。無理数である自然対数の底 $2.7182818\cdots$ や $\pi = 3.141592\cdots$ が複素数の世界では美しく結び付きます。

その他、無限大に関するテーマや、フーリエ級数展開など、受講生の興味や理解度に応じて、柔軟に進めていきます。

■到達目標

数学が決して暗記科目でないことを理解する。また、証明や答えはひとつとは限らないということから、いろいろのことに柔軟に対応できる考え方を身に着ける。

■講義方法

上記の「講義概要」のとおりです。

■系統的履修

いろいろの科目の基礎となります。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習として教科書に目を通してくること。また、復習として提示された演習問題を解くこと。

■成績評価の方法

平常点（60%）活動状況
その他（40%）発表

■テキスト

秋山仁監修 『コンビニで数学しよう』 森北出版 2,310円

■参考文献

表実著 『理工系の数学入門コース5-複素関数』 岩波書店 2,415円

■履修上の注意・担当者からの一言

過去の受講者の授業アンケートでは「難しい」が「面白い」という回答が多くありました。担当教員は数学が専門ではありませんが、工学的な問題を解くのにいろいろ使ってきました。その分、形式に捕われず、実践的、直感的な教え方をしたいと思います。

■講義計画

- ①PowerPoint中級編
- ②以下は「コンビニで数学しよう」の毎回の該当箇所です。
今回は「2. 駐車場をつくる」に関してピタゴラスの定理の2とおりの証明（教員がします）と複素数の入門です。
- ③4. 5. ジュースの缶をしぼる
- ④6. コピー機のなぞ
- ⑤7. 壁紙を修理する 8. 中間テストの勉強
- ⑥9. 理想のスタイルは
10. コウジの挑戦（前半）
- ⑦10. コウジの挑戦（後半）11. 折り紙遊び（1）
- ⑧12. 折り紙遊び（2）
- ⑨14. 遺跡の発掘 25. 期末テストの勉強
- ⑩15. 倒れた広告塔 16. パズルの雑誌から
- ⑪17. バーコードの秘密
- ⑫21. チーズ蒸しパンの3等分
- ⑬23. 積み上げた商品が崩れ落ちる
- ⑭26. iの不思議
- ⑮26. iの不思議（続き）

基礎セミナー

【担当】大西 俊弘

【開講】前期 火3

■サブタイトル

中・高の数学を見つめ直し、大学の数学へつなげる ― 数学の教員を目指す人の基礎的素養

■講義概要

中学校や高等学校の数学の教員を目指す人には、数学に関する幅広い教養が必要になります。

例えば、問題を単に解ければそれでよいのではなく、その問題の背後に潜む数学的な構造や、その問題が生まれてきた歴史的な背景も知っておかないと、十分な指導はできません。

本セミナーでは、中学校や高等学校で学んできた数学の内容を別の視点から見つめ直し、諸君の数学に対する見方・考え方を、より広く、より柔軟にすることを目指しています。

また、中学校や高等学校の数学と大学の数学との関連についても述べたいと思います。

本セミナーは、数学の教員を目指している人を主たる対象としていますが、数学好きであれば、教員以外の進路希望の人にも歓迎します。

■到達目標

目標は中学校や高等学校で学んできた数学の内容を別の視点から見つめ直し、諸君の数学に対する見方・考え方を、より広く、より柔軟にすることです。

■講義方法

教科書は使用せず、毎回プリントを配布して、授業を進めます。講義だけでなく、問題演習や討論も行います。時間的な余裕があれば、コンピュータ実習も行います。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法

小テスト（80%）2～3回小テストを実施予定。
レポート（20%）2回程度レポートを課し、未提出の場合は単位を認定しない。

授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また、レポート未提出の場合も単位は認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の3講時である。但し、出張で不在の日もあるので、メール等で予約をすることが望ましい。連絡は電子メールにて行う。メールアドレスは、最初の講義で連絡する。

■講義計画

- ①オリエンテーション（数学的な考え方について）
- ②色々な証明方法（1）（代数的な証明編）
- ③色々な証明方法（2）（図形的な証明編）
- ④別解を作ろう（星形多角形の内角の和）
- ⑤自分で定理を発見しよう（1）（九九の表の不思議）
- ⑥自分で定理を発見しよう（2）（発見した定理の証明）
- ⑦模型で公式を説明しよう（1）（展開の公式の模型を作る）
- ⑧模型で公式を説明しよう（2）（数列の和の公式模型を作る）
- ⑨別解の探究（1）（見方を変えよう）
- ⑩別解の探究（2）（数学は互いに関連している）
- ⑪パスカルの三角形の拡張（1）規則性を読み取る
- ⑫パスカルの三角形の拡張（2）ニュートンの発想
- ⑬新問題を作ってみよう（1）（問題条件を一部変更）
- ⑭新問題を作ってみよう（2）（問題条件を一部変更）
- ⑮問題を拡張しよう（2次元から3次元へ）

基礎セミナー

【担当】松本 和一郎

【開講】前期 木2

■サブタイトル

ディベートに強くなろう

■講義概要

まず、全員の相談の上、テーマを決めます。テーマは意見の分かれる社会的なものを選ぶ方がやりやすいでしょう。(例えば「靖国問題」)。数人のグループに分かれて、1) グループごとに統一テーマに関わる課題を決めて調査を行います。調査に基づいて全員共有の資料をまとめます。2) グループごとに(場合によってはグループを組み直して)統一テーマに関する"立場"を与えて、その"立場"を擁護する資料をさらに集めて擁護する論陣を張ります。(各人やグループの支持する"立場"ではなく、強制的に与えられた"立場"を擁護します。) 3) それらの論戦を通じてより良い見解の獲得を目指します。(最終的な各自の見解は異なっていて構いません。)

■到達目標

議論となる前提の"現状認識"を調べる能力を身につけます。他人の意見を真剣に分析する能力を身につけます。他人の意見を聞いた上で自分の最終的意見をまとめる能力を身につけます。

■講義方法

グループに分かれて課題を調査・分析し、資料の意味するところを抽出します。さらに、全員に向けて調査結果を発表し、質疑応答を行います。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎週のグループ活動を通じて、グループごとに課題が浮かび上がります。

■成績評価の方法

平常点 (100%) グループ学習ですが、個人の発表機会も設けてそれを評価します。全体の活動に対する協力度も測ります。

■テキスト

特になし

■参考文献

必要に応じて指示します。

■履修上の注意・担当者からの一言

自発的活動を期待します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

新年度が始まってから松本の研究室のドアに張り出します。

■講義計画

- ①ディベートとは何かを説明する。あわせてグループを決める。
- ②グループの課題に関する報告1 第1グループ
- ③グループの課題に関する報告2 第2グループ
- ④グループの課題に関する報告3 第3グループ
- ⑤グループの課題に関する報告4 第4グループ
- ⑥統一資料を作成し、共通の認識を作る。
- ⑦テーマに対する何通りかの立場を選定し、それぞれにグループを割り当てる。
- ⑧第1グループが、立場1を擁護する論陣を張る。さらに質疑応答。
- ⑨第2グループが、立場2を擁護する論陣を張る。さらに質疑応答。
- ⑩第3グループが、立場3を擁護する論陣を張る。さらに質疑応答。
- ⑪第4グループが、立場4を擁護する論陣を張る。さらに質疑応答。
- ⑫すべての論陣を通覧した上で、それぞれの立場の合理的な点、不合理的な点を指摘し合い、補足の資料を集める。
- ⑬補足の資料を考慮してそれぞれの立場の合理性を再検討する。
- ⑭13週までの活動を通じて到達した各人の考えを報告する。
- ⑮13週までの活動を通じて到達した各人の考えを報告する。(つづき)

学
科
固
有

基礎セミナー

【担当】森田 善久

【開講】前期 木2

■サブタイトル

方程式の魅力

■講義概要

1次方程式から始まって2次方程式や連立方程式を中学・高校で学んできた。このような方程式は代数方程式とよばれ、長い歴史をもつ。解の公式についても2次方程式だけでなく

3次方程式や4次方程式についても発見されている。

このセミナーでは方程式にまつわる話題を歴史的な背景とともに学んでいく。特に、高校で習ったことを新しい観点から見直し理解を深め、大学での学習に大いに役立てることを目指す。

後半は、差分方程式と微分方程式についても勉強する。差分方程式という耳慣れないが、数列の漸化式は差分方程式そのものである。微分方程式とはどんなものでその解法にどんなものがあるかを高校までの知識で十分わかる範囲で学ぶ。

■到達目標

数学を理解する、自主的に学ぶ姿勢を身につける。受験数学と違った楽しみを見出してもらう。

■講義方法

高校までの数学を復習しながら、毎回新しい課題を設定して一緒に考える。また、次回までに調べてくる課題を出す。

■系統的履修

微積分及び演習Iや線形代数及び演習Iの内容とも一部関係してきます。セミナーで学んだことが生かせるかもしれません。

■授業時間外における予・復習等の指示

課題を調べてくることで予習とする。また、セミナーで学んだことをノートにまとめそれを復習して理解を深めてもらう。

■成績評価の方法

平常点 (100%) 課題の発表およびセミナーでの積極的な討論を評価する

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

3分の2以上の出席が義務ですが、それに加え無断欠席が2回あれば即不合格になります。

少人数なので楽しく進めていきたい。積極的に討論に加わりましょう。90分内に一言もしゃべらない場合はやる気がないとみなされます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

初回に説明します。

■講義計画

- ①方程式とは
- ②解の公式の歴史
- ③解と係数の関係、判別式など
- ④連立方程式
- ⑤たくさんの未知数がある連立方程式と行列の関係
- ⑥高次方程式の解法
- ⑦近似解法の考え方
- ⑧前半のまとめ
- ⑨微分方程式と差分方程式
- ⑩差分方程式と微分方程式の解
- ⑪簡単な差分方程式の解法
- ⑫簡単な微分方程式の解法
- ⑬微分方程式が解ければ何がわかる
- ⑭微分方程式にも解の公式がある
- ⑮後半のまとめ

基礎セミナー

【担当】 四ツ谷 晶二

【開講】 前期 木2

■サブタイトル

数学を基本から理解し直そう

■講義概要

教員採用試験の問題や数学検定2級・準1級の問題を題材にして、高校までに学んだ数学を全く異なった発想で見直す。例えば、多くの人が苦手とする、数列の漸化式をΣ記号を一切使わず解く方法を説明する。さらに、この解法を微分を含んだ方程式である、微分方程式の解法と比較することによりその本質的な同一性を認識し理解を深める。他にも、ユークリッド互除法。不定方程式の解法、2次関数の複雑にみえる問題を一瞬に解く方法、不等式のおしゃれな証明法等を紹介したい。同時に、数式処理ソフトMapleを利用して、計算したり可視化して理解を深める方法も紹介する。これらをきっかけに、本質をついた簡潔な新しい解法を考えたり、さらに高度な数学的知識の獲得に繋げていく。しっかりとした数学力の修得や、中学・高校数学での教師をめざす学生向けのセミナーである。適宜、宿題を出す。どのような方法でもよいので何とか解いてくること。自分で苦労して解いた後でなければ、簡単な別解のありがたさ理解できないからである。

■到達目標

少人数での課題探求型の学習によって、数理情報学科での学修の目的意識を明確にしていく。

■講義方法

毎回問題を提示するので、事前にそれについて考えて、解答を書いてくること。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりすること。

■成績評価の方法

平常点 (100%)

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・毎日が連続した内容の少人数授業なので欠席は認めません。欠席したら、次回落ちこぼれて、ついていけなくなるからです。
- ・必修ではなく選択なので、自分から積極的に取り組む態度の学生のみを歓迎します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

- ・オフィスアワー：月曜日・木曜日 昼休み 於1-541
- ・緊急の場合等は shoji@math.ryukoku.ac.jp にメールを下さい。日時を調整します。

■講義計画

- ①数列の和とその意味
- ②漸化式の解法
- ③因数分解の基本公式
- ④等分多項式と円分多項式
- ⑤最大公約数とユークリッドの互除法
- ⑥ユークリッドの互除法の応用
- ⑦連立1次方程式と行列式
- ⑧2次方程式
- ⑨高次方程式
- ⑩対称性をもった不等式
- ⑪相加相乗平均とその応用
- ⑫コーシー・シュワルツの不等式と応用
- ⑬凸関数と不等式への応用
- ⑭ルジャンドルの補間公式
- ⑮まとめ

グラフィックス基礎・演習（2013年度以前入学生）

【担当】 高橋 隆史

【開講】 前期 火1・火2

■サブタイトル

Java入門+グラフィックス入門

■講義概要

Java言語は、
・様々な環境で同一のプログラムを動作させることができる
・オブジェクト指向プログラミングの考え方に基づいている
・利用可能なライブラリが豊富である
といった特徴をもったプログラミング言語です。この科目では、Javaプログラミングの学習を通じて、オブジェクト指向の考え方に触れます。タートルグラフィックスを主な題材とする予定です。また、図形の描画や、マウス操作によるメニューの選択といった、グラフィックスやGUI（グラフィカルユーザーインターフェース）のためのプログラミングについても学びます。

■到達目標

Javaでプログラムが書けるようになる。オブジェクト指向の考え方を知る。Javaでグラフィックスを描画したりGUIを備えたプログラムを作成する方法を学ぶ。

■講義方法

教科書と配布資料に基づいた講義+計算機室での演習

■系統的履修

C言語プログラミングをある程度身につけている（「計算機基礎実習Ⅰ、Ⅱ」、「プログラミング・演習」や「応用プログラミング演習」を受講している）ことを前提として授業を進めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習・復習ならびに演習課題に取り組むために授業時間外にも多くの時間を費やす必要があります。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業時間中の小テストの得点や演習課題の達成度

定期試験 (70%)

■テキスト

立木秀樹、有賀妙子 『すべての人のためのJavaプログラミング 第2版』 共立出版 2,800円

必ず入手しておくこと

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

参考URLをたどると、高橋のメールアドレスや時間割（オフィスアワー）を知ることができます。

■講義計画

- ①よりよい授業にするため、以下の順序の入れ替えや内容の増減を行う場合があります。
- ②Javaとは
- ③オブジェクトを生成しよう、メソッドを呼び出そう
- ④クラス変数とクラスメソッド
- ⑤処理の流れ
- ⑥配列
- ⑦プリミティブ型と演算子
- ⑧クラスを作ろう：「クラスをつくるってどういうこと」
- ⑨クラスを作ろう：「クラスをつくると何がうれしい」
- ⑩まとめの演習
- ⑪GUIクラス (Swing)
- ⑫グラフィックスの描画
- ⑬イベント処理：「イベント処理のしくみ」
- ⑭イベント処理：「イベント処理いろいろ」
- ⑮アプレット
- ⑯まとめの演習

■サブタイトル

フーリエ級数展開・力学的な運動の数値シミュレーション

■講義概要

最初に、Linux の基本的なコマンドを復習し、ファイルを分別することなどにより、Linux の利用環境を整えます。

信号処理に現れる三角波、ノコギリ波、パルス波などだけではなく、周期を持つ波（同じ形を繰り返す波）は、簡単なものも複雑なものも、単純な波（正弦波と余弦波）を足し合わせることによって近似できます。この作業を「周期関数をフーリエ級数展開によって近似する」といいます。2 番目にフーリエ級数展開の基礎との適用方法を学修します。

最後に、常微分方程式系の数値計算法を学びます。振り子などの力学的な運動は常微分方程式系によって表現されますから、数値計算を行うことによって現象をシミュレートすることができます。

■到達目標

1. Linux の利用環境を整備すること。
2. フーリエ係数の計算方法を習得し、フーリエ係数を計算するプログラムを作成すること。
3. 高速フーリエ変換のプログラムを適用することによって「音色」とエネルギースペクトルの関係を体験すること。
4. 常微分方程式系の数値計算法を学習し、解軌道の可視化などによってダイナミクスを理解するスキルを取得すること。
5. 数値計算によるアニメーションを体験すること。

■講義方法

「計算科学 I」は「計算科学演習 I」とペアで履修しなさい。「計算科学 I」では、担当教員が作成・配付する要点ノートに沿って解説・講義をします。実習とのペアで一回一回完結させる形で運営します。達成感が得られるように、例題を学生が黒板上で解くことなどによって講義を参加型のものにします。

■系統的履修

必ず「計算科学演習 I」と並行履修して下さい。「数値計算法」, 「数値計算法演習」, 「数理モデル基礎・演習 I」, 「力学」の延長線上にある科目です。「数理モデル基礎・演習 II」を合わせて履修することが望ましいでしょう。

■授業時間外における予・復習等の指示

受講者は、配布する講義資料およびサンプルプログラムを利用して、十分に予習・復習をすることが期待される。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 宿題型の小テスト

小テスト (15%) 小テスト (講義資料・ノートの持込可, 担当教員への質問可)

レポート (5%)

定期試験 (60%) ウェブページに過去問と解答例を公開, 筆記用具以外は持込不可

1. 最高評価100点の範囲内でボランティア・ポイントを加算します。
2. 出席を確認することがあります。出席の確認は、不特定少数の学生に対してのみ行われることがあります。欠席の場合は、成績評価の際に減点します。

■テキスト

特になし

■参考文献

皆本晃弥・坂上貴之 『GIMP/GNUPLOT/Tgifで学ぶグラフィック処理』サイエンス社 2,310円

大竹敢 『使いこなすGNUPLOT』テクノプレス 2,625円

船越満明 『キーポイントフーリエ解析』岩波書店 2,520円

藤原毅夫, 栄伸一郎 『フーリエ解析+偏微分方程式』裳華房 2,625円

戸川隼人 『UNIXワークステーションによる科学技術計算ハンドブック』サイエンス社 3,990円

川村哲也 『数値計算入門』サイエンス社 1,680円

水島二郎 『理工学のための数値計算法』数理工学社 2,100円

森口繁一ら 『C による算法通論』東京大学出版会 2,625円

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 欠席などのため、講義・演習の資料を貰えなかった場合は、ウェブページからダウンロードして下さい。
2. 期末に実施される<学生による授業評価調査>の結果はウェブを通して公表します。【この授業の改善すべき点は何ですか】への記述内容と担当者の反応および【あなたのこの授業への取り組みを振り返って自由に書いてください】への記述内容もウェブを通して公表します。
3. 過去の定期試験問題と解答例, 成績評価の分布などもウェブページに公開されています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1. オフィスアワーについては、掲示およびウェブページ (<http://www.math.ryukoku.ac.jp/index.shtml>) を通して理工学部数理情報学科から連絡されます。
2. 担当教員へは電子メール (tsutomu@rins.ryukoku.ac.jp) によって連絡して下さい。

■講義計画

- ①コンソールを開く, 基本的なコマンド, ファイルやディレクトリの名称, ファイルの分別, ワイルドカード, オンラインマニュアル
- ②三角関数のグラフ・加法定理・合成・積和公式・半角の公式, 周期関数の周期・周波数
- ③正弦波と余弦波の正規直交性
- ④Grapes で聴く, 波形エディタで聴く
- ⑤偶関数・奇関数, パルス波, 三角波, 正弦波の上半分, ノコギリ波
- ⑥台形則, 周波数変調波
- ⑦離散データの三角関数による表現, 高速フーリエ変換 (FFT)
- ⑧楽器の音 (flute, harp, piano, tuba, violin), 猫の鳴き声, 犬の鳴き声
- ⑨初期値問題とその数値解法 (4 次の Runge-Kutta 法), 自律系の平衡点・相図
- ⑩ロジステック方程式, C R 回路
- ⑪自律系のヌルクライン・平衡点・解曲線
- ⑫速度に比例する抵抗を受けるバネ-おもり系, L C R 回路, えじき-捕食者系
- ⑬単振り子, van der Pol 方程式
- ⑭バネ-おもり系, えじき-捕食者系, van der Pol 方程式
- ⑮単振り子, 二重振り子

■サブタイトル

現象の確率モデルとその計算機シミュレーション

■講義概要

この授業では、確率を含んだルールを導入することで複雑な現象を簡単にモデル化した、確率モデルのいくつかを紹介します。

また、コンピュータで確率モデルのシミュレーションを行い、得られたデータを解析するための理論と技術を説明します。

■到達目標

現象の確率モデルとは何か、例をあげて説明できる。

離散、連続な確率変数の確率分布、母集団と標本、期待値、平均値、分散の意味を説明し、計算することができる。

確率モデルをオイラー表示とラグランジュ表示で表現し、量を計算することができる。

■講義方法

計算科学Ⅱは週に1回の講義からなる授業ですが、計算科学演習Ⅱと一体の週2回授業として実施します。

■系統的履修

並行して計算科学演習Ⅱを履修することを前提とします。予備知識として、数値計算法/演習、確率統計・演習Ⅰ程度の数学とコンピュータの知識を仮定します。確率統計・演習Ⅱ、現象の数学Ⅰは深く関係する内容であり、あわせて受講を奨めます。計算科学/演習Ⅰとは独立した内容です。

■授業時間外における予・復習等の指示

必要な予習・復習は、この授業または計算科学演習Ⅱの時間内および授業サポート hig3.net で毎回指示します。

■成績評価の方法

平常点（20%）予習復習、授業時間内のquiz、アンケートへの反応などの合計です。

小テスト（30%）プチテストとよんでいます。1回。

定期試験（50%）ファイナルトリアルとよんでいます。1回。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

授業中に連絡します。

■講義計画

- ①離散値確率変数と擬似乱数
- ②ランダムウォーク
- ③期待値の点推定
- ④ランダムウォークの座標のラグランジュ表示 $X(t)$
- ⑤ランダムウォークの座標のオイラー表示 $p(x,t)$
- ⑥プチテスト
- ⑦ $p(x,t)$ の従う漸化式
- ⑧ $p(x,t)$ の極限としての偏微分方程式
- ⑨ $p(x,t)$ の生成関数 $Z(\lambda, t)$
- ⑩生成関数 $Z(\lambda, t)$ を利用した期待値の計算
- ⑪連続値確率変数
- ⑫正規分布と中心極限定理
- ⑬区間推定
- ⑭連続値確率変数の変数変換と逆変換法
- ⑮逆変換法による擬似乱数生成

■サブタイトル

フーリエ級数展開・力学的な運動の数値シミュレーション

■講義概要

最初に、Linux の基本的なコマンドを復習し、ファイルを分別することなどにより、Linux の利用環境を整えます。

信号処理に現れる三角波、ノコギリ波、パルス波などだけではなく、周期を持つ波（同じ形を繰り返す波）は、簡単なものも複雑なものも、単純な波（正弦波と余弦波）を足し合わせることによって近似できます。この作業を「周期関数をフーリエ級数展開によって近似する」といいます。2 番目にフーリエ級数展開の基礎との適用方法を学修します。

最後に、常微分方程式系の数値計算法を学びます。振り子などの力学的な運動は常微分方程式系によって表現されますから、数値計算を行うことによって現象をシミュレートすることができます。

■到達目標

1. Linux の利用環境を整備すること。
2. フーリエ係数の計算方法を習得し、フーリエ係数を計算するプログラムを作成すること。
3. 高速フーリエ変換のプログラムを適用することによって「音色」とエネルギースペクトルの関係を体験すること。
4. 常微分方程式系の数値計算法を学習し、解軌道の可視化などによってダイナミクスを理解するスキルを取得すること。
5. 数値計算によるアニメーションを体験すること。

■講義方法

「計算科学演習 I」は「計算科学 I」とペアで履修して下さい。「計算科学演習 I」では、実習形式によるプログラム作成と講義形式による解説を行います。講義とのペアで一回一回完結させる形で運営します。達成感が得られるように、教員と学生、TA と学生、さらに、学生同士のディスカッションを推奨します。早くできた学生は他の学生を指導するよう期待され、ボランティア・ポイントという形で成績評価に反映されます。

■系統的履修

必ず「計算科学 I」と並行履修して下さい。「数値計算法」、「数値計算法演習」、「数理モデル基礎・演習 I」、「力学」の延長線上のある科目です。「数理モデル基礎・演習 II」を合わせて履修することが望ましいでしょう。

■授業時間外における予・復習等の指示

受講者は、配布する講義資料およびサンプルプログラムを利用して、十分に予習・復習をすることが期待される。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 演習・実習の達成状況（締切に遅れた場合もチェックして貰えます）

小テスト (15%) 講義・実習資料・ノートの持込可、TA への質問可

レポート (5%)

定期試験 (60%) プログラムを作成し、実行結果を提出する形で実施されます

1. 最高評価100点の範囲内でボランティア・ポイントを加算します。
2. 出席を確認することがあります。出席の確認は、不特定少数の学生に対してのみ行われることがあります。欠席の場合は、成績評価の際に減点します。

■テキスト

特になし

■参考文献

皆本晃弥・坂上貴之 『GIMP/GNUPLOT/Tgifで学ぶグラフィック処理』サイエンス社 2,310円

大竹敢 『使いこなすGNUPLOT』テクノプレス 2,625円

船越満明 『キーポイントフーリエ解析』岩波書店 2,520円

藤原毅夫、栄伸一郎 『フーリエ解析+偏微分方程式』裳華房 2,625円

戸川隼人 『UNIXワークステーションによる科学技術計算

ハンドブック』サイエンス社 3,990円

川村哲也 『数値計算入門』サイエンス社 1,680円

水島二郎 『理工学のための数値計算法』数理工学社 2,100円

森口繁一 『C による算法通論』東京大学出版会 2,625円

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 欠席などのため、講義・演習の資料を貰えなかった場合は、ウェブページからダウンロードして下さい。
2. 期末に実施される＜学生による授業評価調査＞の結果はウェブを通して公表します。【この授業の改善すべき点は何ですか】への記述内容と担当者の反応および【あなたのこの授業への取り組みを振り返って自由に書いてください】への記述内容もウェブを通して公表します。
3. 過去の定期試験問題と解答例、成績評価の分布などもウェブページに公開されています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1. オフィスアワーについては、掲示およびウェブページ (<http://www.math.ryukoku.ac.jp/index.shtml>) を通して理工学部数理情報学科から連絡されます。
2. 担当教員へは電子メール (tsutomu@rins.ryukoku.ac.jp) によって連絡して下さい。

■講義計画

- ①コンソールを開く、基本的なコマンド、ファイルやディレクトリの名称、ファイルの分別、ワイルドカード、オンラインマニュアル
- ②三角関数のグラフ・加法定理・合成・積和公式・半角の公式、周期関数の周期・周波数
- ③正弦波と余弦波の正規直交性
- ④Grapes で聴く、波形エディタで聴く
- ⑤偶関数・奇関数、パルス波、三角波、正弦波の上半分、ノコギリ波
- ⑥台形則、周波数変調波
- ⑦離散データの三角関数による表現、高速フーリエ変換 (FFT)
- ⑧楽器の音 (flute, harp, piano, tuba, violin)、猫の鳴き声、犬の鳴き声
- ⑨初期値問題とその数値解法 (4 次の Runge-Kutta 法)、自律系の平衡点・相図
- ⑩ロジステック方程式、CR 回路
- ⑪自律系のスルクライン・平衡点・解曲線
- ⑫速度に比例する抵抗を受けるバネ-おもり系、LCR 回路、えじき-捕食者系
- ⑬単振り子、van der Pol 方程式
- ⑭バネ-おもり系、えじき-捕食者系、van der Pol 方程式
- ⑮単振り子、二重振り子

計算科学演習Ⅱ（2013年度以前入学生）

【担当】樋口 三郎、國府 宏枝

【開講】前期 水3

■サブタイトル

現象の確率モデルとその計算機シミュレーション

■講義概要

計算科学Ⅱで扱う確率モデルを例に、確率モデルをコンピュータで解析する方法を学びます。

■到達目標

与えられた離散的・連続的な確率分布に従う擬似乱数を発生するプログラムを作成できる。確率的な現象を、擬似乱数を利用してシミュレートするプログラムを作成できる。シミュレーションで得られたサンプルを表計算ソフトウェアや統計計算ソフトウェアを利用して分析し、母分布のパラメータを推定することができる。

■講義方法

計算科学演習Ⅱは週に1回の演習からなる授業ですが、計算科学Ⅱと一体の週2回授業として実施します。

計算科学演習Ⅱでは主に学生が個人またはグループで、TAからアドバイスを受けつつ作業を進めます。

一部の回では、学生の（2名以上の）グループ分けを指定し、グループ単位の活動と評価を行います。

■系統的履修

並行して計算科学Ⅱを履修することを前提とします。予備知識として、数値計算法/演習、確率統計・演習Ⅰ程度の数学とコンピュータの知識を仮定します。計算科学演習Ⅰとは独立な内容です。

■授業時間外における予・復習等の指示

予習すべき内容は各回の計算科学Ⅱで指示します。各回の計算科学演習Ⅱの課題を完成するためには、授業時間外にも、計算機実習室および自宅のコンピュータを用いての自習が必要です。

■成績評価の方法

平常点（20%）授業内外の課題で評価します。

小テスト（80%）プチテストとよんでいます。3回。資料参照制限下でプログラムを作成します。

レポート（0%）

定期試験（0%）

その他（0%）

■テキスト

特になし

■参考文献

平岡和幸、堀玄 『プログラミングのための確率統計』 オーム社 3,150円

宇土顕彦 『効率よく学ぶCプログラミング』 コロナ社 2,100円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

授業中に連絡します。

■講義計画

①IDEによる開発とデバッグ、表計算ソフトウェアによるグラフ作成

②擬似乱数生成

③ヒストグラム

④母数の点推定

⑤春のプチテスト

⑥エラー表示

⑦ $p(x,t)$ の時間発展

⑧偏微分方程式の数値解法

⑨確率シミュレーション（1）

⑩初夏のプチテスト

⑪連続値擬似乱数の生成

⑫確率シミュレーション（2）

⑬確率シミュレーション（3）

⑭逆変換法による乱数生成

⑮夏のプチテスト

計算機援用数学

【担当】山岸 義和

【開講】後期 金1

■講義概要

計算機を援用した数学のいくつかの話題について学ぶ。

■到達目標

数学におけるアルゴリズム的構造を記述できる。

■講義方法

板書で講義することが多い。適宜、数学関係のソフトウェアを用いることがある。

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎週、課題を出す予定。

■成績評価の方法

平常点（40%）

定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

この科目は大学院との合併科目です。受講に際しては担当教員とよく相談してください。

■講義計画

①Thue-Morse列

②Kolakoski列

③フィボナッチ列

④Farey数列

⑤連分数

⑥たたけたけ列

⑦ガウスの整数環

⑧中間試験

⑨Thue-Morse列の性質

⑩Kolakoski列の性質

⑪フィボナッチ列の性質

⑫たたけたけ列の性質

⑬連分数の性質

⑭ガウスの整数環の性質

⑮まとめ

計算機システムⅠ

【担当】佐野 彰

【開講】前期 木3

■サブタイトル

CPUを設計する

■講義概要

計算機は0・1の2値デジタル情報を内部表現とし、論理回路と呼ばれるデジタル演算素子の組み合わせで実現されています。この講義の前半では、2値デジタル情報表現とその基礎となるブール代数やブール（論理）関数を学びます。また、ブール代数で定義される論理演算を、電子回路（論理回路）として実現する方法を考えます。講義の後半では、これらの論理回路を用いて単純なCPUを設計していくことで、CPUの様々な構成要素として必要とされる、組み合わせ論理回路や順序回路などの構造や原理を理解します。

■到達目標

「2値デジタル表現を用いて計算機が実現されている」ということを知識として知っていても、それが具体的にどのような実現されているのかを知る機会はありません。ブール代数という単純な数学を以て記述される論理演算とそれを実現する論理回路によって、CPU上の計算がどのように具体化され、皆さんの書くプログラムがどのように動作するのかイメージできるようになることを期待しています。

■講義方法

板書とプロジェクタを併用します。

■系統的履修

「情報処理の基礎」の内容を継承しています。「集合と位相・演習」を同時に履修していると理解が容易になるかもしれません。より実証的な計算機システムの構成原理として「計算機システムⅡ」へと接続します。

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の内容を積み上げる形式で講義を進めるので、毎回の講義内容はきちんと復習して次回までに理解しておいて下さい。

■成績評価の方法

平常点（20%）講義中の発言なども評価したいと思います。定期試験（80%）講義を通して課題などを課した場合は、それらも評価に含めます。

■テキスト

必要に応じてプリントを配布します。

■参考文献

南谷崇 『論理回路の基礎』 サイエンス社 2,100円
渡波郁 『CPUの創りかた』 毎日コミュニケーションズ 2,800円

■履修上の注意・担当者からの一言

理解度や進行に合わせて講義内容や順序を変更することがあります。

■講義計画

- ①2値符号と2進数
- ②2進数の演算とn進数
- ③ブール代数と基本論理回路
- ④論理関数と標準展開
- ⑤組み合わせ論理回路
- ⑥トランジスタと基本論理回路
- ⑦メモリ
- ⑧CPUの構成と機械語
- ⑨フリップ・フロップ
- ⑩1ビットCPU
- ⑪レジスタとデータセレクタ
- ⑫加算器とキャリーフラグ
- ⑬プログラムカウンタ
- ⑭命令デコーダとカルノー図
- ⑮CPUの処理速度とパイプライン

計算機システムⅡ

【担当】高橋 隆史

【開講】後期 金4

■サブタイトル

「計算機アーキテクチャ概論」+「オペレーティングシステム概論」

■講義概要

この科目の前半では、計算機システムの「建築学」、「建築様式」(architecture)を考えます。PCやゲーム機は言うにおよばず、携帯電話、自動車、炊飯器など、巷には複雑な計算や機械制御のための演算装置（プロセッサ）を内蔵した機器があふれていますが、これらのプロセッサはみな共通の構成原理に基づいて設計されています。前半の目標は、その構成原理を知り、これらのプロセッサが何をしているのか理解することです。特にPCなどの計算機の中核をなすプロセッサであるCPUをとりあげて、その動作のしくみを学びます。また、プロセッサに命令を与えるための言葉であるアセンブリ言語の初歩についても学びます。

後半は、オペレーティングシステム（OS）の役割・仕組みを考えます。Windows、Linux、Mac OS XといったOSの名前を聞くと、それらのOSと共に提供されるユーザインタフェースの部分、デスクトップ画面や操作性のことをつい思い浮かべがちですが、それらは単なる見た目に過ぎません。後半の目標は、OSの中核部分の地味だけれど大切な機能について理解することです。

■到達目標

人がゲームしたりプログラム実行したりする裏でCPUやOSが何をしているのか、イメージが湧くようになるといいですね。身近な計算機が1秒間でどれだけのことができるのかを見積もって「イマドキの計算機はすごいねえ」と思ったり、単なる画面の見た目ではないOSの機能について思いをはせたりできるかもしれません。

■講義方法

配布資料に沿って講義を行ないます。

■系統的履修

「情報処理の基礎」と「計算機システムⅠ」のつづきです。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外の予習復習等に多くの時間を費やす必要があります。「成績評価の方法」欄も参照してください。

■成績評価の方法

平常点（30%）ReLS（龍谷大学e-Learningシステム）を用いて毎週問題を出します
定期試験（70%）

■テキスト

特になし

■参考文献

この科目のウェブページに参考文献の情報がありません。参考URLをたどってください。

■履修上の注意・担当者からの一言

授業時間外にも学習する必要があります。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

参考URLをたどると、高橋のメールアドレスや時間割（オフィスアワー）を知ることができます。

■講義計画

- ①よりよい授業にするために、項目ごとの開始時期を前後にずらしたり順序を入れ替えたりすることがあります
- ②プロセッサのしくみ：内部構成と動作サイクル
- ③プロセッサの言葉Ⅰ：命令の作り方（機械語・アセンブリ言語とアセンブラ）
- ④プロセッサの言葉Ⅱ：プロセッサの気持ちになろう（アセンブリ言語プログラミング）
- ⑤プロセッサの言葉Ⅲ：条件分岐
- ⑥プロセッサの言葉Ⅳ：サブルーチン呼び出し
- ⑦プロセッサの性能評価の仕方
- ⑧性能向上のための工夫Ⅰ：パイプライン処理
- ⑨性能向上のための工夫Ⅱ：キャッシュメモリ
- ⑩性能向上のための工夫Ⅲ：並列処理
- ⑪オペレーティングシステムとは
- ⑫OSとユーザやプログラムのやりとり（カーネル、シェル、API）
- ⑬プロセス管理とスケジューリング
- ⑭メモリの管理
- ⑮仮想記憶
- ⑯ファイルシステム

現象の数学A

【担当】四ツ谷 晶二

【開講】前期 月3

■サブタイトル

熱伝導・拡散現象の数学

■講義概要

・熱伝導・拡散現象に焦点を絞り、数理モデルによる表現とその解法について解説する。
・まず、空間が連続な場合の偏微分方程式で表される拡散方程式（熱方程式）、および、その定常問題である楕円型方程式について解説する。その際の基本的な道具はフーリエによって発見されたフーリエ級数展開である。
・フーリエ級数展開とその無限区間バージョンであるフーリエ変換の基本的な事項についても解説を行う。
・偏微分方程式を直感的に理解するには、対応する差分方程式を考えることが不可欠である。このことについても解説する。

■到達目標

自然現象を理解するための数理モデルの構築と、数学的な解析方法をマスターする。

■講義方法

講義の合間に演習を入れる。

■系統的履修

数理モデル基礎および演習ⅠとⅡ

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習をしっかりとすること。

■成績評価の方法

小テスト（30％）1～2回、60分程度の小テストを行う
レポート（30％）適宜、レポート提出を課す
定期試験（40％）
拡散モデルの数学的な扱いを学習します。段階を踏んで、レ

ベルアップします。授業に出席し、しっかり考えることが大事です。

■テキスト

適宜、プリントを配布します。

■参考文献

E.クライツィグ著 岡部訳 『フーリエ解析と偏微分方程式』
培風館 1,700円

■履修上の注意・担当者からの一言

線形代数と微積分のしっかりした基礎学力が必要です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：月曜日・木曜日の昼休み

e-mail：shoji@math.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①常微分方程式の基礎事項
- ②拡散現象
- ③境界値問題とフーリエの方法
- ④いろいろな境界値問題
- ⑤フーリエ級数展開
- ⑥フーリエ正弦展開・余弦展開
- ⑦フーリエ級数展開の応用と発展
- ⑧拡散方程式の初期値問題
- ⑨フーリエ変換の基礎事項
- ⑩フーリエ変換の応用
- ⑪拡散方程式の定常問題
- ⑫ポアソン方程式の解法
- ⑬差分法で理解を深める
- ⑭比較定理と最大値原理
- ⑮まとめ

現象の数学B

【担当】飯田 晋司

【開講】後期 火3

■サブタイトル

振動と波動の力学

■講義概要

地球の生命の源である太陽エネルギーは光（電磁波）で運ばれます。人間は視覚や聴覚を持っていますが、これは可視光（電磁波）や音（音波）が情報を運ぶことを利用したセンサーです。これらはすべて、波動方程式という2階偏微分方程式で記述される現象です。この科目では波動方程式の性質や解き方を学びます。波動方程式は、物理数学・演習Ⅱで学んだ単振動を無限個に集めて《組み合わせた》ものと見なせます。そこで、単振動の復習から始めて、次にばねでつながれた2個の物体の運動（連成振動）を考えます。ここでは数理モデル基礎・演習Ⅱが役立ちます。さらに、N個の物体がばねで1列につながれている場合を考え、最終的に $N \rightarrow \infty$ の極限として波動方程式を導きます。波動方程式には専用の解法がいくつかあります。世の中の多くのものの背後には振動と波動があることがわかってもらえるものと思います。

■到達目標

N自由度の連成振動の運動方程式が解ける。波動方程式が解ける。

■講義方法

週に1回の講義からなる授業です。講義の時間内にある程度の演習を行います。

■系統的履修

この科目は現象の数学Aの続きではありません。1年次の数学・物理系必修科目に加えて、数理モデル基礎・演習Ⅰの内容はこの科目の前提です。

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、序論などを利用して理解が不十分な点を残したままにしないようにしてください。

■成績評価の方法

定期試験（100％）

■テキスト

特になし

■参考文献

小形正男 『振動・波動』 裳華房 2,000円

■講義計画

- ①単振動 - 調和振動子
- ②複数のばねの力による振動
- ③微小振動 - 一般のポテンシャルの平衡点の近くでの振動
- ④単振り子の微小振動、2個の物体の連成振動1：運動方程式
- ⑤2個の物体の連成振動2：基準座標と基準モード、うなり
- ⑥2個の物体の連成振動3：運動方程式と固有値
- ⑦2個の物体の連成振動4：固有モードによる一般解、基準座標と固有ベクトルの関係、基準座標で表した位置エネルギー
- ⑧3個の物体の連成振動：運動方程式、固有振動数と固有モード
- ⑨N個の物体の連成振動1：運動方程式と固有モードを決める式
- ⑩N個の物体の連成振動2：境界条件、固有ベクトルと固有値、固有振動数
- ⑪Nが無限大の極限1：ばねと質点系のパラメータと弾性体の棒のパラメータの対応関係、棒の振動状態を表す関数
- ⑫Nが無限大の極限2：固有モードに対応する関数、固有振動数と波数の関係（分散関係）、波の速さ、波動方程式の導出
- ⑬波動方程式の境界条件、有限区間の波動方程式の固有モード
- ⑭有限区間の波動方程式の初期値境界値問題のフーリエ級数解
- ⑮無限区間の波動方程式のダランベール（進行波）解

集合と位相・演習（2013年度以前入学生）

【担当】 國府 宏枝

【開講】 前期 木1・木2

■サブタイトル

収束と連続の定義にこだわってみよう！

■講義概要

高校まで、数学の世界は数直線が広くても平面どまりでした。でもこれからは、ベクトル全体の空間とか、微分方程式の解全体の空間とか、関数全体の空間とか、大胆な空間をいろいろ考えていきたいのです。

1変数関数はグラフに書くときよくわかりました。しかし、2変数関数 $f(x,y)$ では、値の収束先が (x,y) の $(0,0)$ への近づけ方によって変わるというショッキングなことがあるのです。平面にしてくださいから、もっと大胆な空間では何が起きるかわかったものではありません。その基礎をしっかりとするために、収束や連続の定義を考え直していきます。あわせて、数学的な（ちょっと抽象的な）考え方に会います。数学じゃなくて国語みたいでショック受ける人もいます。でもこれが数学。

■到達目標

ユークリッド空間の点列の収束や、ユークリッド空間上の関数の連続性が成立するかどうか直観的にビビッとわかり、証明もできるようになること、証明が好きになることを目標にします。

■講義方法

1週間に講義演習を1講時ずつ行います。2014年度は木1が講義、木2が演習です。

■系統的履修

直接に必要な予備知識は日本語ですが、微積分や線形代数の例を使うこともあるので、その辺がよくわかっているのはプラスです。また、3,4年次の数学系科目の多くは、この科目で学んだ言葉を使って語られることになります。

■授業時間外における予・復習等の指示

演習の問題のうちいくつかを宿題とします。次の時間に提出できるよう準備してください。

■成績評価の方法

平常点（15%）

小テスト（35%）

定期試験（50%）

小テストは10回目を予定していますが、進行具合で前後するかも知れません。掲示・eメール等に注意して下さい。

上記以外、+点で、突発的な課題が出るかもしれません。合計が100点以上になる場合は100点とみなします。

■テキスト

鈴木晋一『集合と位相への入門:ユークリッド空間の位相』サイエンス社 1,733円

■参考文献

鈴木晋一『理工基礎 演習集合と位相』サイエンス社 1,943円

一栗重雄（監修）『集合と位相そのまま使える答えの書き方』講談社 2,100円
1冊目はテキストと密接に対応した演習書、2冊目は別の視点から丁寧に解説した演習書+要点のまとめ。

図書館や書店で自分にあった本を探す場合は「（一般）位相」「位相空間（論）」を探しましょう。「位相幾何（学）」は名前は似てるけどりあえず別の分野です。「トポロジー」はあたりの場合もはずれの場合もあります。

■履修上の注意・担当者からの一言

進路に合わせて、講義内容・講義計画の変更があるかもしれません。

■講義計画

①集合

②論理

③写像

④同値関係があったら同値類別しよう

⑤集合の大きさを測るのは濃度

⑥ユークリッド空間に慣れる

⑦開集合閉集合内点

⑧境界点集積点触点

⑨「すべての」と「ある」を使い分けよう-収束の定義

⑩前半まとめと小テスト

⑪連続の定義

⑫いろいろな空間-----コンパクト

⑬へんな距離で測ろう-三角不等式しなくてもダイジョーブ！

⑭位相って何。

⑮テスト解説・まとめ

情報処理の基礎

【担当】 樋口 三郎

【開講】 後期 水3

■サブタイトル

コンピュータの仕組みまでわかってコンピュータを使おう/プログラムを書こう

■講義概要

自動車が誰でも運転できるように、コンピュータは誰にでも使えます。でも、自動車をひどい扱い方する人や、ちょっと調子悪かったらお手上げになる人っていますよね。自動車の仕組み知ってたら（教習所でちょっとは習うんですが）そんなことないと思うんですが。

計算機基礎実習Ⅰで、もうすぐ自分はプログラムを書いてコンピュータに何でもさせられるようになる、と思った人も多いでしょう。しかし、この授業では、書けるプログラムの種類を広げるのではなく、プログラムを動かすコンピュータの仕組みを「ハードウェアのレベルから」理解します。大学で情報を学ぶ人は、とりえず運転できるレベルではいけません。コンピュータの仕組みを理解することにより、より効率のよいプログラムを書けるように、コンピュータによるよりよい問題解決をできるようになりました。

■到達目標

正負の数を2進数で表現して計算できる。論理式-真偽値表-論理回路の変換ができる。プログラムが動く仕組みをデジタル信号のレベルにさかのぼって説明できる。

■講義方法

週に1回の授業内で、毎回テストと講義と演習を行います。授業内外でeラーニングを使用します。

■系統的履修

計算機基礎実習Ⅰを前提とします。この科目の内容は、計算機システムⅠで深化されます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業前にeラーニングとして用意された予習を行います。授業後に、次の授業内で行うテストの準備の形で復習を行います。その他にも自主的に予習・復習を行うことを期待します。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業時間内のテスト、予習復習、アンケートへの反応などの合計です。

小テスト（30%）プチテストとよんでいます。1回。

定期試験（40%）ファイナルトライアルとよんでいます。1回。

上記以外に、追加点が得られるプロジェクトを行うことがあります。合計が100点以上になる場合は100点とみなします。

■テキスト

特になし

■参考文献

馬場敬信『コンピュータのしくみを理解するための10章』技術評論社 2,079円

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の情報は授業サポート hig3.net でPC/携帯向けに提供しています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業サポート hig3.net を参照してください。

■講義計画

①自然数の符号化

②アナログ・デジタル変換

③論理素子

④演算装置の仕組み

⑤負の整数の符号化

⑥情報量

⑦文字列の符号化

⑧プチテスト

⑨コンピュータの構成

⑩メモリ・ディスク

⑪CPU

⑫機械語とアセンブリ言語

⑬プログラムとプロセス

⑭メモリ管理

⑮ネットワーク

数値計算法（2013年度以前入学生）

【担当】 松木平 淳太
【開講】 前期 金1

■講義概要

人工衛星の軌道計算、気象予測、金融におけるリスク計算、ロボットの制御、建築物の強度設計、宇宙の進化や銀河系の生成のシミュレーションなど、自然現象から工学、経済の分野に到るまで、数理モデルとコンピュータによる数値計算は非常に強力な解析ツールである。この講義では数値計算の基礎理論とそのプログラミング技法を学習する。プログラミング言語としてはC言語を使用する。

■到達目標

「数値計算法」、「数値計算法演習」を修得することによって、基本的な数値計算の能力が身につくはずである。この科目修得後、「計算科学I」、「計算科学I演習」を学んでほしい。

■講義方法

教科書・教員作成の資料によって通常の講義形式で授業を行う。なお、この講義は「数値計算法演習」とペアで履修することを前提とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

予復習にあたっては、教科書、授業中配布の資料、Webページを有効に活用すること。

■成績評価の方法

平常点（10%）
定期試験（90%）

■テキスト

栗原正仁 『わかりやすい数値計算入門 [第2版]』 ムリスリ出版 2,250円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

この授業自体は他学科の学生でも履修可能であるが、この授

業とペアになっている「数値計算法演習」は履修できないので、注意すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡先：junta@rins.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①C言語の復習
- ②数の表現と誤差（2進数）
- ③数の表現と誤差（浮動小数点、誤差）
- ④漸化式
- ⑤打ち切り誤差（円周率、e の計算）
- ⑥打ち切り誤差（テイラー展開）
- ⑦前半のまとめ
- ⑧非線形方程式の求根（ニュートン法）
- ⑨非線形方程式の求根（2分法）
- ⑩数値積分（区分求積法、台形則）
- ⑪数値積分（シンプソン則、ロンバーク積分）
- ⑫統計計算（平均、分散、偏差値）
- ⑬統計計算（最小2乗法）
- ⑭連立一次方程式
- ⑮総まとめ

数値計算法演習（2013年度以前入学生）

【担当】 松木平 淳太
【開講】 前期 金2

■講義概要

「数値計算法」の講義に基づく実習を行う。内容については「数値計算法」の項を参照せよ。

■到達目標

「数値計算法」、「数値計算法演習」を修得することによって、基本的な数値計算の能力が身につくはずである。この科目修得後、「計算科学I」、「計算科学I演習」を学んでほしい。

■講義方法

「数値計算法」の講義で学んだ内容をもとに、オンラインで提示される課題に対して、プログラム作成等を各自が行う。プログラム作成上の質問に対しては、教員・T.A.が個別に指導する。

■授業時間外における予・復習等の指示

予復習にあたっては、教科書、授業中配布の資料、Webページを有効に活用すること。

■成績評価の方法

平常点（100%）毎回出される課題に対して、教員とT.A.が達成度を評価し、その総合点を成績とする。

■テキスト

栗原正仁 『わかりやすい数値計算入門』 ムリスリ出版 2,205円

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

課題は授業時間内に完成できるとは限らないので、授業時間外も時間を割かれることを覚悟すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：
連絡先：junta@rins.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①C言語の復習
- ②数の表現と誤差（2進数）
- ③数の表現と誤差（浮動小数点、誤差）
- ④漸化式
- ⑤打ち切り誤差（円周率、e の計算）
- ⑥打ち切り誤差（テイラー展開）
- ⑦前半のまとめ
- ⑧非線形方程式の求根（ニュートン法）
- ⑨非線形方程式の求根（2分法）
- ⑩数値積分（区分求積法、台形則）
- ⑪数値積分（シンプソン則、ロンバーク積分）
- ⑫統計計算（平均、分散、偏差値）
- ⑬統計計算（最小2乗法）
- ⑭連立一次方程式（掃出し法）
- ⑮総まとめ

数理計画法

【担当】 荒谷 洋輔

【開講】 後期 木2

■サブタイトル

最適化理論

■講義概要

数理計画問題の重要な理論のひとつである最適化の理論について講義します。
(微分積分学と大いに関連があり、それについても解説します。)
さらに、線形計画法の概要についても講義します。

■到達目標

数理計画の概要を知ること。

■講義方法

講義ノートとプリントを配布します。

■系統的履修

微分積分、線形代数

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし

■成績評価の方法

定期試験 (100%)
授業中に、試験問題に類似した演習の時間をとります。

■テキスト

特になし

■参考文献

金谷健一 『これなら分かる最適化数学』 共立出版 2,900円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メールで質問を受け付けます。

■講義計画

- ①数理計画法とは
- ②関数の勾配と等高線
- ③極値の判定 (1)
- ④極値の判定 (2)
- ⑤陰関数定理
- ⑥ラグランジュの未定乗数法
- ⑦勾配法
- ⑧ニュートン法
- ⑨線形計画問題とは
- ⑩単体法 (1)
- ⑪単体法 (2)
- ⑫単体法 (3)
- ⑬双対原理 (1)
- ⑭双対原理 (2)
- ⑮まとめ

数理情報演習

【担当】 全教員

【開講】 後期 月4・月5 or 木4・木5

■サブタイトル

セミナー形式の専門的演習

■講義概要

学生を担当教員に配属し、少人数で輪講や実習を行う。演習の具体的内容と配属方法については、6月に説明会を開き詳しく説明する。説明会の日程は6月初旬に掲示する。

■到達目標

4年生の特別研究の準備となる演習である。ただし、内容的には特別研究と連動しないので、数理情報演習と特別研究で担当教員が異なっても構わない。今まで習ってきたことの検証と、より専門的な知識や技術を教員の直接の指導によって習得することができる。

■講義方法

担当教員毎に異なる。説明会の際に詳しい説明がある。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法

テーマに対する取り組みの姿勢や課題の達成度を担当教員が評価する。

■テキスト

担当教員毎に異なる。

■参考文献

担当教員毎に異なる。

■講義計画

講義計画は担当教員毎に異なる。

数理情報基礎演習A（2014年度以降入学生）
数学序論（2013年度以前入学生）

【担当】 飯田 晋司、池田 勉、佐野 彰
【開講】 前期 金3

■サブタイトル

微積分及び演習Ⅰ，線形代数及び演習Ⅰ，物理数学及び演習Ⅰを理解しよう

■講義概要

1年生前期の授業（微積分及び演習Ⅰ，線形代数及び演習Ⅰ，物理数学及び演習Ⅰ）をサポートする科目です。

高校までの数学を十分には習得していない場合，自分だけの力で不足分を補いながら，微積分及び演習Ⅰ，線形代数及び演習Ⅰ，物理数学及び演習Ⅰに関して一定以上の理解レベルに到達するのは困難かも知れません。また，これらの授業は多くの学生を対象とした講義であり，授業での疑問がすぐに解決できるとは限りません。

この科目では，

授業時間に解決できなかった疑問を解決できるように，

授業で出てくる演習問題や課題を自分で解けるように，

TAや教員が指導します。

この科目は随意科目であり，単位は卒業要件の単位数には含まれないことに注意して下さい。

また，受講登録をしていない学生も参加できますから，疑問や質問があるときには随時お出下さい（受講登録をしていない学生には単位認定はできません）。

■到達目標

微積分及び演習Ⅰ，線形代数及び演習Ⅰ，物理数学及び演習Ⅰの授業での疑問を解決し，演習問題や課題を自分でしっかり解けるようになる。

■講義方法

教員とTAが少数の学生を対象として演習形式で行います。

個々の学生のペースに沿って

高校での数学Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，A，B，C

微積分及び演習Ⅰ

線形代数及び演習Ⅰ

物理数学及び演習Ⅰ

で使われる数学の内容を理解できるようにきめ細かにサポートします。

■授業時間外における予・復習等の指示

受講者は，微積分及び演習Ⅰ，線形代数及び演習Ⅰ，物理数学及び演習Ⅰの講義などで配布される資料などを利用して，十分な予習・復習を行うことが期待される。

■成績評価の方法

平常点（100%）授業時間中の演習課題等への取り組みを評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

微積分及び演習Ⅰ，線形代数及び演習Ⅰ，物理数学及び演習Ⅰのテキストやプリント

■履修上の注意・担当者からの一言

単に自習する時間として使ってもらっても構いません。分からないことが出てきたら質問するというような参加形態でも構いません。分からないことを貯めてしまわないように，この科目を活用して下さい。

■講義計画

教員（飯田・池田・佐野が交代で担当）とTAが受講生からの質問に応じて指導します。

数理情報基礎演習B（2014年度以降入学生）
物理学序論（2013年度以前入学生）

【担当】 松本 和一郎、阪井 一繁、山岸 義和
【開講】 後期 金3

■サブタイトル

微積分・演習Ⅱ，線形代数・演習Ⅱ，物理数学・演習Ⅱを理解しよう

■講義概要

数理情報基礎演習B（物理学序論）は数学・物理系の授業（微積分・演習Ⅱ，線形代数・演習Ⅱ，物理数学・演習Ⅱ）をサポートする科目です。高校までの数学を十分には習得していない場合，自分だけの力で不足分を補いながら，微積分・演習Ⅱ，線形代数・演習Ⅱ，物理数学・演習Ⅱに関して一定以上の理解レベルに到達するのは困難かも知れません。そういう場合はこの科目を受講して教員やTAに分からないところや自信の持てないところを質問して不足する学力を補う努力をして下さい。各人の質問に応じて個別指導します。また，通常の授業は多くの学生を対象とした講義であり，授業での疑問がすぐに解決できるとは限りません。数理情報基礎演習B（物理学序論）では，各人の疑問に応じて授業時間に解決できなかった疑問を解決できるように，授業で出てくる演習問題や課題を自分で解けるように教員やTAが指導します。

数理情報基礎演習B（物理学序論）の単位は「増加単位」であり，卒業要件単位ではないことに注意して下さい。

また，受講登録をしていない学生も参加できますから，疑問や質問があるときには随時お出下さい（受講登録をしていない学生には単位認定はできません）。

■到達目標

微積分・演習Ⅱ，線形代数・演習Ⅱ，物理数学・演習Ⅱの授業での疑問を解決し，演習問題や課題を自分でしっかり解けるようになる。

■講義方法

数理情報基礎演習B（物理学序論）は個別指導の演習形式で

行います。個々の学生のペースに沿って

高校での数学Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，A，B，C，物理Ⅰ，Ⅱ，

微積分・演習Ⅱ

線形代数・演習Ⅱ

物理数学・演習Ⅱ

で使われる物理と数学の内容を理解できるようにきめ細かにサポートします。

■授業時間外における予・復習等の指示

上記の科目の演習で出された問題を自分で解いてみて質問すること等を考えてください。

■成績評価の方法

平常点（100%）授業時間中の演習課題等への取り組みを評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

微積分・演習Ⅱ，線形代数・演習Ⅱ，物理数学・演習Ⅱのテキストやプリント

■履修上の注意・担当者からの一言

単に自習する時間として使ってもらっても構いません。分からないことが出てきたら質問するというような参加形態でも構いません。分からないことを貯めてしまわないように，「数理情報基礎演習B（物理学序論）」を活用して下さい。

■講義計画

教員（松本・阪井・山岸が交代で担当）とTAが受講生からの質問に応じて指導します。

数理モデル基礎・演習Ⅰ（2013年度以前入学生）

【担当】四ツ谷 晶二

【開講】前期 月1

■サブタイトル

微分方程式を作り・解こう

■講義概要

多くの自然界の法則は微分方程式で書かれている。ニュートンの力学の運動方程式、熱の伝播、波の振動などである。さらに、生物の分布や成長、経済現象なども微分方程式でかくことができる。したがって、微分方程式を解いて解の性質を調べると、現象を深く分析したり未来を予測することができる。

それらの方程式はどういうふうにして導かれたのたのだろうか
微分方程式を導くことを微分方程式を「立てる」という。さらに、現象に対応する（と見られる）微分方程式を立てることを《数理モデル》を作るという。現象の観測から得られた知見を基に数理モデルを作るわけであるが、必ずしも十分な知見がそろっているわけではなく、数理モデルを作り、解いて、解を分析してみて、観測から得られている知見を説明できるかどうかチェックしなければならない。現象を説明できないならばそのモデルは妥当でないということで、モデルを作り直すところからやり直さなければならない。

この授業では、数理モデルのつくり方と独立変数が1つの、いわゆる「常微分方程式」の解法の初歩を学びます。特に、有限回の加減乗除・微分・積分などにより初等関数の範囲で解が求まるものをあつかう。

■到達目標

簡単な数理モデルが作れ、その性質を見て取れるようになる。
1階常微分方程式、2階線形常微分方程式の解き方が分かる。

■講義方法

週に1回の授業で講義主体であるが、適宜TAの協力を受けて演習・小テストを行う。

■系統的履修

物理数学・演習Ⅱ、微積分・演習Ⅰ、Ⅱの内容を使う。また、同時に開講される電気・磁気、力学も履修しておくとう理解の幅が広がる。一方、計算科学Ⅰ・計算科学演習Ⅱは、この科目で出てくるものに似ている。しかし、初等関数等では解けない微分方程式を計算機を使って解こうというものである。

■授業時間外における予・復習等の指示

レポート作成の指示等を行うので、それを通じて予習・復習

をしっかりとすること。

■成績評価の方法

小テスト（30%）1～2回、60分程度の小テストを行う。
レポート（30%）適宜、提出を求める。
定期試験（40%）

■テキスト

川野日郎・薩摩順吉・四ツ谷晶二（共著）『理工系の数理
微分積分+微分方程式』裳華房 2,700円
不足する事項については、適宜、プリントを配付する。

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー 月曜日・木曜日の昼休み
e-mail: shoji@math.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ①複素数と複素平面
- ②生物や化学物質の増減を表す微分方程式
- ③微分方程式と解
- ④微分演算子
- ⑤定数係数の斉次線形微分方程式
- ⑥定数係数の非斉次線形微分方程式
- ⑦振動を表す微分方程式
- ⑧定数変化法と階数低下法
- ⑨線形化できる微分方程式
- ⑩変数分離形
- ⑪同次形・完全微分形
- ⑫ラプラス変換
- ⑬ラプラス変換による微分方程式の解法
- ⑭常微分方程式の解の存在定理と一意性定理
- ⑮まとめ

学
科
固
有

数理モデル基礎・演習Ⅱ（2013年度以前入学生）

【担当】山岸 義和

【開講】後期 水1

■講義概要

さまざまな現象の数理モデルとして重要な常微分方程式系について講義する。その中でも特に2変数の常微分方程式に話題を絞り、線形微分方程式の解法、相平面を用いて微分方程式を定性的に調べる手法を解説する。

■到達目標

微分方程式について、単なる解法だけでなく、微分方程式がどのような現象の解析に役に立つのか、微分方程式の解を図形的にとらえることでどのようなことがわかるのか等々、微分方程式を学習する上で基本となる感覚を身につける。

■講義方法

黒板を使って講義する予定ですので、ノートをとってください。eラーニングのページも利用します。

■系統的履修

微積分・演習Ⅰ・Ⅱ、線形代数・演習Ⅰ・Ⅱ、数理モデル基礎・演習Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎週、課題が出ます。

■成績評価の方法

平常点（40%）
定期試験（60%）

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することがあります。

■講義計画

- ①ベクトル場を描く / 固有値と固有ベクトル
- ②一階連立微分方程式（対角型）
- ③一階連立微分方程式（サドル型）
- ④一階連立微分方程式（その他の双曲型）
- ⑤二階線形微分方程式（演算子法の復習）
- ⑥二階線形微分方程式（一階連立方程式の応用）
- ⑦一階連立微分方程式（ジョルダン標準形）
- ⑧中間試験
- ⑨中間試験の解説
- ⑩回転
- ⑪渦状点
- ⑫非線形方程式の局所理論（座標の移動）
- ⑬非線形方程式の局所理論（線形化）
- ⑭現象のモデルとしての微分方程式
- ⑮全体の復習

■講義概要

学生を担当教員（原則として特別研究と同じ）に配属し、特別研究の内容を補足する。輪講あるいは実験・実習などを行うが、担当教員によって内容および方法は異なる。

■到達目標

このセミナーを通して、特別研究を完成するための土台を造る。

■講義方法

担当教員毎に異なる。特別研究の履修説明会（11月）のときに詳しい説明がある。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法

研究テーマに対する取り組みの姿勢、テーマに関する調査や発表の内容、課題の達成度などを担当教員が評価する。

■テキスト

担当教員毎に異なる。

■参考文献

担当教員毎に異なる。

■講義計画

講義計画は担当教員毎に異なる。

■サブタイトル

コンピュータ・グラフィックス、2次曲線・2次曲面と線形代数

■講義概要

線形代数は、情報科学や自然科学など、ほとんどすべての科学技術分野のみならず、経済学などの社会科学分野においても必要とされる基礎知識であり、単純で、奥深く、役に立つ道具です。しかしながら、この重要性を大学初年度の学生に分かりやすく伝えるのは容易ではありません。そこで、「コンピュータ・グラフィックス」という、学生が比較的なじみやすい視点から「線形代数」にアプローチします。コンピュータ・グラフィックスでは、図形の回転、拡大・縮小、対称変換、平行移動、図形を傾ける操作などが必要ですが、その多くが、数学で「線形変換」と呼ばれるものに対応します。線形変換は数を長方形に並べた「行列」によって表現されることを最初に学びます。線形代数はいろいろな場面で役に立ちますが、最も有用であるのは「行列の固有値・固有ベクトルと対角化」であると思います。この有用性を2次曲線と2次曲面を例として採用し、ビジュアルに説明するよう計画しています。

■到達目標

空間3次元までの線形変換について、固有値・固有ベクトル、行列の対角化などの原理と利用方法を身に付けることが目標です。これにより、より高度な物理学や化学などの自然科学、情報科学や経済学などの種々の社会科学の学修が可能になります。

■講義方法

週2回開講される、ひとかたまりの科目です。一方は講義形式で、他方は演習形式で実施します。講義では、基本的な考え方を説明し、適切な例題を解きます。演習では、講義内容の習得と応用力の育成を目指して課題を解きます。必要に応じてコンピュータを使った実習も行います。講義・演習(実習)を一回ごとに完結させる形で運営します。達成感が得られるように講義は受講生参加型にします。演習(実習)では、教員と学生、TAと学生、さらに、学生同士のディスカッションを推奨します。早くできた学生は他の学生を指導するよう期待され、ボランティア・ポイントという形で成績評価に反映されます。

■授業時間外における予・復習等の指示

受講者は、配布する講義資料を利用して、十分に予習・復習をすることが期待される。

■成績評価の方法

平常点(20%) 演習・実習の達成状況(締切に遅れた場合もチェックして貰えます)

小テスト(20%) 講義資料・ノート持込可、TAへの質問可

定期試験(60%) ウェブページに過去問と解答例を公開、筆記用具以外は持込不可

1. 最高評価100点の範囲内でボランティア・ポイントを加算します。
2. 出席を確認することがあります。出席の確認は、不特定少数の学生に対してのみ行われることがあります。欠席の場合は、成績評価の際に減点します。

■テキスト

特になし

■参考文献

桑村雅隆『リメディアル線形代数』裳華房 2520円

高橋大輔『理工基礎線形代数』サイエンス社 1,680円

■履修上の注意・担当者からの一言

1. 欠席などのため、講義・演習(実習)の資料を貰えなかった場合は、ウェブページからダウンロードして下さい。
2. 期末に実施される<学生による授業評価調査>の結果はウェブを通して公表します。【この授業の改善すべき点は何ですか】への記述内容と担当者の反応および【あなたのこの授業への取り組みを振り返って自由に書いてくだ

さい】への記述内容もウェブを通して公表します。

3. 過去の定期試験問題と解答例、成績評価の分布などもウェブページに公開されています。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1. オフィスアワーについては、掲示およびウェブページ(<http://www.math.ryukoku.ac.jp/index.shtml>)を通して理工学部数理情報学科から連絡されます。
2. 担当教員へは電子メール(tsutomu@rins.ryukoku.ac.jp)によって連絡して下さい。

■講義計画

- ① 2次曲線を表す式、2次曲面を表す式
- ② ベクトルの表現、内積、行列の表現、行ベクトル・列ベクトル、正方行列、転置行列、行列のスカラー倍、行列の和と差、零行列・零ベクトル
- ③ 行列とベクトルの積、行列と行列の積、行列の積とベクトルの内積の関係、行列のべき乗、非可換性、結合法則・分配法則
- ④ 直線のベクトル方程式、平面から平面への写像、いろいろな線形変換(拡大・縮小、対称移動、回転移動、傾ける変換)、線形性とは、合成変換と積の非可換性
- ⑤ 図形の拡大・縮小率と逆変換、ベクトルの線形独立・線形従属、行列のランク、逆行列
- ⑥ 変数消去法(掃き出し法)、連立1次方程式の行列表現、拡大係数行列、行基本変形による連立1次方程式の解法、解の一意存在・存在・非存在、すべての解を求める
- ⑦ 階段行列、ランクの自動計算、逆行列の自動計算
- ⑧ 固有方程式、固有値・固有ベクトル、行基本変形による固有ベクトルの計算、対角化・三角化
- ⑨ 行列のべき乗、数列の一般項、複素数平面、ド・モアブルの公式
- ⑩ 直交行列、正規直交系、合同変換、実対称行列とその対角化
- ⑪ だ円、1点、双曲線、交差する2直線、平行な2直線、1直線、放物線
- ⑫ 外積、スカラー三重積、行列式と体積、固有値・固有ベクトル
- ⑬ 直交行列、正規直交系、合同変換、実対称行列とその対角化
- ⑭ だ円面、1点、単葉双曲面、2次錐面、双葉双曲面、だ円柱、1直線、だ円放物面
- ⑮ 双曲柱、交わる2平面、双曲放物面、平行2平面、1平面、放物柱

線形代数及び演習Ⅱ（2014年度以降入学生） 線形代数・演習Ⅱ（2013年度以前入学生）

【担当】 松本 和一郎
【開講】 後期 木1・木2

■サブタイトル

「行列と行列式」から「線形代数学」へ

■講義概要

線形代数・演習Ⅰで、行列の作用が持つ図形的意味や固有値・固有ベクトルの有用性について学びました。Ⅱでは、「これらのことが何故うまくいくのか」、「この仕組みは他の問題にも適用できるのか」を考えます。この2つの問いかけは、線形代数に限らず、現代数学が常に持つ問題意識です。すなわち、同じような考察を問題ごとに繰り返すのではなく、ある問題でうまくいった「カラクリ」を分析し、別の問題にも広く使えるように、用語や概念を整備・一般化しておく姿勢です。線形代数学の知識とともに、「考え方」も修得して下さい。

■到達目標

「カラクリ」の解明と概念の整備・一般化は、将来、皆さんが社会に出たときに、数学以外の問題の解決においても、身に付けておくに役につく重要な「考え方」の1つです。この考え方が身につくことを目標とします。あわせて、行列・行列式・ベクトル空間の運用に習熟することも目標とします。

■講義方法

講義と演習の組み合わせです。演習は、事前に与えた問題を各自が自宅で解いてきて、演習の時間は板書等で各自の解答を報告・説明します。演習の時間は、10数名程度の小クラスに分かれます。

■系統的履修

線形代数・演習Ⅰの内容を理解していることを前提に講義を進めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の演習の時間に扱う問題を配付しますから、自宅で解いてきてください。

■成績評価の方法

平常点(30%) 活動点10, 宅習点10, 発表点10。活動点は、活動率2/3で0点、3/3で10点、0で-20点です。

定期試験(70%)

講義・演習一体の評価です。講義・演習時の平常評価(レポートも含む)が30点、期末試験が70点です。期末試験のウェイトが大きいたが、平常の演習で問題の解法のトレーニングをしておかないと期末試験で良い点は取れません。

■テキスト

松本和一郎『線形代数入門』共立出版 3,210円

講義の前に次回進む範囲の教科書を読んできてください。どこまで分かって、どこから分からなくなるか、分からなくなるところをしつかり講義の時に聞いて完全な理解につなげて下さい。90分間、均等な緊張は続きません。各自の「聞くべき山」を設定して下さい。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

数学は積み重ねの学問ですから、必ず講義に出席し、事前に配布する演習問題を自宅で解いてから演習に臨んで下さい。日頃の努力が肝心です。講義は教科書に沿って行いますから、ノートを取るより講義を聴いて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

学期が始まってから研究室の扉にオフィスアワーの時間を掲示します。

■講義計画

- ①はじめにスカラーありき、ベクトル空間
- ②部分空間と線形独立
- ③次元と基底
- ④線形写像
- ⑤カーネルとイメージ
- ⑥行列のランク
- ⑦基本変形による標準形と逆行列の求め方
- ⑧行列式はなぜ必要か
- ⑨行列式の諸性質
- ⑩余因子展開
- ⑪固有値と固有ベクトル、行列の対角化
- ⑫対角化可能性のための条件
- ⑬対称行列、正規行列、直交行列
- ⑭正規行列の対角化
- ⑮行列の対角化の応用

大域解析

【担当】 四ツ谷 晶二
【開講】 後期 月2

■サブタイトル

微分方程式の解の大域的分岐構造

■講義概要

物理・工学等の数理モデルの代表的なものは微分方程式である。現象理解の要となるパラメータを含む微分方程式を考える。数学的には、パラメータを動かしていったとき、微分方程式の解の個数や形状がどのようにかわっていくかを調べるのが問題となる。これを微分方程式の解の大域的分岐構造を調べる問題という。

大域的分岐構造を完全に調べることは、最も基本的ながら難しい問題である。なぜならば、これが分かるということは、考えている微分方程式に含まれるパラメータをいかに与えても、そのパラメータの値において、微分方程式の解の存在・非存在・一意性・多重性さらには形状に関して、即座に完全解答できることを意味するからである。

ここ数十年で、楕円関数を用いてすべての解を具体的に表示して、それをもとに大域的分岐構造を完全に調べる方法が発見された。手計算はほぼ不可能であるが、数式処理ソフトを利用すること具体的な計算が実行可能となり、従来、未解決であった典型的かつ重要な未解決問題が解かれている。

授業では、このことについて基本からはじめ最新の結果まで紹介する。

■到達目標

楕円関数を用いてすべての解を具体的に表示して、それをもとに大域的分岐構造を完全に調べる方法を修得する。

■講義方法

講義形式を主体とし、適宜、数式処理ソフトを用いてどのように計算していかを実演する。

■系統的履修

数理モデル基礎・演習Ⅰや現象の数学Aの内容jがより高度になったものである。

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜、レポート問題を課す。それにより、自然に、予習・復

習をしてもらう。

■成績評価の方法

平常点(30%) 適宜、理解の確認のためにレポートを課す。
小テスト(30%) 1回～2回、60分間程度の小テストを行う。
定期試験(40%)

■テキスト

特になし

■参考文献

四ツ谷晶二・村井実『楕円関数と仲良くなろう』日本評論社 2,600円

■履修上の注意・担当者からの一言

この科目は大学院との合併科目です。受講に際しては担当教員とよく相談してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

授業の際に、オフィスアワーの時間をお知らせする。

■講義計画

- ①楕円積分について
- ②算術幾何平均と完全楕円積分
- ③完全楕円積分の近似式
- ④超越方程式の実数解の個数
- ⑤完全楕円積分を含む不等式
- ⑥代数方程式のとりあつかい
- ⑦スツルムの定理について
- ⑧ヤコビの楕円関数について
- ⑨振幅関数について
- ⑩非線形境界値問題について
- ⑪解の表示式の導出
- ⑫解の表示式の応用
- ⑬さまざまな微分方程式
- ⑭数式処理ソフトの利用
- ⑮全体のまとめ

■サブタイトル

力学系とその幾何学的方法

■講義概要

力学系は時間とともに変化する状態を記述するシステムであり、その変化の法則が決定論的に与えられているものをいう。本講義では、まず、力学系を扱うのに必要となる多様体の解説をする。その後で、力学系の一般的な定義を与え、いくつかの基本的な力学系を取り上げ、それらに共通する基本的性質について解説する。また、カオスなどの現象についてその数学的な扱いを解説する。

■到達目標

幾何学的な考え方を身につけてもらいたい。

■講義方法

板書による講義。練習問題をたくさん出したい。

■系統的履修

微積分および演習、線形代数。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に出した問題の多くをレポート問題、小テストに出しますので、解いておくようにして下さい。

■成績評価の方法

小テスト (50%) 1回実施予定

レポート (50%) あらかじめ出しておいた課題を試験で完成してもらう

■テキスト

特になし

■参考文献

國府寛司・石井豊・新居俊作・木坂正史 『カオス力学系入門 第2版』 朝倉書店 5,500円
坪井俊 『幾何学I 多様体入門』 東京大学出版会 2,600円

J.W.ミルナー 『微分トポロジー講義』 Springer 2,625円

■履修上の注意・担当者からの一言

この科目は大学院との合併科目です。受講に際しては担当教員とよく相談してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1-501前に掲示するので見てください。

■講義計画

- ①多様体について
- ②ユークリッド空間の中の多様体
- ③多様体の定義
- ④接空間
- ⑤多様体上の関数
- ⑥サードの定理とブラウアーの不動点定理
- ⑦2を法とする次数
- ⑧多様体上の関数ベクトル場とオイラー数
- ⑨ポアンカレ・ホップの定理
- ⑩力学系の定義
- ⑪基本的な力学系ー記号力学系
- ⑫基本的な力学系ーパイこね変換
- ⑬双曲型力学系
- ⑭カオス
- ⑮記号力学系, 双曲型力学系, パイこね変換・カオス

デジタル信号処理

■サブタイトル

MIT OpenCourseWareを用いた「信号とシステム」に関する授業

■講義概要

デジタル信号処理は、情報通信技術の分野における基礎的な技術であり、電子情報通信以外の分野でも用いられる幅広い応用をもつ学問分野である。

この講義では、「信号とシステム」の基礎理論および信号処理とその応用について議論する。基礎理論である信号のフーリエ級数表現と線形時不変システムに重点をおいた上で、信号処理において重要なサンプリング定理、離散フーリエ変換について詳しく議論する。

■到達目標

画像処理などの信号処理の基礎的な理論に関する知識を習得し、簡単な信号処理のプログラムが理解できるようになる。周期的信号のフーリエ級数表現を求めることができる。連続時間フーリエ変換、離散時間フーリエ変換の計算ができる。サンプリング定理を理解し、信号に対して適切なサンプリング周波数を求めることができる。

■講義方法

MIT OpenCourseWareを中心に授業を行い、適宜小テストを行う。2回程度レポートを提出してもらいます。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎授業前に、e-Learning System上にアップロードしたテキストを印刷し予習しておくこと。

また、毎授業後、e-Learning System上の小テストを受験すること。

■成績評価の方法

小テスト (10%)

レポート (20%)

定期試験 (70%)

■テキスト

MIT OpenCourseWareを利用して授業を行います。

■参考文献

A.V.Openheim 『Signals & Systems』 Prentice Hall
斉藤洋一 『信号とシステム』 コロナ社 3,600円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

基本的には、水曜日3限目ですが、出張や会議の場合もありますので、メールで確認してください。
情報メディアセンター Course Management System (Moodle) で、質問などが行えます。

■講義計画

- ①ガイダンス (授業の概要、履修の仕方、Course Management System (Moodle) の使い方、予習・復習)
Lecture Note #1 イントロダクション
- ②Lecture Note #2 システムの特性と例
- ③Lecture Note #3 離散時間時不変システム
- ④Lecture Note #4 連続時間時不変システム
- ⑤Lecture Note #5 連続時間フーリエ級数
- ⑥Lecture Note #6 連続時間フーリエ級数の特性、離散時間フーリエ級数
- ⑦Lecture Note #7 フーリエ級数と線形時不変システム
- ⑧Lecture Note #8 連続時間フーリエ変換
- ⑨Lecture Note #9 連続時間フーリエ変換のたたみ込み特性、離散時間フーリエ変換
- ⑩Lecture Note #10 離散時間フーリエ変換の特性と例 (1)
- ⑪Lecture Note #11 離散時間フーリエ変換の特性と例 (2)
- ⑫Lecture Note #12 時間周波数特性
- ⑬Lecture Note #13 サンプリング
- ⑭Lecture Note #14 連続信号の離散時間処理
- ⑮総括、レポートおよび小テストの解答

データ構造とアルゴリズム

【担当】馬 青
【開講】前期 月4

■講義概要

効率的なアルゴリズムを作ろうとするときに処理の対象となるデータをコンピュータの内部でどのように表現するかは(場合によってはアルゴリズムそのものよりも)重要である。このようなデータ表現とそれに伴う機能を持つものがデータ構造である。この講義では、連結リスト、スタック、キュー、木など各種の基本的なデータ構造について学ぶ。また、「アルゴリズム・演習」で触れていなかった効率的な文字列探索アルゴリズムについても学ぶ。

■到達目標

情報科学の分野における基礎知識を習得するとともに、コンピュータを利用した問題解決手順を考える能力を身につけることである。

■講義方法

配布資料にそって講義する。講義と共に毎時間演習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

学習効果を上げるためには予習と復習がたいへん重要である。次回の授業内容を事前に知らせておくので、必ず予習しておくこと。また、復習にも参考書を使うなどして十分な時間をかけること。

■成績評価の方法

平常点 (20%)
定期試験 (80%)
期末試験の成績を主とし、これに演習の評価を加味する。

■テキスト

プリントを適宜配布

■参考文献

東野勝治ら著 『C言語によるアルゴリズムとデータ構造入門』 森北出版

湯田幸多・伊原充博共著 『アルゴリズムとデータ構造』 コロナ社
小澤孝夫著 『コンピュータ・アルゴリズム』 昭晃堂
石畑清 『アルゴリズムとデータ構造』 岩波書店

■講義計画

- ① 導入
- ② 基本的なデータ構造：セル、配列、連結リストの配列による実現
- ③ 連結リスト：基本準備（構造体、自己参照型構造体、malloc関数）
- ④ 連結リスト：連結リストの作成
- ⑤ 連結リスト：連結リストへの操作（探索、更新、追加、削除）
- ⑥ スタック、スタックの応用例
- ⑦ キュー：配列による実現、連結リストによる実現
- ⑧ キューの応用例
- ⑨ 木、2分木、2分探索木
- ⑩ 2分探索木への操作：追加・削除
- ⑪ 平衡木：最適2分探索木
- ⑫ 平衡木：AVL木
- ⑬ 平衡木：B木（2-34木、赤黒木）
- ⑭ 文字列探索：KMP法
- ⑮ 文字列探索：BM法

データベース

【担当】曾我 麻佐子
【開講】後期 月3

■サブタイトル

データベースの基本から設計・運用まで

■講義概要

データベースは様々な情報処理システムに必須の要素である。本講義では、データベースシステムに関して、基本的な概念から設計、プログラミング、運用論までを扱う。具体的には、最も基本的で普及しているリレーショナルデータベースを主な対象とするが、オブジェクト指向データベースやマルチメディアデータベースなど、最近の技術についても触れる。

■到達目標

データベースの基本概念と利用方法を理解し、簡単なデータベースシステムが設計できるようになる。

■講義方法

主として講義形式で行い、内容の理解度をチェックするために、適宜小テストや演習問題を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

事前に講義資料をダウンロードして予習しておくこと。講義中に行った演習問題や小テストについて復習しておくこと。

■成績評価の方法

小テスト (20%)
レポート (10%)
定期試験 (70%)

■テキスト

特になし

■参考文献

増永良文 『リレーショナルデータベース入門』 サイエンス社 2,600円
永田武 『データベースの基礎』 コロナ社 2,400円

■履修上の注意・担当者からの一言

できるだけ多くの演習問題を用意し、多くの人に解いてもらおうと思います。講義中に内容が理解できるように集中して聴講し、演習問題は積極的に解くようにしましょう。

■講義計画

- ① ガイダンス（授業の概要、データベースとは）
- ② リレーショナルデータベースモデル
- ③ リレーショナル代数とデータ操作
- ④ SQL1
- ⑤ SQL2
- ⑥ データベース設計、実体関連図
- ⑦ 正規化
- ⑧ データベース設計（実践）
- ⑨ データベース管理システム
- ⑩ トランザクション
- ⑪ プログラムからのアクセス
- ⑫ XMLデータベース
- ⑬ オブジェクト指向データベース
- ⑭ マルチメディアデータベース
- ⑮ まとめ

■講義概要

現代社会において私たちは常に電気や磁気を利用して生活しています。また、豆電球や磁石で実験をした小学校から高校の物理まで電気と磁気に関する学習は学校のカリキュラムにも取り入れられています。この講義では、電気や磁気に関して理系の学生なら知っておくべき基本的な現象や簡単な電気回路の振る舞いを、これまでに学んだ数学を活用して解説します。

■到達目標

電気や磁気に関わる現象や簡単な電気回路の数理的な扱いを習得する。

■講義方法

通常の講義形式です。なお、受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することもあります。

■系統的履修

物理数学・演習Ⅰ、Ⅱ、微積分・演習Ⅰ、Ⅱ、線形代数・演習Ⅰ、Ⅱの内容を理解していないと苦しいです。不安な人は至急復習を勧めます。

■授業時間外における予・復習等の指示

この科目は、演習の時間はありません（TAも付きません）。講義時間内に問題を解くことはありますが、それ以外にも自主的に予習・復習（自習用の問題を必要に応じて配布する予定です）を行い、理解度を毎週確認しておくことが必要です。

■成績評価の方法

小テスト（20%）2回（日程は初回講義時に伝えます）予定しています。

定期試験（80%）

■テキスト

特になし

■参考文献

必要があれば講義中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言

電気や磁気は直接目に見えないので、それだけでもハードルが高いと思いますが、向学心と好奇心をもって臨みましょう。高校での物理の履修状況は考慮するつもりですが、新しい概念や用語が次々に登場するので、脱落してしまうと取り返すことは不可能に近いです。講義への積極的な参加を心掛けましょう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

自習してもわからないところは遠慮なく質問をしてください。オフィスアワーの曜講時は講義中に案内します。

■講義計画

- ①クーロンの法則～静電気の性質
- ②「電場」「電気力線」という考え方
- ③静電ポテンシャル
- ④オームの法則～電流と電気抵抗
- ⑤ジュール熱～抵抗による発熱
- ⑥コンデンサー
- ⑦直流と交流
- ⑧交流回路と複素数
- ⑨アンペールの力～磁場が電流に及ぼす力
- ⑩ローレンツ力～電場と磁場の影響を受ける荷電粒子
- ⑪ビオ・サバールの法則～電流の作る磁場
- ⑫ファラデーの法則～磁場の変化が作る起電力
- ⑬インダクタンス・LCR回路
- ⑭補足と発展
- ⑮全体の復習

特別研究

■サブタイトル

卒業研究

■講義概要

4年次生を対象に配属された各教員のもとで特別研究を行う。3年次までに習得した学力を基に、特定の研究テーマについて研究を行う。履修した科目の応用能力を高め、新しいテーマに自主的に取り組み、研究成果をまとめて発表する能力を養成することを目的とする。

前年度後期に配属についての説明会が開かれ、そこで各教員の研究テーマについての詳しい説明がある。配属に際しては、定員以内であれば学生諸君の希望が優先される。担当教員のもとでなされた各自の研究は、年度末に諸君が卒業論文としてまとめ発表する。

■到達目標

4年間の勉学の総決算である。指導教員による個別指導により、研究方法や論文のまとめ方、発表方法を習得する。

■講義方法

担当教員毎に異なる。説明会のときに詳しい説明がある。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法

卒業論文と特別研究審査会での各自の発表・質疑応答を総合して学科で判断する。

■テキスト

担当教員毎に異なる。

■参考文献

担当教員毎に異なる。

■講義計画

担当教員毎に異なる。説明会のときに詳しい説明がある。

■講義概要

数理学や情報科学に関連するテーマについて、学外から講師を招いて講義を行う。講師は幅広く大学や企業から人選し、社会や学術分野で活躍されている方の生の声を聞く機会を与える。大学での勉学がどのように研究や開発の第一線で生かされているか、また、社会に出たときどのような知識・能力が期待されているかなど、大学での勉学の指針となるようなテーマを選んで講義してもらう。

■到達目標

実際に第一線で活躍されている人たちの講演を聴くことによって、大学での勉学に大きな指針が与えられる。また就職活動の際の参考になる話も得られる。

■講義方法

学外から講師を数名招いて一回毎の講義をしてもらう。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時間外にも十分な学習時間が必要である。担当教員の指示に従うこと。

■成績評価の方法

1～4年次の間に随時受講した上で、その都度指定される形式の評価に6回以上合格することで単位認定される。成績評価は、6回の合格で80点、7回で90点、8回以上で100点とする。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

内容は毎回異なり、常設科目には無い内容のものが多く、なるべく多く出席して欲しい。なお、登録は4年次の前期にすることになっているので、注意すること。

■講義計画

年に3ないし4回、主に水曜日の5講時に開講する。テーマや実施日・時間・場所は都度掲示する。

認知科学と人工知能

■講義概要

人工知能は情報科学はもとより、哲学、認知心理学、言語学さらには、経営学などの周辺の分野と深く関わる学問分野である。そのため、計算機上での知能システムの実現を見据えたトピックに加えて、周辺関連分野の動向を踏まえながら、知能の源泉としての知識そのものについて多角的な視点から考察を深める。

■到達目標

本講義では、人間が持っている知識の分析手法、知識創造方法論、ならびに知識システムの構築・運用に関する基礎的事項を習得することを目標とする。

■講義方法

プリント配布による。

■授業時間外における予・復習等の指示

この講義で扱う学習内容は、これまでの情報分野の講義で学んだことを前提として、広範な内容を扱いますので、特に各回の復習をその都度しっかり行ってください。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

特になし

■参考文献

溝口理一郎 『エキスパートシステムI入門』 朝倉書店
野中郁次郎 『知識創造企業』 東洋経済新報社
新田克己 『人工知能概論』 培風館
田中幸吉、淵一博監訳 『人工知能ハンドブックI』 共立出版

■講義計画

- ①知識科学はどのような学問領域であるのか、既習事項とどのような関連があるのか、この科目を学習することでどのようなことがわかり、できるようになるかなどの事項について導入する。
- ②すべての人が持つ「知識」について考察する。一口に知識といっても、その種類によって様々な特性がある。そうした特性分析の視点を習得し、知識分析の基礎とする。
- ③知識の創造・共有・継承プロセスについて考察する。いうまでもなく、人類は先人の知恵や知識を継承・発展することで今日の繁栄を遂げている。暗黙知と形式知の相互変換プロ

セスとして知識創造プロセスを位置づけモデル化した野中氏のSECIモデルについて学習するとともに、日本企業における組織知識創造の成功事例をこのモデルに基づいて分析する。

- ④知識マネジメント支援システムを例示しながら、情報システム開発における知識モデルの役割および情報システムの設計方法について考察を深める。
- ⑤人間の専門家にしか解決できないような悪構造問題を解く、エキスパートシステムについて学習する。
- ⑥エキスパートシステムの実現機構であるルールベースシステムについて学習するとともに、ハンドシミュレーションを行い、その動作原理を理解する。
- ⑦外界に対して作用するロボットの行動制御（リアクションシステム）を題材に、ハンドシミュレーションを行いその動作原理を理解する。
- ⑧情報システム構築技法として捉えたときのルールベースシステムの長所、短所について考察する。
- ⑨領域独立の汎用問題解決器の実現を目指して研究されたGPSについて、その動作原理を学習する。
- ⑩領域独立の汎用問題解決器の実現を目指して研究されたGPSについて、その動作原理を学習する。
- ⑪領域独立の汎用問題解決器の実現を目指して研究されたGPSについて、その動作原理を学習する。
- ⑫浅い知識を網羅することで知的システムを構築するアプローチには限界がある。この限界の克服を目指し、原理的知識（深い知識）より浅い知識を作り出す知識コンパイル技術を学習する。
- ⑬浅い知識を網羅することで知的システムを構築するアプローチには限界がある。この限界の克服を目指し、原理的知識（深い知識）より浅い知識を作り出す知識コンパイル技術を学習する。
- ⑭自然言語理解システムMARGIEとその実現基盤である概念依存関係理論について学習する。自然言語が表象する概念構造を意味記述のためのプリミティブに基づいて表現する概念依存関係理論の考え方は、現在でも知識システム研究の礎となっている重要な理論である。
- ⑮自然言語理解システムMARGIEとその実現基盤である概念依存関係理論について学習する。自然言語が表象する概念構造を意味記述のためのプリミティブに基づいて表現する概念依存関係理論の考え方は、現在でも知識システム研究の礎となっている重要な理論である。

■サブタイトル

ネットワークの基礎からインターネット・Webテクノロジーまで

■講義概要

通信の基本要素（遅延、帯域、信頼性と誤り制御）の理解から情報ネットワークまでの拡張を基本プロトコル階層の学習を通してすすめ、具体的なネットワーク構成の例（インターネット）からネットワーク構成の実際を学んでいく。ここでは、通信の基礎概念・用語・技術の羅列ではなく、データ伝送から情報通信までの概念を系統的に学習していく。一般的なOSI基本参照モデルなどのプロトコルレベルの概念紹介は行わず、TCP/IPやUDPなどの実体のあるプロトコルの理解からネットワーク構成の普遍性を理解することに力点を置く。

■到達目標

情報通信の概念整理と新たなネットワーク技術・サービスへの対応・理解

■講義方法

教科書、配布資料（プリント）、毎回のプレゼンテーション、Web教材を用いる。

■系統的履修

インターネットリテラシー、計算機基礎実習、ソフトウェア構成論

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に配布される資料を用い、予習・復習を毎週行い、講義中に指示されたWebページ、文献、問題の読了を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）
レポート（10%） 1ないし2回の課題呈示に対応したレポート提出

定期試験（60%）

2014年度から新しい教科書・資料を用い内容を一新する不定期の小テストと、定期試験の評価およびレポート課題含めた総合評価を行う。

■テキスト

滝根哲哉 『情報通信ネットワーク』 オーム社 2,600円

■参考文献

岡田史郎 『インターネットプロトコル』 オーム社 2,800円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義日（火曜日）の12：40～15：00

■講義計画

- ①マルチメディア通信を指向するネットワーク構成概略
- ②レイヤー、プロトコルおよびサービス概念
- ③インターネットのアーキテクチャ（物理層）
- ④インターネットのアーキテクチャ（データリンク制御）
- ⑤インターネットのアーキテクチャ（ネットワーク層）
- ⑥インターネットのアーキテクチャ（アドレス体系）
- ⑦インターネットのアーキテクチャ（トランスポート層）
- ⑧インターネットのアプリケーション（ストリーミング、QOS制御）
- ⑨セキュリティ
- ⑩ネットワーク管理
- ⑪分散コンピューティング1：NOS
- ⑫分散コンピューティング2：JAVA
- ⑬ネットワーク化マルチメディアシステム
- ⑭大規模ネットワークシステム事例
- ⑮大学ネットワークシステム

パターン情報処理

■講義概要

情報の科学と技術の進歩により、画像や音声のような、「パターン」と呼ばれる種類の情報を扱う「パターン情報処理」が身近なものになってきました。コンピュータ上に大量の音楽データを蓄積する、デジタルカメラで撮った写真を加工する、顔を見つけ出す、といった様々なことに応用されています。この科目では、このパターン情報処理の手法について、理論的・数学的な面を中心に解説していきます。コンピュータ上でパターンを表現する方法からはじめ、パターンデータを圧縮する方法やパターンを変換してその成分を分析する方法を考えます。音響信号や画像を対象とした応用例についても取り上げます。さらに、顔検出や音声認識などに応用されているパターン認識や機械学習といった技術についても紹介する予定です。

■到達目標

画像や音声などを扱うハードウェア／ソフトウェアの中でどんな計算が行われているのかを理解する。

■講義方法

授業中に配布する資料をもとにした講義が主です。

■系統的履修

線形代数、確率統計、情報処理などの基礎が役立ちます。さらに「計算科学I／演習I」を受講していると一部内容の理解が容易でしょう。また、この科目の内容は「ディジタル信号処理」や「認知科学と人工知能」、その他いくつかの情報メディア学科の科目と関連しています。

■授業時間外における予・復習等の指示

配布資料を読む、資料中で気になる所について調べる、資料中の問題を自分で解く、というように、予習・復習などのために授業時間外にも多くの時間を費やす必要があります。

■成績評価の方法

平常点（20%）宿題を出します
定期試験（80%）

■テキスト

特になし

■参考文献

この科目のウェブページに参考文献の情報が 있습니다。参考URLをたどってください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

参考URLをたどると、高橋のメールアドレスや時間割（オフィスアワー）を知ることができます。

■講義計画

- ①よりよい授業にするために、項目ごとの開始時期を前後にずらしたり順序を入れ替えたりすることがあります
- ②はじめに：パターン情報処理とは
- ③パターン情報の表現（1）：標準化、量子化
- ④パターン情報の表現（2）：データ圧縮
- ⑤パターン情報の表現（3）：情報量と符号化
- ⑥パターン情報の分析と変換（1）：ベクトルの直交展開と画像圧縮
- ⑦パターン情報の分析と変換（2）：フーリエ級数展開その一
- ⑧パターン情報の分析と変換（3）：フーリエ級数展開その二
- ⑨パターン情報の分析と変換（4）：離散フーリエ変換
- ⑩パターン情報の分析と変換（5）：音響信号処理の例
- ⑪パターン情報の分析と変換（6）：画像処理の例
- ⑫パターン認識と機械学習（1）：パターン認識、機械学習とは
- ⑬パターン認識と機械学習（2）：教師なし学習の例
- ⑭パターン認識と機械学習（3）：教師あり学習の例その一
- ⑮パターン認識と機械学習（4）：教師あり学習の例その二
- ⑯パターン認識と機械学習（5）：ニューラルネットワーク

微積分及び演習Ⅰ（2014年度以降入学生） 微積分・演習Ⅰ（2013年度以前入学生）

【担当】飯田 晋司
【開講】前期 木4・木5

■サブタイトル

一変数および多変数関数の微分法

■講義概要

微積分とその根本にある考え方は、理工学のあらゆる分野における基礎であり、理工系の学生にとっては必ず身につけるべき事項です。この講義では特に「微分法」を扱います。高校の数学で勉強した微分法の考え方をあらためて基本から整理し、1変数だけでなく多変数関数も対象とした解析手法を説明します。基礎的なものから発展的なものまで多数の演習問題に取り組むことで、基礎概念に対する理解を深めるとともに応用力と計算力の修得を目指します。

■到達目標

一変数および多変数の微分について、基本的な考え方を理解し、計算方法を身につける。

■講義方法

2講時連続で、講義と演習を行います。通例4講時に講義、5講時に演習を行います。講義はプリント資料と教科書を併用します。

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、数理情報基礎演習などを利用して、理解が不十分な点を残したままにしないようにしてください。

■成績評価の方法

予定されている2回の小テストの両方に60点以上をとるか、あるいは定期試験に60点以上をとることで合格とします。どちらの基準でも合格の場合、最終成績は確認テストの平均点と定期試験の点数の高い方とします。

■テキスト

桑村雅隆『微分積分入門』裳華房 2,520円

■参考文献

川野日郎, 薩摩順吉, 四ツ谷晶二『微分積分+微分方程式』裳華房 2,700円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは講義時に伝えます。

連絡先: iida@rins.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ① いろいろな関数
- ② 微分係数・導関数の計算
- ③ 合成関数の微分、変数変換と微分
- ④ 陰関数の微分
- ⑤ 接線と接平面、全微分
- ⑥ 平均値の定理
- ⑦ 関数の多項式による近似（第1回小テスト予定）
- ⑧ テイラー展開
- ⑨ テイラー展開の応用
- ⑩ 複素平面
- ⑪ オイラーの公式
- ⑫ 1変数関数の極値とグラフ
- ⑬ 多変数関数の極値
- ⑭ 条件つき極値問題（第2回小テスト予定）
- ⑮ 全体の復習

微積分及び演習Ⅱ（2014年度以降入学生） 微積分・演習Ⅱ（2013年度以前入学生）

【担当】森田 善久
【開講】後期 木4・木5

■サブタイトル

積分法とその応用

■講義概要

「微積分および演習Ⅰ」に引き続く科目で、1変数の関数の積分と多変数関数の重積分について講義と演習を実施する。この科目は理系の基礎となる科目で、数学だけでなく応用数学や物理学、工学など応用の分野でより高度な計算技術を身につけるために欠かすことの出来ない科目である。重積分、ヤコビ行列など新しい内容がたくさん出てくる科目でもある。いろいろな具体例や幾何的な解説を交えながら新しい概念の意味を説明、計算方法を身につける。

■到達目標

積分・重積分などの基礎的計算方法とその応用、また多変数関数のイメージをつかむ。

■講義方法

週2回の授業を講義と演習の時間に分けて進めていく。演習はティーチングアシスタントの協力できめ細かな指導をする。演習の問題は別途プリントを配布する。

■系統的履修

微積分・演習Ⅰ、線形代数・演習Ⅰ,Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書にはほぼ沿って進めていきますので、毎回予習して臨んでください。演習の時間に配布する演習プリントの残りは宿題となります。復習も兼ねてしっかりと解いてください。

■成績評価の方法

平常点（10%）演習プリントの提出など
小テスト（50%）中間試験2回（25点+25点）
定期試験（40%）期末試験

必修科目なので出席を前提として成績をつけます。理由なしで欠席した回数が多い場合、期末の受験資格がなくなることもあります。授業の初回に、成績評価についての詳細を説明します。

■テキスト

桑村雅隆『微分積分入門』裳華房 2,520円

微積分・演習Ⅰと同じテキストです。演習問題が少ないのでプリントで補強します。

■参考文献

微積分の教科書は多数あります。テキスト以外に自分に合ったものが見つかるかもしれません。

■履修上の注意・担当者からの一言

重要な科目なのでしっかりと身に付くように勉強して下さい。演習時間に解けなかったプリントは宿題とします。チューター制度などを利用して、毎回宿題をきちんと自力で解いていきましょう。また、初回の授業は成績評価や演習のクラス分けなどの重要な連絡があります。何かの理由で出席できなかった場合は、その週の内に1-509の研究室に配布プリントを必ず取りに来てください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーや連絡先は、最初の講義の時に説明します。

■講義計画

- ① 微分の復習：微分の基本
- ② 積分の基本公式・部分積分・置換積分
- ③ 不定積分の計算
- ④ 微積分の基本定理と色々な関数の積分
- ⑤ いろいろな定積分の公式
- ⑥ 定積分の応用：面積と弧の長さ
- ⑦ 前半の復習（中間試験）
- ⑧ 累次積分の計算
- ⑨ 2重積分と累次積分
- ⑩ 変数変換とヤコビアン
- ⑪ 復習（小テスト）
- ⑫ 変数変換による重積分の計算
- ⑬ 極座標変換による重積分の計算
- ⑭ 3重積分の計算
- ⑮ 積分の応用：面積と体積

微分幾何

【担当】 森田 善久

【開講】 後期 火1

■サブタイトル

曲線と曲面

■講義概要

曲線の幾何から始めて曲面の幾何を解説する。曲線や曲面の形状を特徴づける幾何学的量がどう定義されるかを、具体的な図形をイメージしながら説明していく。例えば、代表的な例として曲率が一般にどのように定義され、それが幾何学的形状をどのように特徴づけているかを計算方法とともに説明する。さらにこれらの量が関係づけられる重要な公式の導出と意味を解説する。

■到達目標

曲線の特徴づける幾何学的量の重要性とその応用について理解する。

■講義方法

授業は講義が主体になるが、具体的な計算については例をあげて示す。演習用のプリントを配布するので、それを解いて補ってもらいたい。

■系統的履修

受講される方は微積分・演習 I, II や線形代数・演習 I, II を良く復習して臨んでください。

■授業時間外における予・復習等の指示

今回の講義内容については毎回お知らせするので参考書をもとに予習するように。また、講義ノートをしっかり作ってそれをもとに演習プリントで復習するように。

■成績評価の方法

平常点 (10%) 演習課題等の提出
小テスト (50%) 小テスト2回
定期試験 (40%)

■テキスト

特になし

■参考文献

中内 伸光 『曲線と曲面』 共立出版 3,700円

参考書は易しく書かれていて、直観的な理解の助けになるでしょう。

■履修上の注意・担当者からの一言

微積分・線形代数の知識はもちろん、それらを使いこなせるようになる必要があるので、足らない部分は復習しながら講義に臨むこと。また、式の計算が正確にできることが要求される。たとえば合成関数の公式や計算がおぼつかないようだと授業についていくのはかなり厳しいであろう。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーなどについては初回の授業のときに連絡します。

■講義計画

- ①平面曲線と弧長パラメータ
- ②平面曲線の曲率
- ③フレネ-セレの公式
- ④曲率の幾何学的意味
- ⑤曲線の具体例と曲率
- ⑥復習 (第1回小テスト)
- ⑦空間の曲線
- ⑧弧長パラメータ (空間曲線)
- ⑨フレネ-セレの公式 (空間曲線)
- ⑩復習 (第2回小テスト)
- ⑪正則曲面
- ⑫法ベクトルとガウス写像
- ⑬第1基本量
- ⑭第2基本量
- ⑮いろいろな曲率

物理数学及び演習 I (2014年度以降入学生) 物理数学・演習 I (2013年度以前入学生)

【担当】 山岸 義和

【開講】 前期 月4・月5

■サブタイトル

ベクトルと微分積分でボールをおいかけよう

■講義概要

微積分やベクトルを物体の運動の記述という観点から学びます。まず、物体の運動が、関数を使って表現できることを知ります。次に、その関数を微分、積分すると、運動の様子がよくわかることを体験します。さらに、運動が3次元になると、ベクトルを使うのが便利であることを学びます。この体験を通じて、ベクトルや微積分、運動についての直観と空間感覚とを獲得します。

■到達目標

簡単な状況下で、物体の位置関係や物体の運動を式で表せることを目標とします。

■講義方法

黒板に板書で講義します。適宜プリントを利用します。eラーニングのページを利用する予定です。

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、数理情報基礎演習などを利用してください。

■成績評価の方法

平常点 (40%)
定期試験 (60%)

■テキスト

特になし

■参考文献

和達三樹 『物理のための数学』 岩波書店 2,835円
和達三樹 『例解 物理数学演習』 岩波書店 2,940円
高木隆司 『力学 (I)』 裳華房 2,100円

■履修上の注意・担当者からの一言

受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することがあります。

■講義計画

- ①簡単な運動の紹介、3次元のベクトルとその演算
- ②ベクトルの成分表示、ベクトルの内積とその使用例
- ③ベクトルの外積、平面の方程式、平行6面体の体積
- ④力のつりあい、力のモーメントと回転についてのつりあい、力のモーメントと回転の向き
- ⑤ベクトルによる運動の表現、等速度運動を表す位置ベクトル
- ⑥等加速度運動を表す位置ベクトル、微分の基本的性質
- ⑦直線上の運動における速度の正負と運動の向き、速度ベクトル、加速度ベクトル
- ⑧速度ベクトルと物体の運動する向き、加速度ベクトルと速度の変化する向き (中間試験予定)
- ⑨直線上の運動における速度の積分、基本的な関数の積分
- ⑩直線上の運動：物体にはたらく力と初期条件から物体の運動を求める
- ⑪3次元の運動における加速度や速度の積分、運動方程式
- ⑫物理量と単位の換算、力とさまざまな運動1：放物運動
- ⑬力とさまざまな運動2：放物運動 (運動の軌跡)、単振動
- ⑭力とさまざまな運動3：リサージュ運動、等速円運動
- ⑮全体のまとめ

■講義概要

物理数学・演習Iでは、物体の運動を数式で表現し、それから速度、加速度を求めることを学んだ。この授業では逆に、微分方程式から物体の運動を求めることを学ぶ。そのために必要な微分方程式の解き方も学ぶ。

■到達目標

力学における基礎的な問題において、以下の3ステップの考え方を身につけることが目標である。

1. 物体に働く力から微分方程式を立てる。
2. 微分方程式を数学的に解く。
3. 解から物体の運動を求める。

■講義方法

基本的には4、5講時目の前半に講義、後半に演習を行うが、状況に応じて変更することもありうる。

■系統的履修

物理数学・演習I、微積分・演習Iの内容を前提とする。

■授業時間外における予・復習等の指示

予復習にあたっては、教科書、授業中配布の資料、Webページを有効に活用すること。

■成績評価の方法

平常点 (10%)
小テスト (30%)
定期試験 (60%)

■テキスト

高木隆司 『力学 (I)』 裳華房 2,100円

■参考文献

為近和彦 『ビジュアルアプローチ 力学』 森北出版 2,500円
原康夫 『数学といっしょに学ぶ力学』 学術図書出版社 1,500円
潮秀樹 『よくわかる力学の基本と仕組み』 秀和システム 2,310円

■講義計画

- ①速度、加速度
- ②等速度運動、等加速度運動
- ③ニュートンの運動方程式
- ④摩擦力
- ⑤空気抵抗の力と変数分離型微分方程式
- ⑥小テスト1
- ⑦ばねの力と単振動
- ⑧ばねの力と減衰振動
- ⑨ばねの力と2階定数係数常微分方程式（減衰振動、過減衰、臨界減衰）
- ⑩ばねの力と2階定数係数常微分方程式（重力が加わった場合）
- ⑪仕事
- ⑫小テスト2
- ⑬エネルギー
- ⑭力学的エネルギー保存則の応用
- ⑮まとめ

■サブタイトル

演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要

「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切に、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自己の特性を語るために理解を深めます。

■到達目標

1. 人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2. 就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3. ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や「傾聴力」を体得する。

■講義方法

- ・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
- ・テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
- ・演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践します。

■成績評価の方法

その他（100%）

授業の中で各自が発表する「プレゼンテーションレポート」や「演習」などにより決定します。

■テキスト

講師作成プリント

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画

- ①プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
- ②相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
- ③コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
- ④自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
- ⑤ブレインストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
- ⑥プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
- ⑦聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
- ⑧想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
- ⑨面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
- ⑩コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを取得する手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
- ⑪面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
- ⑫集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
- ⑬個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
- ⑭これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
- ⑮これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

■サブタイトル

演習で身に付く「自分の考えをうまく伝える方法」

■講義概要

「人前で堂々と話したい」「自分の考えを自信を持って伝えたい」と、感じていませんか。この授業は、「知る」⇒「演習」⇒「身につく」流れを大切に、様々な演習を通じて「自分の考えをうまく伝える方法」が身に付くことを目標とします。人前で話すことが苦手な人も演習を重ねることで緊張に慣れ、話すことが楽しくなることを目指します。プレゼンテーションスキルを高めることは、就職活動でも社会人としても重要視されます。社会で求められるプレゼンテーションスキルとは何かを考え、対話や傾聴により信頼関係を構築するコミュニケーション能力などを磨きます。さらに、コミュニケーションゲームやワークなどを通して自身の強み弱みを認識し、自己の特性を語るために理解を深めます。

■到達目標

1. 人前で自分の意見を伝えるプレゼンテーションスキルを高めるためのノウハウを学び、身につける。
2. 就職活動の際、自信を持って自己をアピールできる対話力を高める。
3. ワーク、ゲーム、トレーニング、ディスカッションなどの様々な演習を通じてコミュニケーション能力を高め、「対話力」や「傾聴力」を体得する。

■講義方法

- ・ 毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「聞く」「話す」を実践する。
- ・ テーマの内容によって、ペアやグループでの演習を行う。
- ・ 演習ごとに振り返りを行い、自己目標への達成レベルを確認する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業で学んだプレゼンテーションスキルのさらなる向上のために、日常でも活用できる部分を取り入れ実践します。

■成績評価の方法

その他（100%）

授業の中で各自が発表する「プレゼンテーションレポート」や「演習」などの評価により決定します。

■テキスト

講師作成プリント

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

授業の積み重ねがプレゼンテーションスキル向上のポイントになります。授業中の演習には自ら積極的に取り組むことで、気づきや学びが深まります。

■講義計画

- ① プレゼンテーションスキルの自己成長をイメージし、目標設定をする。アイスブレイクワークを通じて、視覚・聴覚の効果を認識し、コミュニケーションの重要性を理解する。
- ② 相手に印象づける自己表現の仕方を考える。声、表情、姿勢の効果を理解し、ただ「話す」のではなく「伝える」ことを意識することで、自己表現をする楽しさを体得する。
- ③ コミュニケーションゲームを通じて、自分の考えを分かりやすく相手に伝える方法を考える。同時に、チーム内における自身の強み弱みを発見する。
- ④ 自身の人生を振り返り、自己分析を深める。過去の体験に基づく現在の価値観を認識することで、新たな自己発見につなげ、自分を語る素材を見つける。
- ⑤ プレゼンストーミングを通じて発言力を高め、傾聴力を身に付ける。さらに、「なりたい自分像」を明確にし、未来の自分について自信を持って伝える説得力を体得する。
- ⑥ プレゼンテーションスキルのパーソナルチェックを通じて、普段の自分の話し方の強みや改善点を確認する。これまでの授業で体得した点と今後の目標設定を再認識する。
- ⑦ 聞き手の印象に残る話し方のノウハウを学ぶ。短時間で分かりやすい伝え方や具体性と熱意が伝わる表現力を体得する。
- ⑧ 想定外の質問にも対応できるアドリブで答える対応力を身に付ける。質問に対し、分かりやすく伝える方法や、自身のイメージを言語化し、臨場感が伝わる話し方を実践する。
- ⑨ 面接におけるグループディスカッションの評価ポイントを理解する。相手を納得させる話し方のテクニックや共感表現を学ぶ。また、チームワークとは何かを考え、集団における自身の特性を確認する。
- ⑩ コンセンサスを得られる対話力を学ぶ。面接を想定したコミュニケーションゲームを通じて自己の役割を認識し、行動することでコンセンサスを取得する手法を学ぶ。「集団」と「チーム」の違いを知り、期待される成果を出す。
- ⑪ 面接を想定したディベートの評価ポイントを理解する。与えられたテーマでグループ別にディベート（討論）を交わし、相手の意見に反論するときの伝え方を実践することで効果的な説得の仕方を学ぶ。
- ⑫ 集団面接を想定し、面接の評価ポイントを理解する。社会人に求められるマナーやコミュニケーションを学び、主体的に行動できるスキルを身につける。
- ⑬ 個人面接をシミュレーションし、質疑応答を実践する。掘り下げた質疑応答を繰り返すことで話し手のアドリブ力を高める。さらに、どのような緊張の状況でも自信を持って答える力を身につける。
- ⑭ これまでに学んだプレゼンテーションスキルをおさらいし、発表する。この授業で学んだこと、身に付いたことを整理し、発表する。
- ⑮ これまでに体得したスキルを活かし、「自分」についてプレゼンテーションをする。自身が設定した目標を振り返り、成長と今後のステップアップを考える。

プログラミング・演習（2013年度以前入学生）

【担当】馬 青
【開講】前期 火2・火3

■サブタイトル

C言語によるプログラミング能力の強化

■講義概要

計算機基礎実習Ⅰ・Ⅱに引き続いて、C言語によるプログラミングについての理解を深めるとともに、各種のデータ表現、データ構造、アルゴリズム、プログラミング技法を学習し、演習を通して実際のプログラミングに応用する能力を養う。特に、文字列の取り扱い、配列や構造体などを利用したデータ構造の実現などについて学ぶ。

■到達目標

プログラミング能力、論理的思考能力。

■講義方法

毎週2講時（講義1講時と演習1講時）の授業が開講される。講義部分では、配布資料を使った解説の後、プログラミングの演習問題が出題される。演習部分では、講義部分で解説した例題や演習問題のプログラムを実際に計算機上で動かしてみることによって理解を深める。また、教員やティーチングアシスタントの助言を得ながら、作成したプログラムをよりよいものへ変更していく。

■系統的履修

計算機基礎実習Ⅰ・Ⅱ

■授業時間外における予・復習等の指示

次回授業の1週間前に、講義プリントと演習課題をWebに載せておくようにしているので、必ず予習しておくこと。また、毎回の授業後は、未完成の演習課題と復習に十分な時間をかけること。

■成績評価の方法

平常点（30%）演習課題の完成状況+平常点
定期試験（70%）

■テキスト

プリントを配布（Webからもダウンロード可）

■参考文献

宇土顕彦『効率よく学ぶCプログラミング』コロナ社
カーニハン、リッチー著、石田晴久訳『プログラミング言語C（第2版）』共立出版

■履修上の注意・担当者からの一言

プログラミングは「習うよりも慣れよ」である。積極的に実習室を自習利用してプログラミングの楽しみを感じてほしい。

■講義計画

- ①C言語の基本（計算機基礎実習Ⅱの復習）
- ②1次元配列
- ③関数
- ④ポインタ
- ⑤関数とポインタ
- ⑥文字処理の基本
- ⑦文字処理の標準関数
- ⑧文字列処理の基本
- ⑨文字列処理の標準関数
- ⑩文字列の数値への変換
- ⑪2次元配列
- ⑫2次元配列と関数
- ⑬構造体
- ⑭構造体と関数
- ⑮総合演習問題

ベクトル解析

【担当】森田 善久
【開講】前期 火1

■サブタイトル

ベクトル場の微積分

■講義概要

天気予報に出てくる「各地の気温」や「各地の降水量」の図は2次元平面に描かれた数値の分布と見ることができます。これがスカラー場と呼ばれるものです。一方、同じく天気予報の「全国の風の様子」の図では、各地に矢印（ベクトル）が描かれています。こちらは、「ベクトル場」と呼ばれるものの例です。このような場の量を、通常の微積分のように扱うようにするのがベクトル解析です。多変数の関数を扱うことになるので、線形代数と幾何的なイメージが重要になります。しかし、重要な公式の意味が理解できるようになると、その公式の美しさを実感できるようになります。この講義ではベクトル解析の基本的な計算手法に始まり、重要な定理の意味やその応用について解説します。

■到達目標

ベクトル解析の対象である「場」の概念の理解と、関連する計算手法、基本定理の理解・応用を目指す。

■講義方法

通常の講義形式です。なお、受講生の習熟度に応じて講義計画を変更することもあります。

■系統的履修

微積分・演習Ⅰ、Ⅱ、線形代数・演習Ⅰ、Ⅱおよび物理数学・演習Ⅰ、Ⅱの内容を理解していないと難しいと感じるでしょう。受講希望者はこれらの科目についてしっかりと復習してから臨むようにしてください。

■授業時間外における予・復習等の指示

この科目は、演習の時間はありませんが演習用の問題は用意しますので、それを解いて理解度を確認してください。また、新しい概念が多数出てくるので、自主的に予習することが必要です。

■成績評価の方法

平常点（10%）演習問題などの提出
小テスト（90%）3回（日程は初回講義時に伝えます）。
平常点と小テスト3回で成績評価します。

■テキスト

特になし

■参考文献

小林亮・高橋大輔『ベクトル解析入門』東京大学出版会
2,940円
わかりやすく書かれた参考書です。

■履修上の注意・担当者からの一言

新しい概念が次々に登場するので、計算だけでなく考え方もイメージしましょう。最初の方でつまづくと、取り返すことは難しいです。講義への積極的な参加と復習を心がけてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

わからないところは遠慮なく質問をしてください。オフィスアワーの曜講時は最初の講義のときに連絡します。

■講義計画

- ①ベクトルと微分の基本計算の復習
- ②曲線の接線ベクトルと方向微分
- ③スカラー場とその勾配
- ④ベクトル場の概念
- ⑤線積分Ⅰ
- ⑥線積分Ⅱ
- ⑦前半の復習（第1回小テスト）
- ⑧重積分とグリーンの定理
- ⑨場の微分演算（2次元）
- ⑩保存場と線積分
- ⑪復習（第2回小テスト）
- ⑫面積分
- ⑬発散と回転（3次元）
- ⑭ガウスの発散定理（3次元）
- ⑮復習（第3回小テスト）

偏微分方程式

【担当】 森田 善久

【開講】 前期 火4

■サブタイトル

偏微分方程式の基礎理論と楕円型方程式

■講義概要

この講義では、偏微分方程式の基礎理論と解法を学ぶ。まず、1 階の線形偏微分方程式における特性曲線の概念を説明し、その幾何学的意味について解説する。次に 2 階線形偏微分方程式が、特性曲線のタイプによって双曲型、放物型、楕円型の 3 種類に分類できることを説明する。次に発展方程式の定常問題として楕円型方程式の代表例としてラプラス方程式とポアソン方程式の解の存在と性質について解説する。また、その応用について述べる。

■到達目標

偏微分方程式に関する基礎理論と、方程式に対応した解法や解析手法を身につける。

■講義方法

重要事項を解説をしながら、簡単な演習問題を解いていく。演習は基本的事項の確認と、新たに学んだ項目を理解するために行う。演習プリントは課題として提出してもらう。

■系統的履修

「関数解析」

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容をすぐに理解するのは容易でないので、参考書による予習を必要とする。
また、講義ノートを作成しそれをもとに演習問題を解いて復習してもらう。

■成績評価の方法

平常点 (20%) 演習プリントによる課題の提出
小テスト (80%) 小テスト3回

■テキスト

特になし

■参考文献

神保秀一著 『偏微分方程式入門』 共立出版 2,730円
渋谷仙吉、内田伏一 『物理数学コース 偏微分方程式』 裳華房 1,890円

■履修上の注意・担当者からの一言

内容は少し高度です。基礎的な学力がないと講義についていけないかもしれません。

出席を前提とします。2/3以上の出席が無い場合は自動的に不合格となります。平常点と小テスト3回で成績が決まりますのでご注意ください。

この科目は大学院との合併科目です。受講に際しては担当教員とよく相談してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

初回の講義のときにお知らせします。

■講義計画

- ① 1 階線形偏微分方程式と特性曲線
- ② 1 階線形偏微分方程式の特性曲線の方法による解法
- ③ 2 階線形偏微分方程式と特性曲線
- ④ 拡散方程式や膜の振動方程式の定常問題
- ⑤ 1 次元の場合の定常問題の解
- ⑥ 復習 (小テスト)
- ⑦ ラプラス方程式とポアソン方程式
- ⑧ 最大値原理 I
- ⑨ 最大値原理 II
- ⑩ 調和関数
- ⑪ 復習 (小テスト)
- ⑫ グリーン関数
- ⑬ 球対称解
- ⑭ ベッセル関数による解法
- ⑮ 復習 (小テスト)

力学

【担当】 飯田 晋司

【開講】 前期 月2

■サブタイトル

質点・質点系・剛体の運動

■講義概要

「物理数学・演習 I・II」に続き、質点・質点系・剛体の運動の取り扱い方やそれらの一般的な性質について説明する。前半では、大きさや形を無視して点で近似した物体 (質点) に対して、複雑な運動を調べる上でも有用なエネルギーの概念と回転運動の記述に有用な角運動量の概念について説明する。後半では、質点の集まり (質点系) の運動を考える。相互作用する多数の質点の運動を一般的に扱うことは困難であるが、重心運動と相対運動という概念を導入して幾つかの解析できる場合を考える。特に、質点相互の位置が変わらないと近似した質点系 (剛体) に対して、幾つかの簡単な場合で、その運動を理解する。

■到達目標

エネルギーの概念とそれによる運動の理解、力のモーメント・角運動量・慣性モーメントといった回転運動に関わる概念、質点系における重心の概念、大きさや形を考慮に入れた物体のつり合いや運動の仕組み

■講義方法

教員作成の資料によって通常の講義形式で授業を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

各回の講義は、それまでの講義内容の理解を前提としています。オフィスアワー、チューター、序論などを利用して理解が不十分な点を残したままにしないようにしてください。

■成績評価の方法

定期試験 (100%)

■テキスト

特になし

■参考文献

佐川弘幸／本間道雄 『力学 第2版』 シュブリンガー・ジャパン 2,200円

高木隆司 『力学 I』 裳華房 2,100円
高木隆司 『力学 II』 裳華房 1,995円
戸田盛和 『力学』 岩波書店 2,625円

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは講義時に連絡します。
連絡先: iida@rins.ryukoku.ac.jp

■講義計画

- ① 仕事とエネルギー (1次元): 調和振動における力学的エネルギーの保存
- ② 力学的エネルギー保存と運動の範囲, 重力による位置エネルギー, 1次元の運動における位置エネルギー
- ③ 抵抗力により力学的エネルギーが減少する場合
- ④ 保存力, 3次元の力のポテンシャルの計算例, 中心力
- ⑤ 力学的エネルギー保存と運動の範囲 (3次元), 保存力の向きと力のポテンシャル, 仕事とエネルギーの変化
- ⑥ 角運動量, 力のモーメント, 中心力が働く場合の角運動量の保存, 2次元極座標での角運動量
- ⑦ 極座標系での運動エネルギーと力の中心までの距離の変化する領域
- ⑧ 逆2乗力が働く場合に力の中心までの距離の変化する領域
- ⑨ 2次元極座標系での運動方程式
- ⑩ 一定の角速度で回転する座標系での運動方程式, コリオリ力, 遠心力
- ⑪ 原点が運動する座標系, 慣性力, 質点系の質量中心
- ⑫ 質量密度が与えられている場合の質量中心の計算, 質点系の運動量とエネルギー
- ⑬ 2物体の衝突におけるはねかえり係数
- ⑭ 質点系の角運動量, 固定軸のまわりの剛体の回転運動と慣性モーメント
- ⑮ 質量密度が与えられている場合の慣性モーメントの計算

離散数学・演習（2013年度以前入学生）

【担当】 四ツ谷 晶二

【開講】 後期 月1

■サブタイトル

集合・論理・整数問題に強くなろう。

■講義概要

微積分では連続的な量を扱い、極限操作によりさまざまなものをすっきりと理解するという立場をとっている。しかしながら、極限操作をとる前には、有限のもの（とびとびのもの）で近似するという過程を通過する。

離散とは連続に対比する概念であり、同時に表裏一体の関係にある。連続の背後にある離散、離散の極限としての連続、というふうなものごとをとらえることにより、より広く深い理解と柔軟な応用力が身につく。

離散的な数学の中で基本となるものは、集合・論理・写像・代数系の基本事項である。これらの習得は、数学・物理・情報のいずれの分野を学ぶにしても基礎として必要なことである。

この授業では、集合・論理・写像・代数系（特に整数）の基本事項を基礎から丁寧に説明し、同時に、演習を通じて理解を確認・応用することにより、知識とその応用能力を養成する。

これらの根本にあるのは論理的思考力であり、人にわかりやすく説明するという能力である。これらの能力は、あらゆる場面で必要なものである。

■到達目標

集合・論理・写像・代数系の基本事項を知識修得し、同時に、論理的思考力、応用力を身につける。

■講義方法

講義形式で基本事項を説明し、それに連動して、演習やレポート課題を課すことにより知識の確認と応用力の養成を行う。

■系統的履修

集合と位相および演習。

■授業時間外における予・復習等の指示

- ・予習・復習の目標がたてやすいように、適宜、レポート課題を課し、小テストを行う。
- ・レポート提出、小テストの準備をしっかりとって下さい。

■成績評価の方法

平常点（30%）レポート点および5～10分間の小テスト点を合計し、30点に換算する。

小テスト（30%）1回または2回の60分間程度の「まとめのテスト」の点を合計し、30点に換算する。

定期試験（40%）

■テキスト

講義の進度に合わせて、適宜、補足のプリントを配布する。

■参考文献

宮崎・新谷・中谷『理工系のための離散数学』東京図書 2,400円

中内伸光『ろんりの練習帳』共立出版 2,200円

■履修上の注意・担当者からの一言

適宜、レポート課題を課したり、小テストを行います。授業中の指示をしっかりとること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

1-511の前、あるいは1号館の掲示版に掲示。

■講義計画

- ①集合と論理記号
- ②集合演算
- ③命題
- ④論理演算
- ⑤条件命題
- ⑥論法
- ⑦十分条件と必要条件
- ⑧関数・写像の定義
- ⑨単射、全射、全単射
- ⑩いろいろな関数・写像
- ⑪ユークリッドの互除法
- ⑫不定1次方程式、連分数展開
- ⑬整数の基本性質とその証明
- ⑭代数系
- ⑮全体のまとめ

理論物理B

【担当】 大坂 寿之

【開講】 後期 水2

■サブタイトル

量子力学入門

■講義概要

量子力学は、通常は目で見える事のできない小さな世界の自然現象を記述する事ができる。20世紀の前半に、物理学者はそのような自然の法則を発見して確かな理論にまで至らせた。量子力学は最近の情報化社会を支える半導体やレーザーなどの技術にも応用されて現代文明の繁栄に貢献している。本講義では量子力学の基本概念・基本法則と、その簡単な応用例を説明する。

■到達目標

量子力学の基本的な考え方を理解する。

■講義方法

通常の講義形式で行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

毎回の授業終了後に、復習をして、理解内容を定着させると共に、その内容から派生する事柄（内容を掘り下げる、別条件での場合、関連する演習問題、など）も考えて、自主的な学習に繋げて行って下さい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）

■テキスト

小野寺嘉孝『演習で学ぶ量子力学』裳華房 2,415円

■参考文献

適宜、講義中に推薦します。

■講義計画

- ①量子の発見
- ②光電効果
- ③粒子性と波動性
- ④ボーアの原子模型
- ⑤重ね合わせの原理と波束
- ⑥波束の不確定性
- ⑦シュレーディンガー方程式（1）
- ⑧シュレーディンガー方程式（2）
- ⑨波動関数と確率解釈
- ⑩波速と群速度
- ⑪トンネル効果
- ⑫束縛状態のエネルギー準位（1）
- ⑬束縛状態のエネルギー準位（2）
- ⑭調和振動子の量子論的記述
- ⑮まとめ

教職課程科目

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
カ	介護等体験	大西 俊弘／滋野 哲秀／脇田 博文	通年	集中	199
	学校カウンセリング論	石川 眞理子	前期	水 4	200
	学校教育社会学	伊佐 夏実	後期	水 3	201
キ	教育の方法と技術	神月 紀輔	前期	木 1	201
	教育課程論	大西 俊弘	後期	土 2	202
	教育実習指導Ⅰ	大西 俊弘／滋野 哲秀／脇田 博文	前期	月 3	202
	教育実習指導Ⅱ A	大西 俊弘／滋野 哲秀／脇田 博文	通年	集中	203
	教育実習指導Ⅱ B	大西 俊弘／滋野 哲秀／脇田 博文	通年	集中	203
	教育社会学	森 繁男	通年	月 3	204
	教育社会学Ⅰ	森 繁男	前期	月 3	205
	教育社会学Ⅱ	森 繁男	後期	月 3	205
	教職実践演習（中・高）	各教員 (滋野 哲秀／大西 俊弘／福岡 進／脇田 博文)	後期	月 3・4、 火 1・2、 水 4、 木 2・3、 金 4	206
	教職論	滋野 哲秀	前期	土 2	207
シ	情報科教育法	松原 伸一	通年	水 1	207
	情報科教育法Ⅰ	松原 伸一	前期	水 1	208
	情報科教育法Ⅱ	松原 伸一	後期	水 1	208
	人権教育論／同和教育論	岸 衛	前期	水 4	209
ス	数学科教育研究 A	吉田 信也	前期	木 4	209
	数学科教育研究 B	大西 俊弘	後期	木 4	210
	数学科教育法	大西 俊弘	前期	月 5	211
			後期	月 3	
	数学科教育法Ⅰ	大西 俊弘	前期	月 5	212
セ ト	数学科教育法Ⅱ	大西 俊弘	後期	月 3	212
	生徒指導論	脇田 博文	後期	金 1	213
	道徳教育指導法	奥村 光太郎	後期	土 1	214
	特別活動論	脇田 博文	前期	金 1	215

介護等体験

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅰ（介護等体験）

【担当】大西 俊弘、滋野 哲秀、脇田 博文

【開講】通年 集中

■サブタイトル

心豊かな教師を目指して～「介護等体験」への参加～

■講義概要

子ども達に「豊かな心」を育むことが今日の教育の大きな課題となっている。そのためには、まず教師自らが「豊かな心」をもつ存在でなければならない。障害者や高齢者などに対する介護、介助、これらの人々との交流が、人間の尊厳を自覚させ、相手の立場や心に思いを馳せる「豊かな心」を育む貴重な経験となるのである。

国では教育職員免許法の特例等に関する法律（平成10年4月1日施行）により、小・中学校の教員免許状を取得しようとする者に「介護等体験」への参加を義務づけている。これを基に本学では、特別支援学校および社会福祉施設で行う「介護等体験」とともに、その事前・事後に大学で必要な指導を行い、それらを総合して教職関係科目に位置づけている。

■到達目標

教師に必要な「豊かな心」を育む。

■講義方法

- ・1年次の10月からガイダンスが始まるので掲示には注意しておくこと。1年次に2回の説明会と講演会を行い、2年次には説明会及び事務手続きを行い、6月より随時体験に入る。
- ・2年次生以上の履修についても1年次生と同様。

■授業時間外における予・復習等の指示

指示されたことを確実に遵守し、龍谷大学生としての自覚をもって体験を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（50％）事前・事後指導及び体験への参加状況、意欲・態度を評価する。

その他（50％）提出された記録簿、レポートの内容、学校・施設からの報告書等を総合的に評価する。

上記の尺度・割合を目安として総合して単位認定する。ただし、下記の履修上の注意にもあるように、説明会・講演会の欠席、提出物の遅れ、体験の無断欠席や遅刻等、教職への適性を著

しく欠く場合には単位を認定しない。

■テキスト

講義・説明会で適宜配布する。

■参考文献

講義・説明会で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

- ①説明会や講演会には必ず出席すること。無断欠席の場合は受講資格を失う。公欠等でやむなく欠席する場合は事前に相談・届出をし、指示を受けること。
- ②教育実習の先修要件であるので、3年次までに履修すること。
- ③書類などの提出日は厳守すること。
- ④進路変更などにより受講を途中で辞退する者は教職課程教室に「辞退届」を提出すること。
- ⑤「体験」への無届け欠席や遅刻は絶対に許されない。
- ⑥「体験」には真摯な態度で臨むこと。
- ⑦留学をする者は必ず事前に相談し、登録をすること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

随時受け付けが、体験時に問題が起こったときは、連絡・報告・相談をすること。

■講義計画

- ①介護等体験説明会①－ガイダンス及び登録
- ②介護等体験説明会②－介護等体験の意義と課題
- ③介護等体験講演会1－障害児教育諸学校
- ④介護等体験説明会③及び事務手続き
- ⑤介護等体験講演会2－福祉施設
- ⑥介護等体験説明会④－福祉施設への参加手続き
- ⑦介護等体験説明会⑤－特別支援学校への参加手続き
- ⑧介護等体験への参加
 1. 障害児教育諸学校 2日間
 2. 社会福祉施設 5日間
- ⑨介護等体験を振り返って－記録簿等の書類提出

■サブタイトル

教育現場で活かすカウンセリングを学ぶ

■講義概要

教育現場では不登校、いじめ、校内暴力、学級崩壊などの心理・社会的問題が多発している。

このような問題の指導や解決のためには、教師自身も心理カウンセリングの資質が必要となってくる。

本講義では、学校教育におけるカウンセリングの基礎を学び、心理カウンセリング的な基本的態度と、具体的な対応について理解を深め、問題を抱えた児童・生徒への援助方法を習得していくこととする。

■到達目標

- ・学校教育相談（カウンセリング）の基礎概念や意義について理解を深める。
- ・カウンセリングの理論と技法を学び、自己・他者理解及びネットワーク支援について理解を深める。
- ・基本的な教育相談の理論と実践力を身につける。

■講義方法

講義+演習形式で行う。必要に応じて、資料・プリントを配布、視聴覚教材を用いる。

■授業時間外における予・復習等の指示

特になし。

■成績評価の方法

平常点（40%）平常点（出席+演習）取り組みを重視する
レポート（60%）最終講義で発表
主体的な授業態度を重視する。

■テキスト

特に使用しない。
講義中にプリントを配布する。

■参考文献

盛岡正芳（編）『カウンセリングと教育相談』 あいり出版
春日井敏之・伊藤美奈子（編）『よくわかる教育相談』 ミネルヴァ書房
松原達哉（編）『教師のためのカウンセリング技術』 教育開発研究所
米山正信・蔭山昌弘 『「失敗例」に学ぶ学校カウンセリングの心得』 黎明書房
関連文献は講義中に適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

「私語・遅刻しない」を厳守してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

メール連絡とします。
miv26045@fc.ritsumeai.ac.jp

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②学校カウンセリング基本的理解（1）
問題のある児童・生徒の早期発見・観察法
- ③学校カウンセリング基本的理解（2）
問題のある児童・生徒の早期発見・診断・効果の測定のための心理テスト
- ④学校カウンセリング基本的理解（3）
教師のための予防的・開発的グループカウンセリング技術
- ⑤学校カウンセリング基本的理解（4）
個別面接による来談者中心カウンセリングの技術
- ⑥学校カウンセリング基本的理解（5）
人間関係づくりのための集団カウンセリング
- ⑦学校カウンセリング基本的理解（6）
社会生活能力を育てる訓練法
- ⑧学校カウンセリング基本的理解（7）
進路指導のためのキャリアカウンセリング
- ⑨学校カウンセリングの基本的理解（8）
無気力・無意欲の児童・生徒のための生活分析的カウンセリング
- ⑩学校カウンセリング応用（1）
不登校・ひきこもりへの対応
- ⑪学校カウンセリング応用（2）
いじめへの対応
- ⑫学校カウンセリング応用（3）
学級崩壊への対応
- ⑬学校カウンセリング応用（4）
暴力・非行への対応
- ⑭学校カウンセリング応用（5）
スクールカウンセラーと連携した指導
- ⑮ミニ施行カウンセリング演習
まとめ

■講義概要

様々な教育現象・教育問題に対する社会的な視点を紹介することで、学校がもつ社会的機能や構造について検討し、学校教育の意義や限界を教師の役割ととも考える。また、その際特に、マイノリティの視点からみた学校や教育の姿を明らかにしていきたい。

■到達目標

- ・教育現象に対する自身の思い込みや偏見から脱した理解ができるようになる。
- ・マイノリティの教育の意義や可能性について幅広い視野から議論できるようになる。

■講義方法

パワーポイントを用いた講義中心ですが、適宜ワークショップの実施やDVD等の視聴覚教材の使用を交えながら進めていきます。また、毎回コミュニケーションカードを配布し、授業に対する感想や質問などを受け付けます。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業時に紹介した文献や資料にはできるだけ目を通しておくこと。また、前回授業で配布されたレジュメの内容について疑問点等あれば整理しておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 「授業回数の3分2以上の出席者」のみ評価対象とし、受講態度や予習復習の状況によって評価する。
定期試験 (50%) 学期末の筆記試験

■テキスト

講義ごとにレジュメや資料を配布します。

■参考文献

若槻健・西田芳正 『教育社会学への招待』 大阪大学出版会 2,520円

■講義計画

- ①ガイダンス。教育を社会的に考えてみる。
- ②教育の誕生と戦後日本教育の展開
- ③学校選択制から考える現代の教育制度と教育改革
- ④格差社会の現状と教育機会の不平等
- ⑤子どもの貧困と教育
- ⑥貧困の世代間連鎖と階層の再生産
- ⑦学力低下と学力格差
- ⑧学力格差を克服する学校
- ⑨ニューカマー教育の現状と課題
- ⑩ニューカマーの子どもと日本の学校文化
- ⑪教育のジェンダー差
- ⑫学校で作られるジェンダー
- ⑬障害のある子どもの教育の現状と課題
- ⑭障害のある子どものための教育とは
- ⑮排除に抗する学校と教師の役割

教育の方法と技術

※2011年度までの旧名称：メディア教育論

■講義概要

講義は前半と後半で大きく2つにわけらる。
前半は、生徒が「主体的に学ぶ」ことを意図した授業設計を実践的に行う。
後半は、教育の情報化に伴うデジタル技術について概観したのち、教育現場における情報機器の活用を授業でどのように取り入れるかについて、実践的に考える。
情報機器に関する最新の情報を適宜講義の中で紹介し、また、情報機器を扱う上で重要な情報モラルについても考える時間をとりたいと考えている。

■到達目標

- ・教育実践において、次のことができるようになることを目標に置く
- ・生徒の主体的な学びをデザインできる。
- ・生徒の効果的な情報機器の活用を支援できる。

■講義方法

講義とグループによる演習およびe-Learningをブレンドした形で行う予定である。
グループ編成は初回に行うので、できるだけ欠席のないように。

■授業時間外における予・復習等の指示

各自が取得しようとする教員免許の指導法については復習しておきたい。
また、最新の教育事情や情報機器の取り扱いについても、新聞やマスコミなどで情報を得ておくとともに学習を進めることができる。
メールやWebによりコメント収集やレポート提出を行うので基本操作の復習をしておきたい。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 自己評価、相互評価、到達度評価シートなど
小テスト (30%) 2～3回、知識理解について授業内でテストを行う。
レポート (40%) 学校における理想の教育方法について、メールにより提出
5回以上の欠席は単位を認定しません。

■テキスト

特になし

■参考文献

西之園 晴夫 『学習ガイドブック教育の技術と方法―チームによる問題解決のために』 ミネルヴァ書房 1,890円
教員免許取得予定の校種・教科の学習指導要領解説は随時使用する。
その他、参考文献は適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

グループ学習が中心となるので、積極的な参加が望まれます。
できるだけ欠席をしないようがんばりましょう。
メールによりレポート等の提出をするので、PCの基本的操作を復習しておいてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

連絡先 norisuke@norisuke.net
メールで連絡をお願いします。

■講義計画

- ①ガイダンス、グループ分け
- ②教育とは、学習とは
- ③教育学
- ④主体的に学ぶとは
- ⑤主体的に学ぶための授業デザイン
- ⑥主体的な学び相互評価
- ⑦情報教育とは
- ⑧情報の科学的理解
- ⑨情報モラルと人権教育、生徒指導
- ⑩教育における情報機器の活用
- ⑪情報活用の実践力
- ⑫情報活用の実践力を意図した授業デザイン
- ⑬情報活用の実践力相互評価
- ⑭これからの機器活用
- ⑮まとめと自己評価

■講義概要

すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本講義では、教育課程について生徒の視点ではなく、教師（指導者）の視点で捉えて解説する。具体的には、次のような内容に取り組む。

1. 中学校・高等学校における教育課程について、実例を通して概観する。
2. 学校現場と教育行政との関係を踏まえた上で、教育課程編成の手順について学ぶ。
3. 戦後の教育課題と関連させながら、学習指導要領の変遷について学ぶ。
4. 近年の学力観・評価観について解説し、教育課程編成における新しい取り組みと紹介する。
5. 学習指導要領の改訂と学力低下問題の関係について考察する。
6. 諸外国の教育制度・教育課程を参考にして、今後の日本の教育のあり方を考える。

■到達目標

学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。

■講義方法

講義形式ではあるが、出来る限り学生参加型の授業としたい。また、視聴覚教材の活用も積極的に図りたい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず確実に復習を行い、理解を確実なものとしてほしい。

■成績評価の方法

レポート（10%） レポート未提出の場合は、単位を認定しない。
定期試験（90%） 基本事項を幅広く出題、記述式
レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。
授業への参加は必須要件であり、特別な事情なしに3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。

また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

田中耕治 他3名『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 1,900円
中学校・高等学校の学習指導要領やその解説書が必要になる場合があるが、その都度指示する。

その他の参考文献については適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワー：水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117号室）にて。
連絡方法：電子メールにて（メールアドレスは講義で連絡）

■講義計画

- ①序論（教育をめぐる社会の状況）
- ②戦前の教育制度・教育改革
- ③戦前の教育課程について
- ④戦後の教育改革と生活単元学習
- ⑤系統学習と戦後の学習指導要領の変遷
- ⑥学校教育に関する法体系と教育課程
- ⑦高等学校の各種制度と学習指導要領
- ⑧教育課程編成の実践
- ⑨高等学校における未履修問題
- ⑩学力低下問題と学習指導要領の関係
- ⑪国際的な学力調査の結果が教育課程に及ぼす影響
- ⑫観点別評価と生徒指導要録
- ⑬外国の教育課程
- ⑭教育改革の方向性と新学習指導要領
- ⑮新学習指導要領の実施に向けての課題

教育実習指導Ⅰ

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅱ（事前指導）

[担当] 大西 俊弘、滋野 哲秀、脇田 博文

[開講] 前期 月3

■サブタイトル

教育実習に向けて

■講義概要

教育実習は教員養成課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。

そのために、実習生は教師として必要最低限の見識と能力を備えている必要がある。本学では教育実習の先修科目として「教育原論」「発達と教育（青年心理学）」「教科教育法」「人権論A」「人権論B」「介護等体験」を必修と定めている。この他にも、「教職論」「生徒指導論」「学校カウンセリング論」「メディア教育論」「学校教育社会学」等の教職科目と、できるだけ多くの「教科に関する科目」を実習前年までに修得している事が望ましい。

これら先修科目の基盤として、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務の内容を教授するのが「教育実習指導Ⅰ」の目的である。

■到達目標

教壇に立つ心構えを身につける。

■講義方法

必要な資料を配布して説明する。

■系統的履修

教育実習指導ⅡAまたは教育実習指導ⅡB

■授業時間外における予・復習等の指示

適宜指示を行う。

■成績評価の方法

平常点（30%）出席状況
レポート（60%）毎回の講義で提出を求めるレポートの内容
その他（10%）教職を目指す者にふさわしい意欲・態度等
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。

■テキスト

『教育実習の手引き』（龍大教職課程教室編）を配布する。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

教育実習前は健康管理に十分気をつけること。

■講義計画

- ①はじめに（教育実習の意義）
- ②教育実習の準備と心得
- ③教員の服務
- ④教科指導
- ⑤教科外活動の指導
- ⑥最近の学校教育の現状と課題
- ⑦今後の教育改革の方向
- ⑧教育実習後の総括

教育実習指導Ⅱ A

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅲ A (教育実習)

[担当] 大西 俊弘、滋野 哲秀、脇田 博文

【開講】通年 集中

■サブタイトル

教えられる立場から教える立場へ

■講義概要

「教育実習指導Ⅱ A」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標

「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法

学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修

教育実習指導Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示

十分な教材研究を事前に行うこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）実習後の報告・事後指導
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
その他（60%）実習校の評価

上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後2週間以内に行うこと。事後報告が全くな

されない時には単位認定をしない。

■テキスト

特になし

■参考文献

教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・真摯な態度で参加すること。
- ・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画

- ①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
- ②事前打ち合わせ
- ③オリエンテーション
- ④教科指導
 1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
 2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
 3. 研究授業と批評会
- ⑤特別活動の指導
 1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
 2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
- ⑥その他の校務分掌業務について
- ⑦教育実習全体の反省
- ⑧教職に就くに当たっての心得など

教育実習指導Ⅱ B

※2011年度までの旧名称：教育実践研究Ⅲ B (教育実習)

[担当] 大西 俊弘、滋野 哲秀、脇田 博文

【開講】通年 集中

■サブタイトル

教えられる立場から教える立場へ

■講義概要

「教育実習指導Ⅱ B」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化・発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎・基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。

■到達目標

「絶対に教師になる」という信念をもつ。

■講義方法

学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告

■系統的履修

教育実習指導Ⅰ

■授業時間外における予・復習等の指示

事前に十分な教材研究を行うこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）実習後の報告・事後指導
レポート（30%）実習記録・指導案・レポート
その他（60%）実習校の評価

上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後2週間以内に行うこと。事後報告が全くな

されない時には単位認定をしない。

■テキスト

特になし

■参考文献

教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）

■履修上の注意・担当者からの一言

- ・真摯な態度で参加すること。
- ・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。

■講義計画

- ①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
- ②事前打ち合わせ
- ③オリエンテーション
- ④教科指導
 1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
 2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
 3. 研究授業と批評会
- ⑤特別活動の指導
 1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
 2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
- ⑥その他の校務分掌業務について
- ⑦教育実習全体の反省
- ⑧教職に就くに当たっての心得など

■サブタイトル

（前期）教育社会学入門 （後期）教育現象の社会学的理解

■講義概要

教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。本授業は教育に対するこうしたアプローチから次のように展開してゆく。

まず前期では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。

続いて後期では、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標

「教育」というきわめて「価値的」な営みを「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握し、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法

前期では、主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。

後期では、上記の方法以外に、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修

「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問や「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100％）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

ミクロな「相互作用」とマクロな「社会構造」との関連の中で「教育現象の発生」を理解するような社会学的視点を養い、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②社会学的社会観と教育作用（1）
- ③社会学的社会観と教育作用（2）
- ④教育社会学の視点と方法（1）
- ⑤教育社会学の視点と方法（2）
- ⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
- ⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
- ⑧現代学校の理念と現実（1）
- ⑨現代学校の理念と現実（2）
- ⑩社会の変化と家族関係（1）
- ⑪社会の変化と家族関係（2）
- ⑫メディアと地域教育環境
- ⑬教育問題の発生と解釈（1）
- ⑭教育問題の発生と解釈（2）
- ⑮前期のまとめ
- ⑯教育学と社会学の接点（1）
- ⑰教育学と社会学の接点（2）
- ⑱家族・学校と教育の階層性（1）
- ⑲家族・学校と教育の階層性（2）
- ⑳文化的再生産と社会的相互作用（1）
- ㉑文化的再生産と社会的相互作用（2）
- ㉒ディスカッション（その1）
- ㉓ジェンダーと教育の諸現象（1）
- ㉔ジェンダーと教育の諸現象（2）
- ㉕メディアと青少年の文化問題（1）
- ㉖メディアと青少年の文化問題（2）
- ㉗ディスカッション（その2）
- ㉘教育社会学と教育実践
- ㉙教育社会学と教育改革
- ㉚後期のまとめ

教育社会学Ⅰ（2007年度以降入学生）

【担当】 森 繁男

【開講】 前期 月3

■サブタイトル

教育社会学入門

■講義概要

教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」認識しようとすることを指す。まず前期の本授業では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。

■到達目標

「教育」というきわめて「価値的」な営みを、「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握する態度を養いたい。

■講義方法

主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。

■系統的履修

「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

日常の人と人とのコミュニケーション（相互作用）を注意深く観察し、人間関係や人間形成のあり方と社会の仕組み（社会構造）とをつないでいる「文化」を読み取るよう心がけていただきたい。（なお、本科目を「教職科目」として受講するつもり理工学部学生は、本科目よりも別途開講されている「学校教育社会学」を受講することが望ましい。）

■講義計画

- ① イントロダクション
- ② 社会学的社会観と教育作用（1）
- ③ 社会学的社会観と教育作用（2）
- ④ 教育社会学の視点と方法（1）
- ⑤ 教育社会学の視点と方法（2）
- ⑥ 社会化のとりえ方と社会学パラダイム（1）
- ⑦ 社会化のとりえ方と社会学パラダイム（2）
- ⑧ 現代学校の理念と現実（1）
- ⑨ 現代学校の理念と現実（2）
- ⑩ 社会の変化と家族関係（1）
- ⑪ 社会の変化と家族関係（2）
- ⑫ メディアと地域教育環境
- ⑬ 教育問題の発生と解釈（1）
- ⑭ 教育問題の発生と解釈（2）
- ⑮ 前期のまとめ

教育社会学Ⅱ（2007年度以降入学生）

【担当】 森 繁男

【開講】 後期 月3

■サブタイトル

教育現象の社会学的理解

■講義概要

本授業では、前期の「教育学社会学Ⅰ」に引き続いて、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年などにみられる教育現象に接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という社会学的理解への道案内をした上で、教育の実践や改革への示唆も導き出したい。

■到達目標

社会学的視点と方法から、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法

「レクチャー」をプリントやビデオで補いつつ、時間的・人数的な条件が許せば受講生自身による発表や議論も試みたい。

■系統的履修

「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。さらに前期の「教育社会学Ⅰ」を先修していることが望ましい。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内容の進行に基づき、図書館で関連文献に目を通したり、メディアを通じて具体的な事例に触れておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（100%）授業内容の理解と応用展開力を試す。「試験」によって評価するが、「授業参加状況」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト

（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献

（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言

様々な「教育現象」を社会学的にとらえ、そこから教育理念（価値）を見通すよう心がけていただきたい。

■講義計画

- ① 教育学と社会学の接点（1）
- ② 教育学と社会学の接点（2）
- ③ 家族・学校と教育の階層性（1）
- ④ 家族・学校と教育の階層性（2）
- ⑤ 文化的再生産と社会的相互作用（1）
- ⑥ 文化的再生産と社会的相互作用（2）
- ⑦ ディスカッション（その1）
- ⑧ ジェンダーと教育の諸現象（1）
- ⑨ ジェンダーと教育の諸現象（2）
- ⑩ メディアと青少年の文化問題（1）
- ⑪ メディアと青少年の文化問題（2）
- ⑫ ディスカッション（その2）
- ⑬ 教育社会学と教育実践
- ⑭ 教育社会学と教育改革
- ⑮ 後期のまとめ

■サブタイトル

4年間の総仕上げとして教職への適性を省察する

■講義概要

本授業は教職課程科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認することを目的とする。この意味で、全学年を通じた総仕上げとしての位置付けを持つ。

テーマとしては、本科目の趣旨を踏まえ、教員として求められる①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科内容等の指導力に関する4つの事項を中心に展開する。

【注意事項】先修要件等

ア 教育実習指導ⅡA・ⅡBの先修要件（教育原論等）を満たしている者

イ 4年次前期までの履修カルテの入力を済ませている者

ウ 教育実習指導ⅡA・ⅡBが不合格の場合は、本授業の単位も不認定となる。

■到達目標

将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできるようにする。

■講義方法

授業は、講義概要で示した4つの事項に関する講義・研究協議の他に、より実践場面を想定した課題に基づいて、学生自らがグループ討議、ロールプレイング、発表等を行い、自らの教員としての資質能力を確認するようにする。また、これ以外にも講演会等によって、教職に対する自覚・省察を深める。

【注意事項】授業の一環として、9月下旬に全体会を開催し、オリエンテーション、講演等を行うので必ず参加すること。日程等の掲示に注意すること。

■系統的履修

※「履修カルテ」をWeb上で必ず記入すること。（未記入者は評価対象外とする。）

■授業時間外における予・復習等の指示

『教職実践演習ノート』を使用する。毎回出される課題をその都度適切にこなすこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）授業への参加度・意欲等

その他（70%）毎回だされる課題等 ※下記の自由記載参照
 上記の評価基準を原則にして総合的に評価を行う。併せて教職科目の修得状況、ボランティア等の学外活動及び本授業を通して、講義概要で示した4つの事項について評価する。

■テキスト

『教職実践演習ノート』（龍谷大学教職課程編）を配布する。
 冊子『教育実践研究』（龍谷大学教職課程編）も参考にすること。

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

ア 講座の決定については予備登録を実施する。4月当初の履修登録に関する教職課程の指示に十分注意すること。

イ 意欲的に参加すること。就職活動やアルバイト等の個人的な理由による欠席は認めない。原則として3分の2以上の出席を必要とする。

■講義計画

①授業の趣旨・計画・評価及び諸注意

②教職の意義及び教員の役割

③子どもの変化と理解

④協議及びまとめ、今後のスケジュールに関する諸注意等

⑤教育実習を振り返って

⑥テーマ1：教職の意義や教員の役割、職務内容等

⑦テーマ2：子どもの変化と理解、子どもに対する責任等

⑧テーマ3：社会性や対人関係能力

⑨テーマ4：保護者・地域への対応

⑩テーマ5：教科指導力の向上①

⑪テーマ5：教科指導力の向上②

⑫テーマ6：生徒指導力の向上①

⑬テーマ6：生徒指導力の向上②

⑭テーマ7：学級経営力の向上

⑮まとめ：自己評価、アンケート等

■サブタイトル

教師という仕事は何か。教師に必要な実践力とは。教職の意義や役割を考える。

■講義概要

教職についての基本事項（教職の意義、教員の役割、職務内容等）をおさえるとともに、これからの教師に求められる実践力を考えながら自らの教職観を形成し、教職への意欲を高める内容とする。

■到達目標

教職を目指す学生に対して必要となる教養を理解し、教師を目指すために必要な資質能力を理解し、教育実習等に向けた実践力を養うことを目標とする。

■講義方法

必要な資料等を配布しながら講義と演習を取り入れて授業を実施する。

毎回、講義で小レポートの提出を求める。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義で指示する。配布した資料等を熟読してくること。
新聞等で報道される教育関係の内容について日頃から目を通しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（30%）受講状況を考慮する。
レポート（20%）全てのレポートを評価する。
定期試験（50%）
上記の内容を原則として総合的に評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

小島 弘道ほか 『教師の条件—授業と学校をつくる力』 学文社 2,625円
新井 保幸（著）、江口 勇治（著）『教職論』 培風館 1,995円

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指すものとして相応しい態度で受講すること。

■講義計画

- ①教職の意義
- ②教員の身分と服務、研修
- ③教員として求められる資質・能力
- ④学習指導要領と教育課程
- ⑤教員の職務（1）学習指導と評価
- ⑥教員の職務（2）学級担任と学級経営
- ⑦教員の職務（3）生徒理解と生徒指導
- ⑧教員の職務（4）キャリア教育と進路指導
- ⑨教員の職務（5）特別支援教育
- ⑩教員の職務（6）保護者との連携、地域との連携
- ⑪教員の職務（7）特別活動と部活動
- ⑫教育実践事例から学ぶ（1）中学校の実践事例
- ⑬教育実践事例から学ぶ（2）高等学校の実践事例特別活動
- ⑭教育実践事例から学ぶ（3）地域、関係機関との連携
- ⑮まとめとふり返り。教職採用試験

情報科教育法（2009年度以前入学生）

■講義概要

前期では、情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし、教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。また、後期では、教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。

■到達目標

- 前期では、下記の通りとする。
1. 教科「情報」の新設及び改訂の意義について理解を深める。
 2. 情報教育の歴史的経緯について理解を深める。
 3. 情報教育の在り方とその目標について理解を深める。
 4. 情報科教育に関わる方法論について理解を深める。
- また、後期では、下記の通りである。
1. 教科「情報」の内容について、理論的側面を中心に理解を深める。
 2. 教科「情報」の内容について、実践的側面を中心に理解を深める。

■講義方法

基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法

平常点（50%）毎授業の平常点（小演習、小テスト、小レポートを含む）
定期試験（50%）情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト

松原伸一 『情報学教育の新しいステージ』 開隆堂 2,300円

■参考文献

文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言

レポートは、電子レポートとする。

電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画

- ①ガイダンスおよび教科教育について
- ②教科「情報」の概要
- ③情報教育の歴史的経緯（1）～教科「情報」の新設まで
- ④情報教育の歴史的経緯（2）～教科「情報」の改訂
- ⑤情報教育の在り方と目標
- ⑥小学校における情報教育
- ⑦中学校における情報教育
- ⑧教科「情報」新設の趣旨と意義
- ⑨共通教科「情報」の目標と科目構成
- ⑩専門教科「情報」の目標と科目構成
- ⑪評価と基準（規準）
- ⑫学習評価
- ⑬授業改善
- ⑭年間指導計画
- ⑮まとめ（前半）
- ⑯後半のガイダンス
- ⑰授業内容研究1 a：データと情報（理論）
- ⑱授業内容研究1 b：データと情報（実践）
- ⑲授業内容研究2 a：アナログとデジタル（理論）
- ⑳授業内容研究2 b：アナログとデジタル（実践）
- ㉑授業内容研究3 a：リアルとバーチャル（理論）
- ㉒授業内容研究3 b：リアルとバーチャル（実践）
- ㉓中間まとめと中間レポートの課題提示と考察
- ㉔授業内容研究4 a：メディア（理論）第5章
- ㉕授業内容研究4 b：メディア（実践）
- ㉖授業内容研究5 a：生活への影響（理論）
- ㉗授業内容研究5 b：生活への影響
- ㉘総合実践研究1
- ㉙総合実践研究2
- ㉚まとめ

情報科教育法Ⅰ（2010年度以降入学生）

[担当] 松原 伸一

[開講] 前期 水1

■講義概要

情報教育の在り方について論じ、教科「情報」の新設や改訂の経緯と趣旨について述べる。次に、情報教育の中での教科「情報」の果たす役割や位置付けを明確にし、教科「情報」の目標及び科目編成やその指導法などを取り上げ、情報科教育に関わる方法論を中心に講義する。

■到達目標

1. 教科「情報」の新設及び改訂の意義について理解を深める。
2. 情報教育の歴史的経緯について理解を深める。
3. 情報教育の在り方とその目標について理解を深める。
4. 情報科教育に関わる方法論について理解を深める。

■講義方法

基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 毎授業の平常点 (小演習、小テスト、小レポートを含む)

定期試験 (50%) 情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト

松原伸一 『情報学教育の新しいステージ』 開隆堂 2,300円

■参考文献

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説情報編』 開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言

レポートは、電子レポートとする。

電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画

- ①ガイダンスおよび教科教育について
- ②教科「情報」の概要
- ③情報教育の歴史的経緯 (1) ～教科「情報」の新設まで
- ④情報教育の歴史的経緯 (2) ～教科「情報」の改訂
- ⑤情報教育の在り方と目標
- ⑥小学校における情報教育
- ⑦中学校における情報教育
- ⑧教科「情報」新設の趣旨と意義
- ⑨共通教科「情報」の目標と科目構成
- ⑩専門教科「情報」の目標と科目構成
- ⑪評価と基準 (規準)
- ⑫学習評価
- ⑬授業改善
- ⑭年間指導計画
- ⑮まとめ

情報科教育法Ⅱ（2010年度以降入学生）

[担当] 松原 伸一

[開講] 後期 水1

■講義概要

教科「情報」の授業内容について考察する。特に、その展開については、問題解決を考慮した内容展開、実習の有効的活用、情報手段の活用、理解定着・自己学習力育成の実習について考察し、情報科教育に関わる内容論を中心に講義する。

■到達目標

1. 教科「情報」の内容について、理論的側面を中心に理解を深める。
2. 教科「情報」の内容について、実践的側面を中心に理解を深める。

■講義方法

基本的には、教科書を使用して、講義を行う。なお、授業では、演習を適宜行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

該当の講義に関する部分を、教科書を読んで予習しておくこと。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 毎授業の平常点 (小演習、小テスト、小レポートを含む)

定期試験 (50%) 情報科教育の方法論に関して、基礎的な知識を問う。

■テキスト

松原伸一 『情報学教育の新しいステージ』 開隆堂 2,300円

■参考文献

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説情報編』 開隆堂 210円

■履修上の注意・担当者からの一言

レポートは、電子レポートとする。

電子レポートについては、授業の中で説明する。

■講義計画

- ①ガイダンスおよび教科教育について
- ②授業内容研究 1 a : データと情報 (理論)
- ③授業内容研究 1 b : データと情報 (実践)
- ④授業内容研究 2 a : アナログとデジタル (理論)
- ⑤授業内容研究 2 b : アナログとデジタル (実践)
- ⑥授業内容研究 3 a : リアルとバーチャル (理論)
- ⑦授業内容研究 3 b : リアルとバーチャル (実践)
- ⑧中間まとめと中間レポートの課題提示と考察
- ⑨授業内容研究 4 a : メディア (理論)
- ⑩授業内容研究 4 b : メディア (実践)
- ⑪授業内容研究 5 a : 生活への影響 (理論)
- ⑫授業内容研究 5 b : 生活への影響
- ⑬総合実践研究 1
- ⑭総合実践研究 2
- ⑮まとめ

■サブタイトル

「今」を問う・「自分」を問う

■講義概要

差別は人と人との関係の中で起こる。だから日常の自分と他人との関係の仕方を見つめることから始めたい。
差別問題、人権問題は、いい古された言葉を語った時点で、自分で考えることをやめてしまう。「自分の言葉で何が語れるか」を最終の課題にしたいと考えている。

■到達目標

「今」を見る目が養われる
「自分」と「他人」との関係やあり方が見えてくる

■講義方法

基本的には講義形式で進めるが、可能な限り問答・会話を中心に進める。
人権学習についての「教案」を作り、実際に授業の一部をやってみよう。
自分の言葉で「語る」人権問題のスピーチをする。

■系統的履修

人権論 A・B（岸）

■授業時間外における予・復習等の指示

自分の課題・テーマを設定して、事前に資料その他をそろえて、教案を提出する。

■成績評価の方法

平常点（15%）出席点・コミュニケーション・カード提出
レポート（35%）各テーマのまとめ・教案の提出
定期試験（50%）全体を踏まえて提出

■テキスト

岸 衛著『自分・差別・世間第2版』解放研究所しが 700円

■参考文献

特になし

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②「青い目・茶色い目」
- ③Black is beautiful
- ④自分を見つめる
- ⑤部落差別問題とは何か
- ⑥部落の何を差別するのか
- ⑦「世間」とは何か
私たちは何を気にしているのか？
- ⑧日本と朝鮮の出会い・歴史
- ⑨明治以降の日本と朝鮮
- ⑩障害者差別問題を考える視点
- ⑪日本の「女性と男性」の歴史
性差別とは何か
- ⑫大学の中の性差別・セクシャルハラスメントを語る・性差別を感じる時
- ⑬「いじめ」を考える
- ⑭「いじめ」を考える
- ⑮アイデンティティと差別

数学科教育研究A（2010年度以降入学生）

【担当】 吉田 信也
【開講】 前期 木4

■講義概要

中等教育の数学科教員として必要な数学の力と、数学的な教養の修得を目的とし、数学史を適宜、取り入れながら進める。
具体的な教材を例にして、中等教育における数学分野のつながりを知り、数学の面白さや美しさを感じられるような講義とする。

■到達目標

中等教育の教科書（学習指導要領）の内容を正確に理解するとともに、それらの発展的内容を考えることにより、数学の体系的な理解とその美しさを感じられるようになる。

■講義方法

教員による講義だけではなく、ICTの活用やグループによる議論、作業も取り入れる。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義後に必ず復習を行い、学修内容の理解を確実にし、深めること。
講義の内容や自分の学修状況を、ポートフォリオとしてまとめること。

■成績評価の方法

平常点（20%）出席状況、議論・作業への取り組み
小テスト（40%）数回実施する
レポート（40%）適宜、発展的内容等について課す
講義への参加は必須条件であり、特別な理由がなく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
基本的な数学の力を身につけることは、数学科の教員としての最低限の条件である。したがって、小テストで合格点に達しない場合は、原則として単位を認定しない。

■テキスト

適宜プリント等を配布する。

■参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 数学編』 教育出版 242円
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』 実教出版 306円
中学校や高等学校の検定教科書

■履修上の注意・担当者からの一言

数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。
講義には、積極的に参加して欲しい。

■講義計画

- ①代数分野の指導法研究1（最大公約数・ユークリッドの互除法）
- ②代数分野の指導法研究2（素数・素因数分解・暗号）
- ③代数分野の教材研究（素数・暗号）
- ④幾何分野の指導法研究1（三角形の独楽）
- ⑤幾何分野の指導法研究2（三角形の美しい点）
- ⑥幾何分野の教材研究1（三角形の美しい点の応用とその関係）
- ⑦幾何分野の教材研究2（四角形・四面体の釣り合う点）
- ⑧数列分野の指導法研究（三角数・正方形数・長方形数）
- ⑨数列分野の教材研究1（円を弦で分割する）
- ⑩数列分野の教材研究2（無限に足す）
- ⑪解析分野の指導法研究1（三角関数と運動）
- ⑫解析分野の指導法研究2（指数関数・対数関数と生活）
- ⑬解析分野の教材研究1（関数を整関数で表す）
- ⑭解析分野の教材研究2（関数を三角関数で表す）
- ⑮まとめ、ポートフォリオの整理

■講義概要

中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。

できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。

1. 数学科の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。
2. 指導案作成・模擬授業の実施によって、授業のあり方について考える。
3. 数学科の教育課程について概観し、授業展開・評価等について考える。

■到達目標

教科書に記載されている内容を正確に理解し、指導者としての確かな授業計画を立案できる。

グループ単位で学習指導案を作成し、模擬授業を行うことによって、授業の構成力・展開力を身につける。

■講義方法

講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義後、必ず復習を行い、理解を確実なものとする。

■成績評価の方法

平常点（10%）討論・模擬授業等への取り組み

小テスト（50%）数回実施する

レポート（40%）

授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。

数学の教員として、確かな数学力を身につけ、教科内容に精通していることは最低条件である。そのため、小テストで合格点に達しない者は、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 数学編』 教育出版 242円

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』 実教出版 306円

中学校や高等学校の教科書を参考図書として使用予定であるが、書名や購入方法については別途指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言

2010年度以降の入学生が対象であり、数学の教員免許取得希望者は、原則として2回生で履修すること。

数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の3講時に研究室(2号館117D)にて。連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

- ①新学習指導要領の特徴について
- ②数学Ⅰの指導法研究（「データの分析」）
- ③数学Aの指導法研究（「整数の性質」）
- ④数学Aの指導法研究（「図形の性質」）
- ⑤数学Ⅲの指導法研究（「複素数平面」）
- ⑥教具・模型の利用について
- ⑦ICT機器の利用について
- ⑧学習指導案と授業設計
- ⑨模擬授業（1）
- ⑩模擬授業（2）
- ⑪模擬授業（3）
- ⑫「数学的活動」の事例研究（中学校）
- ⑬「数学的活動」の事例研究（高等学校）
- ⑭「課題学習」の事例研究（中学校）
- ⑮「課題学習」の事例研究（高等学校）

■講義概要

中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。
できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。

1. 中学・高校の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。
2. 指導案作成・模擬授業の実施によって、授業のあり方について考える。
3. 数学教育の歴史を概観し、数学教育の意義について考える。
4. 数学教育のカリキュラムについて概観し、授業展開・評価等について考える。
5. 数学教育へのテクノロジーの利用について解説・演習を行う。
6. できる限り多くの具体例・実践例を紹介する。

■到達目標

中学校・高等学校の教科書に記載されている題材だけでなく、課題学習等で扱う題材について学び、数学の面白さ・有用性について知る。
学習指導案の書き方について学び、模擬授業を行うことによって、教育実習に向けた準備を行う。

■講義方法

講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。
講義の3分の1程度は、コンピュータ等の利用に関する実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）討論・模擬授業等への取り組み
レポート（90%）年間10回程度
授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく半期に3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』教育出版 242円
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』実教出版 306円
杉山 吉茂『中等科数学科教育学序説』東洋館出版社 3,675円

■履修上の注意・担当者からの一言

数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117D）にて。（但し、6月は教育実習の巡回指導で不在のときもある。）
連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

- ①教材論（黄金比・白銀比）
- ②教材論（オリガミクス・くみがみ）
- ③教材論（ユークリッドの互除法等）
- ④学習指導案とは何か
- ⑤学習指導計画の作成方法
- ⑥模擬授業1
- ⑦観点別評価と評価規準
- ⑧評価規準を念頭においた学習指導案の作成
- ⑨模擬授業2
- ⑩授業研究（授業記録ビデオの分析）
- ⑪グラフツールGRAPES入門
- ⑫グラフツールGRAPESの活用＜教材作成1＞
- ⑬グラフツールGRAPESの活用＜教材作成2＞
- ⑭学力低下問題
- ⑮生徒の質問にどう答えるか
- ⑯数学教育史と学力観の変遷
- ⑰学習指導要領について
- ⑱動的幾何ソフトの基礎
- ⑲動的幾何ソフトの活用
- ⑳動的幾何ソフトを利用した課題学習
- ㉑課題学習の教材論（ピクの定理等）
- ㉒グループによる学習指導案研究
- ㉓模擬授業（課題学習）
- ㉔グラフ電卓入門
- ㉕グラフ電卓の活用
- ㉖PISAにおける数学的リテラシー
- ㉗外国における数学教育
- ㉘新科目「数学活用」について
- ㉙統計・データ処理の指導法
- ㉚「数学的活動」とは何か

数学科教育法Ⅰ（2010年度以降入学生）

[担当] 大西 俊弘

[開講] 前期 月5

■講義概要

中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。

できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。

1. 中学・高校の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。
2. 指導案作成・模擬授業の実施によって、授業のあり方について考える。
3. 数学教育の歴史を概観し、数学教育の意義について考える。
4. 数学教育のカリキュラムについて概観し、授業展開・評価等について考える。
5. 数学教育へのテクノロジーの利用について解説・演習を行う。
6. できる限り多くの具体例・実践例を紹介する。

■到達目標

中学校・高等学校の教科書に記載されている題材だけでなく、課題学習等で扱う題材について学び、数学の面白さ・有用性について知る。学習指導案の書き方について学び、模擬授業を行うことによって、教育実習に向けた準備を行う。

■講義方法

講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。

講義の3分の1程度は、コンピュータ等の利用に関する実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）討論・模擬授業等への取り組み

レポート（90%）半期5回程度

授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。

また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』教育出版 242円

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』実教出版 306円

杉山 吉茂『中等科数学科教育序説』東洋館出版社 3,675円

■履修上の注意・担当者からの一言

数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117D）にて。（但し、出張で不在のときもある。）

連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

- ①教材論（黄金比・白銀比）
- ②教材論（オリガミクス・くみがみ）
- ③教材論（ユークリッドの互除法等）
- ④学習指導案とは何か
- ⑤学習指導計画の作成方法
- ⑥模擬授業1
- ⑦観点別評価と評価規準
- ⑧評価規準を念頭においた学習指導案の作成
- ⑨模擬授業2
- ⑩授業研究（授業記録ビデオの分析）
- ⑪グラフツールGRAPES入門
- ⑫グラフツールGRAPESの活用＜教材作成1＞
- ⑬グラフツールGRAPESの活用＜教材作成2＞
- ⑭学力低下問題
- ⑮生徒の質問にどう答えるか

数学科教育法Ⅱ（2010年度以降入学生）

[担当] 大西 俊弘

[開講] 後期 月3

■講義概要

中学校や高等学校の数学科教員として必要な資質（数学的な教養と教育技術）の習得を目的とする。

できる限り多くの具体例を紹介し、実践的な講義とする。

1. 中学・高校の教材内容を概観し、数学教育の意義について考える。
2. 指導案作成・模擬授業の実施によって、授業のあり方について考える。
3. 数学教育の歴史を概観し、数学教育の意義について考える。
4. 数学教育のカリキュラムについて概観し、授業展開・評価等について考える。
5. 数学教育へのテクノロジーの利用について解説・演習を行う。
6. できる限り多くの具体例・実践例を紹介する。

■到達目標

中学校・高等学校の教科書に記載されている題材だけでなく、課題学習等で扱う題材について学び、数学の面白さ・有用性について知る。学習指導案の書き方について学び、模擬授業を行うことによって、教育実習に向けた準備を行う。

■講義方法

講義だけでなく、学生間の討論や模擬授業なども行う。

講義の3分の1程度は、コンピュータ等の利用に関する実習を行う。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業後に、まず復習を行い理解を深めること。その後、授業で学んだことを発展・応用する課題に自ら取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（10%）討論・模擬授業等への取り組み

レポート（90%）半期5回程度

授業への参加は必須要件であり、特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。

また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』教育出版 242円

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 数学編・理数編』実教出版 306円

杉山 吉茂『中等科数学科教育序説』東洋館出版社 3,675円

■履修上の注意・担当者からの一言

数学の教員になりたいという強い意志を持った学生諸君の履修を望む。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは、水曜日・木曜日の3講時に研究室（2号館117D）にて。（但し、出張で不在のときもある。）

連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画

- ①数学教育史と学力観の変遷
- ②学習指導要領について
- ③動的幾何ソフトの基礎
- ④動的幾何ソフトの活用
- ⑤動的幾何ソフトを利用した課題学習
- ⑥課題学習の教材論（ピットの定理等）
- ⑦グループによる学習指導案研究
- ⑧模擬授業（課題学習）
- ⑨グラフ電卓入門
- ⑩グラフ電卓の活用
- ⑪PISAにおける数学的リテラシー
- ⑫外国における数学教育
- ⑬新科目「数学活用」について
- ⑭統計・データ処理の指導法
- ⑮「数学的活動」とは何か

■サブタイトル

学校教育における生徒指導の意義と役割

■講義概要

急速な社会変化の中で旧来の倫理観・価値観が大きく崩れ、家庭や学校の教育力は低下している中で、生徒指導の重要性とその対応のあり方については認識を新たにすることがある。最近の学校現場で起こっているいじめ、不登校、学級崩壊等の問題は生徒指導上の喫緊課題であるが、単に表面的な目に見える現象だけに注目し、問題行動を起こす生徒への治療・矯正や防止対策として生徒指導を捉えてはならない。生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格的発達への支援、将来の自己実現に向けてのガイダンスという積極的な教育機能として位置づけられるべきである。

本講義では、まず生徒指導の本質的な意義や役割を明確にした上で、様々な問題例を通してその原因・背景・対処について実証的な考察を加え、さらにガイダンス機能の充実のための進路指導について触れる。そして教員には個人あるいは組織の一員としてどのような資質や能力や役割が求められているか理解したい。

■到達目標

教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、討論・発表等の参加型授業をできるかぎり取り入れる。

■系統的履修

「発達と教育」などの発達・教育心理学関係の科目

■授業時間外における予・復習等の指示

課題には主体的に取り組むこと。また紹介された参考文献等をよく読み、知識を深めるとともに、批判的な思考力を養うこと。

■成績評価の方法

平常点 (30%) 授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート (10%) 毎回出される小課題の達成度を評価する。
定期試験 (60%) 学習内容の理解、教職への適性を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

講義の中で適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①はじめに
- ②学校及び青少年の現状と課題 1
- ③学校及び青少年の現状と課題 2
- ④生徒指導の意義と役割 1
- ⑤生徒指導の意義と役割 2
- ⑥生徒理解 1
- ⑦生徒理解 2
- ⑧生徒理解 3
- ⑨問題行動
- ⑩学級（授業）崩壊
- ⑪いじめ 1
- ⑫いじめ 2
- ⑬不登校
- ⑭ガイダンス（進路指導）
- ⑮まとめ

■サブタイトル

道徳教育の理論と実践

■講義概要

本科目では道徳教育の理論と実践について講義を行う。そして道徳教育の指導法を総合的に理解することを目的とする。「道徳」は学習指導要領に位置づけられた領域であり、小学校と中学校における年間配当時間は35時間（小1は34時間）と定められている。従って、ここで学ぶ学生諸君もこれまで数百時間に及ぶ「道徳の時間」を経験してきたはずである。ところで、皆さんの記憶に残っている「道徳の時間」とは一体どのようなものだっただろうか。素晴らしい感動の時間であったという諸君は幸せだが、中には殆ど覚えていないという人もいるかもしれない。実は現在の学校現場でも道徳が「学活」や「担任裁量」に切り替えられて不十分である例が少なくない。このような現状を改善すべきだということもあって道徳の教科化が検討されているのである。このことは、道徳教育に関する理論を学び、実践力を身に付けた教員が今後益々必要となってくるということの意味している。俗な言い方をすれば、今ほど「道徳ができる先生」が求められている時はないのである。諸君には道徳教育の即戦力として活躍していただきたい。それができるだけ力量を身に付けてもらうことを目指して、理論と実践の両面から講義を進めていきたいと考えている。

■到達目標

道徳教育に関する様々な理論や実践を理解する。そして新聞記事やテレビ映像、ネット情報などから目の前にいる生徒に適した道徳の素材を見つけ出す。その素材を生徒の発達段階に応じたスタイルにアレンジして「学習指導案」「ワークシート」「予想される生徒の反応が記載されたワークシート記入例」を作成する。それをもとに実際に授業を行い、改善点を見出すことのできる能力を身に付ける。

■講義方法

教科書や配布プリントを利用して講義を行う。時には映像資料なども使用する。講義終了時に簡単なレポート（感想程度）を提出してもらう。

※レポート（感想）は次回以降の講義内容にも反映させていく。

■授業時間外における予・復習等の指示

教科書や道徳に関する書物等を読み、道徳に関する知識と理解を理論と実践の両面から深めることを心がけてほしい。道徳教育に関する素材はどこにでも転がっている。諸君が「これは」と思うものがあれば、スクラップしたりメモをとっておいたりしてほしい。そしてそれを使ってどのように授業を行っていくかをイメージすることを期待する。（その姿勢が道徳教育を進めていく上での能力向上につながるのである。）

■成績評価の方法

平常点（50%）「授業時数の3分の2以上の出席者」のみを評価対象とし、授業態度やレポート（感想）の内容によって評価する。

定期試験（50%）「自分が見つけ出した資料を使って道徳の学習指導案を作成できる」という点を評価基準とする。

■テキスト

文部科学省編 『中学校学習指導要領解説（道徳）』 日本文教出版 139円

担当者からも適宜プリントを配布する。散逸を防止するため、「A4タテ」の2穴ファイル（紙製でよい）を用意することが望ましい。なお、テキストは文部科学省のHPからも無償でダウンロードできる。

■参考文献

道徳に関する資料は何でも参考文献になる。小・中学生時代に使用した「道徳副読本」や「心のノート」も立派な参考文献である。参考文献やネット等で閲覧した指導案等の資料をこまめにファイルしておくことも大いに役に立つ。担当者は「モラルジレンマの道徳教育」を専門にしており、最近関わ

た専門書としては「モラルジレンマ教材とする白熱討論の道徳授業＝中学校・高等学校編 ￥2,373 明治図書発行」がある。機会があれば図書館等で一読しておくことをおすすめする。（購入する必要はない。）

なお、担当者の基本的なスタンスを知りたい諸君は「奥村光太郎 道徳」「奥村光太郎 日本銀行」で検索してほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言

担当者は、道徳に関する知識がほとんどない人でも教員採用と同時に「道徳係」の分掌を受け持つことができるだけの力量を身につけてほしいと願っている。「人材不足」の状況にある道徳教育の現場に「活」を入れてやるという意気込みをもって受講してほしい。

■講義計画

- ①道徳教育とは何か。これまでの道徳教育の歴史をふり返る。
- ②学校現場における道徳教育の現状を分析する。
- ③教科化の流れなど、道徳教育をめぐる社会的情勢を分析する。
- ④道徳教育の方法について考える。①映像を利用した授業法について
- ⑤道徳教育の方法について考える。②副読本を利用した授業法について
- ⑥道徳教育の方法について考える。③オリジナル資料を利用した授業法について
- ⑦道徳教育の方法について考える。④NHK道徳ドキュメントを利用した授業法について
- ⑧モラルジレンマの道徳教育とは何か①コールバーグの理論を学ぶ
- ⑨モラルジレンマの道徳教育とは何か②モラルジレンマの授業スタイルタイプⅠ
- ⑩モラルジレンマの道徳教育とは何か③モラルジレンマの授業スタイルタイプⅡ
- ⑪「心のノート」を活用した道徳教育について
- ⑫道徳の時間を「要」とした道徳教育とは何か。（すべての「教科」「領域」との関係）
- ⑬道徳指導案作成演習
- ⑭道徳授業の実際
- ⑮総括及び定期試験の説明

■サブタイトル

もう一つのエデュケーション－学校教育における特別活動の役割

■講義概要

学校での様々な教育活動の意義は、生徒一人ひとりが個性の伸張を図るとともに、集団や社会の一員としての自覚を深め、協力してより良い生活を築こうとする態度を身につけることにある。この意味で、学校が知識や技術の習得のためだけに合目的に機能を単一化し、その本来的な多機能性（特に人間形成）を失い、居心地のよい場所でなくなりつつある現状を見ると、もう一つのエデュケーションである特別活動の意義は見直されるべきである。特別活動は、生徒の自主的、集団的な活動の時間であり、まさに「生きる力」を養う場として、各学校・教員が創造的にいろいろな実践や工夫を行う余地が多く残されている。

本講義では、特別活動のエデュケーション上の位置づけ、その教育的意義と内容、具体的な展開と工夫などについて考察しながら、学校教育における特別活動の基本的な役割について理解を深め、ひいてはこれからの時代に期待される教師のあり方について明らかにしたい。

■到達目標

教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法

講義の他、討論・発表等の参加型授業を導入する。

■授業時間外における予・復習等の指示

随時出される課題には主体的に取り組むこと。

■成績評価の方法

平常点（40％）授業への参加、意欲・態度等を評価する。
小テスト（20％）授業中に出される課題の達成度を評価する。
レポート（40％）学期末の課題の達成度を評価する。

上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト

特になし

■参考文献

適宜講義中に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画

- ①特別活動の意義と特性 1
- ②特別活動の意義と特性 2
- ③特別活動の意義と特性 3
- ④望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 1
- ⑤望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 2
- ⑥望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 3
- ⑦教育課程としての特別活動
- ⑧学級活動の意義と運営
- ⑨学校行事の意義と実施上の工夫・配慮事項
- ⑩特別活動の指導計画と工夫 1
- ⑪特別活動の指導計画と工夫 2
- ⑫特別活動の指導計画と工夫 3
- ⑬特別活動の指導計画と工夫 4
- ⑭特別活動と特色ある学校づくり・総合的な学習の時間
- ⑮まとめ

本願寺派教師資格課程科目

カナ	科 目 名	担 当 者	開講曜講時		ページ
キ	教化法	季平 博昭／赤井 智顕	通年	水 5	219
コ	勤式	熊本 義秀／大八木 正雄／ 土岐 好道	通年	土 4	220
シ	宗教学概論	古賀 和則	通年	月 5	221
	真宗学概論	中平 了悟	通年	月 4	222
	真宗史	仲尾 孝誠	通年	土 1	222
ニ	日本仏教史	下間 一頼	通年	火 4	223
フ	仏教学概論	道元 徹心	通年	水 3	223

■サブタイトル

浄土真宗における布教伝道－理論の考究と実践の習得－

■講義概要

宗教においてはその教えを正確に他の人々に伝え、教化伝道していくことの重要性があることはいうまでもない。特に浄土真宗は聞法が中心であり、それ故に布教伝道が重要視されている。本講義ではその布教伝道の理論を浄土真宗の法義に基づき、明らかに考究していく。しかし単に理論を学ぶだけでは、実際に布教伝道することは難しい。現在の布教現場にあっては、一体何が問題であり課題であるのか、このような布教伝道の現代的課題を考慮に入れながら、理論面と共に実践的側面の習得を目指す。

■到達目標

浄土真宗本願寺派の僧侶（教師）として重要な布教伝道について、理論と実践を習得することを目標とする。

■講義方法

複数の講師によるチェーンレクチャー形式をもって講義を進める。

布教伝道の理論的側面と、実践的側面の具体的な課題について口述をもって講義する。

実践的課題の習得の為、話し合い法座の実習や、布教実演と相互研鑽も取り入れる。

■系統的履修

真宗学に関する諸講義。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義内容の予習・復習、並びに積極的な情報収集。

■成績評価の方法

平常点（40%）出席状況、受講態度などから評価する。

その他（60%）チェーンレクチャーの為、各担当教員からの指示による課題をもって評価する。

■テキスト

テキストの依用については各担当教員から指示する。

■参考文献

講義時に各担当教員から適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

布教伝道の現場に即した、実践的側面を具体的に取り上げるので、自らの課題として積極的・主体的に取り組んで欲しい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時に各担当教員から案内する。

■講義計画

- ①【教化伝道の理論について】はじめに 本講義の目的と進め方
- ②【教化伝道の理論について】宗教とは何か
- ③【教化伝道の理論について】人は何のために生きるのか
- ④【教化伝道の理論について】苦悩について
- ⑤【教化伝道の理論について】苦悩はどうすれば楽になるのか
- ⑥【教化伝道の理論について】浄土真宗とは何か
- ⑦【教化伝道の理論について】問いから浄土真宗を考える
- ⑧【教化伝道の理論について】どのような関わりが人を支えるのか
- ⑨【教化伝道の理論について】布教～教えを他者に語ることにについて
- ⑩【教化伝道の理論について】どのような僧侶になりたいか
- ⑪【教化伝道の理論について】描く理想像を実現するにはどうするのか
- ⑫【教化伝道の理論について】布教における基本姿勢
- ⑬【教化伝道の理論について】社会における宗教の役割①
- ⑭【教化伝道の理論について】社会における宗教の役割②
- ⑮【教化伝道の理論について】社会における宗教の役割③
- ⑯【宗門の教化伝道について】同朋運動
- ⑰【宗門の教化伝道について】門信徒会運動
- ⑱【宗門の教化伝道について】宗門の組織教化
- ⑲【宗門の教化伝道について】話し合い法座①
- ⑳【宗門の教化伝道について】話し合い法座②
- ㉑【宗門の教化伝道について】話し合い法座③
- ㉒【教化伝道の実践について】布教伝道の理論①
- ㉓【教化伝道の実践について】布教伝道の理論②
- ㉔【教化伝道の実践について】布教伝道の理論③
- ㉕【教化伝道の実践について】法話布教の作法
- ㉖【教化伝道の実践について】法話布教の実演と相互研鑽①
- ㉗【教化伝道の実践について】法話布教の実演と相互研鑽②
- ㉘【教化伝道の実践について】法話布教の実演と相互研鑽③
- ㉙【教化伝道の実践について】法話布教の実演と相互研鑽④
- ㉚【教化伝道の実践について】法話布教の実演と相互研鑽⑤

勤式

【担当】 熊本 義秀、大八木 正雄、土岐 好道

【開講】 通年 土4

■サブタイトル

勤式とは何か。なぜ荘厳をするのか。僧侶とは。

■講義概要

浄土真宗本願寺派僧侶として、寺院活動を進める上で必須の一つが勤式である。本講義では寺院における日常勤行・法要儀式の荘厳・作法等の実演指導、及び住職として必要な基本姿勢を身につけることを重点的に学習する。

■到達目標

教師教習に必要なことを身につける。

■講義方法

作法・荘厳の講義及び声明の実演。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (60%)

定期試験 (40%) 講義及び法式規範の内容から出題

■テキスト

勤式指導所 『浄土真宗本願寺派 勤式集』 本願寺出版社 5,250円

勤式指導所 『浄土真宗本願寺派 法式規範 増補版』 本願寺出版社 3,570円

勤式指導所 『浄土真宗本願寺派 葬儀規範』 本願寺出版社 840円

勤式指導所 『浄土真宗本願寺派 葬儀勤行集』 本願寺出版社 1,050円

改譜正信偈和讃（小本和讃）[本願寺免物¥2,300.-]、御伝鈔唱読用[永田文昌堂¥682.-]も必要となります

法式規範は増補版（表紙朱色）の内容から改定となっていますので、なるべく最新版（青色表紙）を用意してください。

■参考文献

特になし

■講義計画

①勤式を学ぶ心得と年間授業概要

②荘厳について

③基本作法（合掌礼拝等）について 領解文

④正信偈の出拠・歴史等 読誦の説明

⑤正信偈 偈文（草譜・行譜）

⑥正信偈 和讃・念佛・回向

⑦正信偈 総括

⑧御文章（聖人一流・末代無智・信心獲得）

⑨佛事勤行 節柝の打法

⑩葬儀規範

⑪葬場勤行1

⑫葬場勤行2、御文章（白骨章・大聖世尊）

⑬正信偈 和讃（道光明朗・光明月日）

⑭復習

⑮前期をふりかえって

⑯音楽理論・本願寺派の声明

⑰無量寿経作法 1

⑱無量寿経作法 2

⑲阿弥陀経作法

⑳大師影供作法

㉑五会念仏作法

㉒初夜礼讃 1

㉓初夜礼讃 2

㉔読経作法（先請伽陀・讃）

㉕恒例法要

㉖本願寺の報恩講

㉗御伝鈔

㉘作法と衣体

㉙復習

㉚まとめ

■サブタイトル

宗教学は宗教をどのように見てきたか

■講義概要

広義の宗教学は、宗教を研究対象とする学問であり、神（宗）学、宗教哲学、宗教史、科学的宗教学の領域があります。また、教義の宗教学では宗教史と科学的宗教学があります。この講義では、まず、広義の宗教学の概要をたどり、続いて狭義の宗教学を取り上げ、主要な研究テーマを絞ります。

■到達目標

宗教研究の概要の理解。

■講義方法

講義形式ですが、前後期に各1回程度の討論会（シンポジウム）を行います。

■系統的履修

「現代社会と宗教」「生活の中の宗教」「心と身体と宗教」「哲学」「社会学」「心理学」「文化人類学」

■授業時間外における予・復習等の指示

ほぼ毎回レポート候補の課題を示すので、準備に取りかかっておく。

■成績評価の方法

平常点（20%）前期、後期各1回以上のミニシンポ参加。
&準備
レポート（80%）前期まとめレポート（40点）、後期まとめレポート（40点）

■テキスト

特になし

■参考文献

上田・柳川編 『宗教学のすすめ』 筑摩書房
石田・藺田編 『宗教学を学ぶ人のために』 世界思想社
井上・月本・星野編 『宗教学を学ぶ』 有斐閣
脇本著 『宗教学入門』 講談社
武・宮庄・高田編 『宗教学の現在』 三和書房
細谷・藤田編 『新しい教養のすすめ 宗教学』 昭和堂

■履修上の注意・担当者からの一言

宗教学には広い範囲があります。それは、対象の宗教が多種多様であることもあります。また、学ぶ立場の多様性もあります。この講義では、主として、宗教を広くとらえ、科学的に分析しようとする立場にたちます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

e-mail: koga@soc.ryukoku.ac.jpでアポイントを取ることに。

■講義計画

- ①ブリーフィング 宗教学の成立：成立の背景と分野
- ②宗教の規定
- ③科学と宗教
- ④宗教史Ⅰ
- ⑤ミニシンポ「スピリチュアル パワー」
- ⑥宗教史Ⅱ
- ⑦宗教史Ⅲ
- ⑧宗教現象学Ⅰ
- ⑨宗教現象学Ⅱ
- ⑩宗教社会学Ⅰ
- ⑪宗教社会学Ⅱ
- ⑫宗教社会学Ⅲ①
- ⑬宗教社会学Ⅲ②
- ⑭宗教社会学Ⅳ
- ⑮宗教社会学Ⅴ
- ⑯宗教心理学Ⅰ
- ⑰宗教心理学Ⅱ
- ⑱宗教心理学Ⅲ
- ⑲宗教心理学Ⅳ
- ⑳宗教心理学Ⅴ
- ㉑ミニシンポ「現代人の宗教意識」
- ㉒宗教生理学
- ㉓宗教人類学Ⅰ
- ㉔宗教人類学Ⅱ
- ㉕宗教人類学Ⅲ
- ㉖宗教地理学
- ㉗宗教民俗学Ⅰ
- ㉘宗教民俗学Ⅱ
- ㉙宗教民俗学Ⅲ
- ㉚まとめ

■講義概要

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想の体系的な理解を目的に講義を行う。「真宗学」の中心は、親鸞聖人によって明らかにされた思想・教義としての「浄土真宗」にある。どのような視点に立とうとも、「真宗学」という名称を用いる以上、親鸞聖人の思想や立場が前提とされる。

釈尊によって説かれた經典、およびインド・中国・日本の諸師（高僧）による經典の解釈を、親鸞聖人はどのように受容したのか。また、親鸞聖人によって説き示された（教えとしての）「浄土真宗」は今に至るまで、どのように理解・解釈されて来たのか。一年間の講義を通して、その概略について講義をしたい。

本講義は、入門的な内容を講義する予定である。しかし、一般的な意味で「簡単」ではないと思う。受講者の主体的な学びの態度がなければ、成立しないことを念頭に置いて受講して欲しい。

■到達目標

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の思想を体系的に理解できるようになることを目的とする。

■講義方法

講義形式。板書とレジュメを中心に講義を行う。尚、テキストは必ず持参すること。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に指示する

■成績評価の方法

平常点（10%）出席は当然。受講態度などから総合的な判断する定期試験（70%）期末のテストを予定している。

その他（20%）場合によってはレポートを課す。

受講者数によっては、課題・レポートを課す場合もある。その際は講義時に指示する。

規定数以上の出席は、評価の前提。規定に満たない場合は、単位は認定されない。

■テキスト

『浄土真宗聖典註釈版（第二版）』 本願寺出版社
村上速水『親鸞教義とその背景』 永田文昌堂
その他、講義時に指示する。

■参考文献

講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

◆本講義は「本願寺派教師資格」に関する講義です。講義内容・方針もそれに見合ったものとなるように努めるので、受講者も了承の上受講してください。

◆「真宗学」の理解には、主体的に問い、学ぶことが必要です。知識は大切なものに近づく手がかりになるかも知れませんが、絶対的な条件ではありません。受講者の主体的な学びが必須です。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

講義時に連絡方法などについては説明する。

また必要があれば、講義前後に相談してください。

■講義計画

- ①オリエンテーション
- ②宗教を学ぶ（研究する）ということについて
- ③仏教についての概説
- ④浄土真宗とはなにか
- ⑤親鸞聖人の生涯と思想
- ⑥親鸞聖人の思想背景—浄土三部経
- ⑦前期復習・後期オリエンテーション
- ⑧親鸞聖人の思想背景—七高僧の思想
- ⑨親鸞聖人の思想と真宗の教義
- ⑩総括・その他

真宗史

■サブタイトル

浄土真宗の成立と変容の歴史

■講義概要

親鸞が開いた浄土真宗の教団は、今日、御同朋御同行のみ教えに生きる者の同朋教団であると公称されている。では御同朋御同行のみ教えとは、いかなる教えなのか。それは、どのようにして開顕され、また他の諸宗派とどのように違っていたのか。さらには、親鸞が開いた教団がその後、国家および民衆との関係においてどのように展開していったのか。浄土真宗の成立と変容の歴史について学び、親鸞における信心の社会性の意義と今日的実践課題を共に明らかにしていきたい。

■到達目標

浄土真宗の歴史の全容。日本における宗教と国家、宗教と人権に関する基礎的な知識。

■講義方法

テキストを中心に講義するが、視聴覚教材も活用する。

■授業時間外における予・復習等の指示

授業内で指示する

■成績評価の方法

平常点（50%）

レポート（10%）

定期試験（40%）

■テキスト

福岡光超・堀大慈『真宗史（中央仏教学院テキスト）』（本願寺出版社）

柏原祐泉『仏教と部落差別その歴史と今日（人権ブックレット9）』 解放出版社

■参考文献

財・同和教育振興会『差別・被差別からの解放本願寺教団と部落差別（増補版）』 本願寺同朋センター

『親鸞』

他は講義の際適宜紹介する

■講義計画

- ①浄土真宗の教勢
- ②日本の仏教宗派
- ③日本への仏教伝来
- ④日本への仏教伝来
- ⑤日本仏教の差別体質
- ⑥日本仏教の差別体質
- ⑦法然とその教団
- ⑧法然とその教団
- ⑨親鸞とその教団
- ⑩親鸞とその教団
- ⑪親鸞とその教団
- ⑫大谷廟堂と本願寺
- ⑬大谷廟堂と本願寺
- ⑭蓮如と本願寺教団
- ⑮蓮如と本願寺教団
- ⑯一向一揆
- ⑰一向一揆
- ⑱近世本願寺教団の形成
- ⑲近世本願寺教団の形成
- ⑳近世本願寺教団の形成
- ㉑近世教学と信仰
- ㉒近世教学と信仰
- ㉓維新政治と真宗
- ㉔維新政治と真宗
- ㉕維新政治と真宗
- ㉖近代天皇制国家と教団
- ㉗近代天皇制国家と教団
- ㉘近代天皇制国家と教団
- ㉙戦後における真宗の動向 — 部落問題・靖国問題
- ㉚まとめ

■サブタイトル

日本仏教の受容と変容

■講義概要

外来思想であった仏教がどのように受容・展開し、日本社会の中に定着してきたのか。現代人の宗教観・倫理観はどのような過程をへて形成されてきたのか。本講義では日本仏教のあり方を歴史学的方法を用いて考察し、日本における仏教受容を検証していく。

■到達目標

高等学校では政治の流れを中心に歴史を学んできた。ここでは仏教を方法的視座にすることで、今までと異なる日本歴史像を提示できると考えている。

■講義方法

講義形式で授業を行なう。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義中に指示する。

■成績評価の方法

平常点 (10%)
レポート (10%)
定期試験 (80%)

■テキスト

特になし

■参考文献

二葉憲香・他 『歴史のなかの親鸞』 永田文昌堂 2,400円
その他、講義中に紹介する。

■講義計画

- ①～③これから学ぶ仏教
- ④～⑥仏教伝来
- ⑦～⑮古代の仏教①
- ⑯～⑳古代の仏教②
- ㉑～㉕中世の仏教
- ㉖～㉗近世の仏教
- ㉘～㉙近代の仏教
- ㉚日本仏教の課題

仏教学概論

■講義概要

仏教の教理について、歴史的展開をふまえながら体系的に講義する。
テキストに用いて講義する。まず仏教が「真理の宗教」とされる理由を説明し、仏教が説く縁起の思想について講義する。そして、大乘仏教が興起し、中国仏教・日本仏教へと展開する過程で仏教が宗派仏教として広まった内容を解説する。特に天台教義・浄土教義については詳しく講義したい。また、現代社会における仏教思想の持つ意義についても考察を試みたい。

■到達目標

本願寺派教師資格科目の一つとして、要求される知識を身につける。

■講義方法

基本的にテキストに用いて板書しながら講義し、視聴覚教材を随時織り交ぜて説明する。また、必要に応じてプリントを配布する。

■系統的履修

必修の「仏教の思想」A・Bを履修済みであること。

■授業時間外における予・復習等の指示

講義時に紹介した参考文献を読む。

■成績評価の方法

平常点 (50%) 出席状況と受講態度
定期試験 (50%)

■テキスト

芹川 博通他 『仏教思想へのいざない』 北樹出版 2,200円

■参考文献

講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言

学んだ知識を基に、仏教のものの見方を養ってほしい。

■講義計画

- ①イントロダクション
- ②仏教とは何か
- ③仏教の根本原理
- ④縁起の思想 (1)
- ⑤縁起の思想 (2)
- ⑥大乘仏教の起こり
- ⑦大乘仏教の思想 (1)
- ⑧大乘仏教の思想 (2)
- ⑨大乘経典
- ⑩中国仏教の思想 (1)
- ⑪中国仏教の思想 (2)
- ⑫日本仏教の特徴 (聖徳太子)
- ⑬日本仏教の特徴 (奈良仏教)
- ⑭日本仏教の特徴 (平安仏教)
- ⑮日本仏教の特徴 (鎌倉仏教)
- ⑯現代社会と仏教
- ⑰まとめ

